

令和3年度

病 院 年 報

第 19 号



日本赤十字社

高槻赤十字病院

理 念

私たちは人道・博愛の赤十字精神に基づき、高度で安全な医療を提供し、地域の人々が誇りにする病院となるよう努めます。

方 針

1. 患者さんの人権と意思を尊重し、患者さん中心の医療をおこないます。
2. 一人ひとりの患者さんを全職員が支援する、チーム医療をおこないます。
3. 患者さんのホームドクターと緊密に連携し、地域で完結する医療をおこないます。
4. 常に向上心と研究心をもち、最高最善の医療が実現できるように努めます。
5. 健全な病院経営と地域に貢献できる医療従事者の育成に努めます。
6. 災害救護活動をはじめとする赤十字にかせられた使命を果たします。

患者さんの権利の尊重

1. 患者さんは個人として常にその人格を尊重される権利があります。
2. 患者さんは良質な医療を平等に受ける権利があります。
3. 患者さんは自分が受ける治療や検査の効果や危険性、他の治療法の有無等について、分かりやすい説明を受ける権利があります。
4. 患者さんは自分が受ける治療計画を立てる過程に参加し、自分の意見を表明し、自己決定する権利があります。医療機関を選択し、転院・退院する権利があります。
5. 患者さんは自分が受けている医療について知る権利があります。
6. 患者さんは自分の情報を自分の承諾無くして第三者に開示されない権利があります。

看護部の理念

赤十字の理念に基づき、療養生活支援の専門家として、根拠に基づいた安心・安全な看護を提供し、看護の対象者がその人なりの生活ができるよう支援します。

令和 3 年度病院年報出版にあたり

令和 3 年度（2020.4～2021.3）版病院年報がまとまりました。高槻赤十字病院のホームページにアップしています。（<http://www.takatsuki.jrc.or.jp>）

令和 3 年度を振り返りますと、前年に引き続き高槻赤十字病院の職員が一致団結して新型コロナウイルス感染症との戦いに明け暮れました。その結果、2 年間で近畿ブロックの赤十字病院の中では和歌山、大阪に次ぐ 3 位の多くの患者さんに入院していただくことができました。また 11 月には茨木市の福岡市長が自ら来院されて、ワクチン接種の協力に対しての感謝状を頂きました。

一方本社との協議の上、病院の経営改革も継続し経営上はキャッシュフローの黒字化を超えて、医業収支の黒字化に成功しました。

大きな危機を前に怯まず、地域医療のため献身的に働いていただいた職員の皆様に感謝します。

今後も全国にある 90 病院余りの赤十字病院の一員として地域の皆様に愛され、誇りとする病院を目指していききたいと思います。

令和 4 年度 1 月末日

院 長 玉 田 尚

目 次

I 病院の沿革

病院の沿革	1
-------------	---

II 病院の現況

1. 病院の特色	6
2. 施設の概要	7
3. 各種法律に基づく医療制度指定・承認	7
4. 各学会認定の認定医・専門医教育指定等状況	8
5. 診療体系	9
6. 配置図	13
7. 付近見取図	14
8. 主な施設・機器	15
9. 年 表（沿革）	19
10. 整備医療器械備品	23

III 組織及び職員

1. 高槻赤十字病院組織図	24
2. 幹部職員	25
3. 職員現況表	26
4. 職種別・年齢別・職員構成表	26
5. 会議及び委員会	27

IV 統 計

1. 令和元年度実績表	28
2. 入院患者数	29
3. 入院稼働額	30
4. 入院単価	31
5. 外来患者数	32
6. 外来稼働額	33
7. 外来単価	34
8. 科別患者構成比	60
9. 診療科年齢別構成表	61
10. 救急患者数	59

11. 剖検件数	63
12. 紹介率・逆紹介率	64
13. 食事別給食数	65
14. 栄養指導件数	66
15. 手術件数	67
16. 医業収益・費用及び医業外収益・費用の構成について	68
17. 病院利益（損失）	69
18. 年間購入雑誌一覧	70
19. 医療社会事業年報	71

V 退院患者疾病統計

1. 月別退院患者数	72
2. 科別・月別退院患者数	73
3. 科別・転帰別退院患者数	74
4. 疾病大分類別・性別退院患者数	75
5. 疾病大分類別・診療科別退院患者数	76
6. 疾病大分類別・転帰別退院患者数	77
7. 科別死亡数および剖検数	78

VI 診療科・部門別活動実績

糖尿病・内分泌・生活習慣病科	79
緩和ケア科	82
血液腫瘍内科	83
循環器科	84
消化器科・消化器内視鏡センター	85
神経内科	88
呼吸器外科	89
呼吸器科	90
小児科	94
外科	95
脳神経外科	99
整形外科	100
形成外科	102
皮膚科	103
泌尿器科	105
産婦人科	107

眼 科	108
耳鼻咽喉科	109
放射線科 及び 核医学科	110
リハビリテーション科	113
麻酔科	117
救急部	119
医療技術部	120
薬剤部	124
検査部	130
病理診断科部	133
看護部	134
医療社会事業部	146
医療安全推進室	170
教育研修推進室	173
事務部	174
Ⅶ 委員会活動	
委員会	176
Ⅷ 誌上・講演発表	
誌 上	247
講 演	254

I 病院の沿革

I. 病院の沿革

当院は、昭和 16 年 11 月 2 日、「日本赤十字社大阪支部病院分院阿武野勝景園」として誕生しました。

日本赤十字社大阪支部は、大正から昭和にかけて蔓延し、「亡国病」とまでいわれた結核の予防と治療という国家的見地に立って、昭和 10 年頃から大規模な結核療養所の建設を計画していました。この計画を知った東洋紡績株式会社からの寄付金を基金とし、各方面からの援助も得て、昭和 15 年 6 月より大規模な建設工事が始まりました。

生駒連峰を望み、北摂平野を見下ろす、林間景勝の地（当時の三島郡阿武野村、土室・奈佐原・塚原の三大字にわたる地域）にちなみ「阿武野勝景園」と命名され、敷地は約 20 万坪、近世式木造平屋建、一部 2 階建 71 棟、134 室、250 床を有し、非常時には 400 床の収容が可能な結核療養所が完成しました。

しかしながら、竣工式の一ヵ月後の 12 月 8 日に太平洋戦争が始まり、当院も時代の大きな渦に飲み込まれて行くこととなりました。

昭和 17 年 5 月 20 日からは「大阪陸軍病院阿武野赤十字病院」として、軍患者を収容することとなり、昭和 20 年 6 月 6 日以降は「大阪第二陸軍病院阿武野赤十字病院」として中部軍所属となり 475 名の傷病兵を受け入れ救護にあたりました。

終戦後の昭和 20 年 11 月 30 日、軍病院は解除され、12 月 1 日からは「大阪赤十字病院阿武野勝景園」として軍患者以外の一般診療を開始し、昭和 22 年 9 月 1 日には、分院から昇格し「大阪阿武野赤十字病院」と改称し独立しました。

戦後の厳しい状況下にあっても、患者の食糧や燃料の欠乏を補うため、農作業や薪炭作りの勤労奉仕にあたり、また府下の有力大病院が結束して結成した結核病院協会に参画する一方、近接地域に結核相談部を開設して巡回診療を実施するなど、事業進展に最大限の努力を行った時代でもありました。

戦後 20 年を経て高度経済成長の時代の中、千里丘陵での万国博覧会の開催と相まって高槻市、茨木市などは京阪神のベッドタウンとして大きな発展を見せはじめました。病院の周辺においても宅地造成が進み、隣接地域に約 3000 戸の公団住宅が建つなど目ざましいものがありました。住民の地域医療に対する渴望に応えることが求められるようになり、時を同じくして結核患者の急速な減少が見られるようになったことから、一般各科の診療を開始し、総合病院への転換を図ることになりました。

昭和 45 年 1 月 1 日、病院名を現在の「高槻赤十字病院」に改称し、同年 2 月より第一次病院整備事業として外来診療棟を中心とした、一般科患者の入院設備も有する鉄筋コンクリート造り、地下 1 階地上 3 階の新館において診療を開始しました。とはいえ、当院の設立のいきさつもあり、この時点では、一般病床 99 床に対し、結核病床は 559 床でした。

新薬の開発など、結核の予防と治療は飛躍的に進歩しました。結核患者の減少傾向は一層加速し、懸命な経営改善への取り組みにも関わらず財政は悪化の一途をたどることとなり、ますます一般病床への移行が重要な課題となってきました。

昭和 53 年 10 月 31 日、鉄筋コンクリート 6 階建て、延床面積 22,991㎡の新病棟の完成により、

二次にわたった病院整備事業は一つの区切りを迎えることができました。この新病棟の完成により同年 11 月 21 日より名実ともに総合病院としての診療業務が開始されました。この時、一般病床 322 床、結核病床 197 床、合計 519 床と一般病床が結核病床を上回ることとなりました。その後も結核患者の減少と疾病構造の多様化に対応するため、結核病床の削減と一般病床の開設を順次行い、昭和 61 年 2 月には、一般病床 454 床、結核病床 65 床に、そして平成 9 年 3 月末には、この 65 床も廃止し、厚生省（当時）の結核患者収容モデル事業による陰圧室の病床（6 床）を設置することにより、一般病床 446 床、結核病床 0 床の病院となりました。

地域医療への取り組みでは、平成 4 年 4 月の医療法改定を受けて、平成 8 年 7 月には「高槻赤十字訪問看護ステーション」を開設、平成 10 年 10 月には「開放型病院」認定、平成 11 年 8 月には介護保険法の制定により「高槻赤十字病院居宅介護支援事業所」を設置するなど、訪問看護の充実、在宅介護支援、地域診療所との連携を図りつつ、地域住民への医療サービスの提供に努めてきました。

こうした中、がんの増加とそれを受けての終末期医療の充実を求める声の高まりを受けて、平成 14 年 5 月に緩和ケア病棟『Lakeside Home』（20 床）を尾広池の辺に開設しました。豊かな自然環境を生かした癒しの空間が特徴であり、「第 1 回癒しと安らぎの環境賞」の最優秀賞（ホスピス部門）を受賞しました。

また、当院の病院機能等への評価・格付けに関するところでは、平成 11 年 4 月には「臨床研修病院」の指定を受け、研修医の育成に貢献するとともに、平成 14 年 12 月には「地域がん診療拠点病院」に指定され、地域のがん診療の中核を担うこととなり、更に平成 16 年 2 月には第三者による医療機関の評価である「病院機能評価（Ver.3.1 一般病院 B）」の認定を受けました。

また、医療の IT 化が叫ばれる中、平成 17 年 11 月に電子カルテシステムを稼働することができました。

医療機器の高度化・医療の IT 化に伴い、安定した電力供給は必要不可欠なものとなり、環境保全・省エネルギー・省コストとともに、商用電力との併用による電力の二重化により、万一の際にも一定の電力が確保できるように、自家発電装置以外の発電設備としてガスコージェネレーションシステムを平成 18 年 6 月から稼働させました。

更に平成 17 年度にはこれらと並行し、老朽化・狭隘化という問題を抱えていた手術室を新たに外来正面玄関前に新築移転することになり、2 階部分にバイオクリーンルーム 2 室を含む計 7 室の手術室、1 階部分には生理機能検査室と外科の外来診察室、更には緩和ケア病棟や高槻市街が眼下に広がる場所に『外来化学療法室』を持つ新手術棟・外来棟が平成 18 年 3 月に竣工しました。

続いて平成 18 年 10 月には、旧手術室を内視鏡室・血液浄化療法室などに改修するとともに、眼科・整形外科を中心に外来部門も整備改修し、診療機能の整備とアメニティの向上にも努めました。併せて病院建物全体の耐震補強工事を行い、万一の際にも赤十字病院としての医療機能を保持できるようにしました。

この病棟改修、手術棟・内視鏡室の新設・改修、外来部門の整備にあわせ、診療機能・管理体制の充実にも努めました。平成 16 年 4 月には、それまで皮膚科の中に含まれていた形成外科部門を独立した診療科として標榜するとともに、呼吸器科についても呼吸器科（呼吸器アレルギー内科）と呼吸器外科に分科し、それぞれの専門性を発揮できる体制としました。続いて平成 18 年 7 月に

は、「糖尿病・内分泌・生活習慣病科部」「緩和ケア科部」「血液・腫瘍内科部」「消化器外科部」「乳腺外科部」「がん統合治療科部」を院内標榜し、患者により分かりやすい診療体制をめざしました。同時に、院長直属の機関として「医療安全推進室」を設置、専任リスクマネジャーを配置し、複雑化する医療への安全管理と患者への安心の提供のために専門に取り組む体制を強化しました。平成19年2月には、患者・家族のがんに関する不安や悩みの相談に応え、各種の要望に迅速かつ適切に対応するために、『がん相談支援センター』を設置しました。

この目まぐるしい病院運営の中にありながら、平成18年11月には、全国の赤十字病院が集う『第42回日本赤十字社医学会総会』を「地域の人々が感動し、誇りにする病院」をメインテーマに、当院の主催で国立京都国際会館にて開催し、全国から様々な職種が集い、1,000名余りの参加を得て大成功を収めることができました。

近年急性期病院としての必須の機能であり、長年の懸案であったICUについて、施設基準としての特定集中治療室管理料は届出しないものの、その機能を十分に持った6床を平成19年10月に3病棟の一画に開設することができました。

また、看護師確保対策として“看護職員が働きやすい職場を作り上げる”を主軸とした、院内保育所（高槻日赤保育園『すくすく』）と病児保育室を院内に開設するなどの対策を施し、看護師の採用を積極的に行うことで平成20年2月には念願の7対1入院基本料を算定できるようになりました。

更に同年7月にはDPC対象病院として承認されました。厚生労働省では平成15年4月より大学病院などを中心とした「特定機能病院」で診断群分類別包括支払（DPC）と呼ばれる診療報酬の包括評価制度を導入し、以後徐々にその対象を広げ、当院でも導入の必要性を認めたことから、平成17年1月、事務部内に「診療情報管理課」を設置し、平成18年より“DPC準備病院”として調査データの提出を厚生労働省に対して行っていました。

平成20年度より導入を進めてきた「放射線治療装置リニアック」も平成22年度4月には文部科学省の認可が下り、同年10月には厚生労働省“高エネルギー放射線治療”の稼働が許可され放射線治療を開始。翌年2月には正式に施設基準として認可され、大阪府がん診療拠点病院として癌治療に対する近代医療を提供することが可能となりました。

平成23年11月25日、医療機能の役割分担と連携、自院の役割の明確化と地域医療への貢献を主旨とし、予ねてより計画していた「地域医療支援病院」を取得。救急、紹介、特殊な技術を要する高機能外来など、急性期を中心とした医療提供体制を構築することができました。

平成24年2月には、より高度な内視鏡検査・治療に対応するため、消化器内視鏡センターを開設。また平成24年8月には緩和ケア診療科を開設し、緩和サポートチームが入院・外来を問わず患者のさまざまな苦痛の緩和、ご家族の抱える負担や気がかりへの関わり、治療方針や治療の場の選択にかかる意思決定などの支援を行い、ホスピスを提供する緩和ケア病棟と合わせ、緩和ケアにおける診療機能を充実させました。

平成 26 年 1 月 26 日には高槻市制 70 周年記念事業高槻市全域大防災訓練が開催され、当院から救護班として 25 名が参加、消防や各機関と連携して災害救護活動を実施し、赤十字病院としての使命を果たしました。

病院機能評価としては平成 16 年において病院機能評価 Ver.3.1 の認定、平成 21 年において病院機能評価 Ver.5.0 の認定を受けてから 5 年が経過し、平成 26 年 3 月に機能種別版評価項目 3rdG: Ver.1.0 の医療機関として改めて認定されました。

平成 26 年度から新たに「医療の質の評価を継続的に向上させる事業」QI プロジェクトに参加を開始し、他の参加病院から医療の質改善の事例やノウハウを学ぶなど、病院経営や運営管理に生かす動きを行っています。

平成 26 年 7 月から患者支援センターを開設し、地域医療の中核病院としてかかりつけ医である開業医の先生方や回復期医療・福祉関連施設との連携を図り、地域における良質な医療を提供できる体制を確保し、紹介患者増加に努めています。

平成 26 年 7 月 26 日には医療の現場を知ってもらうことを目的として地域の中学生・高校生を対象にブラックジャックセミナー（手術体験セミナー）を開催し、地域社会への医療教育の貢献を行いました。

平成 26 年 8 月にはフェイスブック (SNS) を開設、11 月には病院診療科案内の冊子を初めて発行するなど様々な病院情報を発信し、広報戦略を展開させました。

平成 27 年 3 月から新たに眼科二次救急当直を毎週木曜日に開始し、医業収益の増収を図るとともに、地域に必要とされる医療提供を行っています。

平成 29 年 9 月に JR 摂津富田～病院間にてシャトルバスの運行を開始、また平成 30 年 6 月には JR 総持寺駅へ運行エリアを拡大し、病院へのアクセス改善を行っています。

平成 30 年 12 月には無菌治療室を 9 床（個室 1 室、4 人部屋 2 室）増床、これまでの個室 3 室を合わせ合計 12 床とし、免疫機能が低下した造血幹細胞移植やがん化学療法の患者さんの入院受入体制を充実させました。

平成 31 年 4 月に電子カルテシステムを更新し、業務の効率化、迅速化を図りました。

令和元年 5 月には老朽化及び大阪府北部地震による損傷のため使用が困難な 2 病棟を 8 病棟に移動し、新たにレディース病棟としてリニューアルオープンし、新入院患者の増加を図りました。

令和 2 年 8 月に新型コロナウイルス感染症拠点病院「重点医療機関」と認定される。

令和 3 年 3 月には、老朽化及び大阪府北部地震による損傷のため使用が困難な 2 病棟及び休棟となっていました 4 病棟併せて 104 床分を返還し、ダウンサイジングすることで、当院の身の丈

にあった病床数 335 床へ変更となりました。

令和 3 年 11 月には創立 80 周年を迎え、新型コロナウイルス感染症に対して積極的な立ち位置を堅持して地域医療に貢献してきました。

今後も赤十字の使命として災害救護活動をもとに、災害医療対応も地域と共同して推進し「人道・博愛」の精神に基づいた、安全・安心な医療を提供するとともに、さらなる急性期医療提供体制の強化と“継続と変革”を高いレベルで補完し、永続的な発展を行える医療機関として日々邁進していきます。

Ⅱ 病院の現況

1. 病院の特色

医療機能

- ◎ 大阪府より『地域医療支援病院』に承認され、地域医療連携室を通じ、登録医の先生方との連携を密にし、地域に根差した病院として尽力しています。また、地域の登録医からの入院用に『開放病床』を49床設置しています。
- ◎ 大阪府より『がん診療拠点病院』の指定を受けており、地域のがん診療の中心的役割を担っています。また、『がん相談支援センター』の設置、平成22年10月には『放射線治療装置リニアック』の導入を行い、医療機能充実に努めています。
- ◎ 『2次救急告示病院』として地域の救急医療に貢献しています。
- ◎ 三島地区における『大阪府災害医療協力病院』として災害発生時の医療体制の提供を担っており、大規模災害時や救急時に対応できるように、ヘリコプターが離発着できるヘリポート用グラウンドを有しています。
- ◎ DPC対象病院として、平成20年7月より包括請求を実施しています。
- ◎ 看護体制を整備し、『急性期一般入院料1』を取得しています。
- ◎ 『光・水・緑』豊かな環境を生かした『緩和ケア病棟』を開設し、がん患者のケア施設として、身体的苦痛だけでなく、孤独感や不安を軽減し、患者さんがその人らしく尊厳を持って生きることのできる環境を提供しています。
- ◎ HCUを設置し、さらなる急性期医療の充実に努めています。
- ◎ 院長直属の組織として『医療安全推進室』を設置し、専任リスクマネージャーのもと、医療安全の推進に取り組んでいます。
- ◎ 一部の診療科はセンター化を行っており、より専門的な臓器別診療科や特殊外来の充実に努めています。
- ◎ 患者さんやそのご家族が住み慣れた地域で療養生活が継続できるよう他職種による協同支援体制を目的とした患者支援センターを開設しています。

その他

- ◎ 厚生労働省の臨床研修病院『基幹型臨床研修病院』として、また京都大学や大阪医科大学の臨床研修協力病院（施設）として、医師の初期研修の場として貢献しています。
- ◎ 電子カルテシステムを運用しており、診療情報の共有、医療の質の向上に努めています。
- ◎ 看護職員等の労働環境改善のために、『院内保育所』や『病児保育所』を開設しています。
- ◎ 医師職員の労働環境改善のため『医師事務補助職員』の導入を行っています。

2. 施設の概要

病 院

所 在 地	高槻市阿武野一丁目 1 番 1 号
敷 地	58,841.39㎡
建物建築面積	11,242.47㎡
建物延床面積	30,154.96㎡

付属施設

訪問看護ステーション	
所 在 地	高槻市阿武野一丁目 1 番 1 号

3. 各種法律に基づく医療制度指定・承認

保険医療取扱機関	臨床研修指定病院
国民健康保険療養取扱機関	大阪府災害医療協力病院
労災保険指定病院	母体保護法指定病院
	生活保護法指定病院
救急告示病院	第二種感染症指定医療機関
大阪府肝炎専門医療機関	公害健康被害補償法公害医療機関
児童福祉法医療給付指定医療機関	原子爆弾被爆者医療指定機関
大阪府がん診療拠点病院	地域医療支援病院
難病指定医療機関	小児慢性特定疾病指定医療機関

4. 各学会認定の認定医・専門医教育指定等状況

担 当 診 療 科	名 称
	日本がん治療認定医機構認定研修施設
内 科	日本内科学会認定医制度教育病院
糖 尿 病 ・ 内 分 科 泌 ・ 生 活 習 慣 病 科	日本糖尿病学会認定教育施設
糖 尿 病 ・ 内 分 科 泌 ・ 生 活 習 慣 病 科	日本内分泌学会認定教育施設
糖 尿 病 ・ 内 分 科 泌 ・ 生 活 習 慣 病 科	日本老年医学会認定施設
緩 和 ケ ア 科 緩 和 ケ ア 診 療 科	日本緩和医療学会認定研修施設
血 液 ・ 腫 瘍 内 科	日本血液学会認定血液研修施設
循 環 器 科	日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
消 化 器 科	日本消化器病学会専門医制度認定施設
消 化 器 科	日本消化器内視鏡学会専門医指導施設
呼 吸 器 外 科	呼吸器外科専門医合同委員会呼吸器外科専門医制度基幹施設
呼 吸 器 外 科	日本胸部外科学会認定医認定制度指定施設
呼 吸 器 外 科 呼 吸 器 科	日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設
呼 吸 器 科	日本呼吸器学会認定施設
呼 吸 器 科	日本アレルギー学会認定教育施設
外 科	日本外科学会外科専門医制度修練施設
外 科	National Clinical Database 施設会員
消 化 器 外 科	日本食道学会全国登録認定施設
乳 腺 外 科	日本乳癌学会認定医・専門医制度関連施設
乳 腺 外 科 放 射 線 科	日本乳がん検診精度管理中央機構マンモグラフィ検診施設
整 形 外 科	日本整形外科学会専門医制度研修施設
形 成 外 科	日本形成外科学会教育関連施設
皮 膚 科	日本皮膚科学会認定専門医研修施設
皮 膚 科	日本アレルギー学会認定教育研修施設
泌 尿 器 科	日本泌尿器科学会泌尿器科専門医基幹教育施設
産 婦 人 科	日本産科婦人科学会専門医制度専攻医指導施設
産 婦 人 科	日本周産期・新生児医学会周産期専門医制度暫定研修施設（補完研修施設）
眼 科	日本眼科学会専門医制度研修施設
耳 鼻 咽 喉 科	日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設
麻 酔 科	日本麻酔科学会麻酔科認定病院
病 理 診 断 科	日本病理学会研修認定施設 B
病 理 診 断 科	日本臨床細胞学会教育研修施設
薬 剤 部	日本医療薬学会認定薬剤師制度研修施設
薬 剤 部	日本医療薬学会がん専門薬剤師研修施設
薬 剤 部	日本医療薬学会薬物療法専門薬剤師研修施設
栄 養 課	日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働施設

5. 診療体系

診療科目 25 科

内 科 (内科、緩和ケア科)

糖 尿 病・内 分 泌・代 謝 内 科 (糖尿病・内分泌・生活習慣病科)

血 液 内 科 (血液・腫瘍内科)

脳 神 經 内 科 消 化 器 内 科 循 環 器 内 科 呼 吸 器 内 科 呼 吸 器 外 科

外 科 (血管外科) 消 化 器 外 科 脳 神 經 外 科 整 形 外 科

産 婦 人 科 小 児 科 眼 科 皮 膚 科 形 成 外 科

耳 鼻 咽 喉 科 リハビリテーション科 泌 尿 器 科 放 射 線 科 麻 酔 科

病 理 診 断 科 乳 腺 外 科 美 容 皮 膚 科

専門外来

内 科 リウマチ・膠原病外来、緩和ケア

糖尿病・内分泌・代謝内科 糖尿病・内分泌外来、フットケア外来

血 液 内 科 血液外来、移植後外来（造血幹）

脳 神 經 内 科 神経内科外来

消 化 器 内 科 消化器外来

循 環 器 内 科 循環器外来

呼 吸 器 内 科 睡眠時無呼吸外来、禁煙外来、ほっとひといき看護外来

呼 吸 器 外 科

外 科 消化器外来、乳腺外来、ストマ外来

脳 神 經 外 科

整 形 外 科 脊椎外来、肩外来、リウマチ外来

産 婦 人 科 子宮癌検診

小 児 科 心臓外来、ダウン症候群・神経外来、乳児健診、1 カ月健診

小児アトピー性皮膚炎外来

眼 科 緑内障外来、ロービジョン外来、網膜外来、眼形成外来

皮 膚 科 美容皮膚科外来、褥瘡外来

形 成 外 科 レーザー外来

耳 鼻 咽 喉 科 めまい外来

リハビリテーション科 身障診断

泌 尿 器 科 排尿ケア外来

病棟

	許可病床
3 病棟	36 床
5 病棟	58 床
6 病棟	58 床
7 病棟	49 床
8 病棟	52 床
9 病棟	56 床
緩和ケア病棟	20 床
HCU	6 床
計	335 床 (3/31 末現在)

施設基準

基本診療料

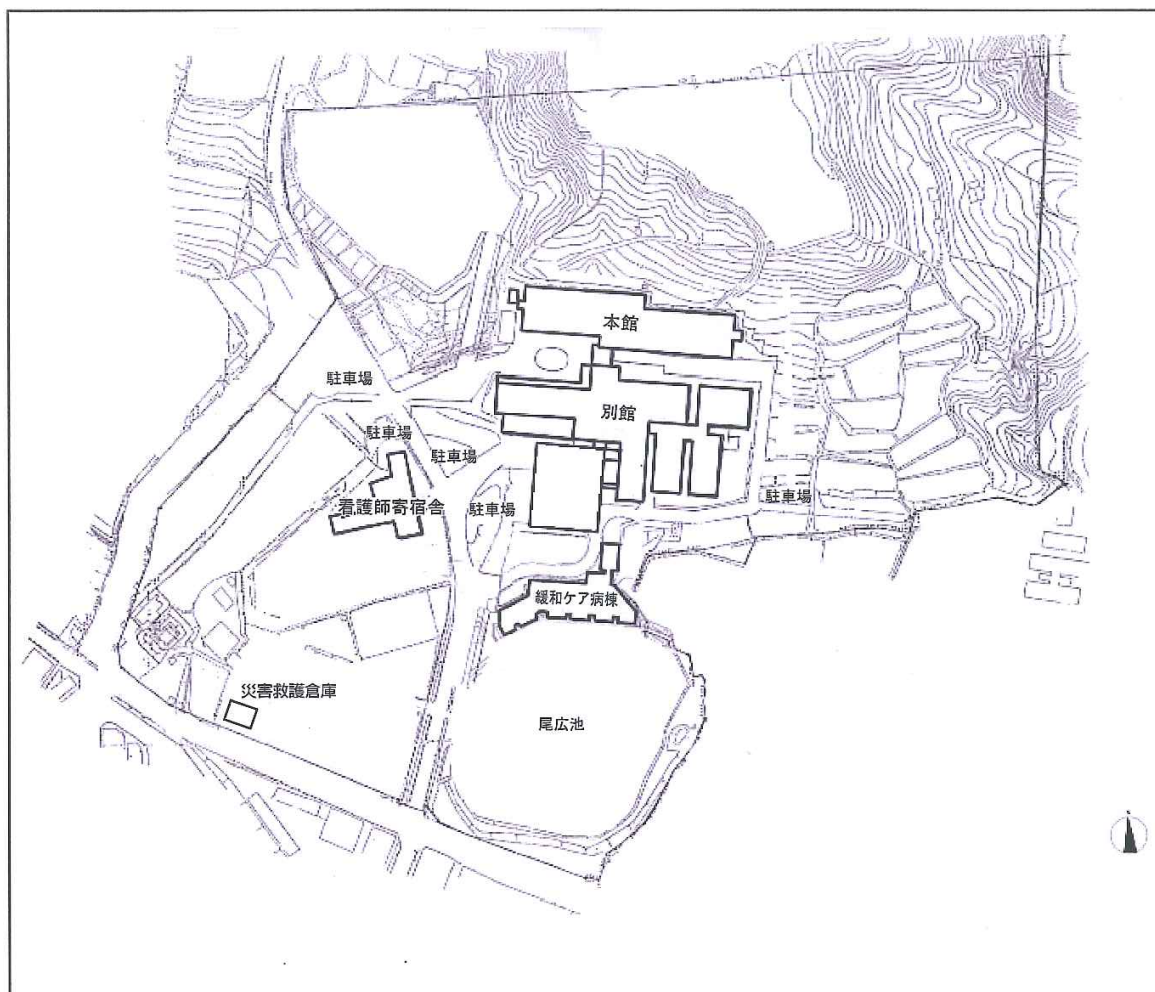
一般病棟入院基本料（急性期一般入院料 1）
総合入院体制加算 3
救急医療管理加算
診療録管理体制加算 1
医師事務作業補助体制加算 2（20 対 1）
急性期看護補助体制加算 (50 対 1)
看護職員夜間配置加算（16 対 1 配置加算 1）
重症者等療養環境特別加算
無菌治療室管理加算 1
無菌治療室管理加算 2
栄養サポートチーム加算
医療安全対策加算 1
感染防止対策加算 1
患者サポート体制充実加算
褥瘡ハイリスク患者ケア加算
ハイリスク妊娠管理加算
後発医薬品使用体制加算 1
病棟薬剤業務実施加算 1
病棟薬剤業務実施加算 2
データ提出加算 2 イ
入退院支援加算 1（入院時支援加算・総合機能評価加算）
認知症ケア加算 1
せん妄ハイリスク患者ケア加算
精神疾患診療体制加算
地域医療体制確保加算
ハイケアユニット入院医療管理料 1
小児入院医療管理料 4
緩和ケア病棟入院料 2

特掲診療料

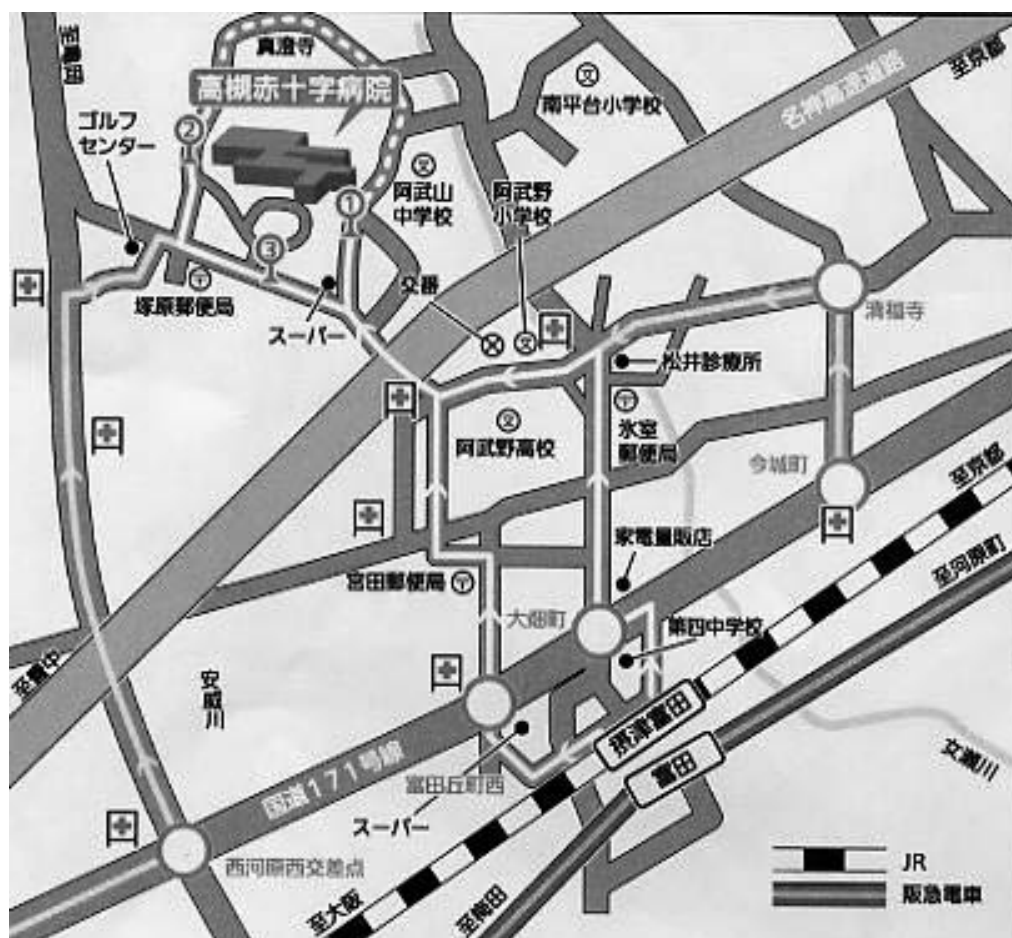
外来栄養食事指導料の注 2
心臓ペースメーカー指導管理料の注 5 に掲げる遠隔モニタリング加算
糖尿病合併症管理料
がん性疼痛緩和指導管理料
がん患者指導管理料イ
がん患者指導管理料ロ
がん患者指導管理料ハ
移植後患者指導管理料（造血幹細胞移植後）
糖尿病透析予防指導管理料
院内トリージ実施料
夜間休日救急搬送医学管理料の注 3 に掲げる救急搬送看護体制加算
外来放射線照射診療料
ニコチン依存症管理料
開放型病院共同指導料
がん治療連携計画策定料
肝炎インターフェロン治療計画料
薬剤管理指導料
医療機器安全管理料 1
在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料
在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の注 2 に掲げる遠隔モニタリング加算
持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定
骨髄微小残存病変量測定
BRCA1/ 2 遺伝子検査
HPV 核酸検出及び HPV 核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）
検体検査管理加算（Ⅰ）
検体検査管理加算（Ⅳ）
時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
ヘッドアップティルト試験
小児食物アレルギー負荷検査
画像診断管理加算 2
CT 撮影及び MRI 撮影
冠動脈 CT 撮影加算
心臓 MRI 撮影加算
乳房 MRI 撮影加算
小児鎮静下 MRI 撮影加算
抗悪性腫瘍剤処方管理加算
外来化学療法加算 1
連携充実加算
無菌製剤処理料
心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ）

脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）
 運動器リハビリテーション料（Ⅰ）
 呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）
 がん患者リハビリテーション料
 集団コミュニケーション療法料
 人工腎臓（慢性維持透析を行った場合Ⅰ）
 導入期加算Ⅰ
 透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算
 下肢末梢動脈疾患指導管理加算
 脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
 緑内障手術（緑内障治療用インプラント挿入術（プレートのあるもの））
 緑内障手術（水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術）
 乳がんセンチネルリンパ節加算Ⅰ及びセンチネルリンパ節生検（併用）
 乳がんセンチネルリンパ節加算Ⅱ及びセンチネルリンパ節生検（単独）
 食道縫合術（穿孔、損傷）（内視鏡によるもの）、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、小腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、結腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、腎（腎盂）腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、尿管腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、膀胱腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、脛腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）
 ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
 大動脈バルーンパンピング法（IABP 法）
 体外衝撃波胆石破碎術
 腹腔鏡下肝切除術
 腹腔鏡下脾腫瘍摘出術
 腹腔鏡下脾体尾部腫瘍切除術
 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
 体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
 腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
 人工尿道括約筋植込・置換術
 腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
 胃瘻造設術（経皮的内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む）（医科点数表第 2 章第 10 部手術の通則の 16 に掲げる手術）
 輸血管理料Ⅰ
 輸血適正使用加算
 自己生体組織接着剤作成術
 人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
 胃瘻増設時嚥下機能評価加算
 麻酔管理料（Ⅰ）
 高エネルギー放射線治療
 病理診断管理加算Ⅰ
 悪性腫瘍病理組織標本加算
 （令和 4 年 3 月 31 日現在）

6. 配置図



7. 付近見取図



 印は当院の看板
  は病院への市バス路線

 印は当院の看板
  は病院への自動車道路

8. 主な施設・機器

医療用リニアック Clinac iX
キャノンメディカルシステムズ 全身用X線CT装置 Aquilion Prime SP
X線アンギオグラフィシステム Infinix Celeve-i
吸収補正用CT付き 核医学診断撮影装置(RI)
GE 超音波診断装置Vivid E9
多目的デジタルX線TVシステム
泌尿器科用X線テレビ装置 UROVISION II
据置型デジタル式汎用X線透視診断装置 EXAVISTA 一式
ユヤマ 注射薬自動払出機
網膜硝子体手術器械コンステレーションビジョンシステム
東芝 フルデジタル超音波診断装置 Xario
デジタル超音波診断装置 HI VISION Preirus
内視鏡ビデオシステム EVIS LUCERA SPECTRUM
内視鏡ファイリングシステム SolemioEndo
山田医療照明 スカイルックス ゼニスA型
マルチカラー स्कаныレーザー光凝固装置 MC-500Vixi
ホルタ心電図解析システム
サクラ精器 高圧蒸気滅菌装置
PillCam カプセル内視鏡画像診断システム・
富士フィルムメディカル ダブルバルーン内視鏡
AutoVue
ハイビジョンカメラシステム
瑞穂医科 分離式電動手術台
シラス HD-OCT
超音波診断装置 ARIETTA70
バーサパルスセレクト30W(ホルミウムレーザー)
ミズホ 分離式電動手術台 整形用
体外衝撃波結石波砕装置(ESWL)
患者監視装置 WEP-5208
全身麻酔器 Apollo
Qスイッチレーザー IB101
オリンパス 内視鏡外科手術システム
診断用X線撮影システム RADIOTEX
CUSA EXcel
白内障手術装置インフィニティビジョンシステム
ICG付眼底カメラ+無散瞳システム
VIO3 5ソケットモデル(超音波切開装置)
移動型手術台MEERA
山田医療照明 スペースラブリブラTVカメラシステム
ウォッシャーディスインフェクター ダブル
532レーザー眼科光凝固装置 ピュアポイント
電動油圧手術台
ミズホ マイクロサージャリ-手術台
内視鏡システム VISERA PRO
単票式薬袋プリンター
超音波診断装置 Nemio XG
補助循環装置システム バイオコンソール等
ソノサージジェネレーター(超音波切開装置)
小林メディカル 電気メス5000
パワープロ・システム スモールハンドピース等
体成分分析装置InBody
オリンパス システム生物顕微鏡
人工呼吸器 Infinity EvitaV500
人工呼吸器 HAMILTON-C2
ドレーゲル 人工呼吸器Savina
フィリップス 成人用人工呼吸器 V60 ベンチレータ Auto-Track+
ビジランスヘモダイナミックモニター(心拍出量測定装置)
ハイスピードドリル プリマド2 一式
ドレーゲル 人工呼吸器Savina
骨塩量測定装置ダイクロマस्कаны Dichroma Scan
電動マイクロドリルシステム
睡眠評価装置 ソムノスクリーンBT-plus
メラ高頻度ジェットベンチレータ
個人用透析装置NCU-12
セントラルモニター WEP-5204
ソニー製 ZEISS眼科手術顕微鏡用カメラ装置一式
自動浸透圧測定装置オズモステーション
自動血球洗浄遠心機 MC450
ジンマー HALL50シングルトリガーハンドピース一式
グライドスコープビデオ咽頭鏡システム
血液ガス分析装置 ラピッドポイント500
日本光電 解析機能付心電計
ステリルガードⅢ
デフィブリレータ(除細動器) TEC-5631
ジンマー ATS2000 タニケットシステム
メディサームⅢ(高・低体温維持装置)
ディブリレーター(除細動器) TEC-5631
システム生物顕微鏡
ウレテロレノスコープセット 6FR 841-420
タカラベルモント 外科用手術台
トイツイ アクトカルディオグラフ
テルモ 無菌接合装置 TSCD
個人用透析装置NCU-12
ポータブル気管支ファイバースコープ
フロア型冷却遠心機
メドトロニック XPSマイクロシステム
レッグ CPM L4KD-100
ヘモクロン レスポンス(血液凝固計)
OESヒステロファイバースコープ
イソメディカル 脊椎外科用手術フレーム
集細胞遠心装置 サイトスピン4
ジンマー パワープロエア-オシレーター
喉頭ファイバースコープ
クボタ ユニバーサル冷却遠心機

レスピロニクス 終夜睡眠ポリグラフ検査装置	ライカ 滑走式マイクロトーム
超音波診断装置 X300 Premium Edition	ベットサイドモニタ PVM-2701
超音波画像診断装置 SonoSite M-Turbo	バイオメディカルペースメーカーテスト
リトクラスト2	ジンマー Mパワー2スターナムソーハンドピース一式
眼底カメラ接続取込端末一式	MRI室用パルスオキシメータ
フィリップス 経食道用オムニプレーンⅢセクター型トランスデューサー	ガンプロ 個人用逆浸透精製水システム
核医学ワークステーション	CPMユニット レッグ用
患者監視装置	KSメジャー
血液浄化装置	ベッドサイドモニタ
感染防止機能付 クリオスタット	ケイセイ メッシュダーマートーム(形成外科)
眼科用 ヤグレーザー手術装置 YC-1800	日本光電 生体情報モニタ
喘息診断測定システム	東機質 サーティファイアーFAテストシステム
輸液ポンプ・シリンジポンプ	ヒラタニ 器械展開台
超音波診断装置 Prosound α6	平山製作所 新高圧滅菌器
医用テレメーター(送信機4台付)	ベッドサイドモニタ
携帯型超音波診断装置	フィリップス 自動体外式徐細動器 ハートスタート
電子スパイロメータ	自己血回収装置セルサーバー5+(中古品)
SonoSite MicroMaxx(携帯型超音波診断装置)	ヘッドライトシステム(呼吸器外科)
CV5030カバーガラス自動封入装置	ストレートショットM4ハンドピース
IABP駆動装置 corart	デスフルラン用気化器 Drager D-Vapor-desflurane
インフィニティモニタリングシステム デルタXL	タンゴM2 ECGボード付システム
モニタリングシステム	運動負荷血圧計TangoM2
トレッドミル一式	エルマン サージトロンEMC(フットスイッチ付) 付属品除く
セントラルモニター MU-960R	生体情報モニタ Vital Sensor S
超音波診断装置 PROSOUND-6	光学視管12° Φ4mm
IABP駆動装置 コラートBP	フジレスピロニクス 簡易睡眠検査装置 スターダストⅡ
回診用X線撮影装置 MobileArt Lumina	黄疸計
眼底観察システムResight700	サカセ オーダーリングカート
ニプロ 個人用HDF装置	レビテーター
超音波診断装置 SONOVISTA FX premium edition	NIOX MINO(一酸化窒素ガス分析装置)
超音波画像診断装置SonoSite M-Turbo	ミニメド620Gインスリンポンプキット
炭酸ガスレーザー手術装置 レーザリー	一酸化窒素ガス分析装置ナイオックス NIOX VERO
気管支ビデオスコープ	ヒラサワ テーハー式ウィークリー恒温器
大研 ステリキープ手洗いユニット	体外式ペースメーカー
ステリキープ手洗いユニット	薬用冷蔵ショーケース
内臓脂肪測定装置DualScan	ニコン 顕微鏡用デジタルカメラ
人工呼吸器 ハミルトンC1	シャワーストレッチャー
エアウェイマネジメントモバイルスコープビデオスコープ 2台	流量計付ブレンダー
回診用X線撮影装置 MobileArt Evolution MX7 version	アイケア手持眼圧計
眼科用冷凍手術システム	全自動錠剤分包機
オートレンズメーター LM1800PD	散薬監査システム
角膜形状屈折力解析装置OPD-ScanⅢ(中古品)	全自動散薬分包機(2枚円盤タイプ)
ハンフリーフィールドアナライザー	抗がん薬調製支援システム
スリットランプ カメラ監視装置システム	病院版ピッキングサポートシステム
スペキュラーマイクロスコープ	一包化錠剤仕分け装置
光学式眼軸長測定装置	注射薬自動払出装置
外科用X線テレビシステム	スーチャーカッター
VIO3 5ソケットモデル(超音波切開装置)	デジタルマンモグラフィCAD
治療用電気手術器 Valleylab FT10	ドレーゲル 人工呼吸器Savina300

リューザブルエンドスコープショート	メラ 改良モース開胸器 0452008500
ビーライン BeeFiles for HFA(800シリーズ)	Synergy Resection シェーバーコンソール 一式
血液保冷库	Synergy RF コンソール 一式
フラットパネル デジタルラジオグラフィー AeroDR 一式	超音波診断装置 Aplio a Verfia
フラットパネル 画像ワークステーション 一式	ベッドサイドモニタ PVM-4761 一式
フラットパネル 大林製長尺用撮影台	自動染色装置 AUTOSTAINER XL
フラットパネル 島津製立位撮影台	ベッドサイドモニタ BSM-3562-Q21 一式(BISモニタ付)
クリンパーティション	カラービデオプリンター
感染対策空気清浄ユニット NRC-601D	レピテーター I-LHPAMUR 623-003-01 他一式
医用テレメータ WEP-1450(12人用)	個人用多用途透析装置 TYPE E他 一式
クリンパーティション	心電計 ECG-2450
回診用X線撮影装置 MobileArt Evolution	超音波診断装置 EPIQ Elite DS
QuantStudio5 リアルタイムPCRシステム 96ウェル PC付パッケージ	誘発電位検査装置 Neuropack S3
感染対策空気清浄ユニット NRC-601D	医用テレメータ(8人用)WEP-1450 一式
人工呼吸器 HAMILTON-C1	セントラルモニタ CNS-6101 一式
COOL-TIP RFAジェネレーター	陰圧排気/空気清浄機ユニット
超音波診断装置 Viamo SV7	眼科用手術台メプロ4J
送信機 ZS-630P	全身用X線CT装置 Aquilion Prime SP/i Edition
医用テレメータ(12人用)WEP-1450	心臓マッサージシステムVer.3.1 LUCASIII
次亜塩素酸空間除菌脱臭機 ジアイノ F-JDL50-W(寄付) 7式	点滴作業台 ブルー
外科用X線テレビシステム OPESCOPE ACTENO	心電計 ECG-2450
安全キャビネット BHG-T701IIA2-G	センテックデジタルモニターシステム
搬送用モニタ BSM-1763	クリンパーティション
ハイブリッド高速冷却遠心機 一式	ドレーゲル 人工呼吸器Savina300 一式
2クランクキャッチベッド KB-655C	ハイエンドクリニカルフローサイトメーター NAVIOS EX 2レーザー6カラー
壁掛け縦型モニター 55BDL4050D/11	陰圧式エアータント NP-45
自動遺伝子装置 TRCReady-80 一式	血圧脈波検査装置 FORM-5
エクスケアバイク RG-EM400	ハイローストレッチャー KK-728
送信機 ZS-630P	フリーズ NF-75HC(冷凍庫)
ベッドサイドモニタ PVM-4763-Q20他	薬用保冷库 FMS-650L
気管支ビデオスコープ BF-Q290	陰圧ブース CL-905他 一式
メラ遠心血液ポンプシステム(拡張ユニット付) 一式	HEPAフィルター付パーテーション(清浄供給タイプ)
ECU4 バンドルセット ECU4B1000他 一式	HEPAフィルター付パーテーション(除染除去タイプ)
内視鏡用診察台 EX-ESD	自動遺伝子装置 TRCReady-80 一式
リアルタイムPCRシステム QuantStudio5	高精細2Mカラーモニタ
ClassII安全キャビネット SSインテリア W1300mm パッケージ	加温加湿フロージェネレーター Airvo2 一式
一酸化窒素ガス分析装置ナイオックス NIOX VERO	酸素ブレンダ(PMB-5000用酸素ブレンダ)
超低温槽 UD-80W74NF(寄付 新型コロナワク	血液ガス分析装置 ラピッドポイント500e
チン保存用)(冷凍庫・フリーザー)	全自動化学発光酵素免疫測定システム ルミパルスL2400
汎用超音波画像診断装置(心臓超音波診断装置) Vivid E95	C-MAC(気管支鏡)
個人用多用途透析装置 TYPE AWF	気管支ビデオスコープ BF-290
顕微鏡 BX43-33	膀胱用音波画像診断装置 ブラダグースキャン BVI6100
キセノン光線治療器ICON	骨手術器械 システム8 パワーシステム 一式
IDEAL EYESスコープ AC4cm 30° スピードロック	電気メス maXium(マキシウム)
電気手術器 SHAPPER mini 一式	NKモニタ連携ボード NCI-700NK
感染対策空気清浄ユニット NRC-601D	バイオメディカルフリーザー MDF-137-PJ
ベッドサイドモニタ PVM-4763他一式	超低温フリーザー MDF-DC200V-PJ
エクスケアバイク RG-EM400	低温インキューベーター MIR-154-PJ
医用テレメーター WEP-1450他一式	薬用冷蔵ショーケース MPR-S150H-PJ

セントラルモニタ CNS-6201他一式
感染対策空気清浄ユニット NRC-601D
超音波診断装置 CX50 Xper
超音波診断装置 Affiniti70
タブレット超音波診断装置 Lumify
クリーンパーテーション ACP-897CH
クリーンパーテーション ACP-897AH
酸素ブレンダ(PMB-5000用酸素ブレンダ)
ドレーゲル 人工呼吸器Savina300 一式
ベッドサイドモニタ PVM-4763-Q20他
ERCP用防護具 TI-Ultimax用-18
心電計 ECG-2450

ベンタナベンチマークGX
細隙灯 ポータブルスリットランプ
ヒストコアパール（自動固定包埋装置）
レビテーター(両支脚器) 2個入
腎盂鏡 ネフロスコプ20°
感染症検査業務支援システム SMILE Honest
光干渉断層計 RS-3000
超音波診断装置 Affiniti70
タブレット超音波診断装置 Lumify10.1インチ LA3-SL
人工呼吸器 HAMILTON-C1

9. 年 表 (沿革)

昭和15年	6月 8日	療養所起工式並びに地鎮祭
昭和16年	11月 2日	日本赤十字社大阪支部病院分院「阿武野勝景園」竣工
昭和17年	5月20日	「大阪陸軍病院阿武野赤十字病院」として軍患者を収容。
昭和18年	1月 1日	日本赤十字社支部病院管理規則により「大阪赤十字病院阿武野分院」に改称。
昭和20年	6月 6日	「大阪第二陸軍病院阿武野赤十字病院」として中部軍属となる。
	11月30日	軍病院を解除。
	12月 1日	大阪赤十字病院分院阿武野勝景園として一般診療開始。
昭和22年	9月 1日	分院より昇格（独立）大阪阿武野赤十字病院と称す。
昭和23年	6月 9日	大阪阿武山赤十字病院と改称。
昭和26年	11月 1日	完全看護制度実施。
昭和27年	5月 6日	医療社会事業部を新設。
	10月15日	勝景園神社を阿武山神社と改称。
	11月20日	中央材料室開設。
昭和34年	4月10日	病院機関紙として「阿武山ニュース」(現：日赤たかつき)創刊号発行。
	11月 5日	手術棟（鉄筋コンクリート平屋建）竣工。
昭和35年	1月18日	北朝鮮帰還列車添乗派遣を開始。
昭和44年	12月 5日	病院第一次増改築工事竣工式。
昭和45年	1月 1日	高槻赤十字病院と改称。
	2月 2日	新館開設、一般外来及び入院診療開始。 (一般99床、結核559床)
昭和45年	9月 1日	大阪府労災指定病院に承認。
	11月 3日	大阪府救急指定病院に指定。
昭和47年	2月 1日	一般病棟（新館）「特類看護」の承認。
昭和49年	12月 3日	看護婦寄宿舎（鉄筋コンクリート4階建）竣工式。
昭和52年	7月 1日	耳鼻咽喉科の診療開始、総合病院となる。
	10月31日	病院第二次増改築工事竣工式。医療法による許可病床を421床とする。(一般224床、結核197床)
	12月 1日	理学診療科部（現：リハビリテーション科部）新設。
昭和54年	1月	放射線科部にRI検査を新設。
昭和55年	4月16日	1病棟開設、定床37床。医療法による許可病床458床。 (一般261床、結核197床)
	4月16日	全身用東芝CT-60A型スキャナー導入。
昭和58年	8月17日	障害等級2・3級の小児転地療養事業（健康回復キャンプ）実施。
昭和61年	2月24日	8病棟（結核病棟）を閉鎖、一般科病棟に転換、実働病床 375床（一般310床、結核65床）。

昭和62年 5月11日 上の池（溜池）を埋立て、駐車場用地とする。

昭和63年 4月 1日 理学診療科（現：リハビリテーション科）に作業療法室を開設。

平成 3年11月 5日 創立50周年記念祝賀会開催。

平成 4年10月 1日 麻酔科部の設置

12月18日 外来増改築工事完成。

平成 5年 9月 1日 総合リハビリテーション承認施設。

平成 6年10月21日 許可病床数、519床より511床へ変更。

平成 7年 1月17日 兵庫県南部地震（阪神・淡路大地震）による被災者救護活動開始。

8月 1日 高槻赤十字訪問看護ステーション開所式。

平成 8年 9月 2日 「MRI 棟」増改築工事完成。病院構造設備使用許可。

平成 9年 3月31日 結核病棟廃止。（一般病床446床、結核0床）

平成10年10月 1日 開放型病院の指定。（12床）
（平成11年6月～ 40床、平成13年10月～ 49床）

11月26日 剖検慰霊祭を以後毎年実施。

平成11年 4月 1日 厚生省臨床研修病院の指定。

8月31日 指定居宅介護支援事業者となる。

平成12年 1月 1日 院外処方箋の実施。

8月21日 アレルギー科の診療を開始する。

10月 1日 病診連携係（現：地域医療連携課）設置。

平成13年 3月 1日 産婦人科病棟全面改修。

4月 1日 脳神経外科開設。

7月 9日 7病棟全面改修。48床（血液内科、透析、外科、化学療法）運用開始。

平成14年 5月 7日 緩和ケア病棟開設。（全室20床）

10月 1日 業務委託による診療材料の定数管理（SPD）実施。

10月15日 駐車ゲートシステム導入、外来患者以外の駐車有料化実施。

12月 9日 地域がん診療拠点病院の指定を得る。

平成15年 1月 業務委託による検査室共同運営（FMS）実施。

7月 1日 一般病棟1群入院基本料1許可。（2対1看護）

平成16年 2月16日 病院機能評価 Ver.3.1（一般病院種別B）認定。

4月 1日 形成外科、呼吸器外科の開設。（アレルギー科の廃止）

12月 7日 4・5・6・8・9病棟の改修終了
MRI 装置入れ替え実施。

平成17年 1月 1日 診療情報管理課設置
事務部総務課に医療安全係設置。

1月 4日 亜急性期病床開設（20床）

3月 1日 救急部設置。

10月27日 NST 運用開始。

11月 1日 電子カルテ稼動。

平成18年 3月27日 新手術棟完成 竣工式。
(1階外科外来・生理検査部門／2階手術室・中央材料室)

平成18年 6月 1日 ガスコージェネレーションシステム運用開始

平成18年 7月 1日 「医療安全推進室」設置、「癌統合治療科部」設置。
「第一内科」を「糖尿病・内分泌・生活習慣病科部」と「緩和ケア科部」に分科。「第二内科部」を「血液・腫瘍内科部」に名称変更、「第一外科部」を「消化器外科部」に名称変更、「第二外科部」を「乳腺外科部」に名称変更。

平成18年10月 全手術部門及び外来改造工事、病院建物（本館・別館）の耐震工事、並びに3病棟改修工事完了。

平成18年10月20日 マルチスライスCT 64列の導入。

平成18年11月16日 第42回日本赤十字社医学会総会主催（於国立京都国際会館）。

平成18年12月16日 日本人間ドック学会「人間ドック健診施設機能評価」認定。

平成19年 1月 4日 院内保育所高槻日赤保育園『すくすく』開園。

平成19年 2月 1日 がん相談支援センター室設置。
病児保育室を委託開設。

平成19年 4月 1日 「医療技術部」を新設（臨床工学技術課、栄養課を設置）。
医療社会事業部地域医療連携課内に「がん相談支援センター室係」を新設。

平成19年 7月 1日 教育研修推進室設置。

平成19年10月 1日 ICU（院内基準）開設。

平成20年 2月 1日 一般病棟7対1入院基本料施設基準届出受理。

平成20年 2月 8日 地域がん診療連携拠点病院の指定更新。

平成20年 6月 1日 週休二日制実施。

平成20年 7月 1日 DPC 対象病院として請求開始。
放射線画像等フィルムレス運用開始。

平成21年 2月16日 病院機能評価 Ver.5.0 認定

平成21年 8月15日 兵庫県佐用町の台風9号水害による被災者救援活動のため、医療救援班を派遣。

平成22年 3月15日 X線アンギオ装置（血管造影装置）の入れ替え実施。

平成22年 3月 災害救護倉庫の整備。

平成22年 4月 1日 事務部医療安全課設置。

平成22年 6月 エコロジーガーデン設置。

平成22年10月 患者・家族向け図書コーナー設置。

平成22年10月 1日 放射線治療システム「リニアック」導入完了・治療開始。

平成23年 3月15日 東日本大震災により、宮城県庁前・岩手県山田町へ医療救援班を派遣（3/15～5/26）。

平成23年 3月30日 震災により石巻赤十字病院支援派遣（3/30～4/4・5/9～5/14）。

平成23年	4月	1日	神経内科開設。
平成23年	11月	25日	地域医療支援病院に承認される。
平成24年	2月	1日	消化器内視鏡センター開設。
平成24年	8月	1日	緩和ケア診療科開設。
平成24年	12月	1日	医療社会事業部地域連携推進課設置。
平成25年	4月	1日	事務部研修課設置。
平成26年	3月	7日	機能種別版日評価項目3rdG: Ver.1.0 認定。
平成26年	7月		患者支援センター開設。
平成26年	9月		病理診断科標榜。
平成28年	3月		消化器外科標榜。
平成29年	9月	1日	病院～JR 摂津富田駅間でシャトルバス運行開始。
平成30年	1月		糖尿病・内分泌内科、血液内科標榜。
平成30年	4月		事務部人事課設置。
平成30年	6月		シャトルバスの運行を JR 総持寺駅へ拡大。
平成30年	12月		無菌治療室を9床増設（合計12床）。
平成31年	4月		電子カルテシステムの更新
令和 元年	5月		病棟の再編成実施。2病棟を8病棟に移動し、レディース病棟として運用。
令和 元年	11月		乳腺外科、美容皮膚科標榜。
令和 元年	2月		駐車場リニューアル。（駐車スペース増加、一般駐車場全面舗装）
令和 2年	2月		新型コロナウイルス感染症帰国者・接触者外来設置
令和 2年	3月		新型コロナウイルス感染症入院受け入れ開始
令和 2年	4月		新型コロナウイルス感染症「重点医療機関」に指定及び発熱外来設置 病床管理室設置
令和 2年	8月		新型コロナウイルス感染症 PCR 検査委託事業を受託開始
令和 2年	12月		CT－80列装置の入れ替え実施
令和 3年	3月		2病棟、4病棟病床返還。医療法による許可病床335床
令和 3年	5月		新型コロナウイルス感染症高槻市民を対象にワクチン接種実施
令和 3年	10月		創立80周年記念号発刊
令和 4年	2月		3病棟（34床）を休棟し、稼働病床301床へ

10. 整備医療機器備品

メーカー名	固定資産名	規格型式
サーモフィッシャー サイエンティフィック(株)	リアルタイム PCR システム QuantStudio5	QS5-96S-TIP
サーモフィッシャー サイエンティフィック(株)	Class II 安全キャビネット SS インテリア W1300mm パッケージ	SS インテリア W1300mm
チェスト	一酸化窒素ガス分析装置ナイオックス NIOX VERO	NIOX VERO
其の他	超低温槽 UD-80W74NF (寄付 新型コロナワクチン保存用) (冷凍庫・フリーザー)	UD-80W74NF
GEヘルスケア・ジャパン(株)	汎用超音波画像診断装置 (心臓超音波診断装置) Vivid E95	Ultra Edition
日機装	個人用多用途透析装置 TYPE AWF	DBB-200Si
オリンパス	顕微鏡 BX43-33	BX43-33
其の他	キセノン光線治療器 ICON	
ストライカー	IDEAL EYES スコープ AC4cm 30° スピードロック	0502-104-030
泉工医科	電気手術器 SHAPPER mini 一式	
日本医化器械製作所	感染対策空気清浄ユニット NRC-601D	NRC-601D
日本光電工業	ベッドサイドモニタ PVM-4763 他一式	PVM-4763
日本メディックス	エクスケアバイク RG-EM400	RG-EM400
日本光電工業	医用テレメーター WEP-1450 他一式	WEP-1450
日本光電工業	セントラルモニタ CNS-6201 他一式	CNS-6201
日本医化器械製作所	感染対策空気清浄ユニット NRC-601D	NRC-601D
フィリップス	超音波診断装置 CX50 Xper	CX50 Xper
フィリップス	超音波診断装置 Affiniti70	Affiniti70
フィリップス	タブレット超音波診断装置 Lumify	Lumify
其の他	クリーンパーテーション ACP-897CH	ACP-897CH
其の他	クリーンパーテーション ACP-897AH	ACP-897AH
(株)IMI	酸素ブレンダ (PMB-5000 用酸素ブレンダ)	PMB-5000
ドレーゲル	ドレーゲル 人工呼吸器 Savina300 一式	savina300
日本光電工業	ベッドサイドモニタ PVM-4763-Q20 他	PVM-4763-Q20 他
日本光電工業	心電計 ECG-2450	ECG-2450
ニデック	光干渉断層計 RS-3000	RS-3000Advance2
フィリップス	超音波診断装置 Affiniti70	Affiniti70
フィリップス	タブレット超音波診断装置 Lumify10.1 インチ LA3-SL	Lumify10.1 LA3-SL
日本光電工業	人工呼吸器 HAMILTON-C1	HAMILTON-C1
其の他	ERCP 用防護具 TI-Ultimax 用 -18	TI-Ultimax 用 -18
(株)IMI	酸素ブレンダ (PMB-5000 用酸素ブレンダ)	PMB-5000
シーメンス	血液ガス分析装置 ラピッドポイント 500e	ラピッドポイント 500
富士レリオ	全自動化学発光酵素免疫測定システム ルミパルス L2400	L2400
ストルツ	C-MAC (気管支鏡)	
オリンパス	気管支ビデオスコープ BF-290	BF-P290
シスメックス	膀胱用超音波画像診断装置 ブラダースキャン BVI6100	ブラダースキャン BVI6100
ストライカー	骨手術器械 システム 8 パワーシステム 一式	8208-000-000、 4505-000-000 他
其の他	電気メス maXium(マキシウム)	maXium 80-042-02-04-N 他
日本光電工業	NK モニタ連携ボード NCI-700NK	NCI-700NK
パナソニックヘルスケア(株)	バイオメディカルフリーザー MDF-137-PJ	MDF-137-PJ
パナソニックヘルスケア(株)	超低温フリーザー MDF-DC200V-PJ	MDF-DC200V-PJ
パナソニックヘルスケア(株)	低温インキューベーター MIR-154-PJ	MIR-154-PJ
パナソニックヘルスケア(株)	薬用冷蔵ショーケース MPR-S150H-PJ	MPR-S150H-PJ
ロシュ・ダイアグノスティックス	ペンタナベンチマーク GX	
興和	細隙灯 ポータブルスリットランプ	SL-17
ライカ	ヒストコアパール (自動固定包埋装置)	
瑞穂医科工業	レビテーター (両支脚器) 2 個入	08-070-04
ウルフ	腎盂鏡 ネフロスコープ 20°	10.5Fr 94-611 8965.411RU 他
ベックマン・コールター	感染症検査業務支援システム SMILE Honest	

Ⅲ 組織及び職員

2021. 4. 1



2. 幹部職員

(令和3年度末現在)

院		長	古	川	福	実
副		長	玉	田	昌	尚
副	院	長	平	松	好	子
事	務	長	松	田	恵	正
看	護	部	岸		至	美
糖尿病・内分泌・生活習慣病科		部長	金	子	典	佳
緩和ケア科		部長	橋	本	尚	夫
血液・腫瘍内科		部長	安	齋	玄	之
循環器科		部長	大	中	直	彦
消化器科		部長	神	田	昌	樹
呼吸器外科		部長(兼)	平	松	英	夫
呼吸器科		部長	北		博	視
小児科		部長	片	山	一	郎
消化器外科		部長	恒	松	稔	弘
乳腺外科		部長	小	林	昌	子
脳神経外科		部長(兼)	平	松	文	人
整形外科		部長	徳	山	福	実
形成外科		部長(兼)	古	川	福	実
皮膚科		部長(兼)	古	川	光	英
泌尿器科		部長	六	車	昌	子
産婦人科		部長(兼)	平	松	昌	子
眼科		部長(兼)	平	松	福	実
耳鼻咽喉科		部長(兼)	古	川	公	尚
神経内科		部長(兼)	玉	田	正	男
放射線科		部長	後	藤		樹
核医学科		部長	山	室		尚
リハビリテーション科		部長(兼)	玉	田	る	み
麻酔科		部長	宇	井	俊	子
麻酔科・手術部		部長	澤	本	文	幸
救急部		部長	岡	川	福	雄
医療技術部		部長(兼)	古	島	一	実
薬剤部		部長	小	川	福	晃
検査部		部長(兼)	古	邊	千	実
病理診断科		部長	渡	松	昌	尋
中央手術部		部長(兼)	平	田	か	お
看護部		部長	原		ひろ	み
看護部		部長	西	橋	晶	子
看護部		部長	高			
医療社会事業部		部長	欠			
社会課		部長(兼)	渡	部		悟
地域医療連携課		部長	眞	清水	裕	子
事務副部		部長	酒	井	美	幸
事務部付課		部長	日	高	利	明
事務部付課		部長	濱	田	健	司
事務部付課		部長	萩	原	大	介
総務課		部長(兼)	片	岡	幹	夫
企画課		部長	杉	山	乙	矢
企画課		部長	片	岡	幹	夫
企画課		部長	渡	部		悟
企画課		部長	浦	手		悟
企画課		部長	上	成	弥	生

3. 職員現況表

会計決算書より（令和４年３月３１日現在）

区 分	① 病 院																	
	医 師	薬 劑 師	放 射 線 技 師	検 査 技 師	理 学 療 法 士	作 業 療 法 士	言 語 聴 覚 士	臨 床 工 学 技 師	視 能 訓 練 士	栄 養 士	管 理 栄 養 士	助 産 師	看 護 師	准 看 護 師	看 護 助 手	医 療 技 術 補 助 者	事 務 職 員	そ の 他 職 員
常 勤	72.0	23.0	18.0	20.0	12.0	4.0	2.0	8.0	0.0	6.0	4.0	241.0	0.0	24.0	1.0	62.0	13.0	510.0
非常勤	8.6	0.0	0.0	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	2.3	0.0	1.1	18.5	0.0	1.5	0.0	1.7	6.5	41.0
計	80.6	23.0	18.0	20.8	12.0	4.0	2.0	8.0	2.3	6.0	5.1	259.5	0.0	25.5	1.0	63.7	19.5	551.0

② 病院（医療社会事業）					
区 分	看 護 師	管 理 栄 養 士	事 務 職 員	医 療 社 会 事 業 司	小 計
常 勤	2.0	0.0	9.0	5.0	16.0
非常勤	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
計	2.0	0.0	9.0	5.0	16.0

③ 訪問看護ステーション				
区 分	事 務 職 員	看 護 師	理 学 療 法 士	小 計
常 勤	1.0	7.0	1.0	9.0
非常勤	0.0	0.3	0.0	0.3
計	1.0	7.3	1.0	9.3

総合計	
区 分	① + ② + ③
常 勤	535.0
非常勤	41.3
計	576.3

4. 職種別・年齢別・職員構成表

（令和４年３月３１日現在）

		30才未満	30才～ 40才未満	40才～ 50才未満	50才～ 55才未満	55才～ 60才未満	60才～ 62才未満	62才～ 65才未満	65才以上	計
一般職（一）	男	1	7	10	3	4	4	0	1	30
	女	8	8	23	4	3	1	2	0	49
一般職（二）	男	0	1	3	1	1	3	1	0	10
	女	0	1	8	16	6	3	1	2	37
医療職（一）	男	5	14	11	7	5	2	2	5	51
	女	7	7	6	0	1	0	2	0	23
医療職（二）	男	7	19	15	3	3	0	1	0	48
	女	10	19	14	5	2	1	1	0	52
医療職（三）	男	5	7	2	1	2	0	0	0	17
	女	43	53	94	40	29	4	3	2	268
計	男	18	48	41	15	15	9	4	6	156
	女	68	88	145	65	41	9	9	4	429
										585

5. 会議及び委員会

(令和3年3月31日現在)

◎ 会 議

4 役会議

病院連絡会議

◎ 委 員 会

DPC・診療記録管理委員会

ICT 委員会

SPD・診療材料購入審査委員会

キャンサーボード委員会

ハラスメント防止委員会

医事紛争処理委員会

医療安全管理委員会

院内感染防止対策委員会

救急委員会

患者支援センター運営委員会

研修管理委員会

広報委員会

治験審査委員会

図書委員会

病床再編成検討・検証委員会

AST 委員会

保険委員会

防火防災・災害対策委員会

輸血療法委員会

臨床検査適正化委員会

褥瘡委員会

患者サービス向上委員会

新病院新築移転構想検討委員会

日当直体制検討委員会

HCU 運営委員会

NST 委員会

がん診療関連機能充実委員会

クリニカルパス委員会

業務改善委員会

医療ガス安全管理委員会

医療事故院内検証委員会

化学療法委員会

給食委員会

研修運営委員会

個人情報保護委員会

購買委員会

手術室運営委員会

地域医療支援病院運営委員会

認知症ケアサポート委員会

病床管理運営委員会

放射線安全委員会

薬事委員会

倫理委員会

労働安全衛生委員会

血液浄化療法委員会

臨床倫理委員会

医療放射線管理委員会

IV 統計

1. 令和3年度実績表

	入			院			外			来			合 計
	患者延数	1日平均	在院日数	診療稼働額	診療単価	患者延数	1日平均	通院日数	診療稼働額	診療単価	診療稼働額	診療単価	
内科	799	2.2	5.2	26,097,144	32,662.3	5,175	21.4	1.6	134,217,034	25,935.7	160,314,178		
糖・内・代	3,137	8.6	11.6	183,888,601	58,619.3	8,956	37.0	119.4	127,863,974	14,276.9	311,752,575		
血液内科	13,451	36.9	32.3	1,327,457,063	98,688.4	6,180	25.5	67.9	609,066,470	98,554.4	1,936,523,533		
腎臓内科	0	0.0		0	0.0	1,893	7.8	473.3	41,712,015	22,034.9	41,712,015		
消化器内科	15,138	41.5	8.3	819,480,267	54,134.0	15,034	62.1	17.3	325,911,834	21,678.3	1,145,392,101		
循環器内科	12,040	33.0	15.3	777,099,618	64,543.2	12,848	53.1	36.0	124,497,620	9,690.0	901,597,238		
脳神経内科	0	0.0		0	0.0	2,069	8.5	31.8	11,756,618	5,682.3	11,756,618		
呼吸器内科	16,641	45.6	14.3	1,122,518,256	67,455.0	13,334	55.1	24.9	510,368,955	38,275.8	1,632,887,211		
呼吸器外科	1,887	5.2	14.9	169,287,931	89,712.7	2,545	10.5	254.5	65,969,200	25,921.1	235,257,131		
外科	5,537	15.2	11.8	441,127,969	79,669.1	9,736	40.2	30.4	276,766,453	28,427.1	717,894,422		
脳神経外科	0	0.0		25,390	0.0	1,032	4.3	13.4	11,783,923	11,418.5	11,809,313		
整形外科	11,459	31.4	19.7	704,051,537	61,440.9	12,013	49.6	14.7	92,177,790	7,673.2	796,229,327		
産婦人科	201	0.6	6.2	18,184,762	90,471.5	2,332	9.6	18.8	17,575,056	7,536.5	35,759,818		
小児科	302	0.8	3.4	16,161,710	53,515.6	2,581	10.7	2.7	34,439,407	13,343.4	50,601,117		
眼科	881	2.4	0.8	117,778,398	133,687.2	7,780	32.1	20.0	87,467,218	11,242.6	205,245,616		
皮膚科	1,142	3.1	10.3	50,222,162	43,977.4	9,198	38.0	25.2	50,855,497	5,529.0	101,077,659		
形成外科	510	1.4	11.8	34,402,766	67,456.4	2,461	10.2	8.6	25,351,657	10,301.4	59,754,423		
耳鼻咽喉科	0	0.0		0	0.0	2,093	8.6	17.0	11,928,782	5,699.4	11,928,782		
リハビリテーション科	0	0.0		0	0.0	4,343	17.9		22,344,791	5,145.0	22,344,791		
泌尿器科	2,523	6.9	7.1	169,318,784	67,110.1	8,316	34.4	28.0	129,570,120	15,580.8	298,888,904		
緩和ケア	4,479	12.3	30.3	284,550,812	63,530.0	143	0.6	2.7	1,762,514	12,325.3	286,313,326		
放射線科	0	0.0		0	0.0	1,396	5.8	1.4	0	0.0	0		
その他	0	0.0		0	0.0	2,237	9.2		30,972,395	13,845.5	30,972,395		
合計	90,127	246.9	12.8	6,261,653,170	69,475.9	133,695	552.5	13.2	2,744,359,323	20,527.0	9,006,012,493		

前年度	90,917	249.1	13.3	5,909,981,127	65,004.1	128,557	529.0	16.9	2,668,766,699	20,759.4	8,578,747,826		
増減率	-0.9%	-0.9%	-3.5%	6.0%	6.9%	4.0%	4.4%	-22.0%	2.8%	-1.1%	5.0%		

※その他は、救急科とリウマチ・膠原病とドック・健診を足したものです。

2.入院患者数

	合 計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
内 科	799	60	126	55	58	72	37	46	62	98	75	58	52
糖 内 科	3,137	333	303	257	353	304	264	330	205	291	148	160	189
血液内科	13,451	1,111	1,111	1,138	1,062	1,134	1,228	1,199	1,280	1,118	1,037	1,038	995
腎臓内科	0	0	0	0		0	0					0	
消化器内科	15,138	1,206	936	1,325	1,280	1,348	1,264	1,244	1,362	1,493	1,463	1,008	1,209
循環器内科	12,040	1,150	889	869	788	1,189	932	814	1,036	1,176	1,084	1,162	951
脳神経内科	0	0	0	0		0	0					0	
呼吸器内科	16,641	1,547	1,704	1,260	1,446	1,811	1,573	989	1,117	1,186	1,290	1,389	1,329
呼吸器外科	1,887	191	153	242	169	139	92	51	108	157	114	240	231
外科	5,537	498	340	505	655	380	468	516	451	515	388	310	511
脳神経外科	0	0	0	0		0	0					0	
整形外科	11,459	1,006	1,170	969	828	882	710	1,020	1,028	1,184	819	816	1,027
産婦人科	201	18	26	15	15	44	26	16	12		9	8	12
小児科	302	11	28	46	64	35	31	34	21	23		7	2
眼科	881	36	40	80	74	99	72	108	109	68	66	53	76
皮膚科	1,142	42	27	71	124	179	130	125	42	86	132	29	155
形成外科	510	100	2	3	72	38	53	45	24	43	33	52	45
耳鼻咽喉科	0	0	0	0		0	0					0	
リハビリテーション科	0	0	0	0		0	0					0	
泌尿器科	2,523	257	183	155	243	188	210	268	238	180	156	228	217
緩和ケア	4,479	458	517	466	380	438	287	311	310	306	360	305	341
放射線科	0	0	0	0								0	
その他の	0	0	0	0								0	
合 計	90,127	8,024	7,555	7,456	7,611	8,280	7,377	7,116	7,405	7,924	7,174	6,863	7,342
1 日 平 均	246.9	267.5	243.7	248.5	245.5	267.1	245.9	229.5	246.8	255.6	231.4	245.1	236.8

前 年 度	90,917	7,146	6,803	6,733	7,606	7,730	7,758	8,588	7,964	8,057	7,094	6,934	8,504
1 日 平 均	249.1	238.2	219.5	224.4	245.4	249.4	258.6	277.0	265.5	259.9	228.8	247.6	274.3
増 減 率	-0.9%	12.3%	11.1%	10.7%	0.1%	7.1%	-4.9%	-17.1%	-7.0%	-1.7%	1.1%	-1.0%	-13.7%

3.入院稼働額

	合 計	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
内 科	26,097,144	1,804,502	2,680,380	1,865,510	979,490	1,653,206	624,810	668,760	2,223,658	4,493,980	2,849,254	4,105,224	2,148,370
糖・内・代	183,888,601	12,858,914	29,393,288	22,534,442	15,972,240	19,127,870	21,482,008	13,028,712	10,081,344	12,504,590	5,975,126	8,621,451	12,308,616
血液内科	1,327,457,063	90,394,487	102,371,547	111,706,169	103,577,891	121,469,148	143,926,528	124,039,221	125,455,802	105,803,624	90,079,244	103,865,880	104,767,522
腎臓内科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
消化器内科	819,480,267	61,959,314	51,763,944	68,274,728	65,541,545	72,458,485	68,173,103	72,820,059	77,414,307	80,840,625	75,852,564	58,947,021	65,434,572
循環器内科	777,099,618	66,402,903	55,517,981	58,439,194	52,646,096	81,680,286	70,653,439	51,063,856	66,461,790	79,697,292	70,106,745	69,213,318	55,216,718
脳神経内科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
呼吸器内科	1,122,518,256	125,107,469	137,291,629	81,097,767	85,705,159	129,632,742	92,815,049	52,970,682	53,270,088	63,363,640	82,217,043	127,319,496	91,727,492
呼吸器外科	169,287,931	17,351,476	12,146,662	17,150,821	15,513,496	11,259,220	10,863,298	3,861,880	15,666,722	17,150,170	10,540,084	19,406,560	18,377,542
外科	441,127,969	35,100,571	32,041,456	37,547,806	47,358,839	27,382,648	36,922,726	44,085,820	36,116,908	39,750,700	34,204,567	28,929,682	41,686,246
脳神経外科	25,390	0	25,390	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
整形外科	704,051,537	63,856,899	68,411,709	60,010,458	46,796,171	52,100,169	52,025,872	67,697,433	64,824,410	67,829,383	45,730,032	50,581,772	64,187,229
産婦人科	18,184,762	2,448,590	1,516,020	1,298,616	1,084,776	4,464,760	1,927,440	1,442,670	1,119,300	0	701,190	824,060	1,357,340
小児科	16,161,710	663,460	1,629,690	2,621,650	3,028,280	2,272,560	1,121,540	1,943,600	1,230,630	1,157,280	0	381,600	111,420
眼科	117,778,398	4,916,112	5,462,980	8,973,254	10,151,474	13,550,380	11,279,766	11,212,970	14,456,044	9,196,134	9,338,572	8,232,622	11,008,090
皮膚科	50,222,162	1,763,580	1,332,270	3,349,458	6,026,466	7,856,480	5,373,020	5,314,596	2,019,810	4,324,656	4,892,254	1,334,088	6,635,484
形成外科	34,402,766	4,413,876	32,240	271,930	3,980,852	2,929,018	5,208,325	3,704,019	2,750,560	3,309,650	1,721,992	2,781,014	3,299,290
耳鼻咽喉科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
リハビリテーション科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
泌尿器科	169,318,784	17,563,936	11,728,210	12,463,202	16,648,246	12,553,388	15,033,578	18,973,070	14,772,492	8,531,596	12,323,588	13,282,622	15,444,856
緩和ケア	284,550,812	28,551,896	31,865,960	28,818,496	26,046,412	26,248,779	17,136,455	17,420,660	21,135,295	20,928,539	24,214,258	19,874,538	22,309,524
放射線科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	6,261,653,170	535,157,985	545,211,356	516,423,501	501,057,433	586,639,139	554,566,957	490,248,008	508,999,160	518,881,859	470,746,513	517,700,948	516,020,311

前 年 度	5,909,981,127	453,389,026	436,002,217	436,135,365	484,638,308	497,081,683	495,154,044	566,927,979	498,251,985	553,886,832	441,611,592	478,957,620	567,944,476
増 減 率	6.0%	18.0%	25.0%	18.4%	3.4%	18.0%	12.0%	-13.5%	2.2%	-6.3%	6.6%	8.1%	-9.1%

4. 入院単価

	合 計	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
内 科	32,662.3	30,075.0	21,272.9	33,918.4	16,887.8	22,961.2	16,886.8	14,538.3	35,865.5	45,856.9	37,990.1	70,779.7	41,314.8
糖・内・代	58,619.3	38,615.4	97,007.6	87,682.7	45,247.1	62,920.6	81,371.2	39,480.9	49,177.3	42,971.1	40,372.5	53,884.1	65,125.0
血液内科	98,688.4	81,363.2	92,143.6	98,160.1	97,531.0	107,115.7	117,204.0	103,452.2	98,012.3	94,636.5	86,865.2	100,063.5	105,294.0
腎臓内科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
消化器内科	54,134.0	51,375.9	55,303.4	51,528.1	51,204.3	53,752.6	53,934.4	58,537.0	56,838.7	54,146.4	51,847.3	58,479.2	54,122.9
循環器内科	64,543.2	57,741.7	62,449.9	67,248.8	66,809.8	68,696.6	75,808.4	62,732.0	64,152.3	67,769.8	64,674.1	59,564.0	58,061.7
脳神経内科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
呼吸器内科	67,455.0	80,871.0	80,570.2	64,363.3	59,270.5	71,580.8	59,005.1	53,559.8	47,690.3	53,426.3	63,734.1	91,662.7	69,019.9
呼吸器外科	89,712.7	90,845.4	79,389.9	70,871.2	91,795.8	81,001.6	118,079.3	75,723.1	145,062.2	109,236.8	92,456.9	80,860.7	79,556.5
外科	79,669.1	70,483.1	94,239.6	74,352.1	72,303.6	72,059.6	78,894.7	85,437.6	80,081.8	77,185.8	88,156.1	93,321.6	81,577.8
脳神経外科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
整形外科	61,440.9	63,476.0	58,471.5	61,930.3	56,517.1	59,070.5	73,275.9	66,370.0	63,058.8	57,288.3	55,836.4	61,987.5	62,499.7
産婦人科	90,471.5	136,032.8	58,308.5	86,574.4	72,318.4	101,471.8	74,132.3	90,166.9	93,275.0	0.0	77,910.0	103,007.5	113,111.7
小児科	53,515.6	60,314.5	58,203.2	56,992.4	47,316.9	64,930.3	36,178.7	57,164.7	58,601.4	50,316.5	0.0	54,514.3	55,710.0
眼科	133,687.2	136,558.7	136,574.5	112,165.7	137,182.1	136,872.5	156,663.4	103,823.8	132,624.3	135,237.3	141,493.5	155,332.5	144,843.3
皮膚科	43,977.4	41,990.0	49,343.3	47,175.5	48,600.5	43,890.9	41,330.9	42,516.8	48,090.7	50,286.7	37,062.5	46,003.0	42,809.6
形成外科	67,456.4	44,138.8	16,120.0	90,643.3	55,289.6	77,079.4	98,270.3	82,311.5	114,606.7	76,968.6	52,181.6	53,481.0	73,317.6
耳鼻咽喉科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
リハビリテーション科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
泌尿器科	67,110.1	68,342.2	64,088.6	80,407.8	68,511.3	66,773.3	71,588.5	70,795.0	62,069.3	47,397.8	78,997.4	58,257.1	71,174.5
緩和ケア	63,530.0	62,340.4	61,636.3	61,842.3	68,543.2	59,928.7	59,708.9	56,015.0	68,178.4	68,393.9	67,261.8	65,162.4	65,423.8
放射線科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合 計	69,475.9	66,694.7	72,165.6	69,262.8	65,833.3	70,850.1	75,175.1	68,893.8	68,737.2	65,482.3	65,618.4	75,433.6	70,283.3

前 年 度	65,004.1	63,446.5	64,089.7	64,775.8	63,717.9	64,305.5	63,825.0	66,014.0	62,563.0	68,746.0	62,251.4	69,073.8	66,785.6
増 減 率		5.1%	12.6%	6.9%	3.3%	10.2%	17.8%	4.4%	9.9%	-4.7%	5.4%	9.2%	5.2%

5. 外来患者数

	合 計	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
内 科	5,175	433	397	294	280	524	408	180	134	151	902	933	539
糖・内・代	8,956	828	691	789	793	702	763	763	657	800	652	699	819
血液内科	6,180	552	472	490	506	520	528	544	520	494	529	440	585
腎臓内科	1,893	169	125	139	160	170	161	146	153	176	167	142	185
消化器内科	15,034	1,236	1,105	1,281	1,207	1,200	1,330	1,299	1,354	1,348	1,183	1,123	1,368
循環器内科	12,848	1,126	951	1,085	1,058	1,041	1,064	1,094	1,089	1,094	1,060	967	1,219
脳神経内科	2,069	193	160	198	172	189	159	189	177	146	153	162	171
呼吸器科	13,334	1,160	1,130	1,156	1,133	1,102	1,096	1,104	1,172	1,114	1,040	988	1,139
呼吸器外科	2,545	228	213	236	225	229	189	163	202	235	225	198	202
外科	9,737	865	687	756	782	812	834	831	787	828	807	729	1,019
脳神経外科	1,032	93	83	69	69	92	85	118	102	101	73	62	85
整形外科	12,013	907	941	957	953	1,006	1,028	1,044	1,026	1,076	931	984	1,160
産婦人科	2,332	175	172	228	205	162	199	204	187	240	176	162	222
小児科	2,581	141	136	154	191	223	197	169	179	184	310	386	311
眼科	7,780	654	565	629	674	651	657	662	689	664	641	593	701
皮膚科	9,198	875	665	742	773	789	747	806	760	763	786	684	808
形成外科	2,461	221	192	213	224	226	237	205	196	183	178	176	210
耳鼻咽喉科	2,093	184	144	171	187	139	173	205	158	217	160	151	204
リハビリテーション科	4,343	324	290	375	371	395	359	364	391	368	332	341	433
泌尿器科	8,316	745	665	673	725	689	789	778	743	747	549	519	694
緩和ケア	143	11	11	13	12	16	14	8	11	8	9	8	22
放射線科	1,396	113	103	137	103	109	112	147	126	128	101	105	112
その他	2,237	179	162	218	166	179	217	177	162	211	174	165	227
合 計	133,696	11,412	10,060	11,003	10,969	11,165	11,346	11,200	10,975	11,276	11,138	10,717	12,435
1 日 平 均	552.5	543.4	558.9	500.1	548.5	531.7	567.3	533.3	548.8	563.8	586.2	595.4	565.2

前 年 度	128,557	9,676	8,664	11,028	11,158	10,434	11,136	11,674	10,762	11,158	10,226	10,066	12,575
1 日 平 均	531.2	460.8	481.3	501.3	557.9	496.9	556.8	555.9	538.1	557.9	538.2	559.2	571.6
増 減 率	4.0%	17.9%	16.1%	-0.2%	-1.7%	7.0%	1.9%	-4.1%	2.0%	1.1%	8.9%	6.5%	-1.1%

6. 外来稼働額

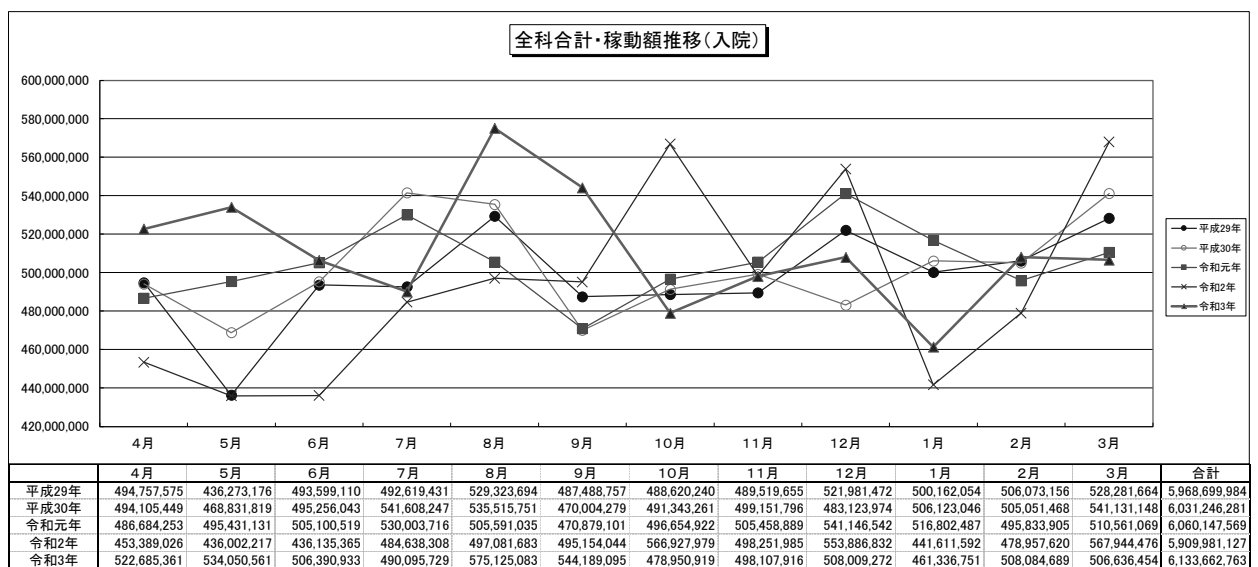
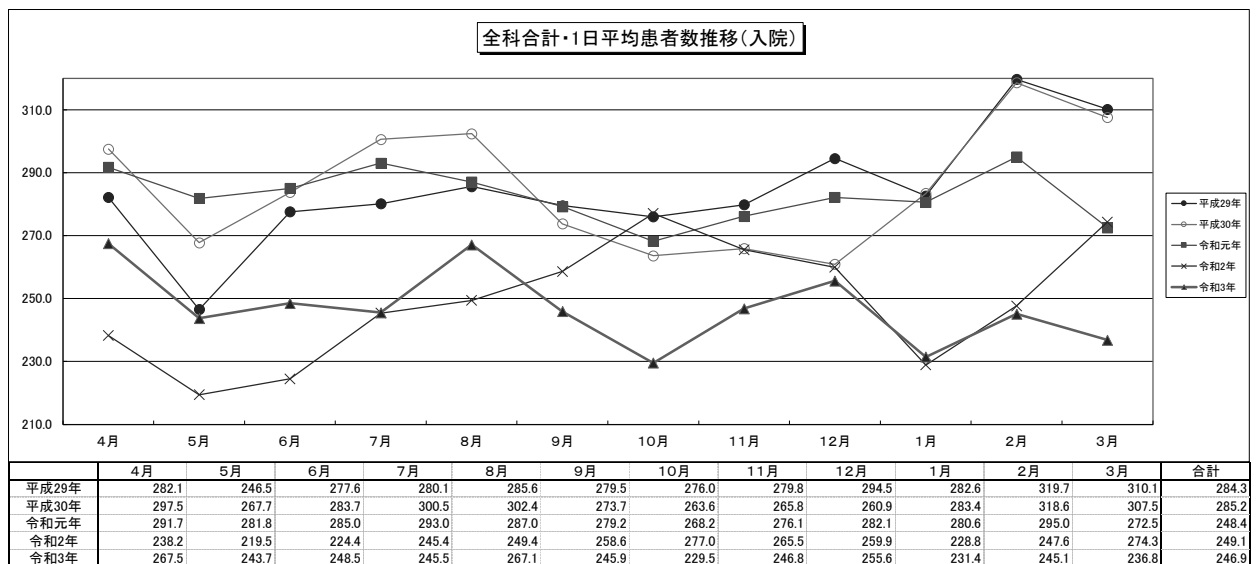
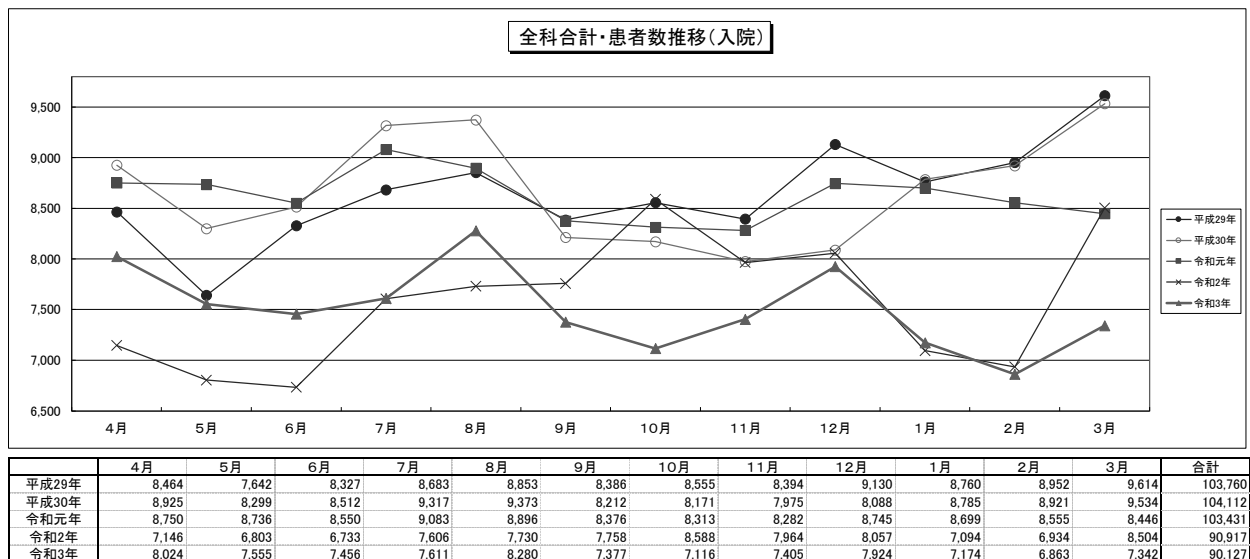
	合 計	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
内 科	134,217,034	11,900,694	10,479,827	10,750,914	9,403,155	13,732,207	11,636,116	8,583,879	6,851,548	7,239,682	15,599,182	16,048,803	11,991,027
糖・内・代	127,863,974	12,604,219	9,405,731	10,896,669	11,505,943	8,965,160	11,240,424	11,006,148	9,502,923	11,465,392	8,834,294	10,323,916	12,113,155
血液内科	609,066,470	53,259,894	38,428,704	41,958,938	41,852,294	57,421,839	42,501,792	59,652,608	49,439,951	50,162,605	56,247,362	54,275,131	63,865,352
腎臓内科	41,712,015	3,407,034	3,202,610	2,750,990	3,654,135	3,719,854	3,421,990	3,042,500	3,468,730	3,898,010	3,953,326	3,154,824	4,038,012
消化器内科	325,911,834	30,691,374	28,269,279	29,357,878	28,572,772	30,211,902	27,104,187	29,611,959	25,654,845	23,532,559	23,711,577	20,263,116	28,930,386
循環器科	124,497,620	10,208,184	9,942,390	9,787,787	9,701,733	9,674,068	10,321,483	10,676,602	11,359,764	10,333,747	11,185,998	9,369,854	11,936,010
脳神経内科	11,756,618	1,376,120	677,844	1,244,688	848,007	1,027,594	835,248	1,158,020	1,055,610	770,759	926,824	971,916	863,988
呼吸器科	510,368,955	46,281,264	47,227,160	48,475,041	41,296,363	44,053,537	44,586,781	43,141,095	38,083,822	38,772,793	41,438,161	38,869,726	38,143,212
呼吸器外科	65,969,200	7,677,625	8,095,674	6,329,904	6,944,883	6,682,230	6,171,994	3,227,060	3,636,310	4,326,770	4,459,080	3,927,220	4,490,450
外科	276,766,453	26,916,738	22,564,926	21,925,022	22,839,560	23,916,976	23,152,270	23,296,405	21,319,641	21,620,744	22,222,133	21,202,181	25,789,857
脳神経外科	11,783,923	1,075,468	863,310	743,006	730,937	961,982	979,380	1,316,750	1,040,041	1,555,770	686,394	655,755	1,175,130
整形外科	92,177,790	7,575,724	7,555,282	7,166,528	7,547,035	7,676,364	7,565,321	8,683,254	7,762,155	7,703,762	6,816,274	7,694,545	8,431,546
産婦人科	17,575,056	1,516,446	1,370,018	1,522,687	1,753,340	1,154,070	1,616,244	1,369,252	1,458,374	1,747,992	1,370,199	1,023,628	1,672,806
小児科	34,439,407	1,691,121	1,390,397	1,816,709	2,509,680	3,166,860	2,897,370	2,049,778	2,201,563	2,158,472	4,424,533	5,886,175	4,246,749
眼科	87,467,218	7,302,994	7,188,722	7,237,389	8,787,620	6,309,160	7,346,569	7,572,819	6,897,946	8,718,067	7,570,813	6,159,846	6,375,273
皮膚科	50,855,497	4,532,186	3,665,692	3,458,641	4,607,407	4,671,292	4,026,052	4,512,727	5,262,049	3,478,608	4,921,690	3,180,271	4,538,882
形成外科	25,351,657	1,702,660	1,599,653	1,852,792	2,187,254	2,571,458	2,700,209	2,853,472	2,669,830	1,737,958	1,518,551	1,983,376	1,974,444
耳鼻咽喉科	11,928,782	882,080	768,024	915,965	1,353,422	820,100	956,084	1,053,067	917,820	1,226,177	887,808	918,174	1,230,061
リハビリテーション科	22,344,791	1,538,433	1,394,281	2,147,914	1,792,281	2,031,085	1,857,696	1,934,939	2,040,208	1,929,248	1,813,342	1,729,127	2,136,237
泌尿器科	129,570,120	11,513,257	10,362,810	9,274,936	12,093,686	9,897,667	11,827,520	10,803,144	11,617,060	11,062,185	9,273,477	8,493,030	13,351,348
緩和ケア	1,762,514	140,450	89,250	138,170	204,020	142,010	165,060	118,960	147,134	147,100	151,840	109,260	209,260
放射線科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	30,972,395	2,463,356	2,112,528	2,774,556	2,137,614	2,652,230	2,867,938	2,412,754	2,293,044	2,844,725	2,550,678	2,180,607	3,682,365
合 計	2,744,359,323	246,257,321	216,654,112	222,527,124	222,323,141	241,459,645	225,777,728	238,077,192	214,680,368	216,433,125	230,563,536	218,420,481	251,185,550

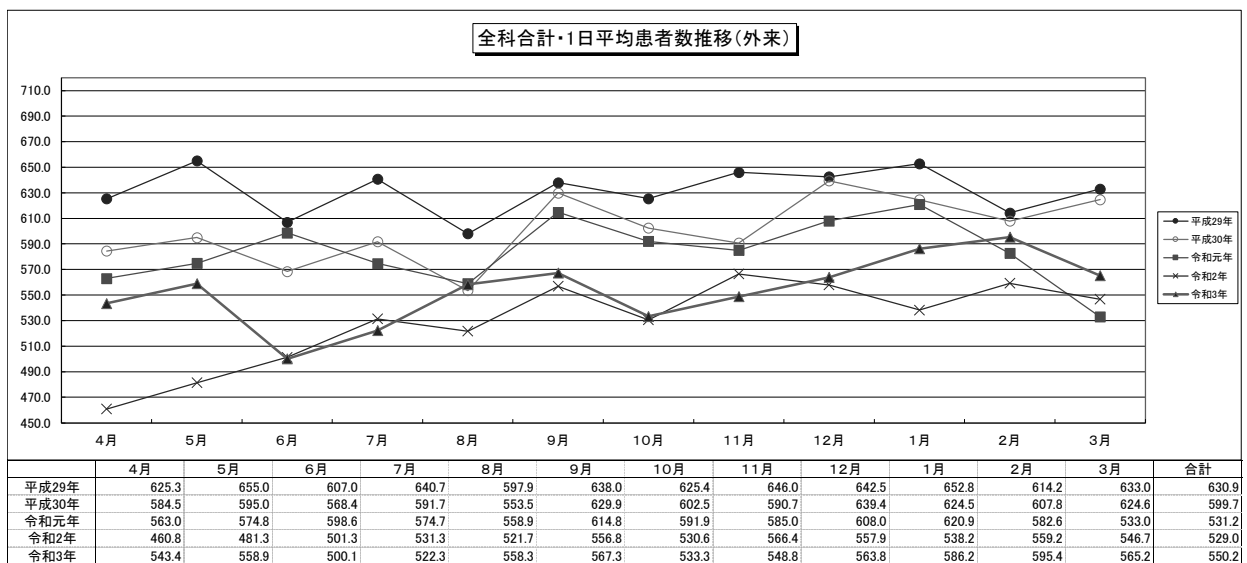
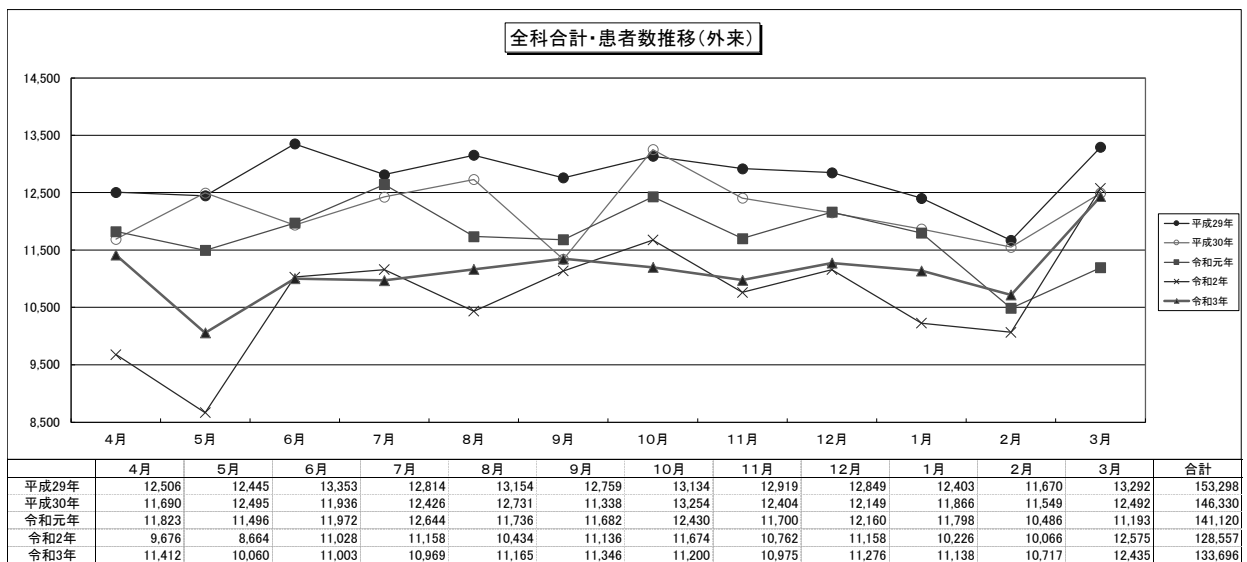
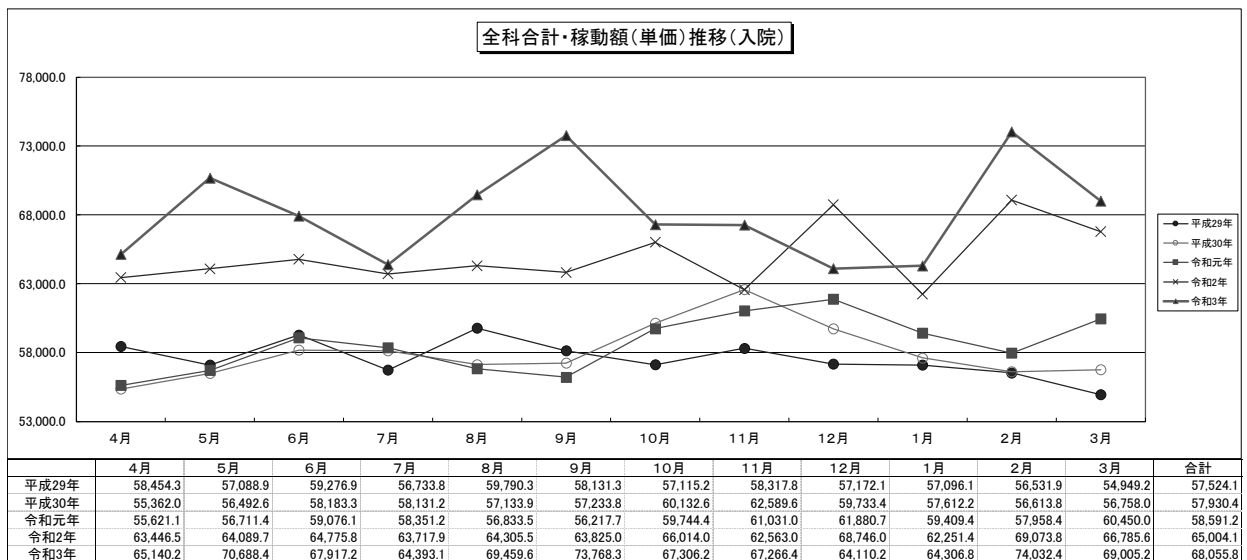
前 年 度	2,668,766,699	200,756,365	181,971,273	213,669,831	218,156,641	209,652,213	233,016,052	253,539,034	228,178,152	235,899,760	221,524,025	213,385,721	259,017,632
増 減 率	2.8%	22.7%	19.1%	4.1%	1.9%	15.2%	-3.1%	-6.1%	-5.9%	-8.3%	4.1%	2.4%	-3.0%

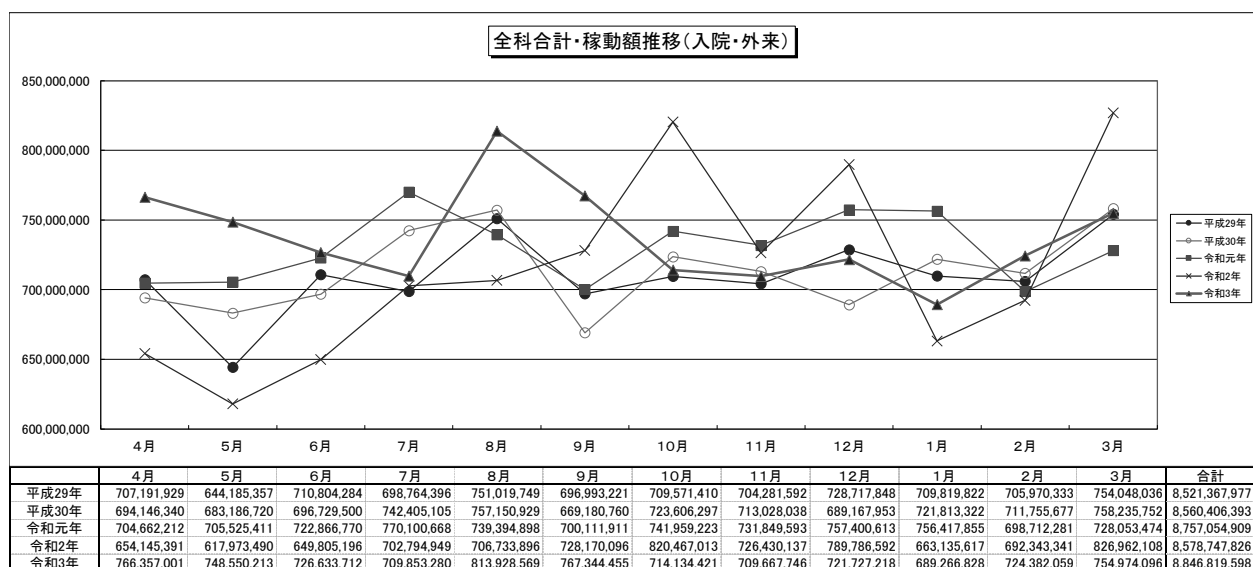
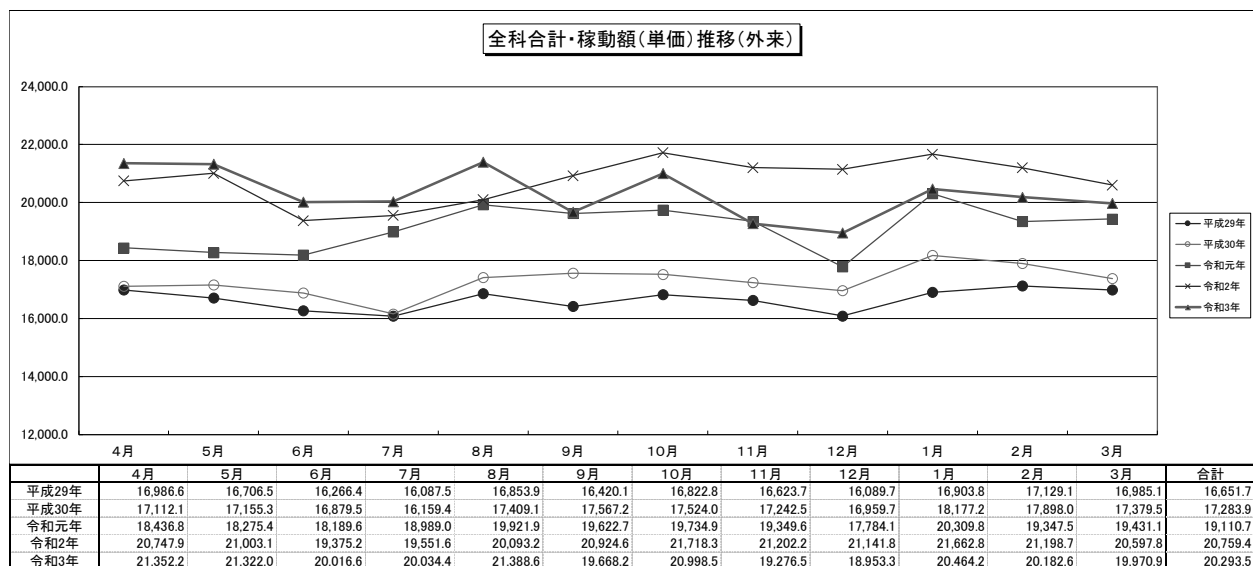
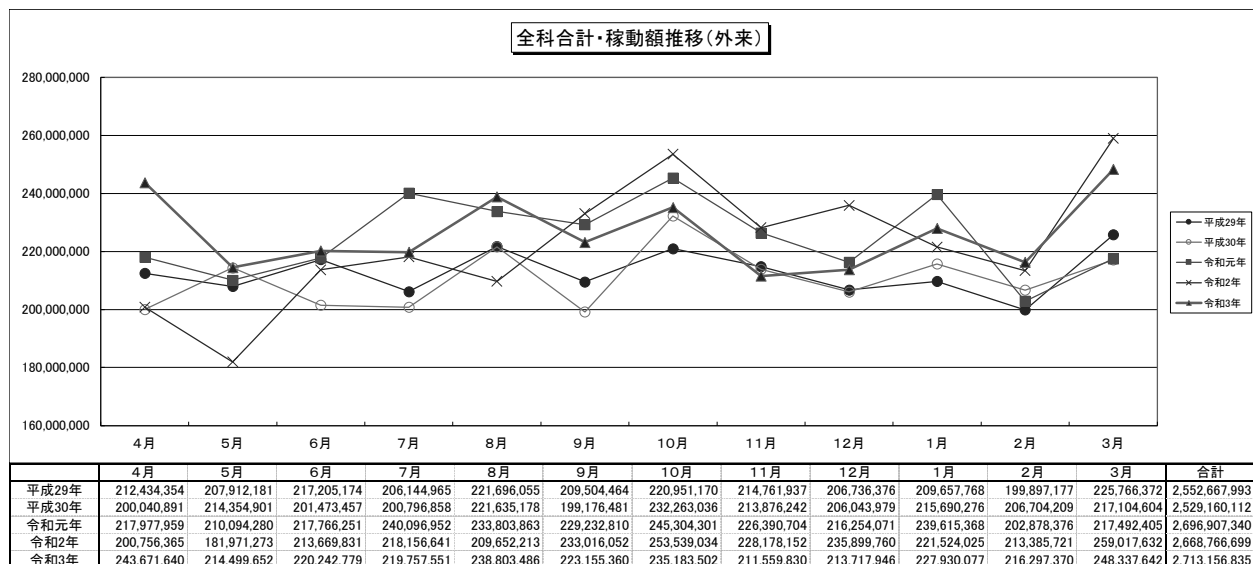
7. 外来単価

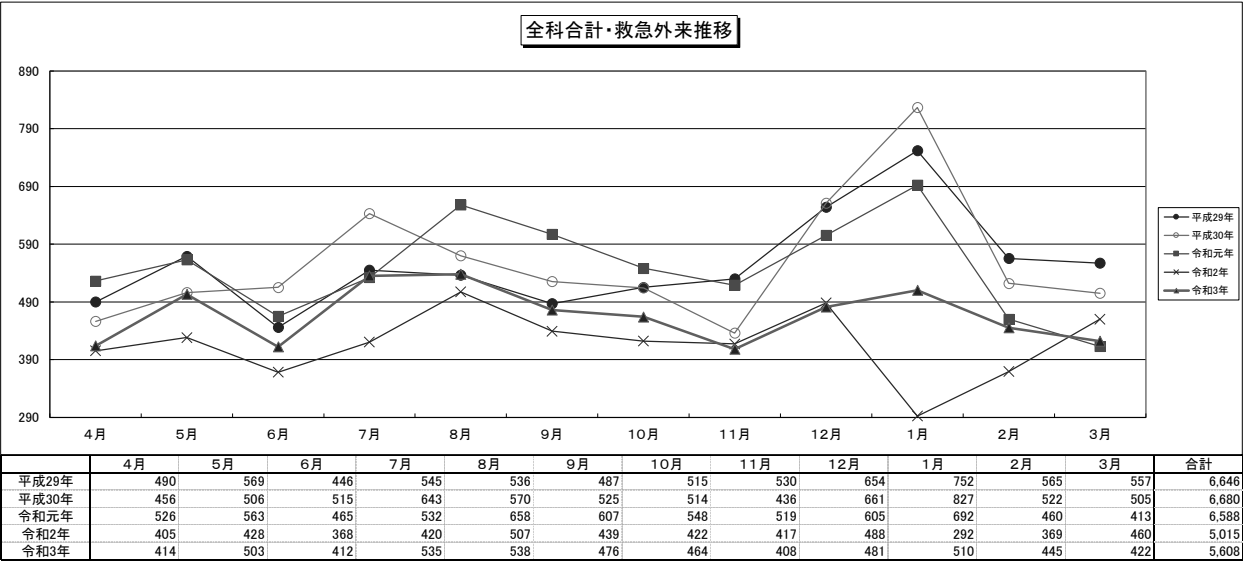
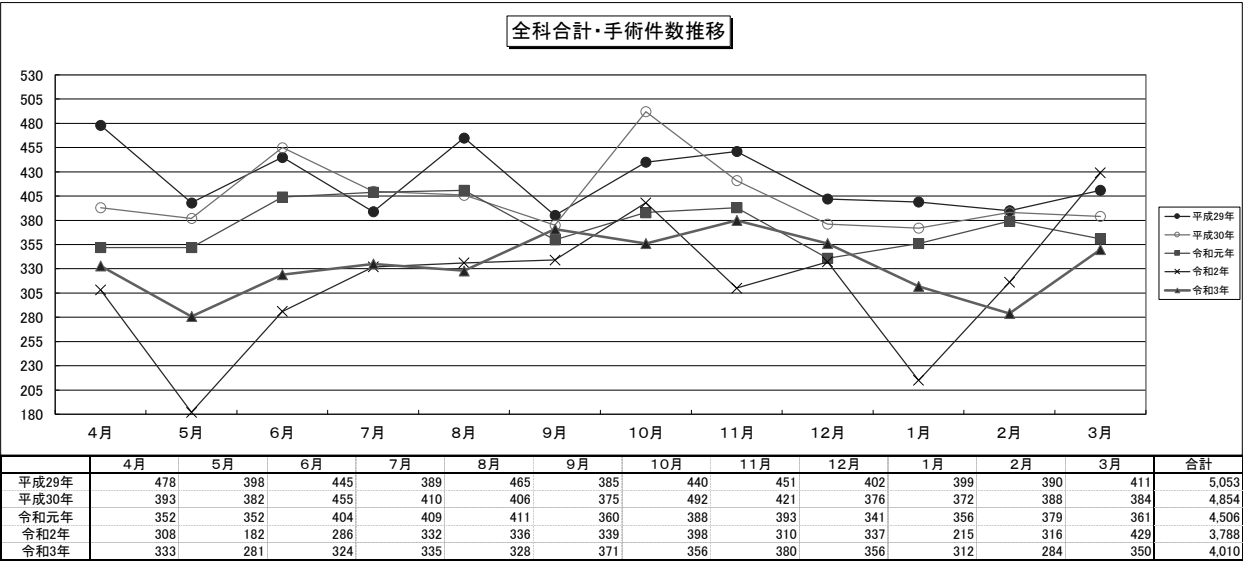
	合 計	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
内 科	25,935.7	27,484.3	26,397.5	36,567.7	33,582.7	26,206.5	28,519.9	47,688.2	51,131.0	47,944.9	17,294.0	17,201.3	22,246.8
糖・内・代	14,276.9	15,222.5	13,611.8	13,810.7	14,509.4	12,770.9	14,731.9	14,424.8	14,464.1	14,331.7	13,549.5	14,769.6	14,790.2
血液内科	98,554.4	96,485.3	81,416.7	85,630.5	82,712.0	110,426.6	80,495.8	109,655.5	95,076.8	101,543.7	106,327.7	123,352.6	109,171.5
腎臓内科	22,034.9	20,160.0	25,620.9	19,791.3	22,838.3	21,881.5	21,254.6	20,839.0	22,671.4	22,147.8	23,672.6	22,217.1	21,827.1
消化器科	21,678.3	24,831.2	25,583.1	22,917.9	23,672.6	25,176.6	20,379.1	22,796.0	18,947.4	17,457.4	20,043.6	18,043.7	21,147.9
循環器科	9,690.0	9,065.9	10,454.7	9,021.0	9,169.9	9,293.1	9,700.6	9,759.2	10,431.4	9,445.8	10,552.8	9,689.6	9,791.6
脳神経内科	5,682.3	7,130.2	4,236.5	6,286.3	4,930.3	5,437.0	5,253.1	6,127.1	5,963.9	5,279.2	6,057.7	5,999.5	5,052.6
呼吸器科	38,275.8	39,897.6	41,793.9	41,933.4	36,448.7	39,976.0	40,681.4	39,077.1	32,494.7	34,805.0	39,844.4	39,341.8	33,488.3
呼吸器外科	25,921.1	33,673.8	38,007.9	26,821.6	30,866.1	29,180.0	32,656.1	19,797.9	18,001.5	18,411.8	19,818.1	19,834.4	22,230.0
外科	28,424.2	31,117.6	32,845.6	29,001.4	29,206.6	29,454.4	27,760.5	28,034.2	27,089.8	26,112.0	27,536.7	29,083.9	25,309.0
脳神経外科	11,418.5	11,564.2	10,401.3	10,768.2	10,593.3	10,456.3	11,522.1	11,158.9	10,196.5	15,403.7	9,402.7	10,576.7	13,825.1
整形外科	7,673.2	8,352.5	8,029.0	7,488.5	7,919.2	7,630.6	7,359.3	8,317.3	7,565.5	7,159.6	7,321.5	7,819.7	7,268.6
産婦人科	7,536.5	8,665.4	7,965.2	6,678.5	8,552.9	7,123.9	8,121.8	6,712.0	7,798.8	7,283.3	7,785.2	6,318.7	7,535.2
小児科	13,343.4	11,993.8	10,223.5	11,796.8	13,139.7	14,201.2	14,707.5	12,128.9	12,299.2	11,730.8	14,272.7	15,249.2	13,655.1
眼科	11,242.6	11,166.7	12,723.4	11,506.2	13,038.0	9,691.5	11,182.0	11,439.3	10,011.5	13,129.6	11,810.9	10,387.6	9,094.5
皮膚科	5,529.0	5,179.6	5,512.3	4,661.2	5,960.4	5,920.5	5,389.6	5,598.9	6,923.7	4,559.1	6,261.7	4,649.5	5,617.4
形成外科	10,301.4	7,704.3	8,331.5	8,698.6	9,764.5	11,378.1	11,393.3	13,919.4	13,621.6	9,497.0	8,531.2	11,269.2	9,402.1
耳鼻咽喉科	5,699.4	4,793.9	5,333.5	5,356.5	7,237.6	5,900.0	5,526.5	5,136.9	5,809.0	5,650.6	5,548.8	6,080.6	6,029.7
リハビリテーション科	5,145.0	4,748.3	4,807.9	5,727.8	4,830.9	5,142.0	5,174.6	5,315.8	5,217.9	5,242.5	5,461.9	5,070.8	4,933.6
泌尿器科	15,580.8	15,454.0	15,583.2	13,781.5	16,680.9	14,365.3	14,990.5	13,885.8	15,635.3	14,808.8	16,891.6	16,364.2	19,238.3
緩和ケア	12,325.3	12,768.2	8,113.6	10,628.5	17,001.7	8,875.6	11,790.0	14,870.0	13,375.8	18,387.5	16,871.1	13,657.5	9,511.8
放射線科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	13,845.5	13,761.8	13,040.3	12,727.3	12,877.2	14,816.9	13,216.3	13,631.4	14,154.6	13,482.1	14,659.1	13,215.8	16,221.9
合 計	20,526.9	21,578.8	21,536.2	20,224.2	20,268.3	21,626.5	19,899.3	21,256.9	19,560.9	19,194.1	20,700.6	20,380.7	20,199.9

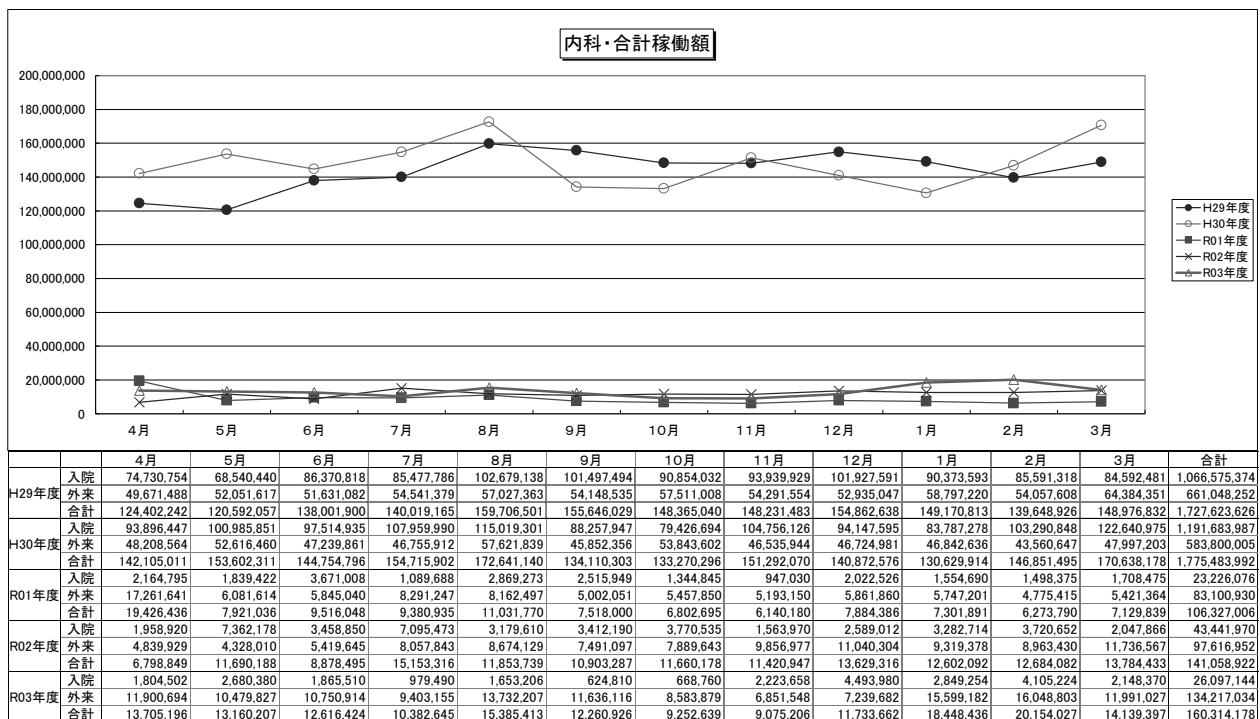
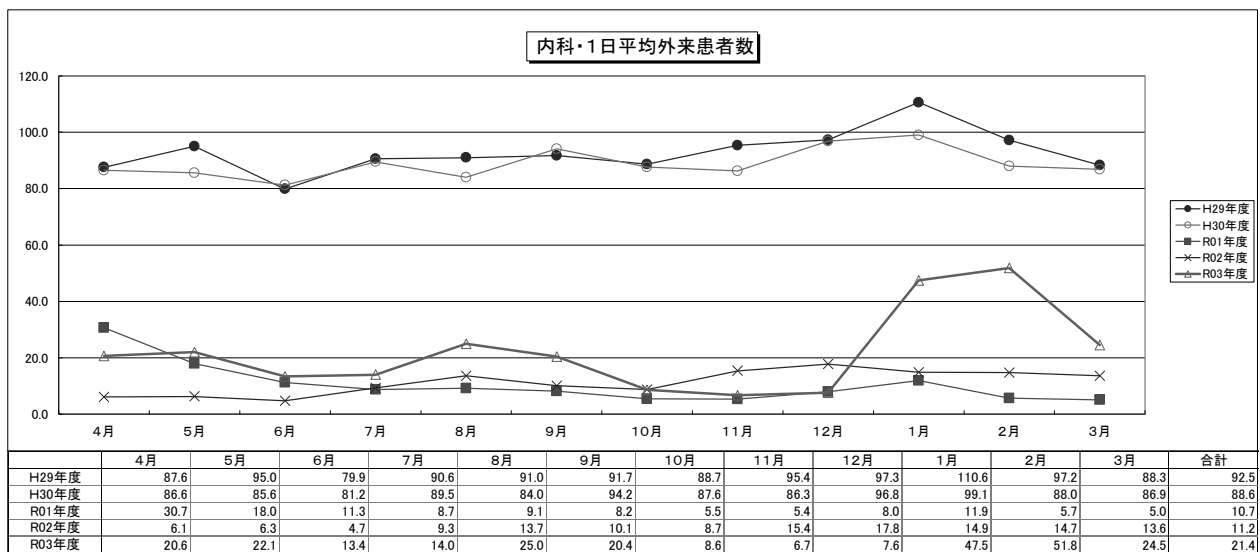
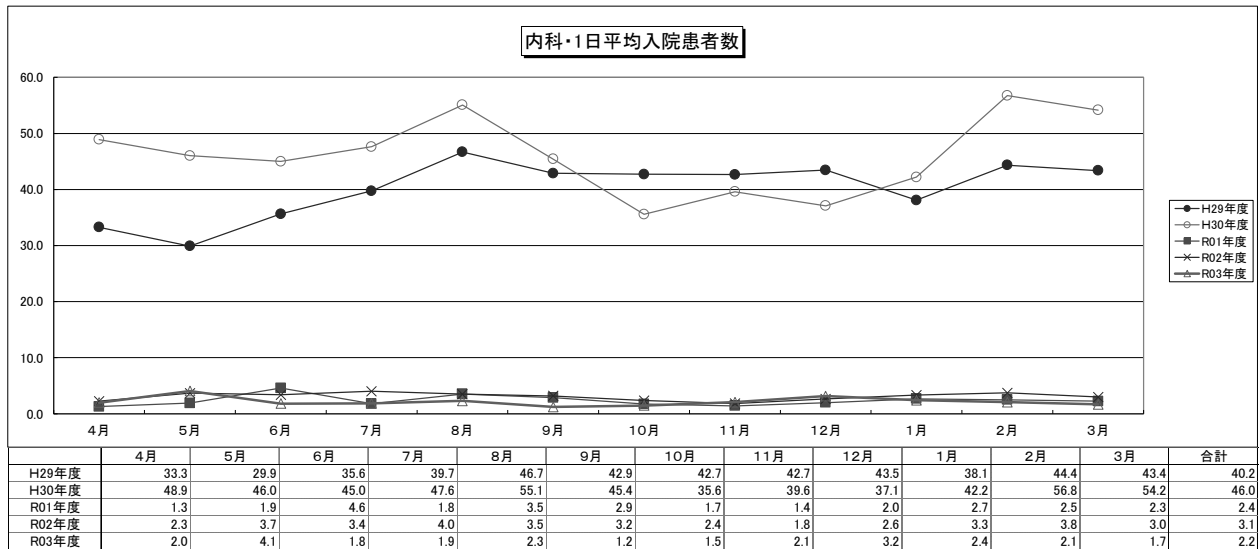
前 年 度	20,759.4	20,747.9	21,003.1	19,375.2	19,551.6	20,093.2	20,924.6	21,718.3	21,202.2	21,141.8	21,662.8	21,198.7	20,597.8
増 減 率	-1.1%	4.0%	2.5%	4.4%	3.7%	7.6%	-4.9%	-2.1%	-7.7%	-9.2%	-4.4%	-3.9%	-1.9%

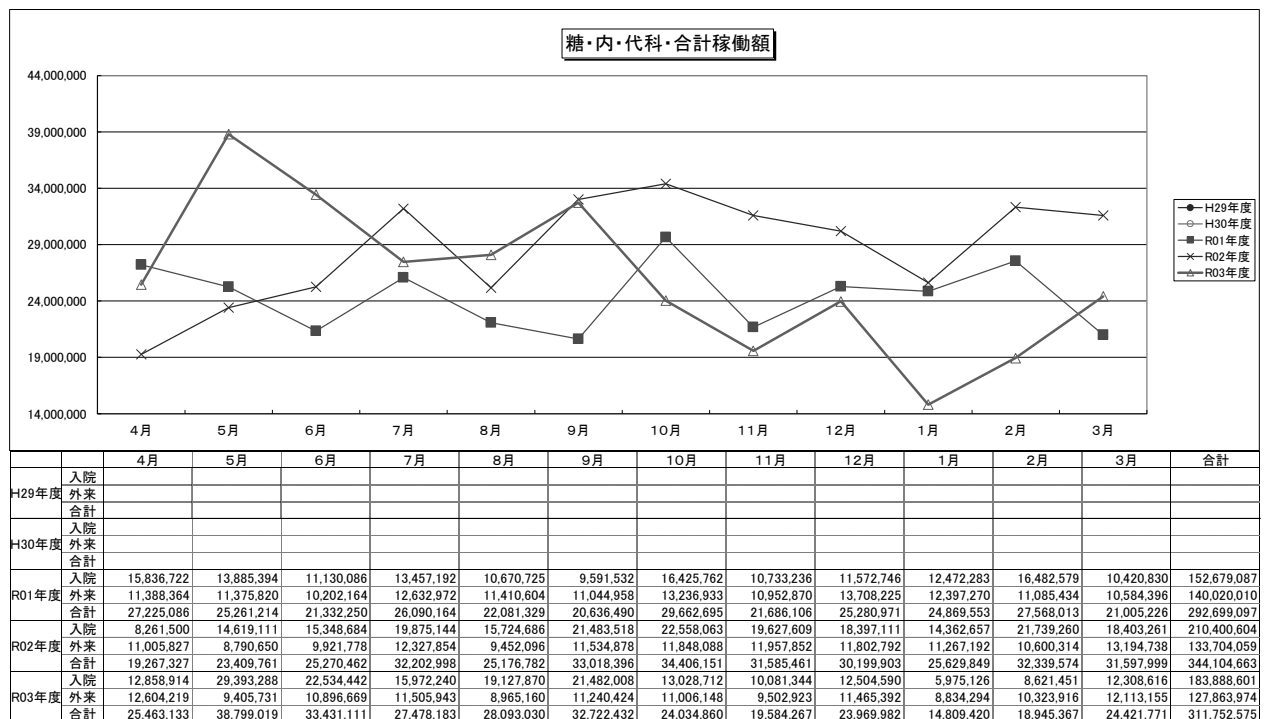
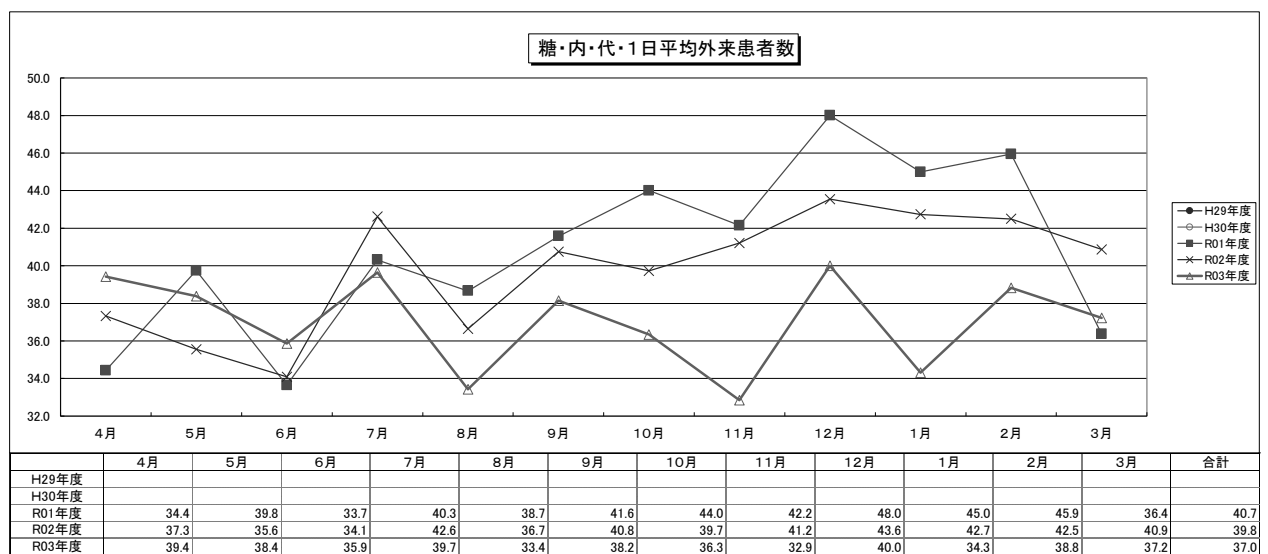
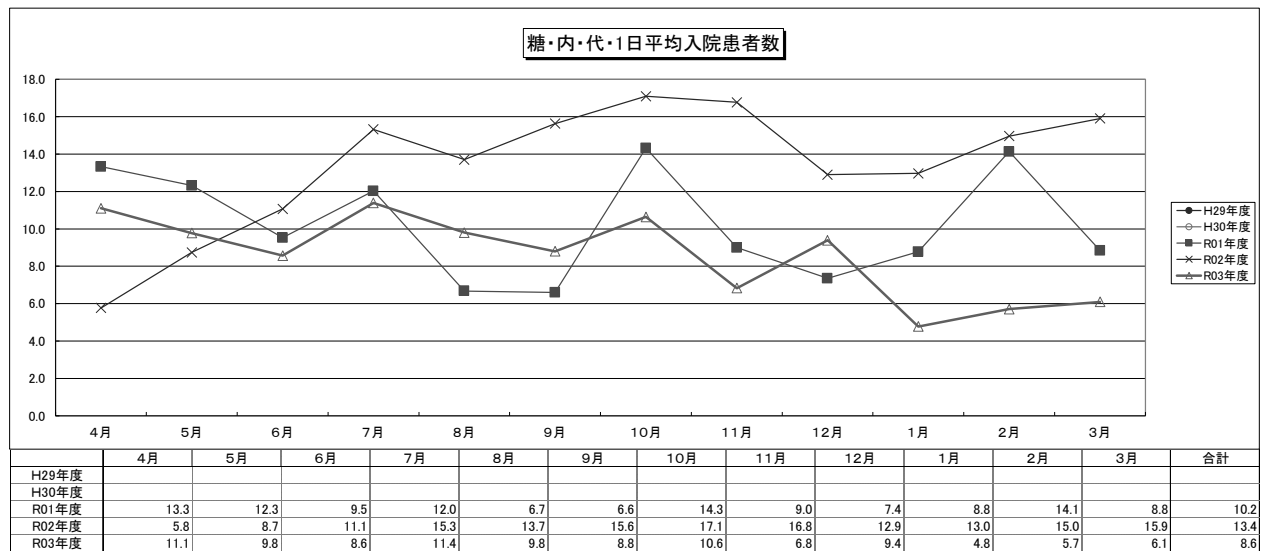


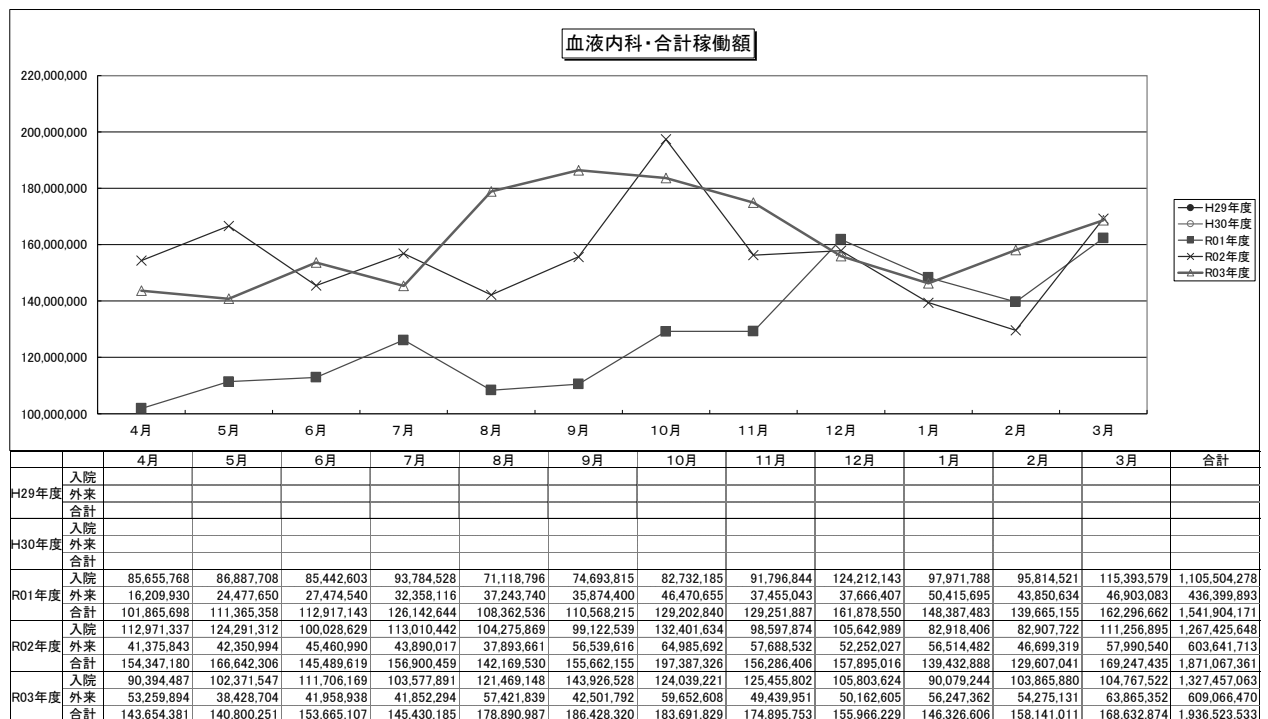
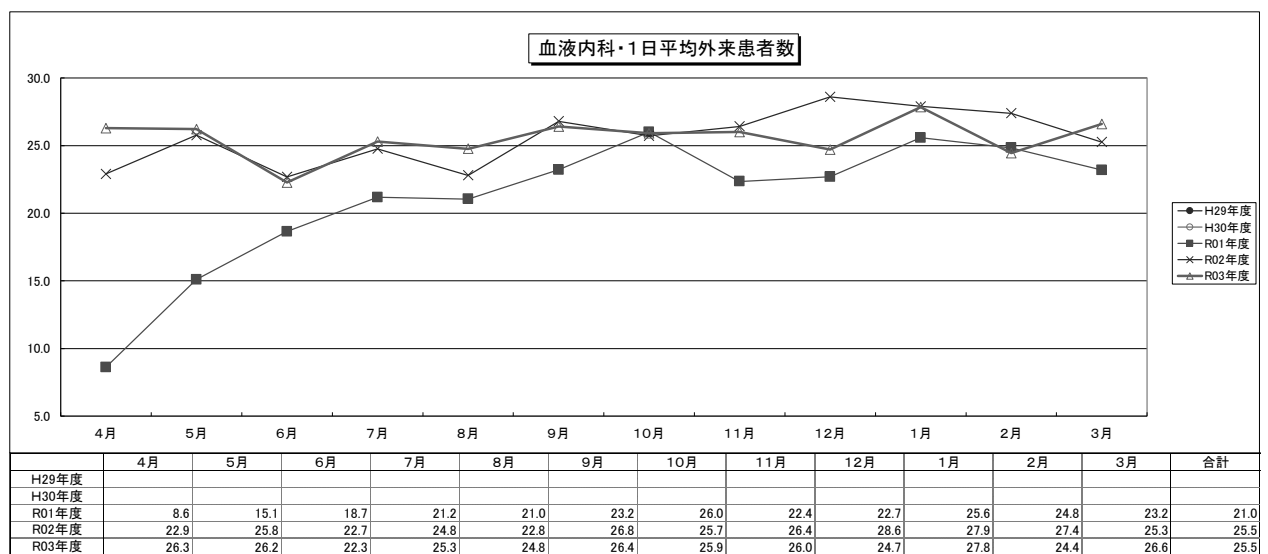
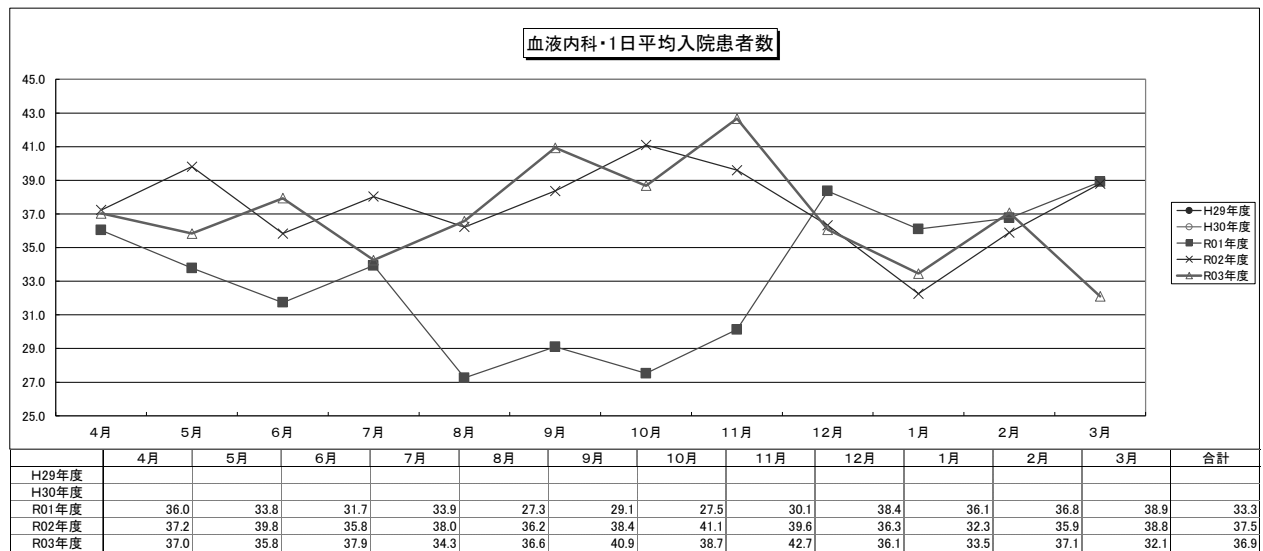




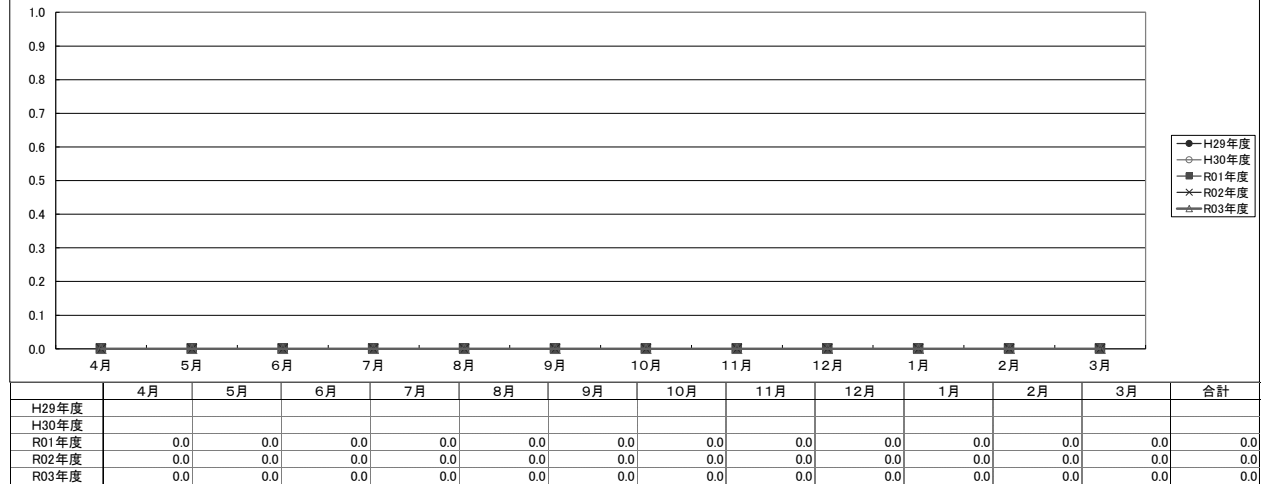




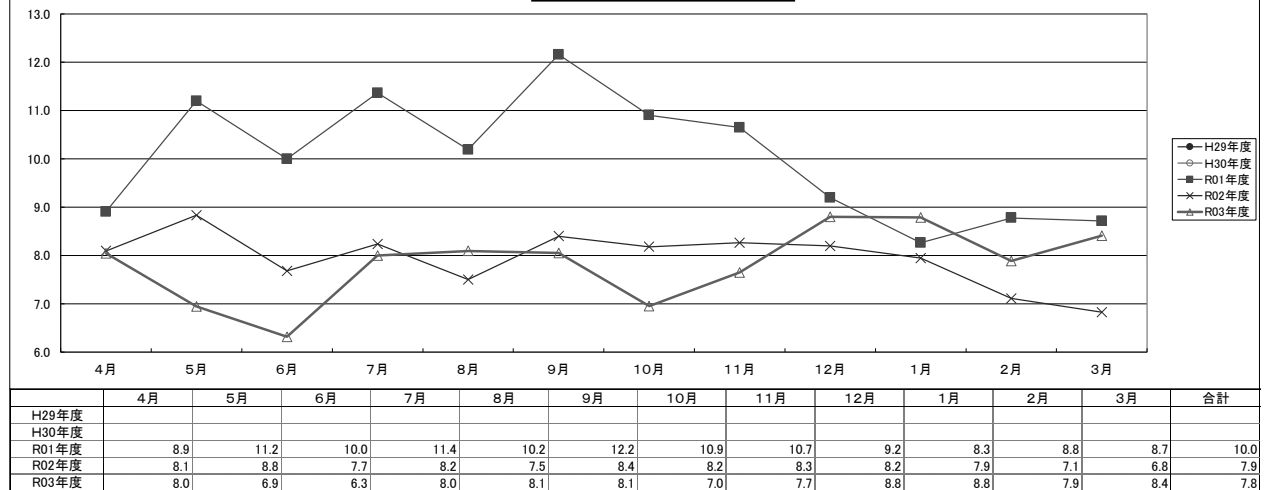




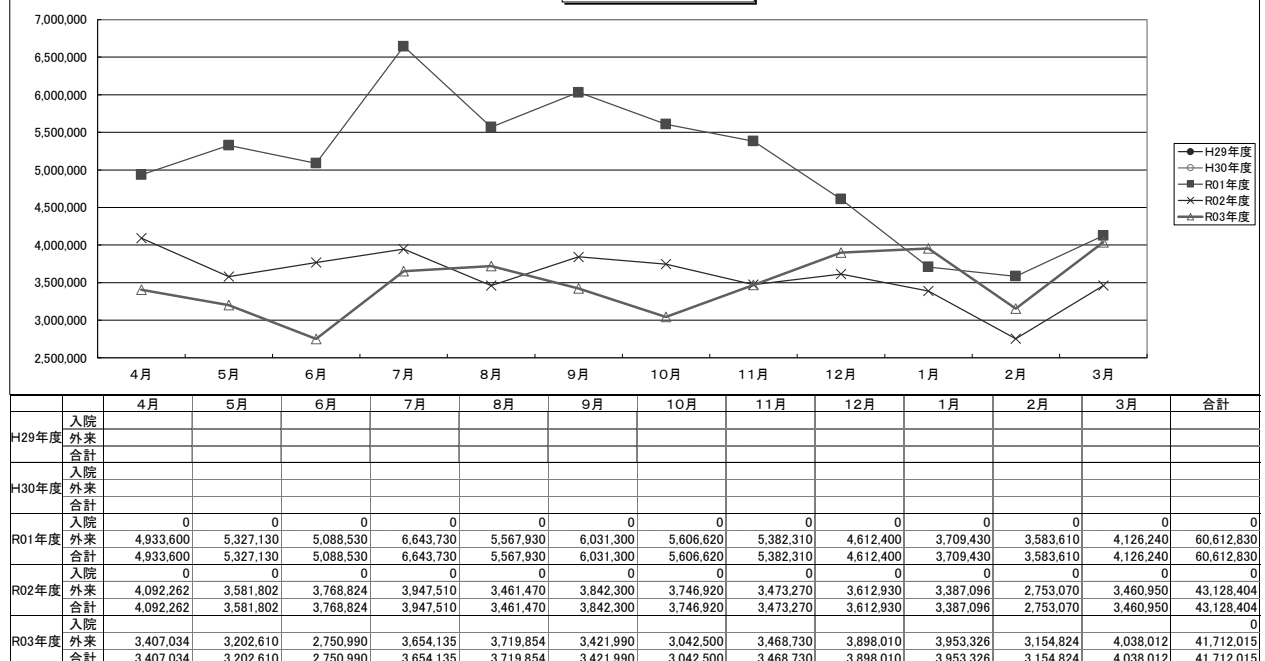
腎臓内科・1日平均入院患者数

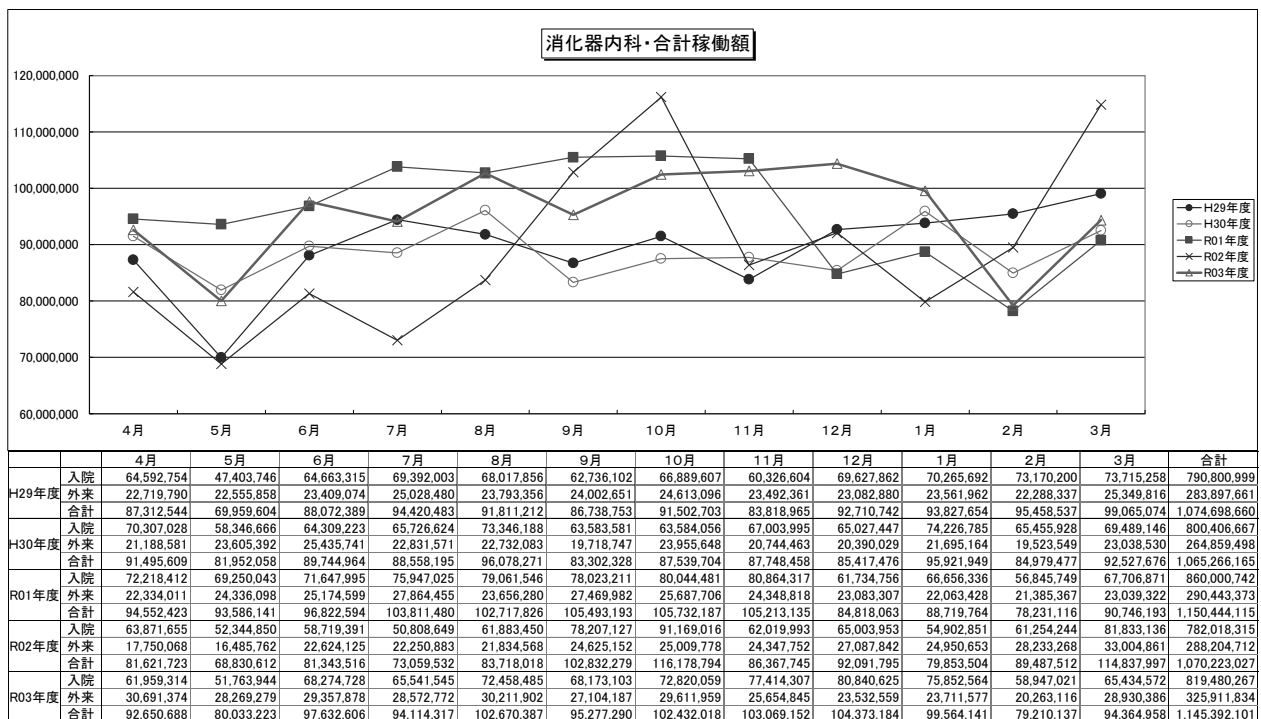
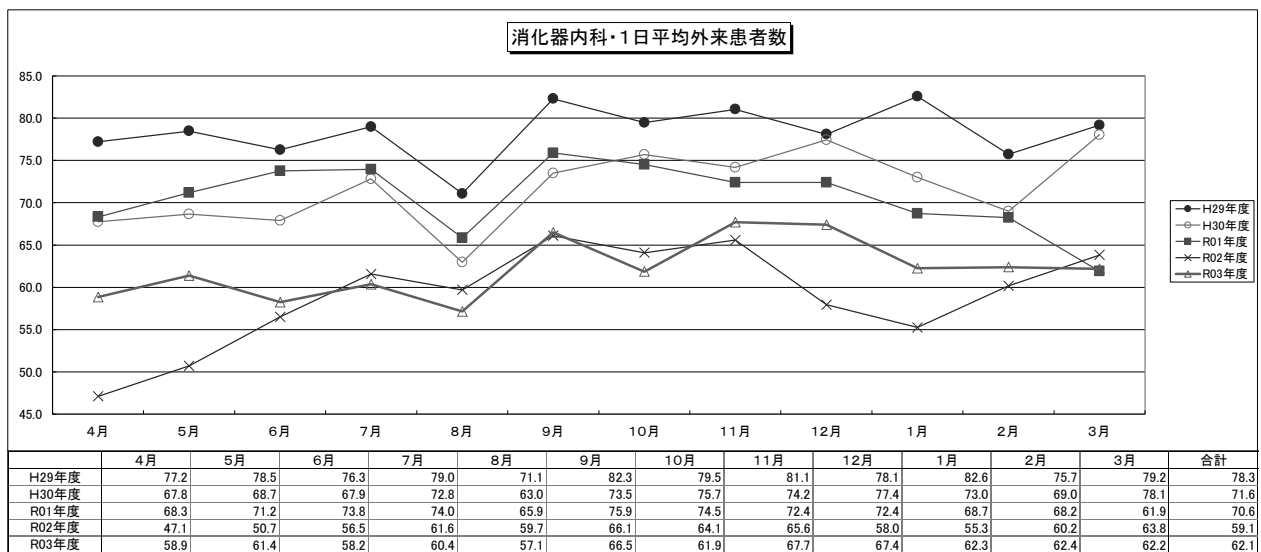
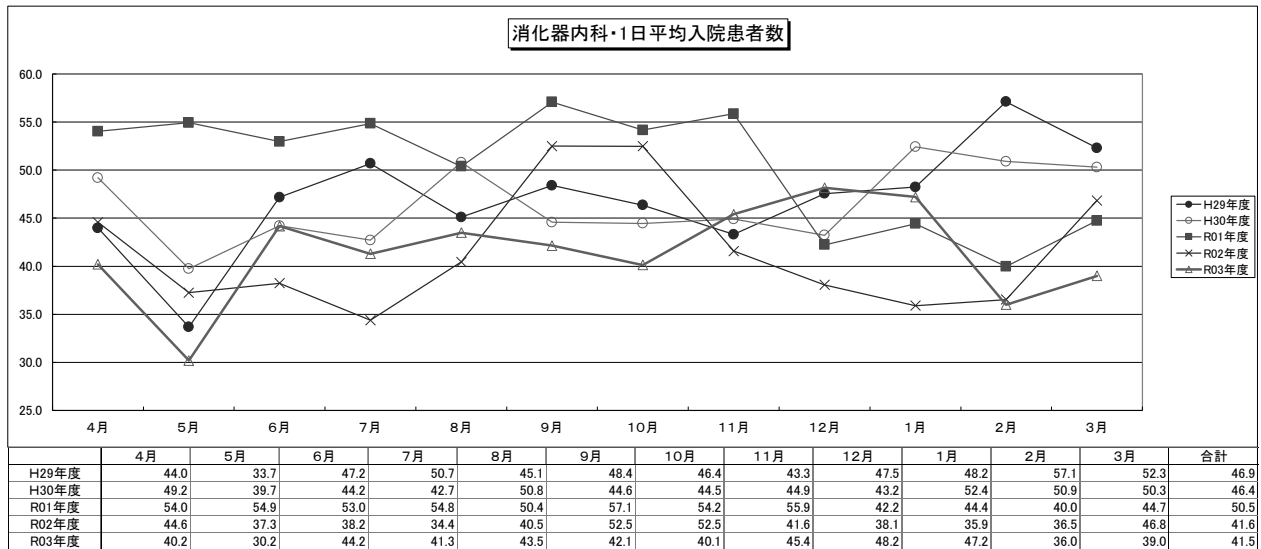


腎臓内科・1日平均外来患者数

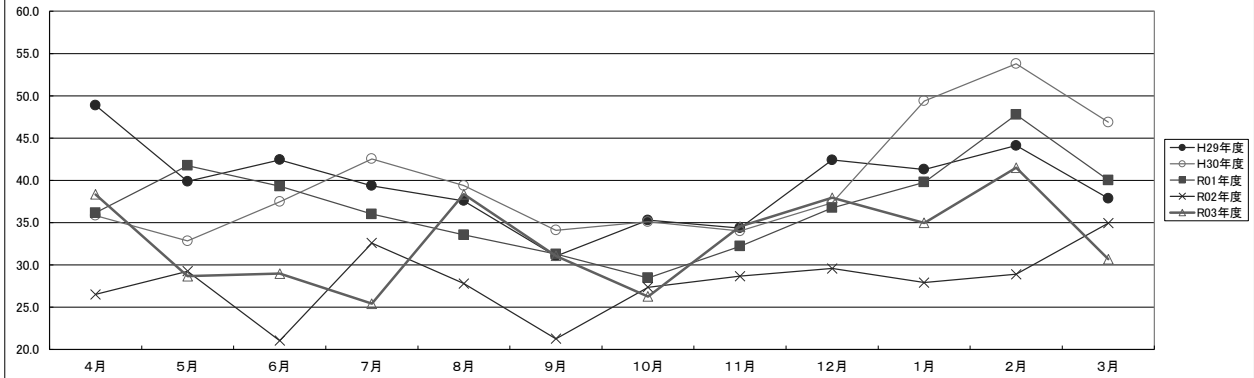


腎臓内科・合計稼働額



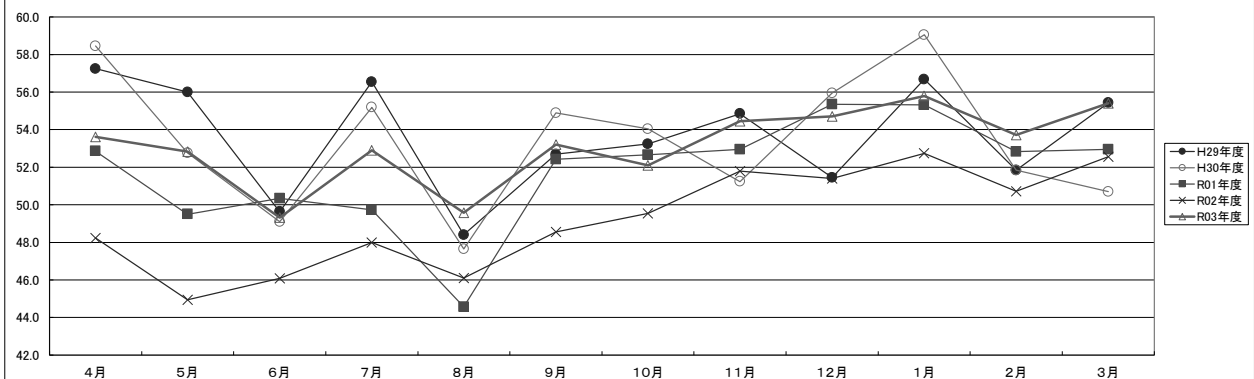


循環器科・1日平均入院患者数



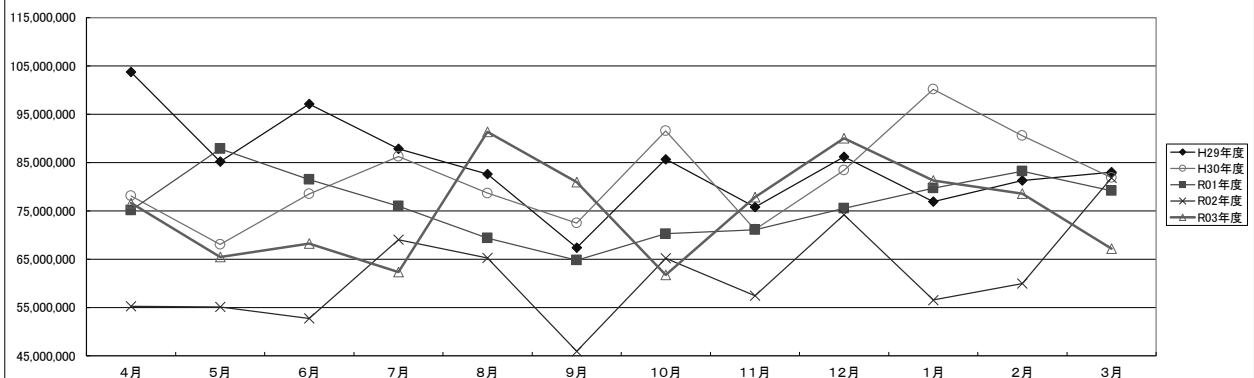
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H29年度	48.9	39.9	42.4	39.4	37.6	31.0	35.3	34.4	42.4	41.3	44.1	37.9	39.5
H30年度	35.8	32.8	37.5	42.5	39.4	34.1	35.1	34.0	37.4	49.4	53.8	46.9	39.8
R01年度	36.2	41.7	39.3	36.0	33.5	31.3	28.5	32.2	36.7	39.8	47.8	40.0	36.9
R02年度	26.5	29.3	21.0	32.6	27.8	21.3	27.4	28.7	29.6	27.9	28.9	34.9	28.0
R03年度	38.3	28.7	29.0	25.4	38.4	31.1	26.3	34.5	37.9	35.0	41.5	30.7	33.0

循環器科・1日平均外来患者数



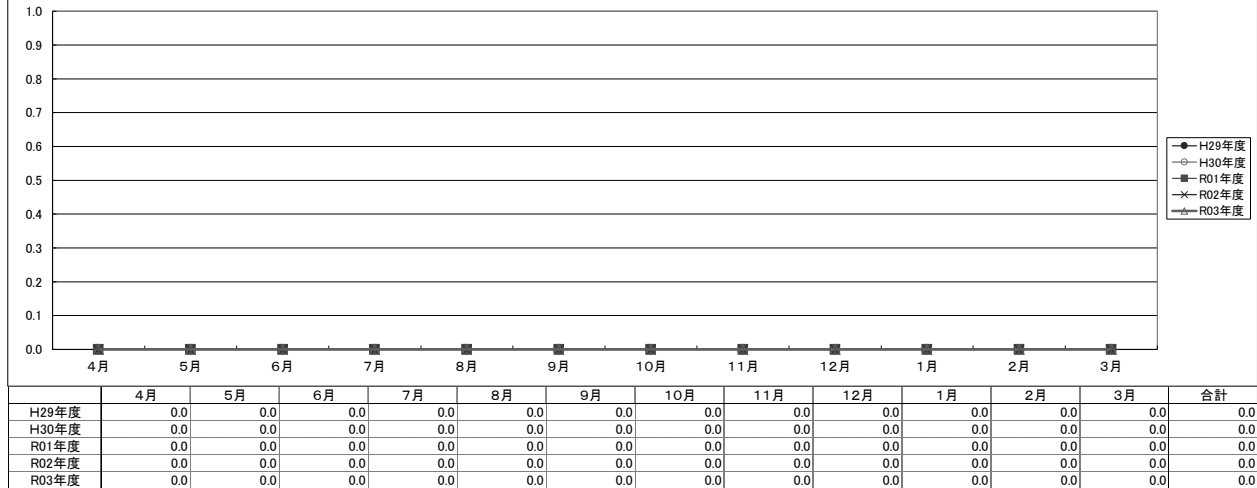
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H29年度	57.3	56.0	49.6	56.6	48.4	52.7	53.2	54.9	51.5	56.7	51.8	55.4	53.6
H30年度	58.5	52.8	49.1	55.2	47.7	54.9	54.0	51.2	55.9	59.1	51.8	50.7	53.3
R01年度	52.9	49.5	50.4	49.7	44.6	52.4	52.7	53.0	55.4	55.3	52.8	53.0	51.7
R02年度	48.2	44.9	46.1	48.0	46.1	48.6	49.5	51.8	51.4	52.7	50.7	52.6	49.2
R03年度	53.6	52.8	49.3	52.9	49.6	53.2	52.1	54.5	54.7	55.8	53.7	55.4	53.1

循環器科・合計稼働額

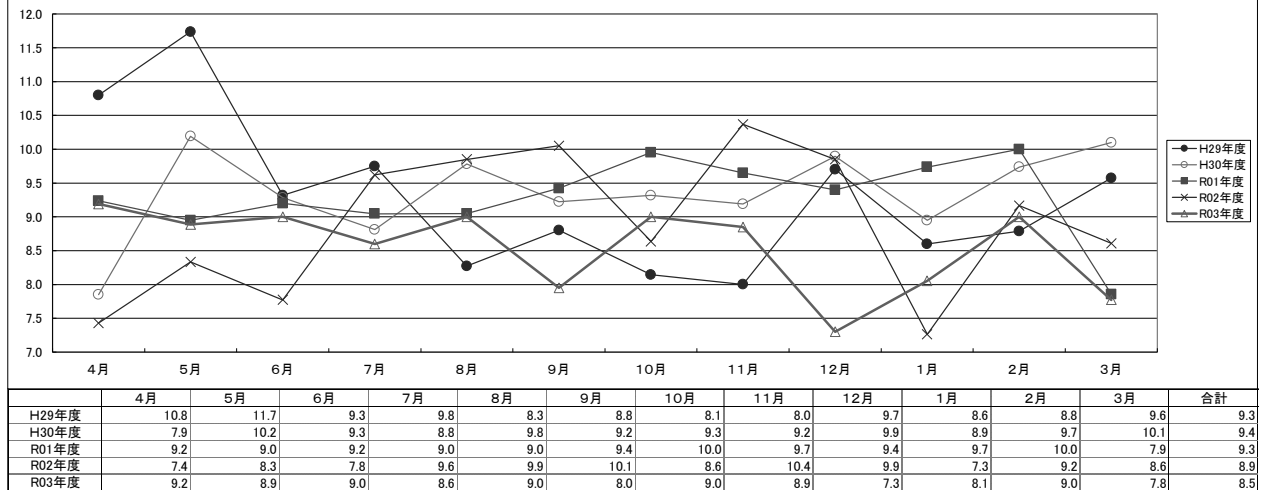


	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H29年度	入院	91,242,026	73,851,634	84,632,094	76,265,575	71,997,383	56,606,976	73,321,921	63,611,210	76,268,629	66,108,351	71,087,801	875,411,125
	外来	12,475,294	11,320,014	12,497,872	11,552,789	10,637,506	10,769,980	12,367,040	12,156,018	9,904,392	10,821,876	10,213,424	137,299,614
	合計	103,717,320	85,171,648	97,129,966	87,818,364	82,634,889	67,376,956	85,688,961	75,767,228	86,173,021	76,930,227	81,301,225	1,012,710,739
H30年度	入院	65,028,968	56,153,092	67,576,593	73,122,986	67,256,367	61,699,753	78,456,235	60,209,521	72,874,932	88,851,160	80,400,324	843,030,173
	外来	13,054,443	11,896,276	10,922,540	13,130,947	11,405,410	10,792,434	13,104,345	10,945,968	10,547,572	11,310,794	10,181,399	10,470,440
	合計	78,083,411	68,049,368	78,499,133	86,253,933	78,661,777	72,492,187	91,560,580	71,155,489	83,422,504	100,161,954	90,581,723	957,500,613
R01年度	入院	63,626,161	77,674,250	71,531,328	64,734,863	60,159,020	54,538,334	58,907,946	59,333,798	65,347,043	69,348,162	73,608,541	787,255,750
	外来	11,468,721	10,161,990	9,969,646	11,255,653	9,207,842	10,238,456	11,341,186	11,772,281	10,157,340	10,340,761	9,571,602	107,026,669
	合計	75,094,882	87,836,240	81,500,974	75,990,516	69,366,862	64,776,790	70,249,132	71,106,079	75,504,383	79,688,923	83,180,143	913,443,897
R02年度	入院	45,945,600	47,410,578	42,568,235	59,480,162	55,899,921	36,792,085	54,831,115	47,492,842	64,040,848	47,125,229	50,818,603	621,104,364
	外来	9,292,006	7,675,581	10,161,638	9,529,416	9,325,649	9,149,266	10,351,650	9,928,482	10,140,188	9,415,478	9,109,577	117,208,255
	合計	55,237,606	55,086,159	52,729,873	69,009,578	65,225,570	45,941,351	65,182,765	57,421,324	74,181,036	56,540,707	59,928,180	738,312,619
R03年度	入院	66,402,903	55,517,981	58,439,194	52,646,096	81,680,286	70,653,439	51,063,856	66,461,790	79,697,292	70,106,745	69,213,318	777,099,618
	外来	10,208,184	9,942,390	9,787,787	9,701,733	9,674,068	10,321,483	10,676,602	11,359,764	10,333,747	11,185,998	9,369,854	124,497,620
	合計	76,611,087	65,460,371	68,226,981	62,347,829	91,354,354	80,974,922	61,740,458	77,821,554	90,031,039	81,292,743	78,583,172	901,597,238

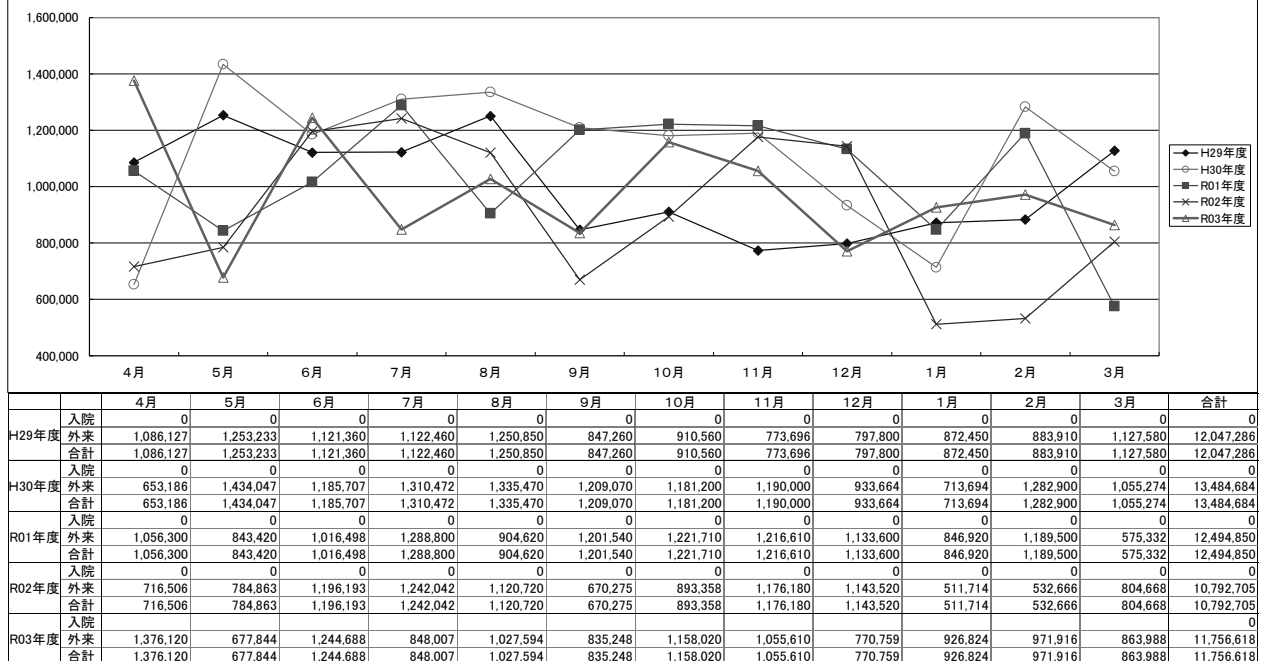
脳神経内科・1日平均入院患者数

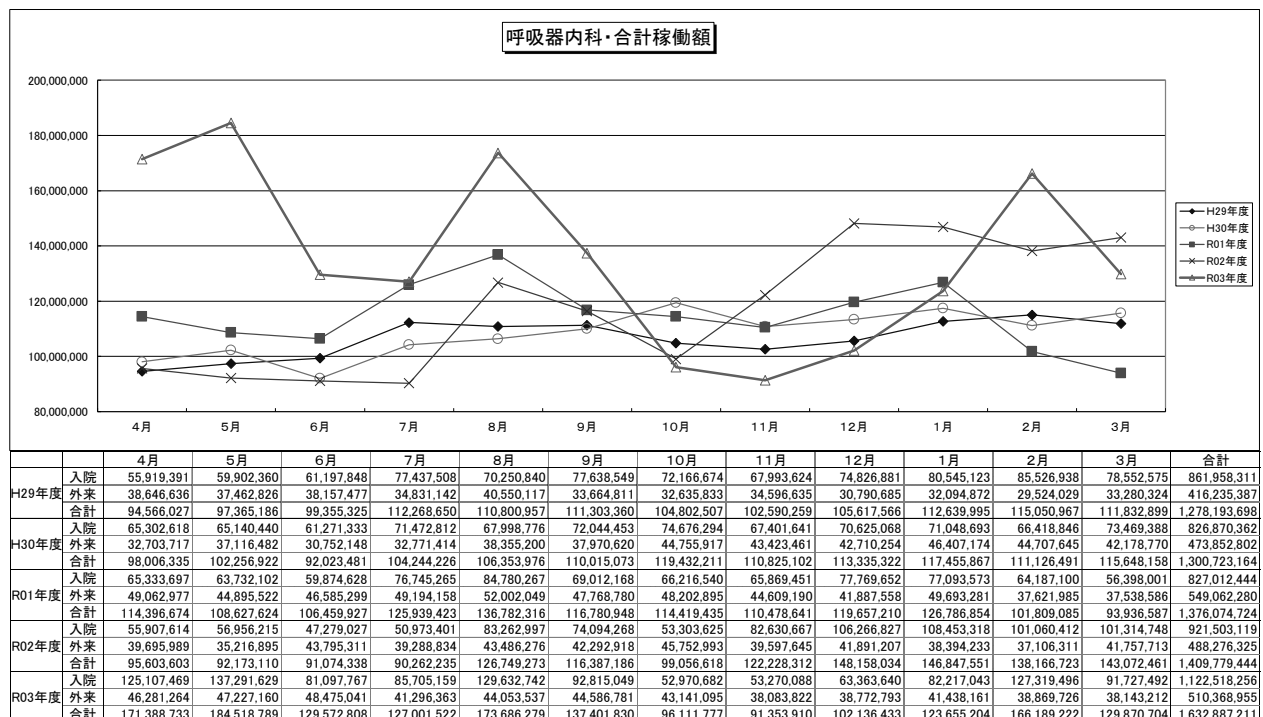
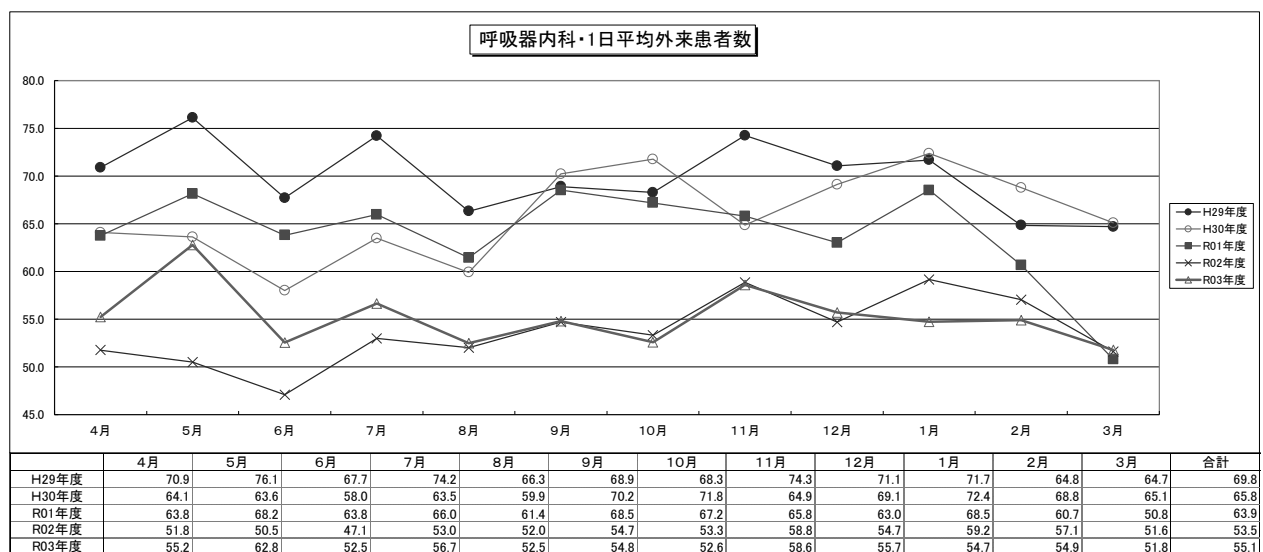
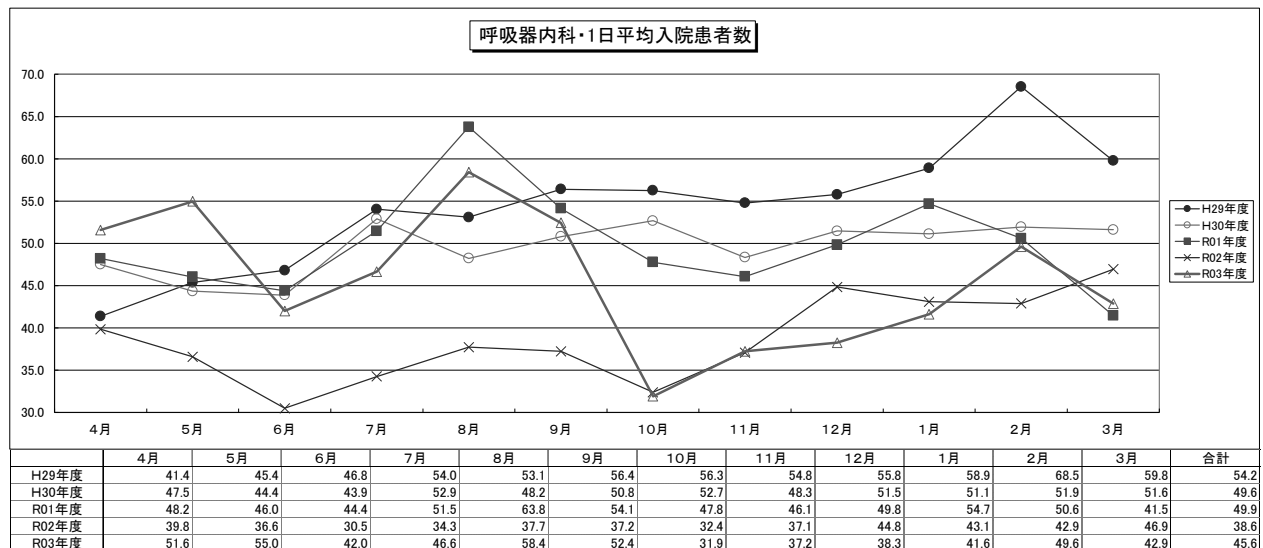


脳神経内科・1日平均外来患者数

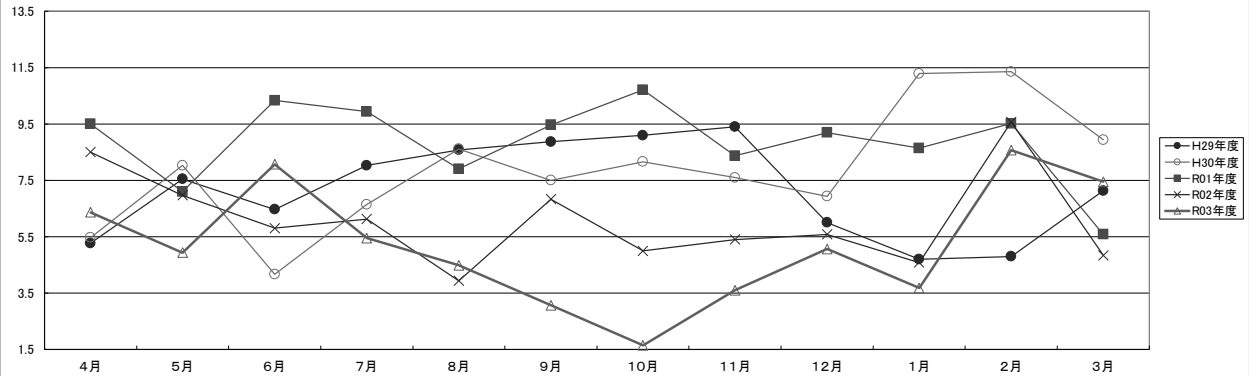


脳神経内科・合計稼働額



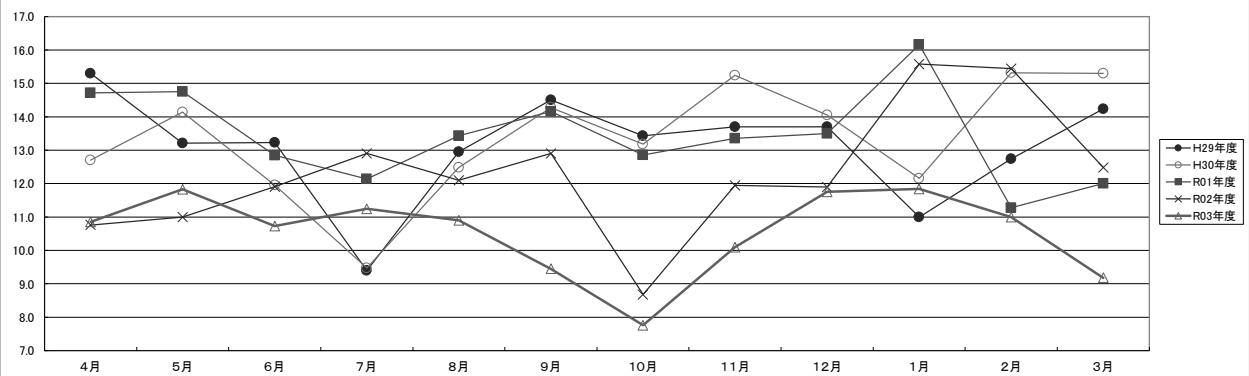


呼吸器外科・1日平均入院患者数



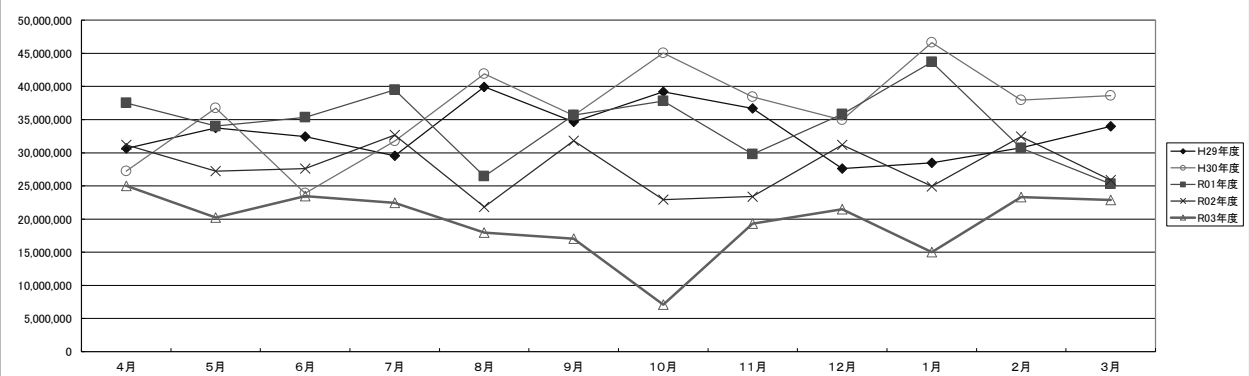
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H29年度	5.3	7.5	6.5	8.0	8.6	8.9	9.1	9.4	6.0	4.7	4.8	7.1	7.2
H30年度	5.5	8.0	4.2	6.6	8.6	7.5	8.2	7.6	6.9	11.3	11.4	8.9	7.9
R01年度	9.5	7.1	10.3	9.9	7.9	9.5	10.7	8.4	9.2	8.6	9.5	5.6	8.8
R02年度	8.5	7.0	5.8	6.1	3.9	6.8	5.0	5.4	5.6	4.6	9.6	4.8	6.1
R03年度	6.4	4.9	8.1	5.5	4.5	3.1	1.6	3.6	5.1	3.7	8.6	7.5	5.2

呼吸器外科・1日平均外来患者数

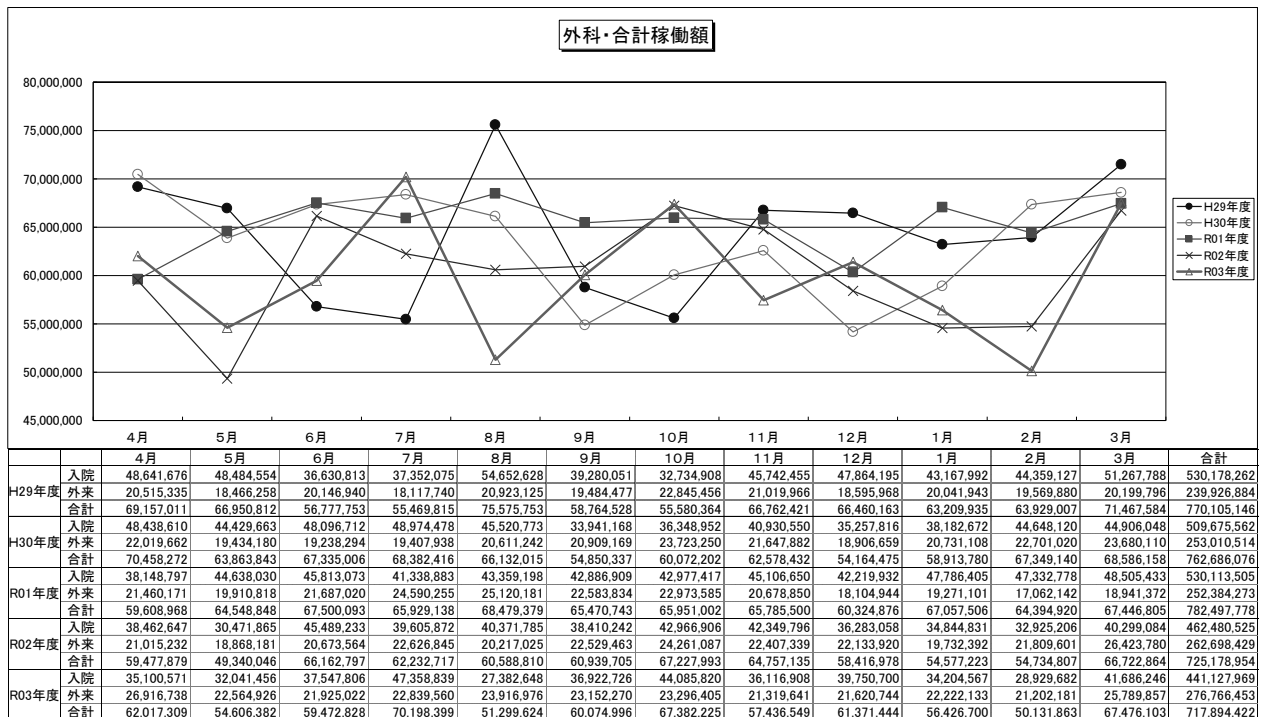
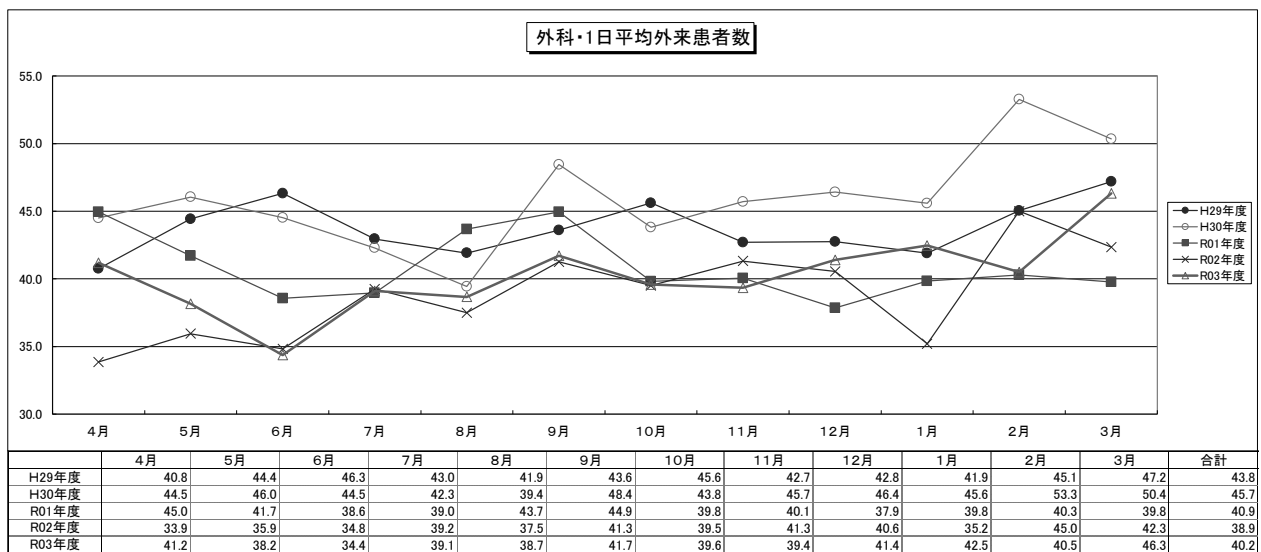
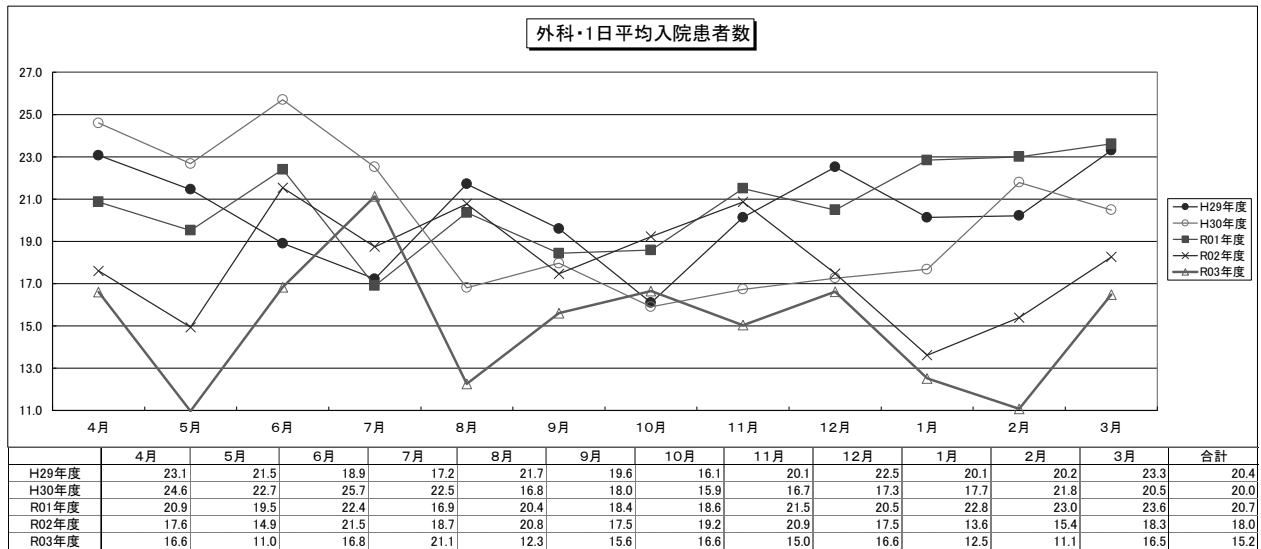


	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H29年度	15.3	13.2	13.2	9.4	13.0	14.5	13.4	13.7	13.7	11.0	12.7	14.2	13.1
H30年度	12.7	14.1	12.0	9.5	12.5	14.3	13.2	15.2	14.1	12.2	15.3	15.3	13.3
R01年度	14.7	14.8	12.9	12.1	13.4	14.2	12.9	13.4	13.5	16.2	11.3	12.0	13.4
R02年度	10.8	11.0	11.9	12.9	12.1	12.9	8.7	11.9	11.9	15.6	15.4	12.5	12.2
R03年度	10.9	11.8	10.7	11.3	10.9	9.5	7.8	10.1	11.8	11.8	11.0	9.2	10.5

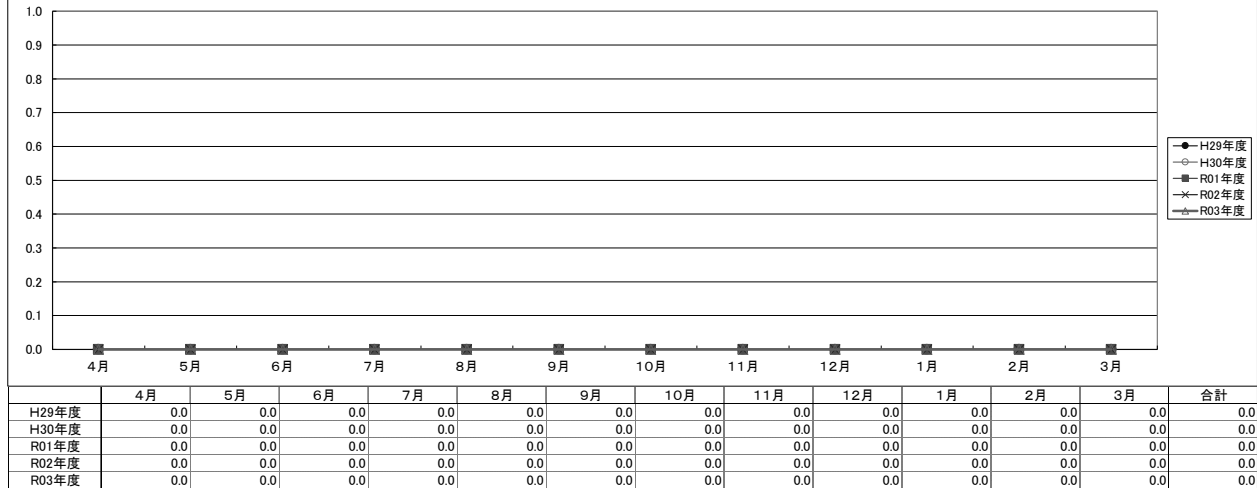
呼吸器外科・合計稼働額



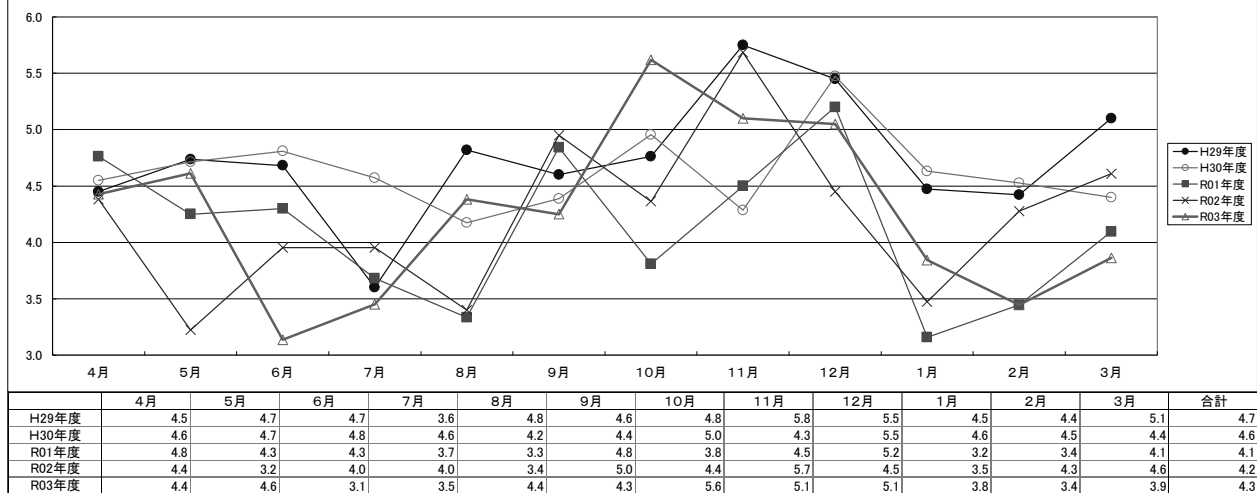
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H29年度	入院	16,518,764	20,599,932	18,609,724	20,639,121	26,553,176	22,609,408	25,015,590	23,671,294	14,220,448	17,190,624	16,019,462	241,081,803
	外来	14,142,218	13,159,640	13,840,018	8,891,386	13,397,488	12,072,617	14,174,245	13,038,922	13,398,146	11,299,084	14,743,996	156,700,000
	合計	30,660,982	33,759,572	32,449,742	29,530,507	39,950,664	34,682,025	39,189,835	36,710,216	27,618,594	28,489,708	30,763,458	397,781,803
H30年度	入院	16,072,514	21,207,064	12,037,591	19,887,236	28,241,574	22,922,958	29,612,109	24,218,898	20,623,670	32,195,714	23,752,726	274,329,784
	外来	11,173,650	15,513,645	11,852,426	11,863,880	13,647,094	12,696,994	15,413,532	14,209,740	14,348,257	14,422,001	14,175,643	164,404,982
	合計	27,246,164	36,720,709	23,890,017	31,751,116	41,888,668	35,619,952	45,025,641	38,428,638	34,971,927	46,617,715	37,928,369	438,734,766
R01年度	入院	21,212,105	19,553,756	23,871,144	26,342,664	16,817,736	21,979,066	26,246,812	15,539,660	24,723,184	26,013,250	21,258,128	255,368,886
	外来	16,289,644	14,458,820	11,486,456	13,138,250	9,648,030	13,680,918	11,556,440	14,262,348	11,113,562	17,666,750	9,443,820	156,234,018
	合計	37,501,749	34,012,576	35,357,600	39,480,914	26,465,766	35,659,984	37,803,252	29,802,008	35,836,746	43,680,000	30,701,948	411,602,904
R02年度	入院	20,438,107	19,090,956	16,864,836	22,582,602	10,198,980	20,568,454	9,698,085	14,014,334	19,683,342	12,425,926	20,871,806	201,137,400
	外来	10,768,254	8,118,654	10,768,134	10,095,888	11,634,624	11,233,942	13,216,480	9,374,744	11,505,068	12,512,328	11,577,404	111,883,508
	合計	31,206,361	27,209,610	27,632,970	32,678,490	21,833,604	31,802,396	22,914,565	23,389,078	31,188,410	24,938,254	32,449,210	333,126,428
R03年度	入院	17,351,476	12,146,662	17,150,821	15,513,496	11,259,220	10,863,298	3,861,880	15,666,722	17,150,170	10,540,084	19,406,560	169,287,931
	外来	7,677,625	8,095,674	6,329,904	6,944,883	6,682,230	6,171,994	3,227,060	3,636,310	4,326,770	4,459,080	3,927,220	65,969,200
	合計	25,029,101	20,242,336	23,480,725	22,458,379	17,941,450	17,035,292	7,088,940	19,303,032	21,476,940	14,999,164	23,333,780	235,257,131



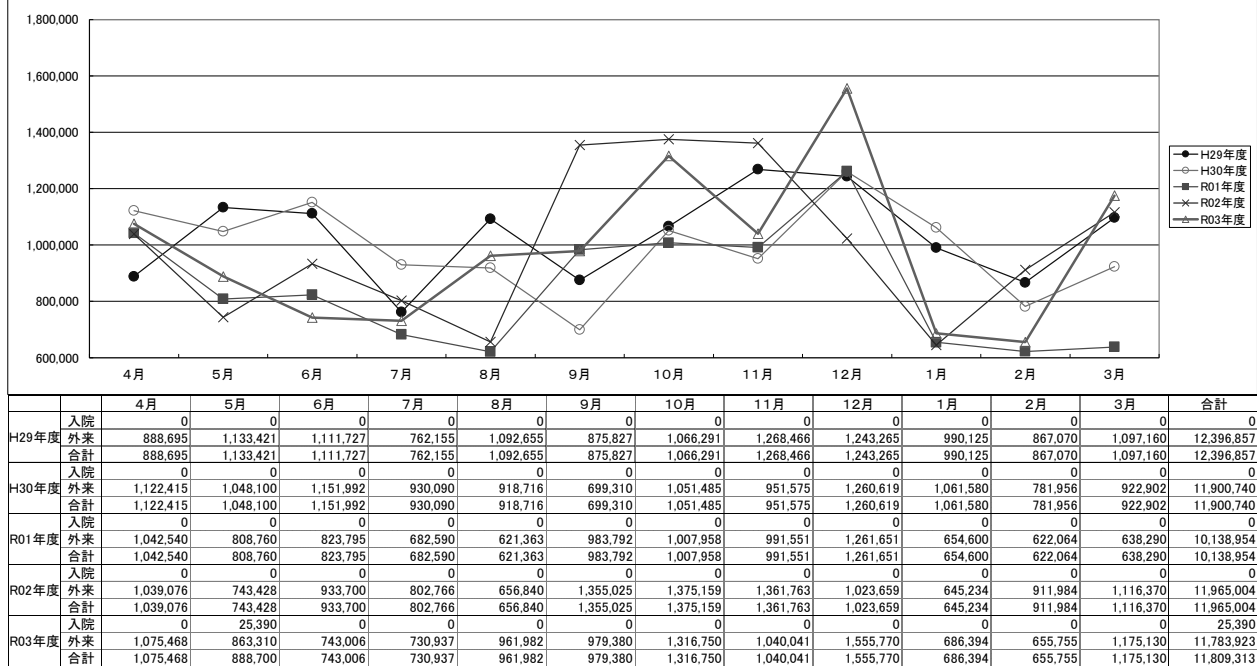
脳神経外科・1日平均入院患者数



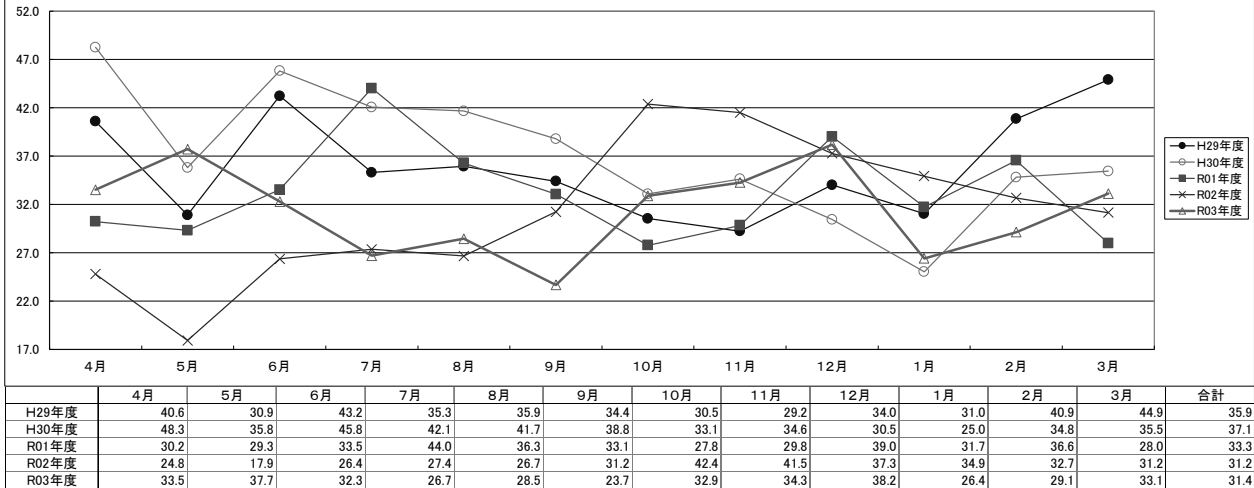
脳神経外科・1日平均外来患者数



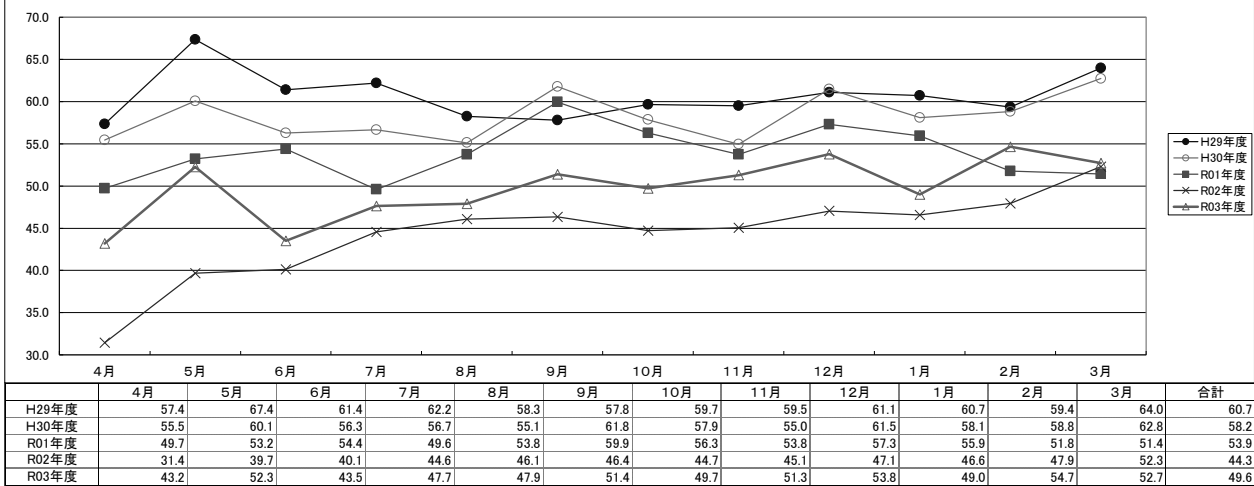
脳神経外科・合計稼働額



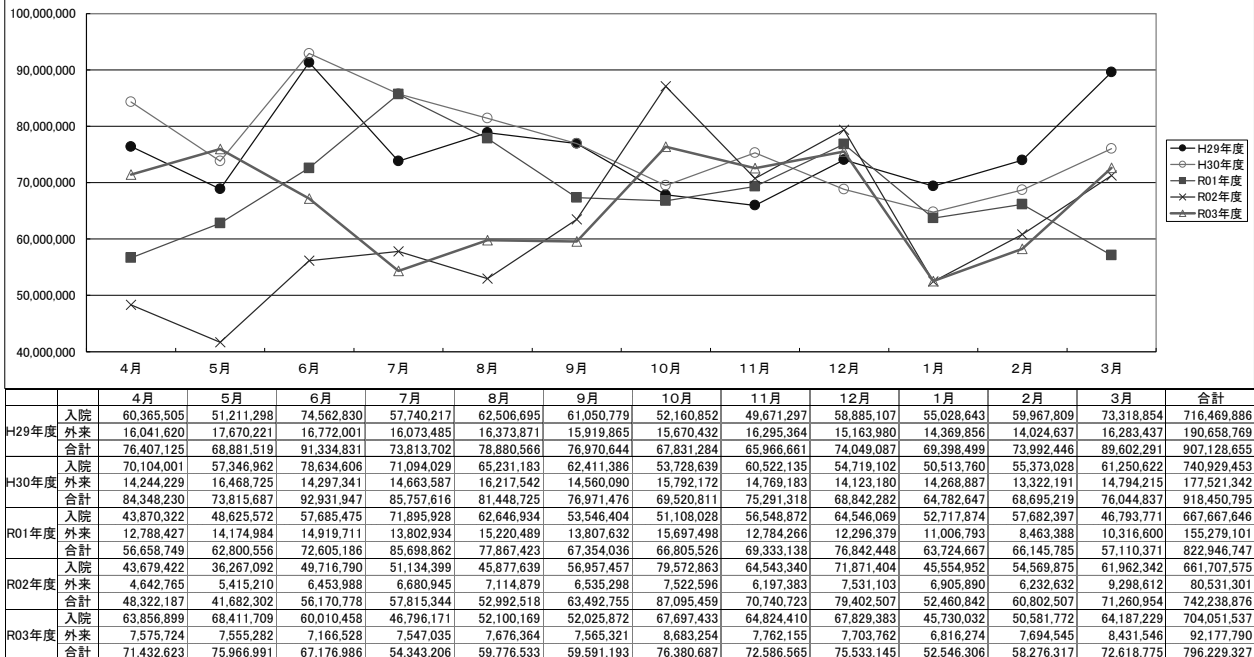
整形外科・1日平均入院患者数

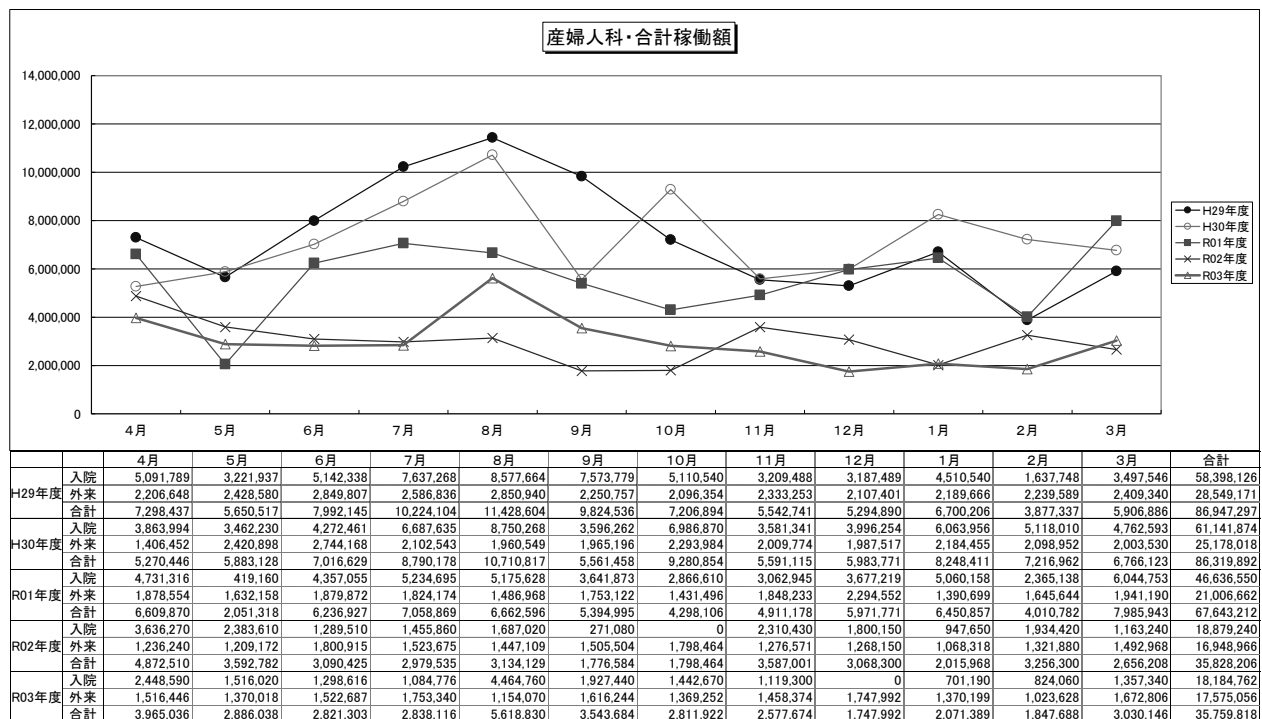
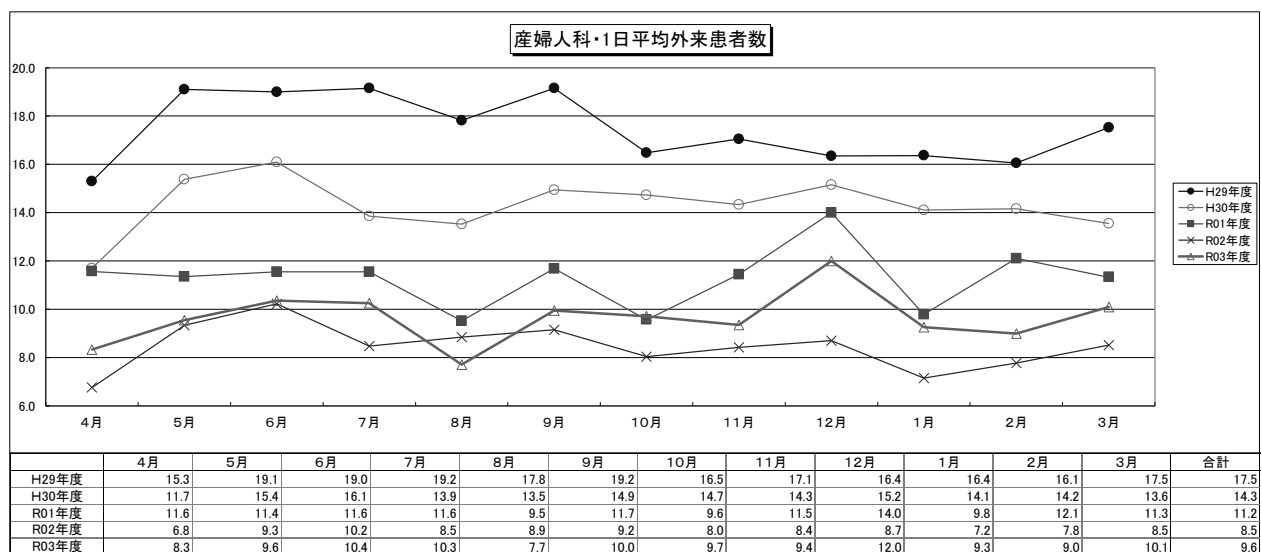
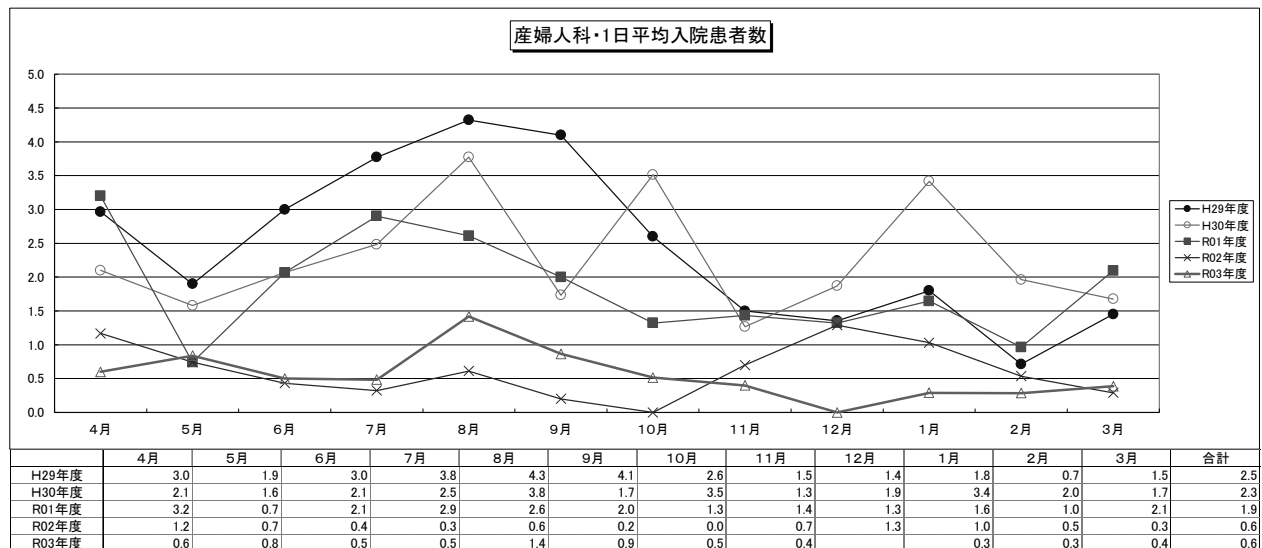


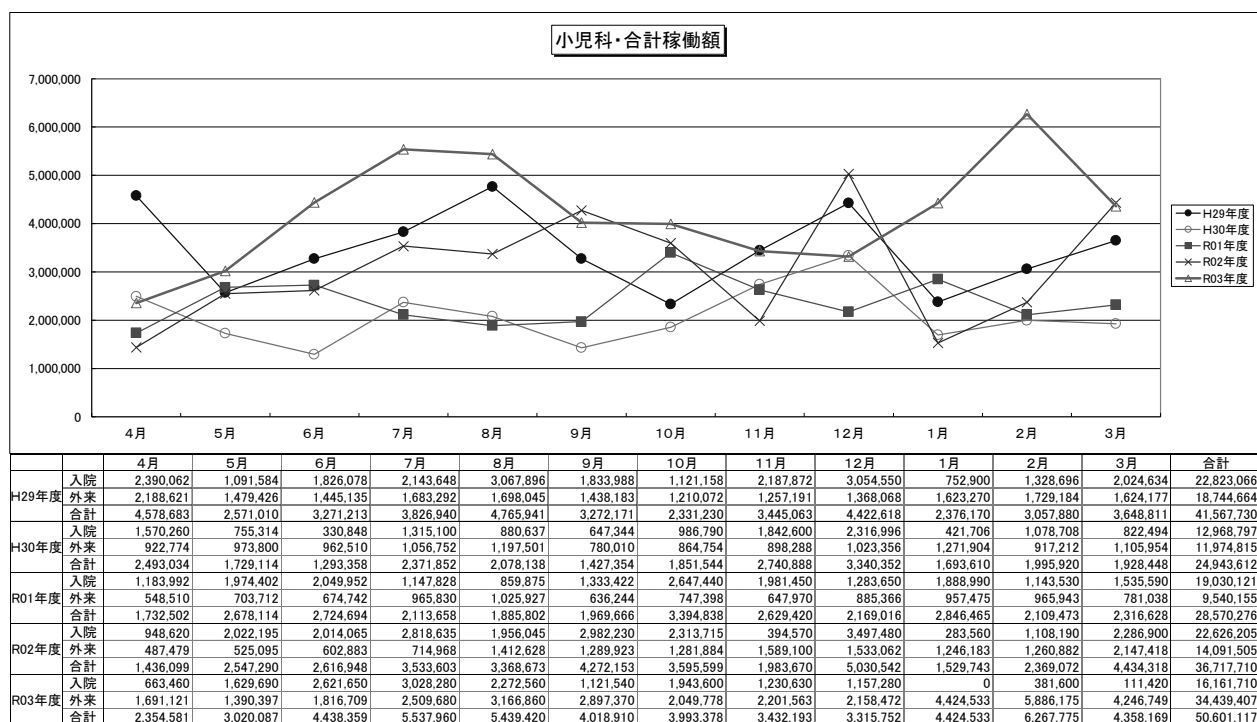
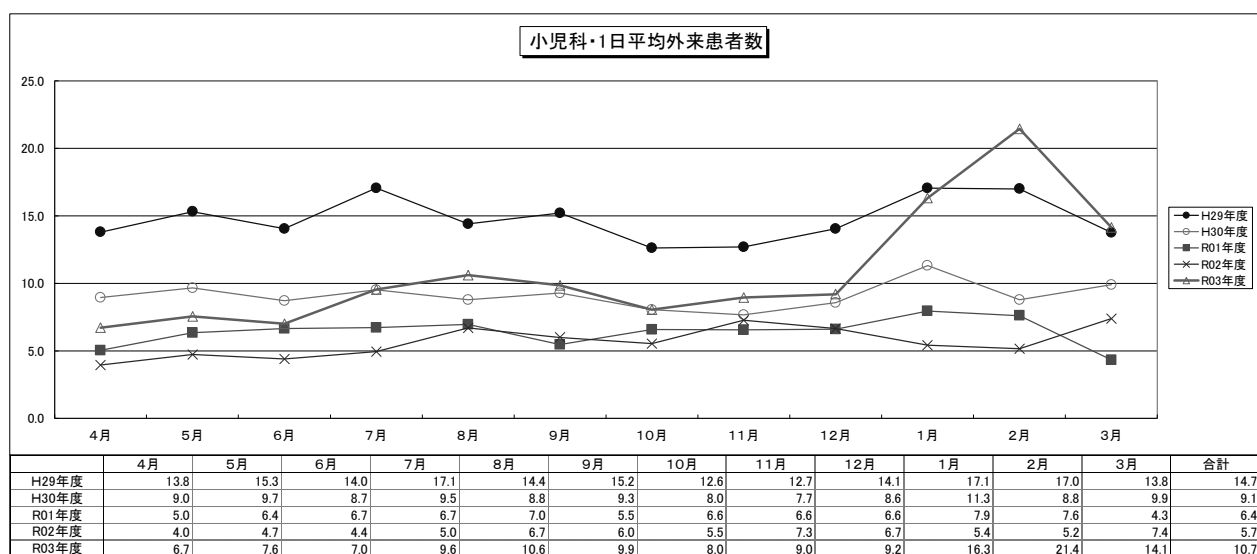
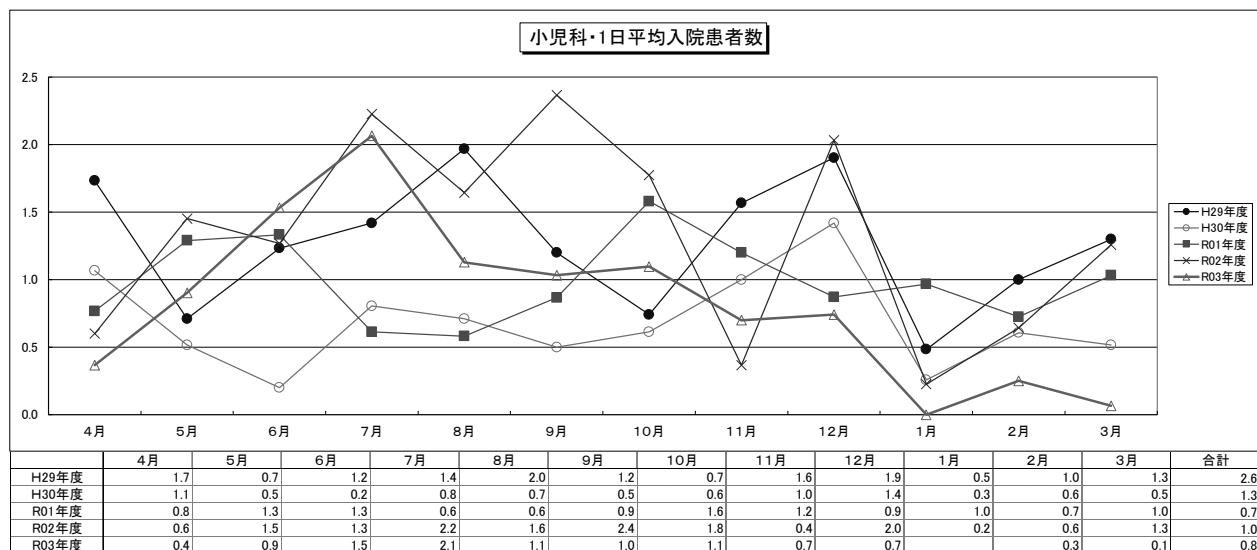
整形外科・1日平均外来患者数

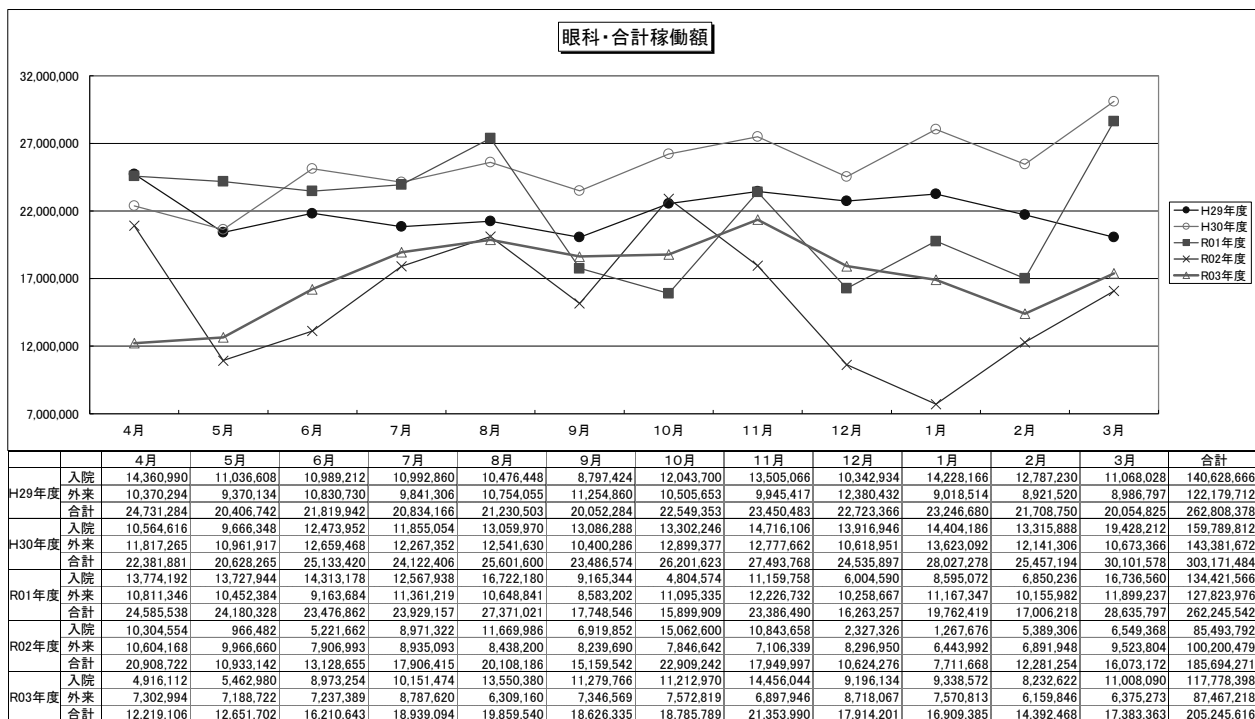
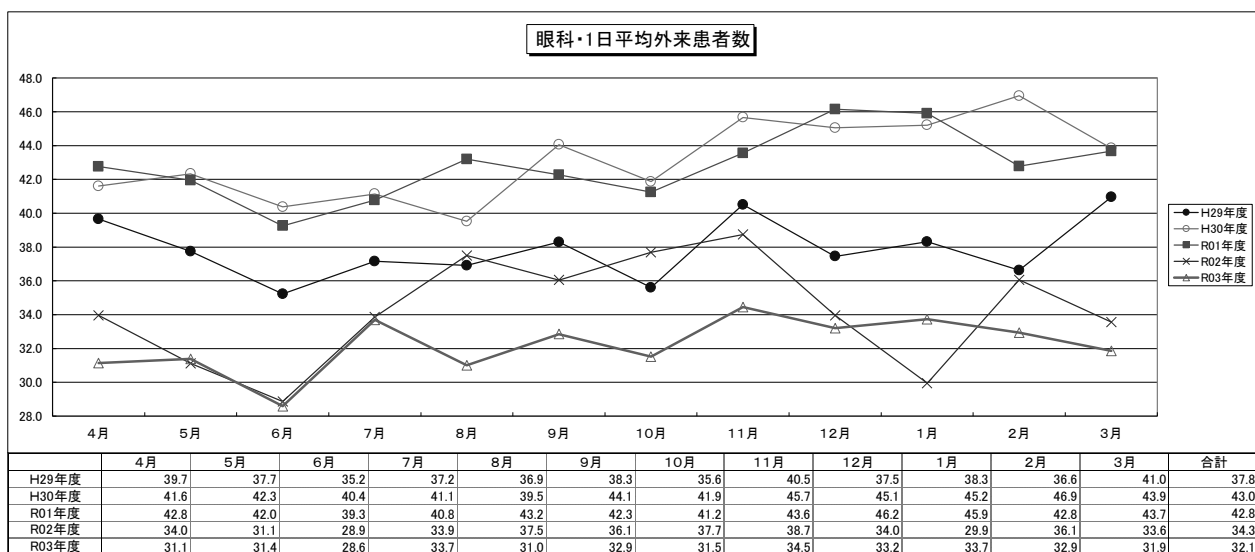
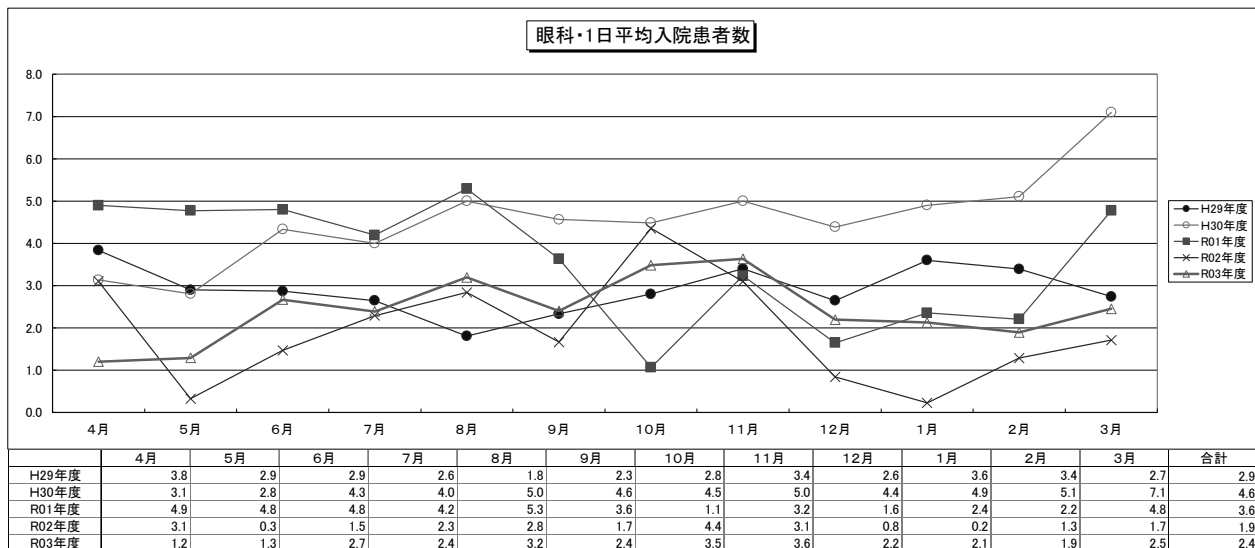


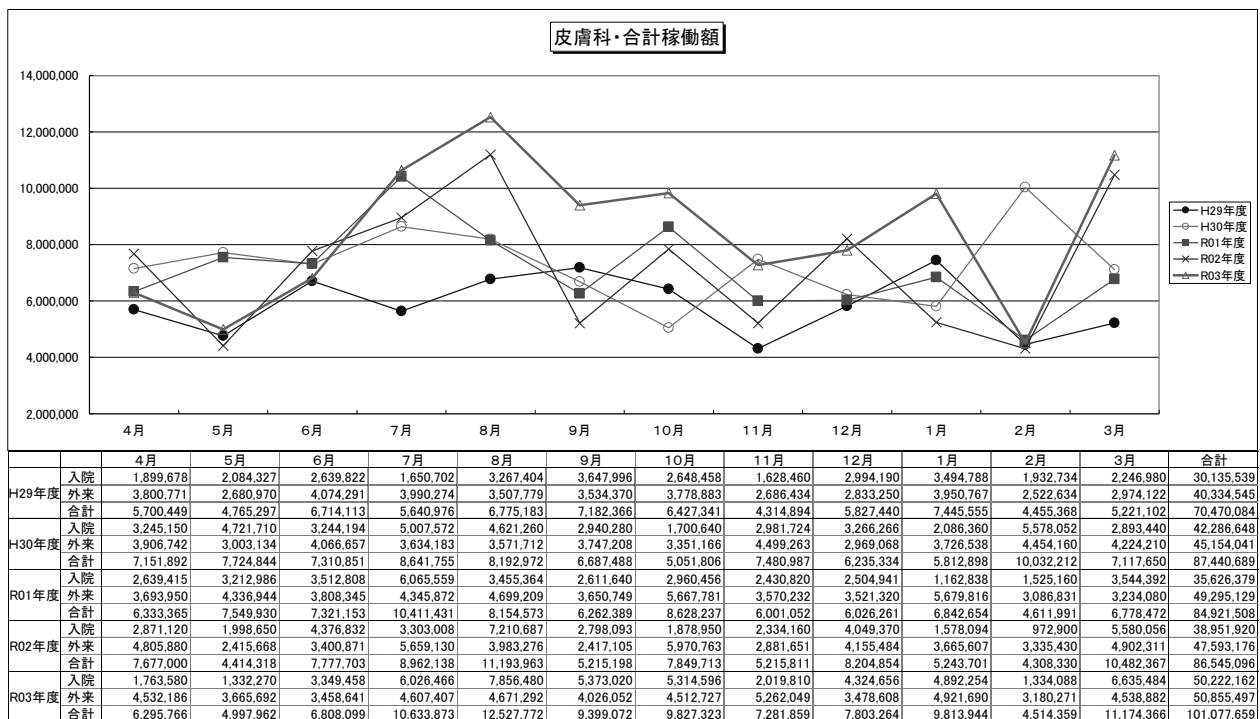
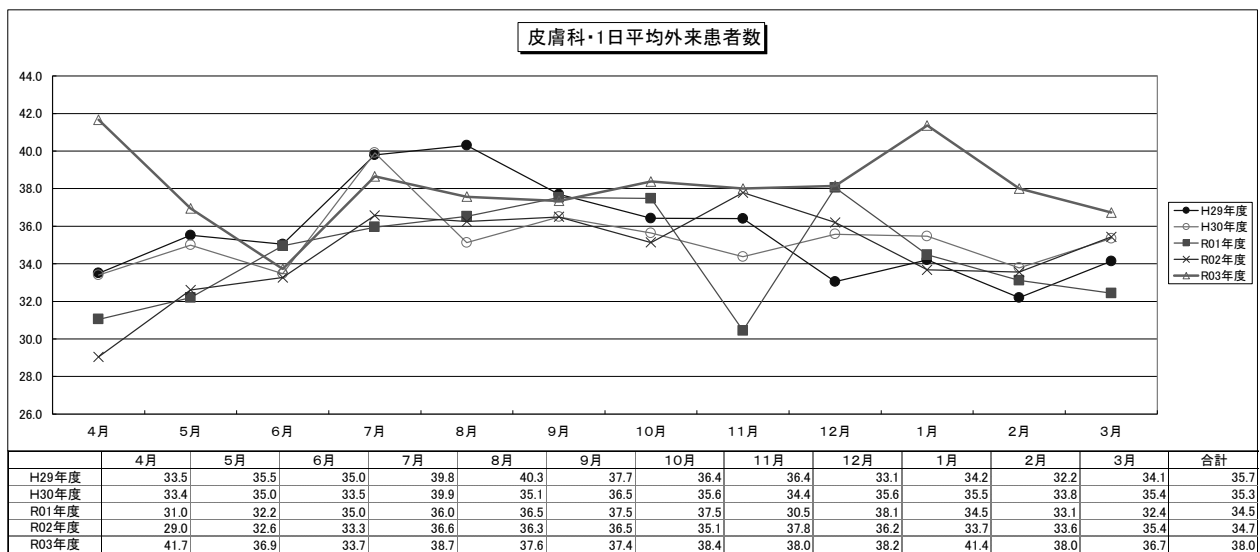
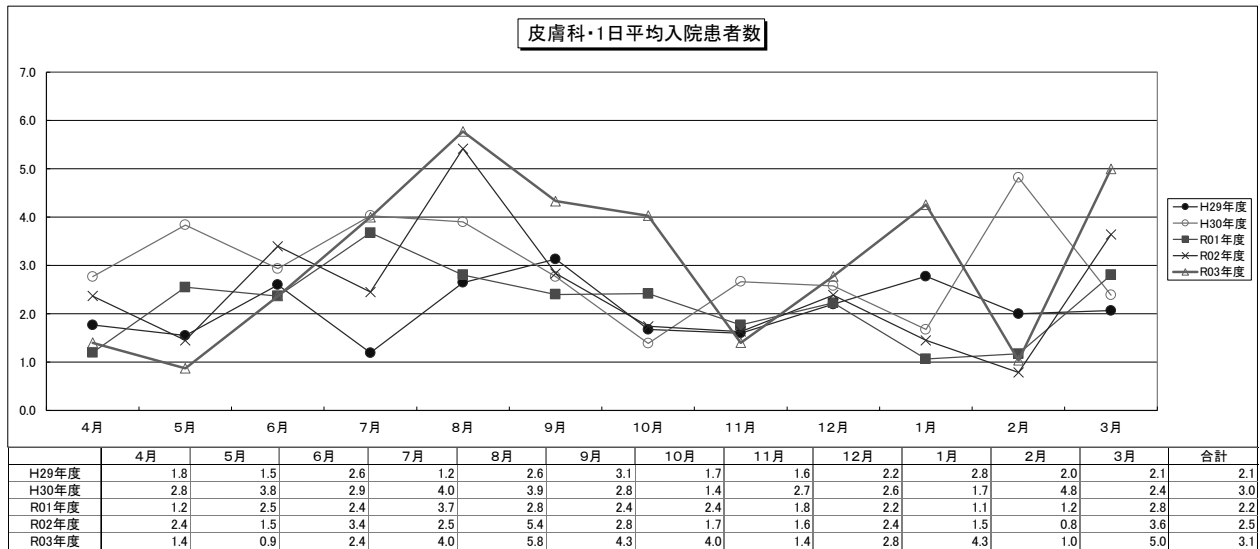
整形外科・合計稼働額

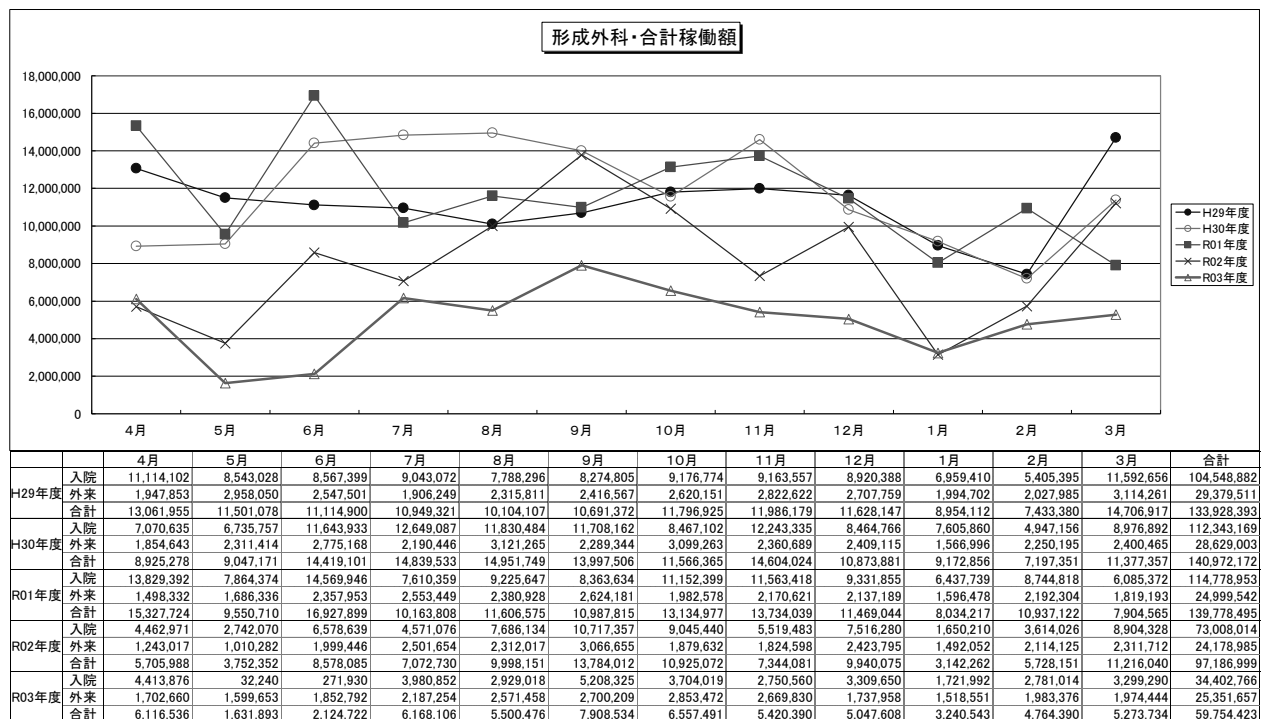
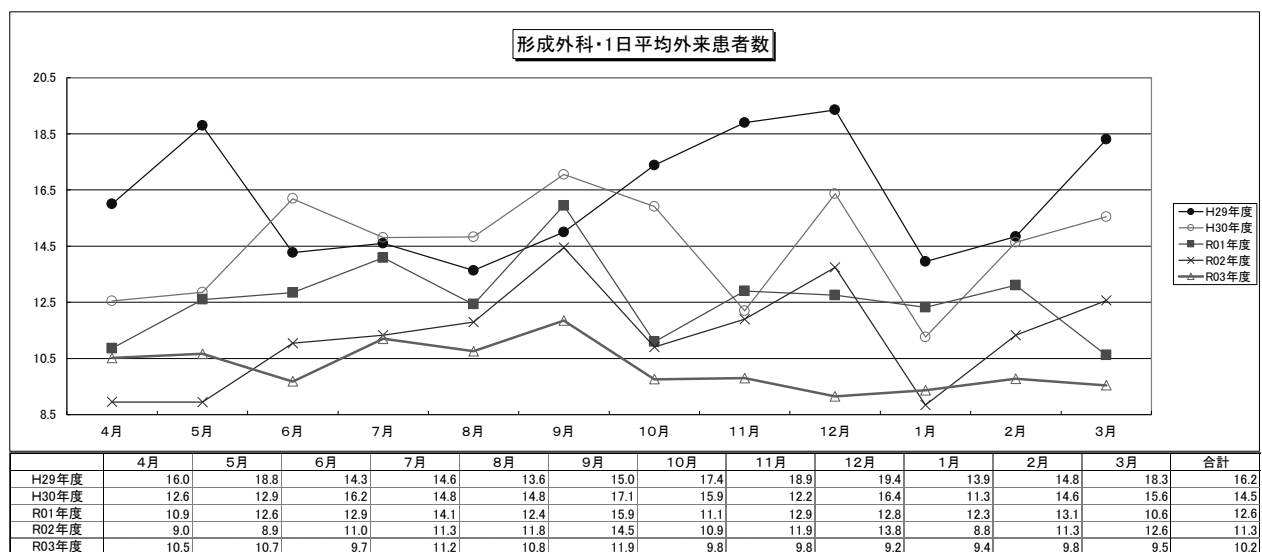
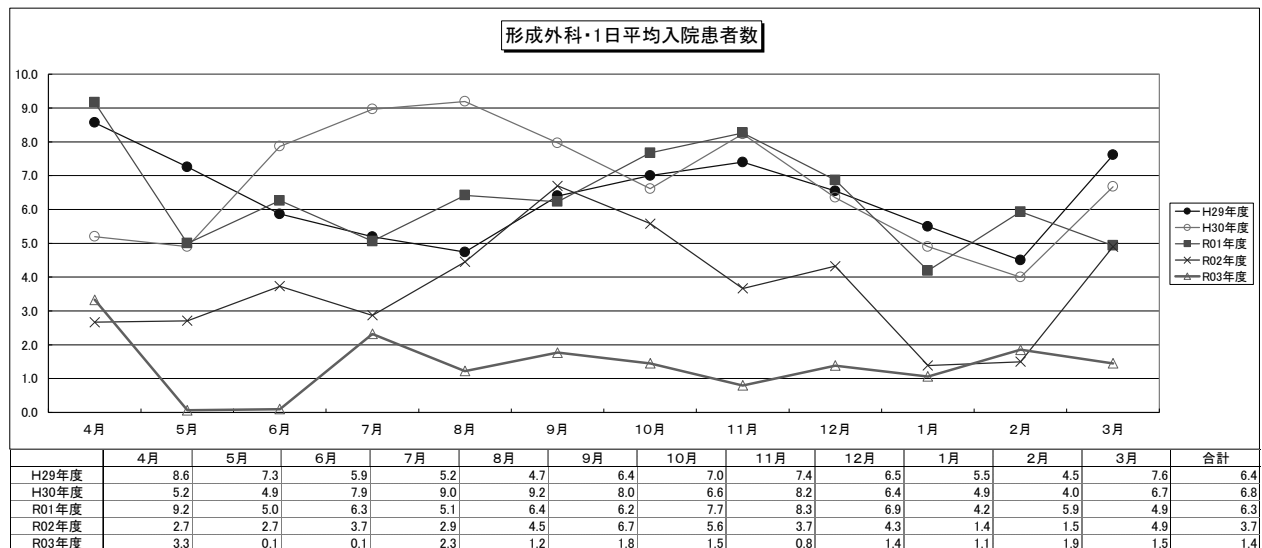


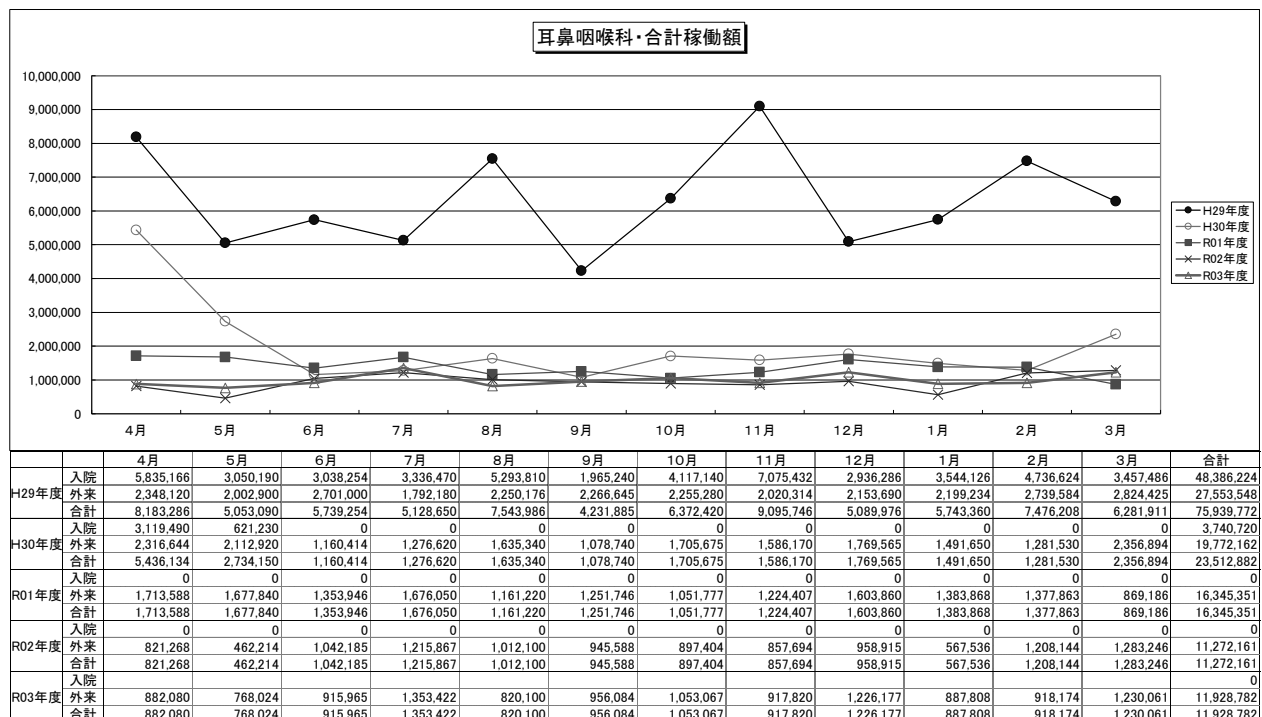
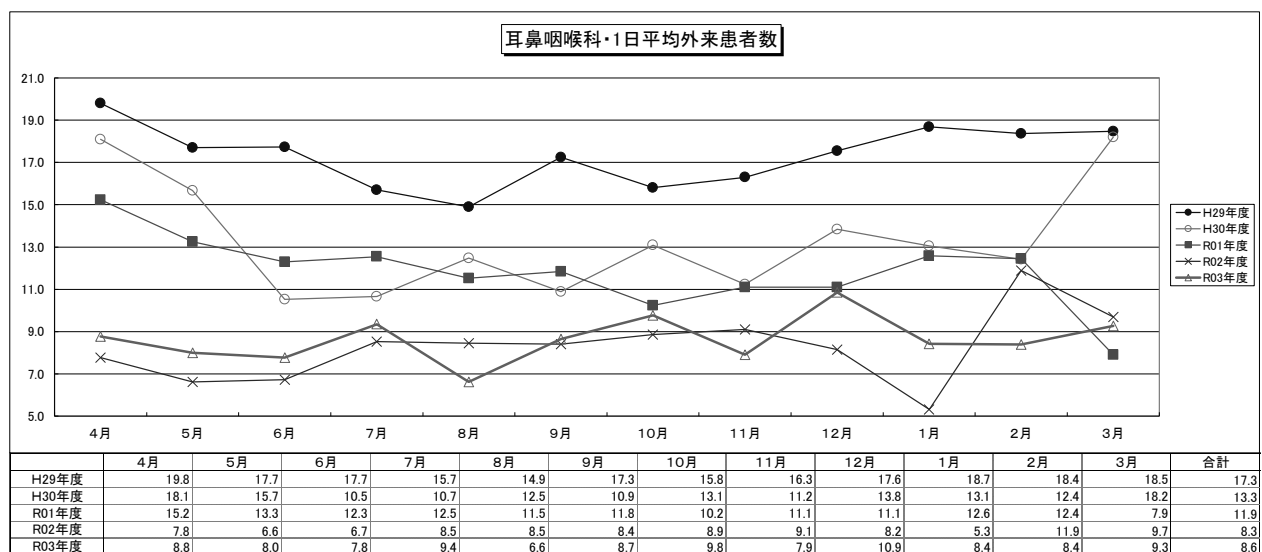
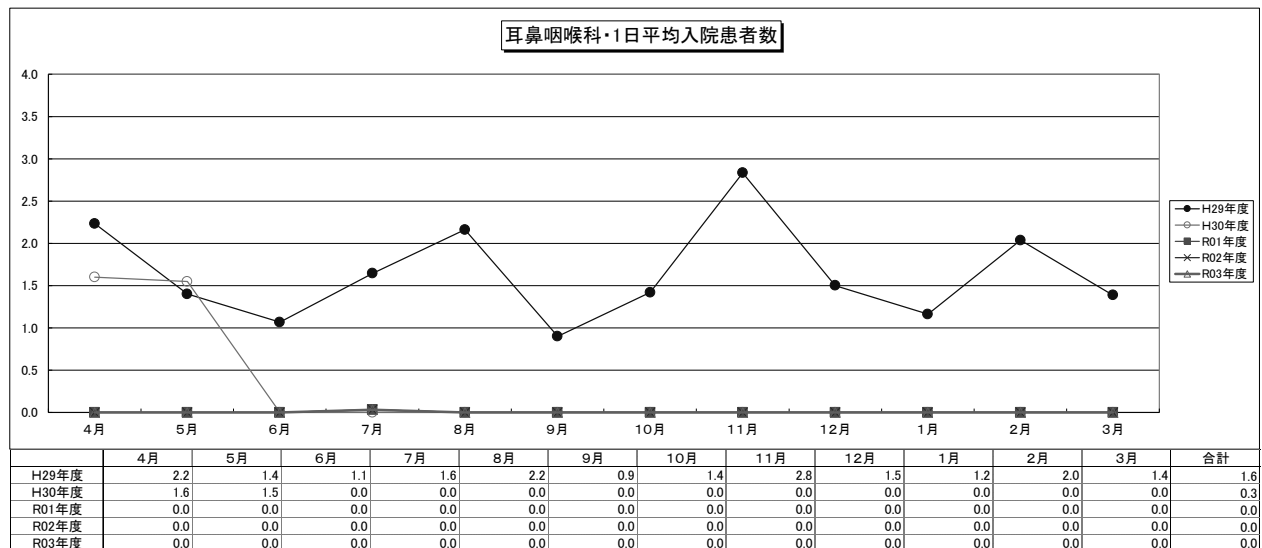


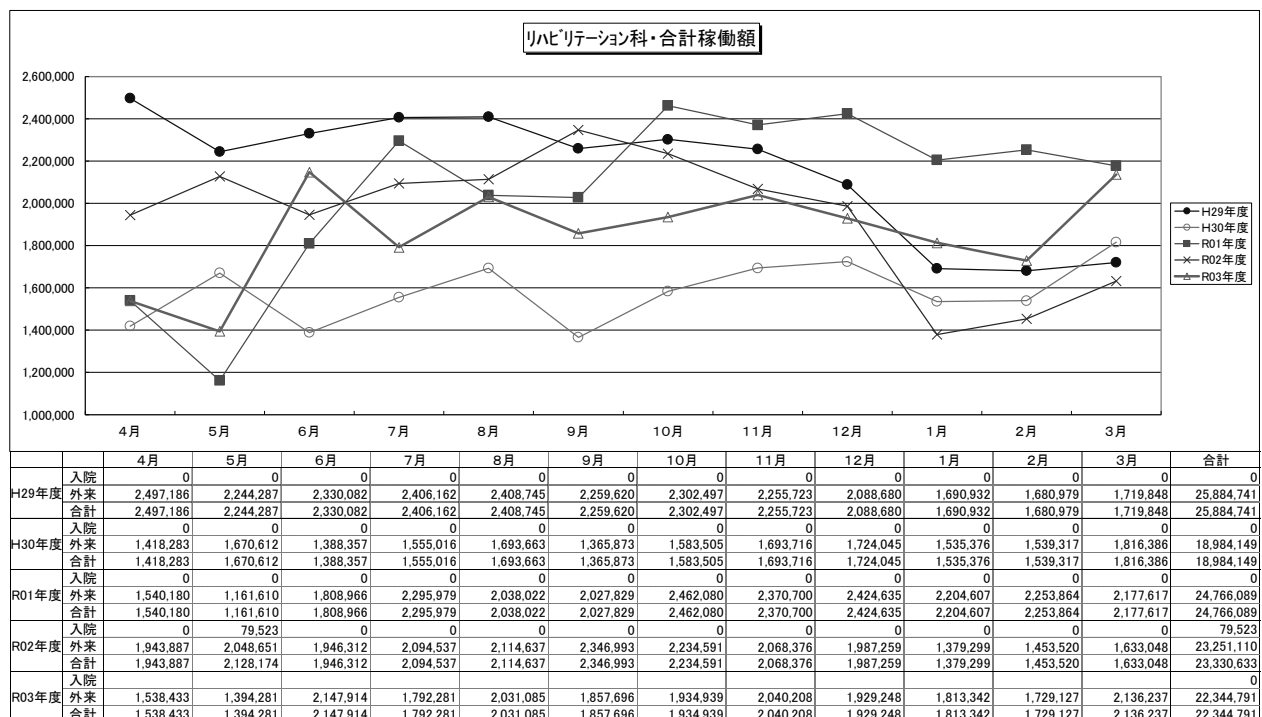
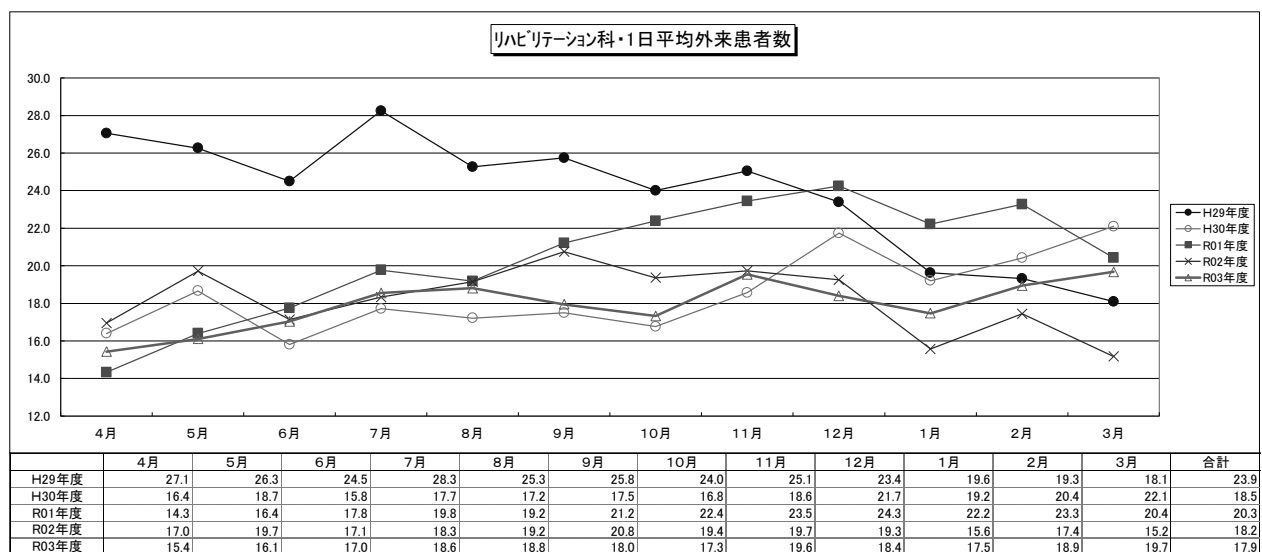
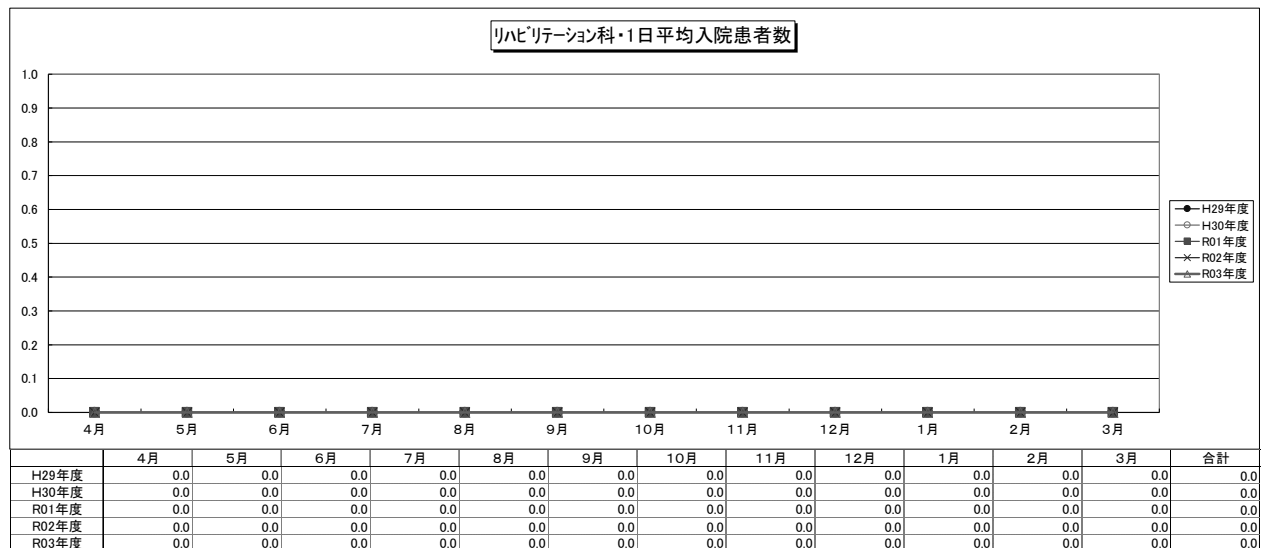


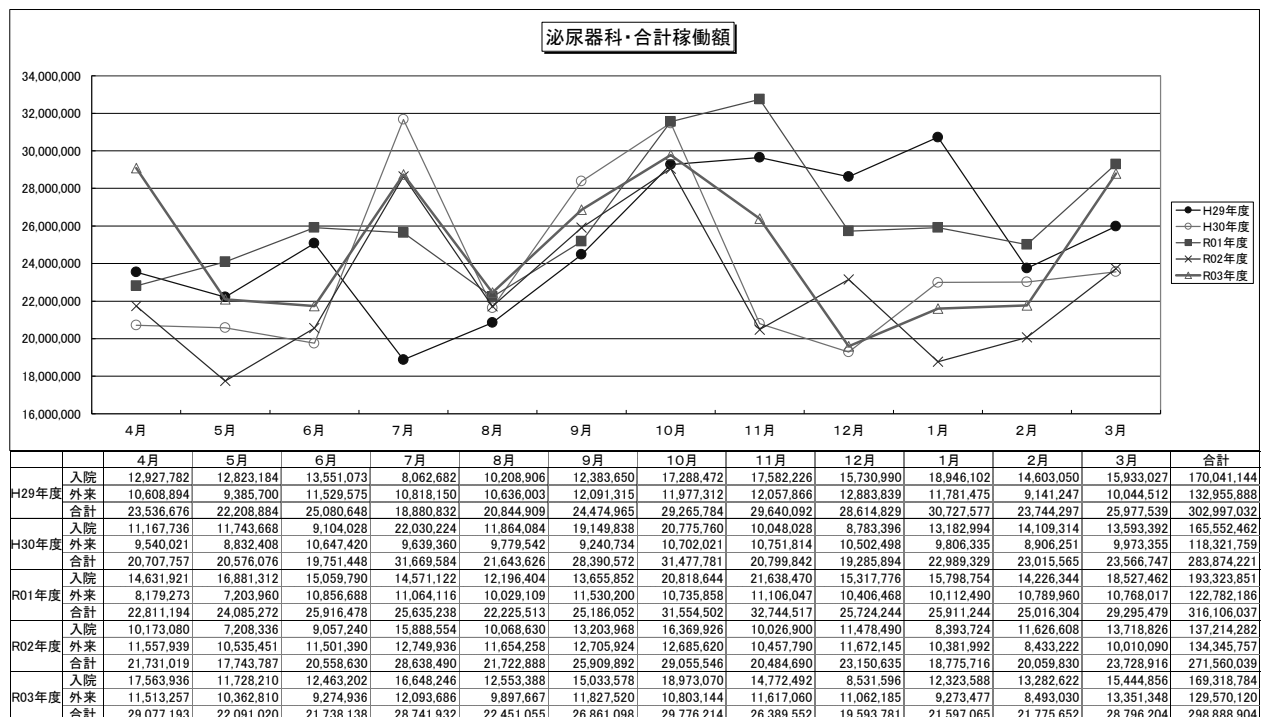
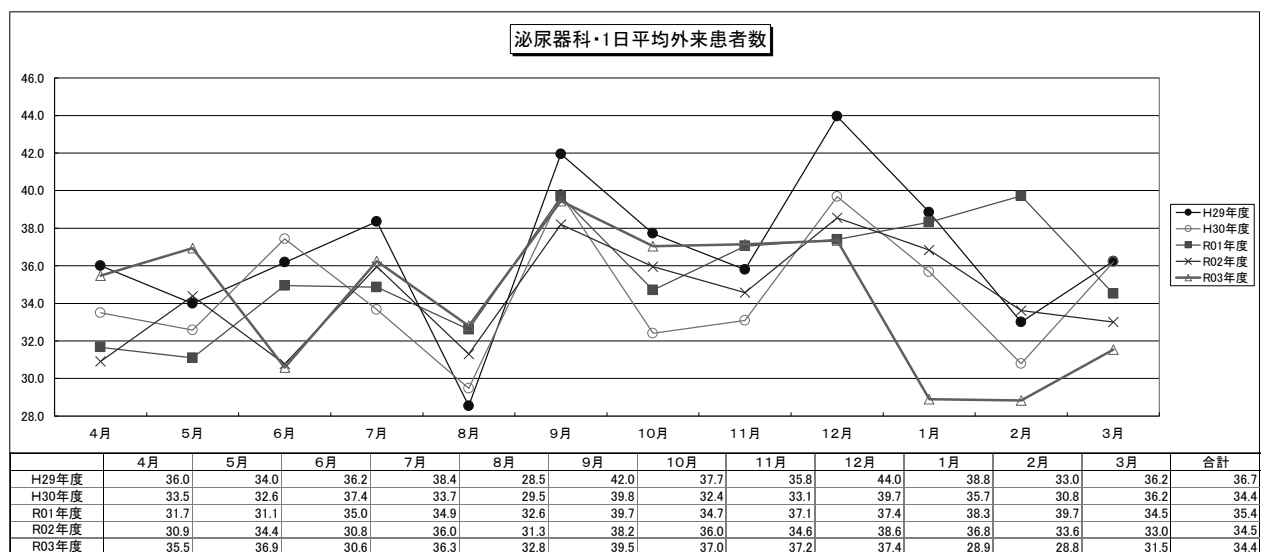
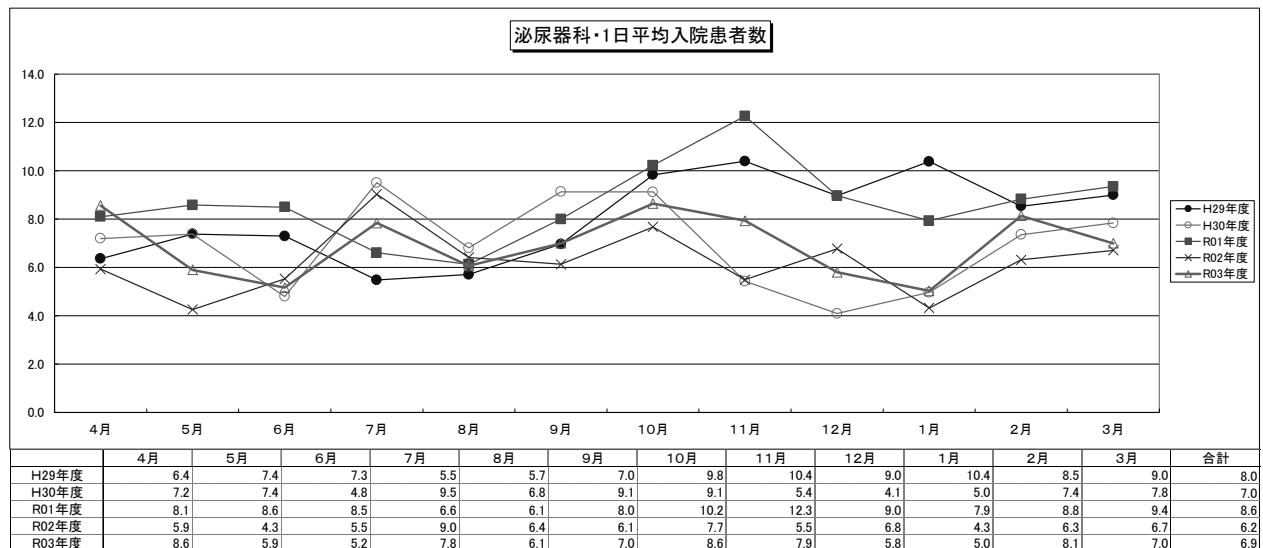


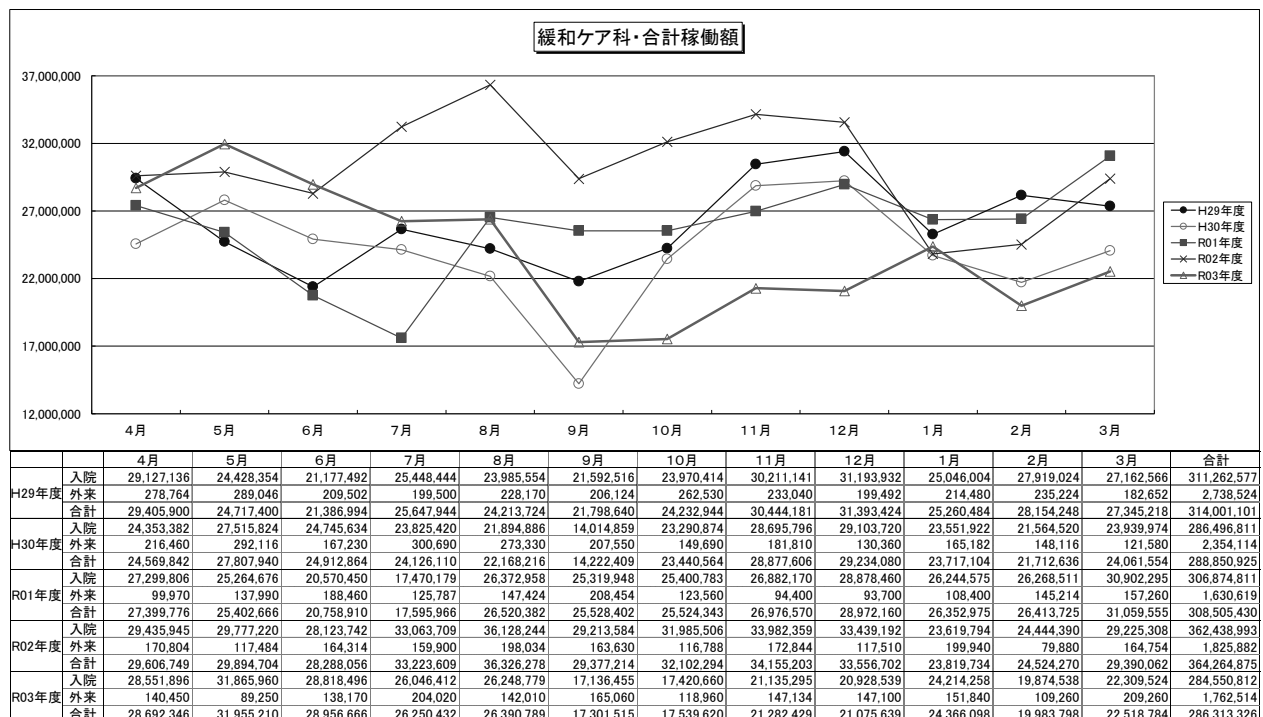
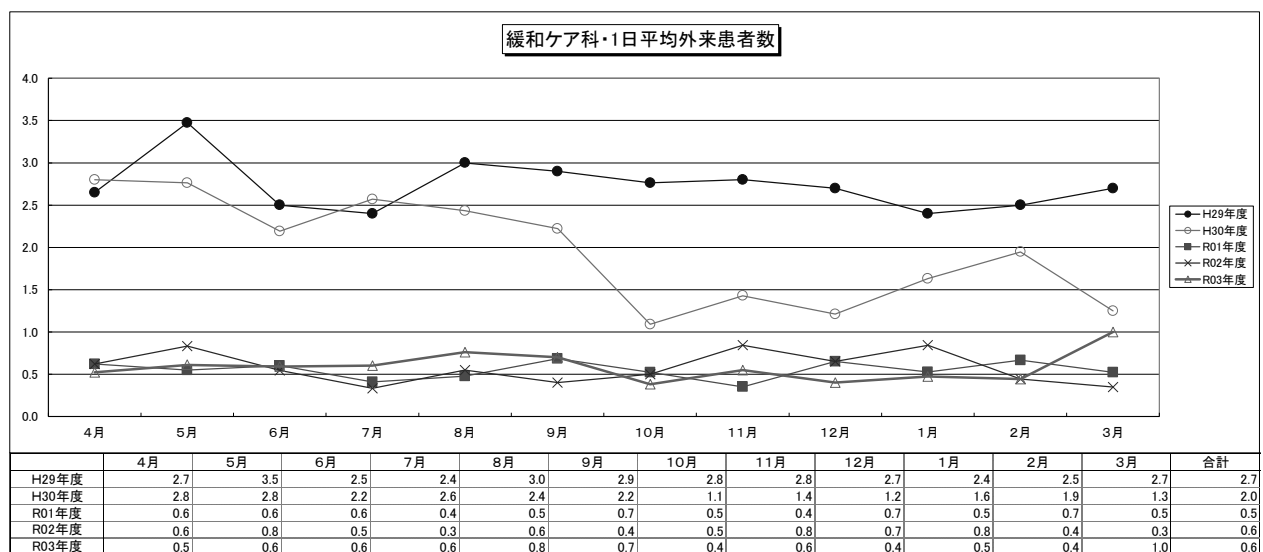
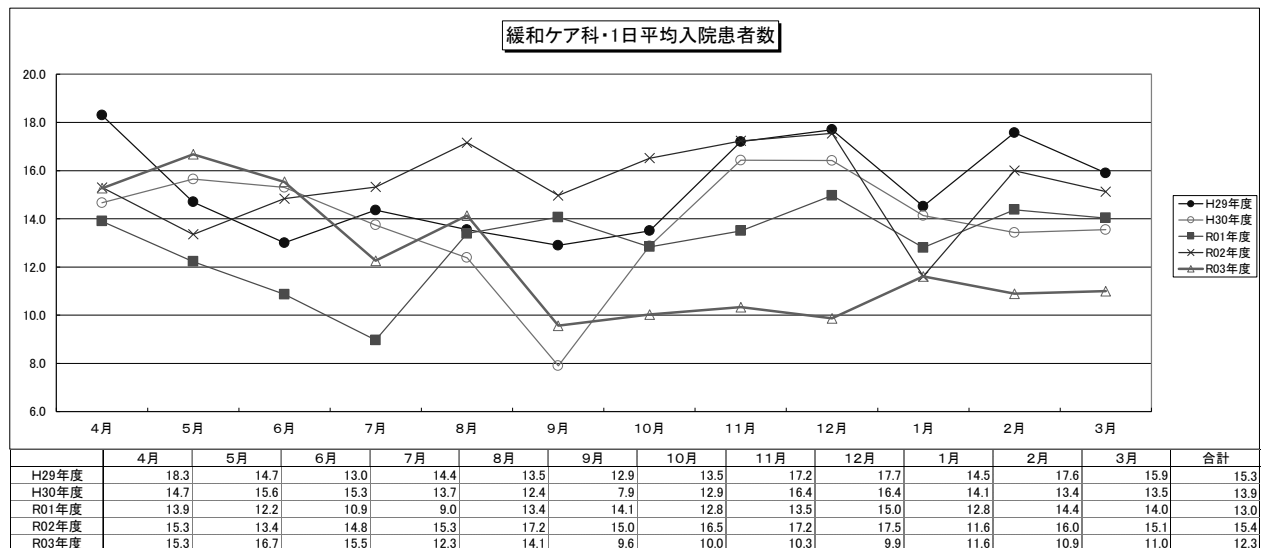






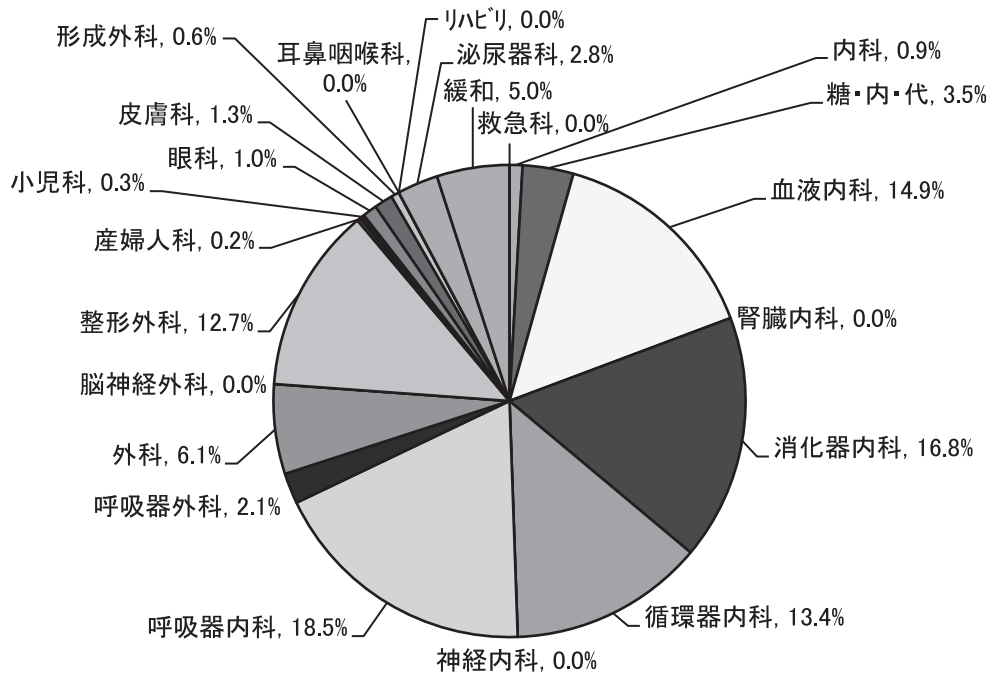




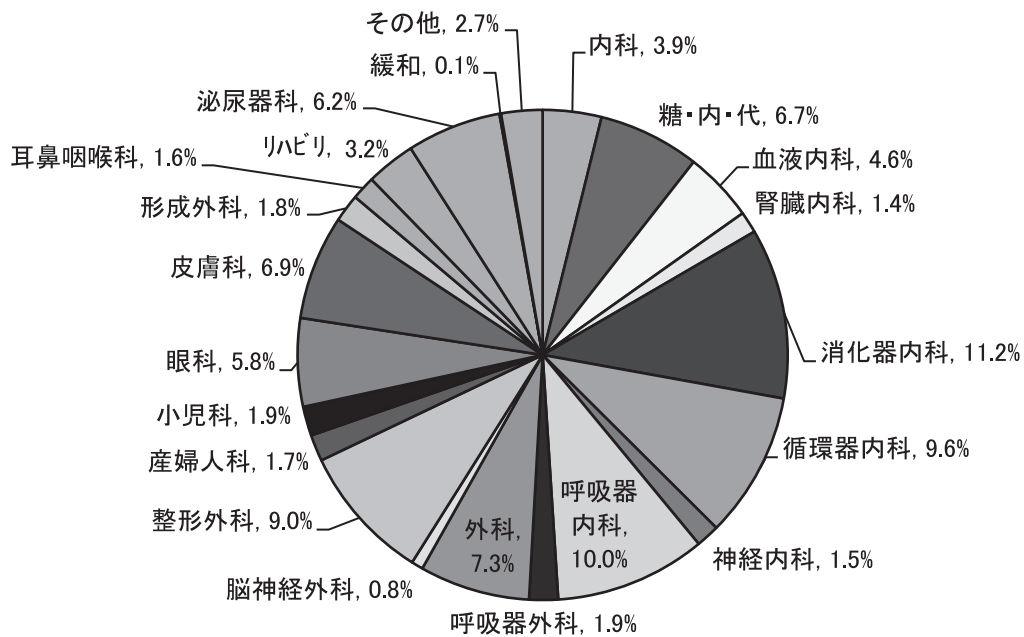


8. 科別患者構成比

入院患者数



外来患者数



※その他は、放射線科と救急科とリウマチ・膠原病とドック・健診を足したものです。

9. 診療科年齢別構成表

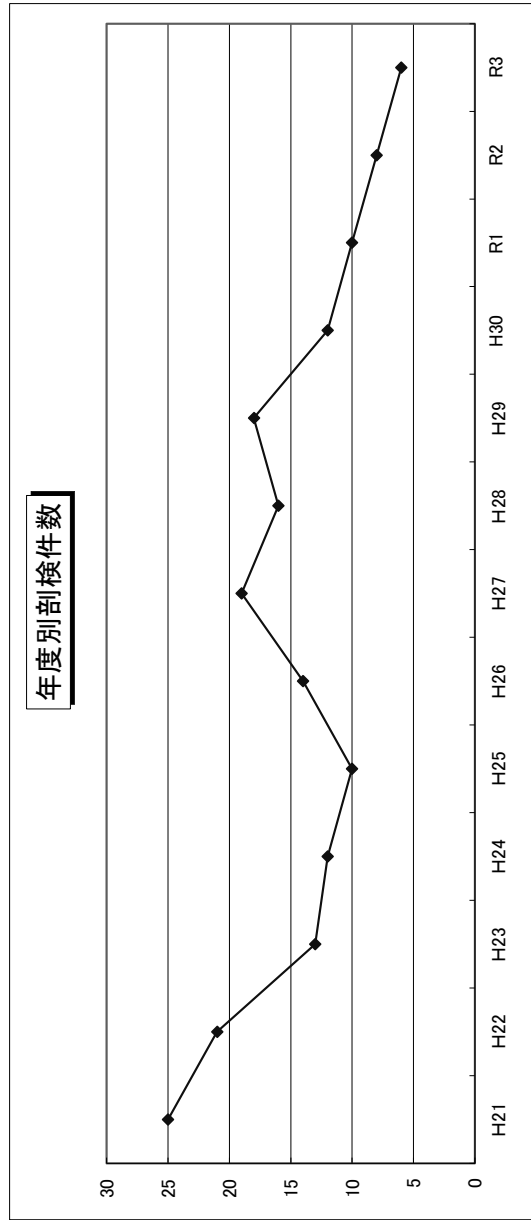
診療科	0-9	10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-89	90-99	100-	合計
小児科	235	50	0	2	2	1	4	3	6	1	0	304
耳鼻咽喉科												0
眼科	6	6	0	0	24	75	94	398	264	14	0	881
整形外科	6	135	209	108	482	656	976	3,319	4,128	1,438	2	11,459
外科	12	17	50	93	259	517	893	2,275	1,271	118	30	5,535
糖尿病・内分泌・代謝内科	0	45	61	47	190	473	606	978	681	56	0	3,137
血液内科	0	0	428	207	322	682	2,164	4,613	4,144	891	0	13,451
消化器内科	0	49	79	117	448	1,078	1,313	5,213	5,453	1,340	48	15,138
循環器内科	0	5	0	59	149	452	962	3,315	5,361	1,715	22	12,040
内科	0	4	26	4	10	15	36	218	288	192	6	799
呼吸器内科	0	45	107	169	836	1,195	2,556	5,638	4,764	1,232	99	16,641
呼吸器外科	0	31	19	11	86	83	384	782	491	0	0	1,887
泌尿器科	0	5	3	4	71	168	449	874	607	342	0	2,523
皮膚科	0	0	23	24	131	101	108	241	285	217	12	1,142
形成外科	9	0	13	67	53	18	39	152	158	1	0	510
産婦人科	0	0	8	8	29	29	25	60	42	0	0	201
緩和ケア科	0	0	0	0	163	256	571	1,419	1,404	666	0	4,479
救急科												0
合計	268	392	1,026	920	3,255	5,799	11,180	29,498	29,347	8,223	219	90,127
構成率	0.3%	0.4%	1.1%	1.0%	3.6%	6.4%	12.4%	32.7%	32.6%	9.1%	0.2%	100.0%

10. 令和3年度救急患者数

		内科	糖・内・代	血内	消化器	循環器	神経内	呼吸器	呼吸外	外科	脳神経	整形	産婦人	小児科	眼科	皮膚科	形成	耳鼻科	リハビリ	泌尿器	緩和	放射線科	救急科	合計	交通事故	
																									救急車	その他
救急患者数	時間内	481	8	35	282	260	6	301	8	76	29	241	4	24	2	36	21	15	0	51	5	0	0	1,885	60	2
	時間外	899	16	32	433	154	10	346	4	171	21	481	7	52	12	158	57	47	0	137	2	13	0	3,052	58	2
	深夜	208	2	2	104	41	4	88	3	31	4	69	1	14	16	23	4	7	0	50	0	0	0	671	5	2
	合計	1,588	26	69	819	455	20	735	15	278	54	791	12	90	30	217	82	69	0	238	7	13	0	5,608	123	6
(再掲) 救急患者数のうち 入院患者数	時間内	83	6	31	193	175	1	257	8	40	2	120	0	5	0	9	2	0	0	27	5	0	0	964		
	時間外	215	3	15	183	74	1	227	1	42	2	126	1	8	0	20	3	2	0	31	2	0	0	956		
	深夜	67	2	1	56	22	0	68	1	11	0	22	0	0	1	1	0	1	0	10	0	0	0	263		
	合計	365	11	47	432	271	2	552	10	93	4	268	1	13	1	30	5	3	0	68	7	0	0	2,183		
(再掲) 救急患者数のうち 救急車	入院率	23%	42%	68%	53%	60%	10%	75%	67%	33%	7%	34%	8%	14%	3%	14%	6%	4%	0%	29%	100%	0%	0%	651%		
	時間内	194	4	17	135	138	2	183	4	35	22	209	1	8	2	15	15	8	0	24	5	0	0	1,021		
	時間外	261	5	10	115	73	5	166	0	39	11	201	0	2	3	19	12	12	0	38	2	0	0	974		
	深夜	128	2	2	53	25	4	69	1	13	1	41	0	1	10	5	1	4	0	23	0	0	0	383		
(再掲②) 救急車のうち 入院患者	合計	583	11	29	303	236	11	418	5	87	34	451	1	11	15	39	28	24	0	85	7	0	0	2,378		
	時間内	51	4	16	102	99	0	172	4	24	1	111	0	2	0	6	2	0	0	13	5	0	0	612		
	時間外	144	3	8	79	56	1	150	0	20	1	96	0	1	0	6	1	1	0	15	2	0	0	584		
	深夜	55	2	1	35	17	0	60	1	7	0	19	0	0	1	1	0	1	0	7	0	0	0	207		
	合計	250	9	25	216	172	1	382	5	51	2	226	0	3	1	13	3	2	0	35	7	0	0	1,403		
	入院率	43%	82%	86%	71%	73%	9%	91%	100%	59%	6%	50%	0%	27%	7%	33%	11%	8%	0%	41%	100%	0%	0%	898%		

		1系	2系	小児科	産婦人	緩和
救急患者数	時間内	1,373	479	24	4	5
	時間外	1,890	1,088	52	7	2
	深夜	449	207	14	1	0
	合計	3,712	1,774	90	12	7
(再掲) 救急患者数のうち 入院患者数	時間内	746	208	5	0	5
	時間外	718	227	8	1	2
	深夜	216	47	0	0	0
	合計	1,680	482	13	1	7
(再掲) 救急患者数のうち 救急車	時間内	3	2	0	0	1
	時間外	673	334	8	1	5
	深夜	635	335	2	0	2
	合計	283	99	1	0	0
(再掲②) 救急車のうち 入院患者	時間内	1,591	768	11	1	7
	時間外	444	161	2	0	5
	深夜	441	140	1	0	2
	合計	170	37	0	0	0

11. 剖検件数



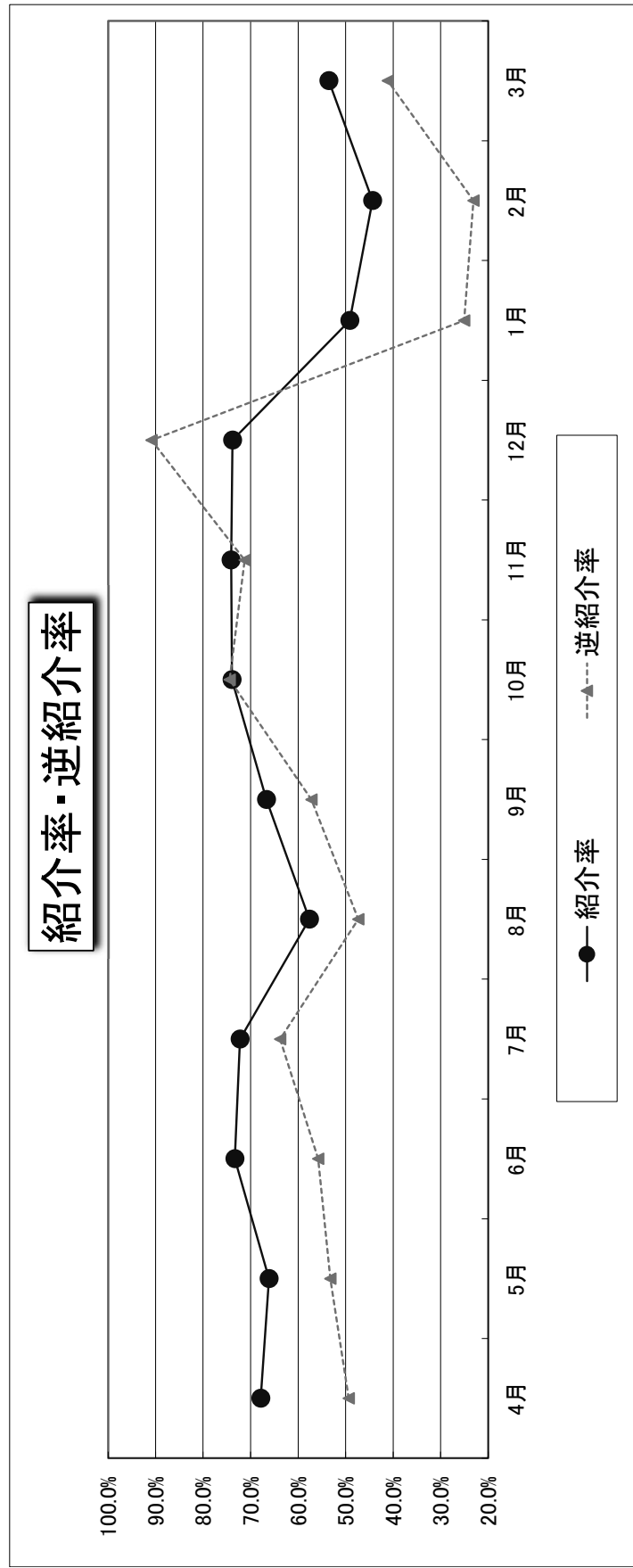
年度	H 22	H 23	H 24	H 25	H 26	H 27	H 28	H 29	H30	R1	R2	R3
件数	21	13	12	10	14	19	16	18	12	10	8	6

令和 3 年度科別剖検数

	内科	糖・内・ 代	血内	消化器	循環器	神経内	呼内	呼外	外科	脳神経	整形	産婦	小児	眼	皮膚	形成	耳鼻	リハビリ テーション科	泌尿器	緩和	救急	合計
剖検数			4	1								1										6
死亡数	2	1	39	45	30		88	3	12		1	1							4	160		386
剖検率	0.0%	0.0%	10.3%	2.2%	0.0%		0.0%	0.0%	0.0%		0.0%	100.0%							0.0%	0.0%		1.6%

12. 紹介率・逆紹介率

令和3年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
初診患者数	950	845	850	857	1,090	924	776	763	729	1,298	1,375	1,102	11,559
紹介患者数	516	400	484	455	475	480	436	441	389	531	514	492	5,613
逆紹介患者	375	322	368	402	390	412	439	424	479	271	268	378	4,528
紹介率	67.9%	66.1%	73.3%	72.2%	57.6%	66.7%	73.9%	74.1%	73.8%	49.1%	44.3%	53.5%	61.9%
逆紹介率	49.3%	53.2%	55.8%	63.8%	47.3%	57.2%	74.4%	71.3%	90.9%	25.1%	23.1%	41.1%	49.9%



13. 食事別給食数（令和 3 年度）

食事別給食数

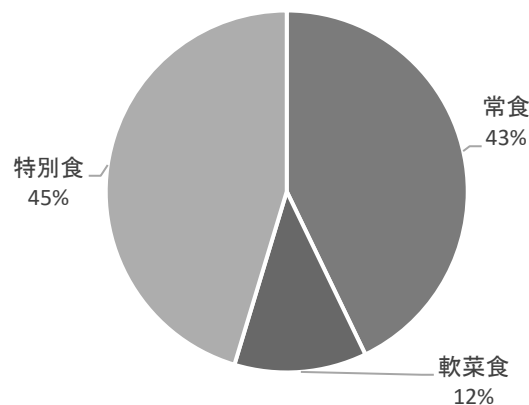
	常食	軟菜食	特別食	濃厚流動食	合 計
延食数	80,596	22,246	85,270	6694	194,806
一日平均	221	61	234	18	534

特別食内訳

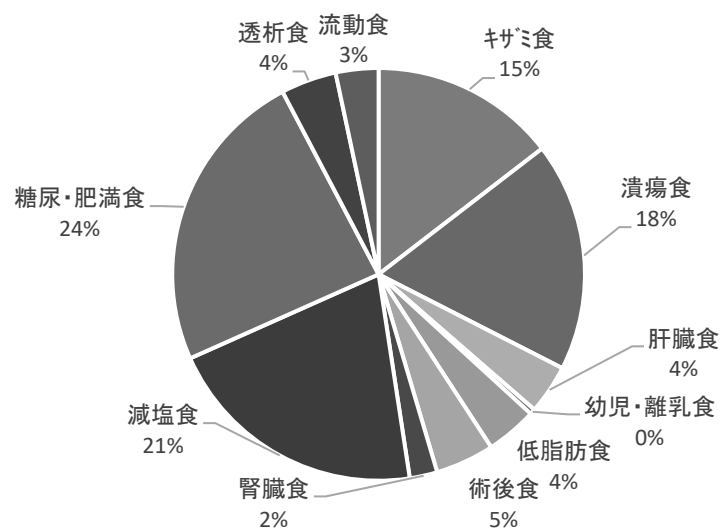
	キザミ食	潰瘍食	肝臓食	幼児・離乳食	低脂肪食	術後食	腎臓食	減塩食
延食数	12,416	15,309	3,298	364	3,413	3,926	1,848	17,690
一日平均	34	42	9	1	9	11	5	48

	糖尿・肥満食	透析食	流動食	その他	合 計
延食数	20,435	3,716	2,855	0	85,270
一日平均	56	10	8	0	234

食事別給食数



特別食内訳

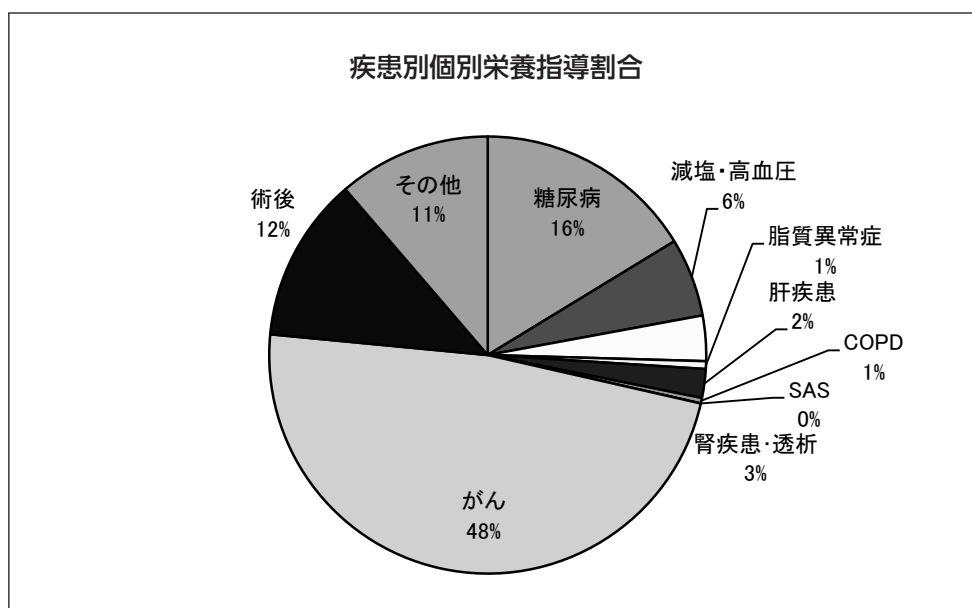


14. 栄養指導件数（令和3年度）

指導月	入院		外来		合計	
	算定	非算定	算定	非算定	算定計	非算定計
4月	39	3	43	23	82	26
5月	28	4	47	11	75	15
6月	45	1	51	19	96	20
7月	39	1	62	24	101	25
8月	39	0	73	30	112	30
9月	26	2	66	29	92	31
10月	37	4	74	37	111	41
11月	35	4	44	24	79	28
12月	31	3	28	2	59	5
1月	22	3	34	3	56	6
2月	28	3	31	0	59	3
3月	39	6	23	1	62	7
合計	408	34	576	203	984	237
月平均	34.0	2.8	48.0	16.9	82.0	19.8

疾患別個別栄養指導件数（複数の制限の指示は主指示事項をカウントする）

	糖尿病	減塩・ 高血圧	腎疾患・ 透析	脂質異 常症	肝疾患	COPD	SAS	がん	術後	その他	合計
延数	199	71	41	7	26	5	0	586	149	138	1,222
月平均	17	6	3	1	2	0	0	49	12	12	102



15. 手術件数

	内科	糖・内・ 代	血液内科	腎臓内科	消化器 内科	循環器 内科	呼吸器 内科	呼吸器 外科	脳神経 外科	整形外科	産婦人科	小児科	眼科	皮膚科	形成外科	耳鼻咽 喉科	泌尿器科	その他	合計
平成 29 年度	58				964	336	3	121	592	16	690	130	923	39	617	273	265	26	5,053
平成 30 年度	50				932	315	2	122	540	12	639	128	1130	41	584	61	273	25	4,854
令和元年度	2	4	5	25	972	268	2	102	570	10	576	93	923	23	542	33	309	45	4,506
令和 2 年度	3		10	15	946	212	5	81	457	1	550	36	673	25	484	16	252	21	3,788
令和 3 年度	5	2	2	43	990	219		89	450	7	635	40	787	47	391	12	290	1	4,010

※その他は、リハビリテーション科と救急科を足したものです。

16. 医業収益・費用及び医業外収益・費用の構成について

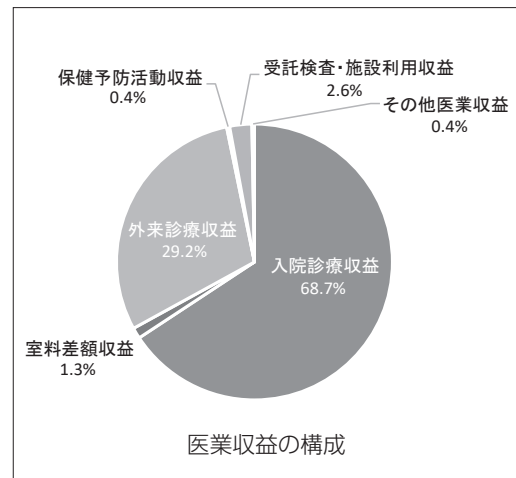
(令和3年度医療施設特別会計決算額より)

医業収益の構成

損益計算書収益の部より、医業収益科目の構成比率

(単位：円)

項目	金額	構成比率
入院診療収益	6,073,035,582	66.0%
室料差額収益	118,066,000	1.3%
外来診療収益	2,747,842,268	29.9%
保健予防活動収益	32,681,749	0.4%
受託検査・施設利用収益	239,362,973	2.6%
その他の医業収益	27,601,748	0.3%
保険等査定減(※入院＋外来診療収益比)	-42,475,111	(-0.3%)
合計	9,196,115,209	

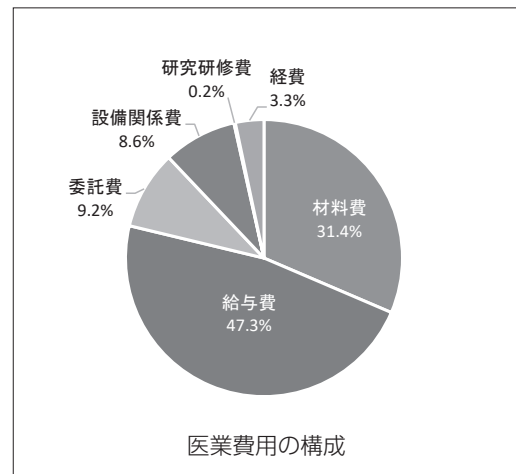


医業費用の構成

損益計算書費用の部より、医業費用科目の構成比率

(単位：円)

項目	金額	構成比率
材料費	2,840,273,168	31.4%
給与費	4,276,088,624	47.3%
委託費	828,364,713	9.2%
設備関係費	775,689,843	8.6%
研究研修費	14,988,892	0.2%
経費	300,644,865	3.3%
合計	9,036,050,105	

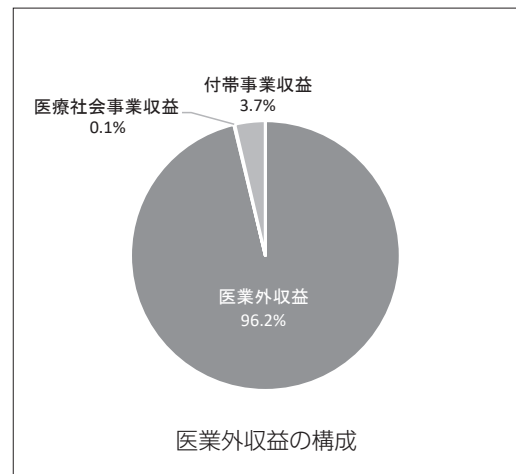


医業外収益の構成

損益計算書収益の部より、医業外収益科目の構成比率

(単位：円)

項目	金額	構成比率
医業外収益	1,531,762,734	96.2%
医療社会事業収益	1,723,754	0.1%
付帯事業収益	58,185,458	3.7%
特別利益	0	0.0%
合計	1,591,671,946	

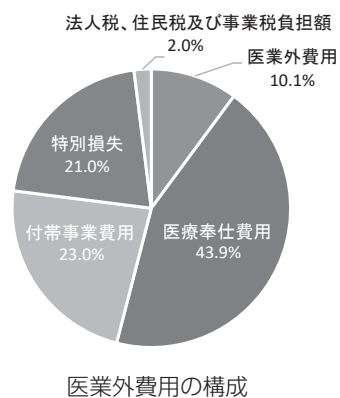


医業外費用の構成

損益計算書費用の部より、医業外費用科目の構成比率

(単位：円)

項目	金額	構成比率
医業外費用	25,353,026	10.1%
医療奉仕費用	110,043,799	43.9%
付帯事業費用	57,617,516	23.0%
特別損失	52,634,070	21.0%
法人税、住民税及び事業税負担額	5,006,490	2.0%
合計	250,654,901	



17. 病院利益（損失）

(単位：円)

総利益	10,787,787,155
総費用	9,286,705,006
病院利益（損失）	1,501,082,149

18. 令和 3 年度 年間購入雑誌一覧

洋 雑 誌	
(冊子)	
1	Emergency Medicine Report
2	Journal of Orthopaedic Science
(電子ジャーナル)	
3	Advances in anatomic pathology
4	Anesthesiology
5	American Journal of Surgical Pathology
6	Anesthesia and Analgesia
7	Annals of Surgery
8	Blood
9	Biology of Blood and Marrow Transplantation
10	Bone & Joint Journal (UK)
11	Circulation
12	Critical Care Medicine
13	Diseases of the Colon and Rectum
14	European Respiratory Journal
15	Journal of the American College of Cardiology
16	Journal of Bone and Joint Surgery (American Volume)
17	Journal of Thoracic and Cardiovascular Surgery
18	Journal of Urology
19	Lancet Respiratory Medicine
20	New England Journal of Medicine
21	Plastic and Reconstructive Surgery
22	Urology

和 雑 誌	
(冊子)	
1	Clinical Research Professionals
2	JOURNAL OF CLINICAL REHABILITATION
3	Lisa
4	あたらしい眼科
5	医事業務
6	胃と腸
7	薬事
8	エキスパートナース
9	看護研究
10	看護
11	看護展望
12	作業療法ジャーナル
13	呼吸器ジャーナル
14	消化器内視鏡
15	総合リハビリテーション
16	ナーシングビジネス
17	保険診療
18	みんなの呼吸器 Respica
19	薬局
20	理学療法ジャーナル
21	臨床消化器内科

文献検索・データベース

MEDLINE with Full Text (EBSCO)
CINAHL with Full Text (EBSCO)
The Cochrane Library
Dyna Med
医学中央雑誌 web 版
メディカルオンライン

19. 医療社会事業年報（2021 年度）

ア．取扱件数

区 分		延件数
年度実件数		2,116
継続実件数		76
新規実件数	入院	1,296
	外来	743

イ．年度延件数

区 分	延件数
年度延件数	8,347

ウ．新規ケースの紹介経路

区 分	延件数
医師	476
看護師	822
リハビリ職	1
その他院内職員	22
本人	181
家族・親戚縁者	176
院外関係機関	348
近隣者・知人	0
医療チーム	7
ソーシャルワーカー	1

エ．介入の時期

区 分	延件数
受診前	2
外来	735
入院前	6
入院中	1,292
その他	3

オ．社会的背景

区 分	延件数
独居	245
経済困窮	41
家族疎遠・身寄りなし	35
ハイリスク妊産婦	0
精神疾患	35
認知症	158
家庭内暴力・虐待	8
自殺企図	0
無保険	0
身元不明	0
ホームレス	0
外国人	0

カ．援助内容

区 分	延件数
受診・受療	612
経済的問題	105
制度活用	640
入院療養生活	40
退院支援	6,156
在宅療養・介護	735
医療者との関係	3
家族関係	33
日常生活	20
就労・就学	1
身元保証・権利擁護	3
死後対応	31
その他	10

キ．援助方法

区 分		延件数
面談	本人	1,693
	家族	1,395
	知人・友人	20
電話	本人	67
	家族	1,880
	知人・友人	16
訪問	家庭	0
	その他	3
同行・同伴・代行		15
連絡調整・院内		5,070
連絡調整・院外：面会		131
連絡調整・院外：電話		6,368
連絡調整・院外：文書他 メール他		1,353
カンファレンス（院内職種のみ）		78
カンファレンス（院外職種含む）		37
合同カンファレンス（院内職種のみ）		16
合同カンファレンス（院外職種含む）		65

ク．チーム医療

区 分	延件数
退院支援チーム	5,507
認知症ケアチーム	1,237
患者サポートチーム	0
リエゾンチーム	0
緩和ケアチーム	0
虐待対応チーム	0
倫理コンサルテーションチーム	0
その他	1,538

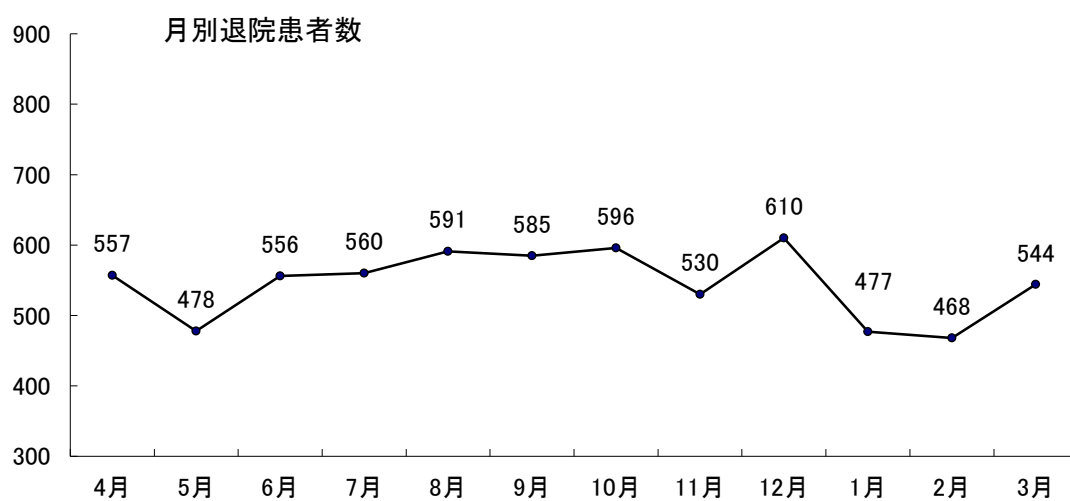
V 退院患者疾病統計

1. 月別退院患者数

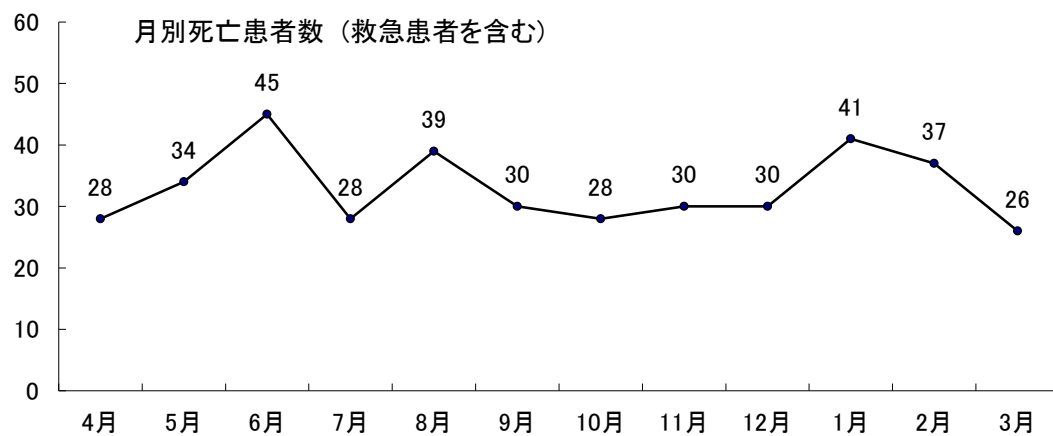
(人)

性 別 \ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男	321	268	331	339	334	333	339	285	340	262	285	314	3,751
女	236	210	225	221	257	252	257	245	270	215	183	230	2,801
合 計	557	478	556	560	591	585	596	530	610	477	468	544	6,552

(人)



(人)



2. 科別・月別退院患者数

(人)

診療科名 \ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
糖尿病・内分泌・生活習慣病科	24	29	25	24	23	23	24	21	21	19	12	20	265
血液・腫瘍内科	35	36	38	37	32	48	45	27	47	30	30	41	446
緩和科	9	17	23	18	19	9	9	14	13	16	16	11	174
消化器科	147	106	138	138	118	145	177	144	142	140	101	125	1,621
循環器科	69	54	59	57	74	70	56	68	86	58	62	53	766
呼吸器科	109	111	98	85	125	119	80	63	93	63	93	88	1,127
呼吸器外科	13	7	12	13	10	7	6	7	14	7	12	18	126
外科	34	20	35	43	35	29	42	42	49	35	28	44	436
整形外科	47	40	50	41	45	44	49	42	69	38	43	56	564
産婦人科	3	2	3	2	4	3	3	3		1	2	2	28
小児科	2	7	9	12	10	3	8	6	4		1	1	63
眼科	25	23	37	46	55	40	47	52	39	42	32	40	478
皮膚科	5	2	10	12	14	11	13	4	7	11	2	10	101
形成外科	6	1		3	4	6	4	3	5	2	1	4	39
耳鼻咽喉科													0
泌尿器科	29	23	19	29	23	28	33	34	21	15	33	31	318
合計	557	478	556	560	591	585	596	530	610	477	468	544	6,552

3. 科別・転帰別退院患者数

(人)

診療科名 \ 転 帰	治 癒	軽 快	不 変	悪 化	死 亡	検 査	転 医	その他	合 計
糖 尿 病 ・ 内 分 泌 ・ 生 活 習 慣 病 科		228			1	27	9		265
血 液 ・ 腫 瘍 内 科	9	363			41	1	29	3	446
緩 和 科		11	3		160				174
消 化 器 科	51	1,393	4		45	43	83	2	1,621
循 環 器 科	16	642			30	15	62	1	766
呼 吸 器 科	187	587	3		88	164	98		1,127
呼 吸 器 外 科		113	1		3	6	3		126
外 科	2	408	2		12		10	2	436
整 形 外 科		374	1		1		187	1	564
産 婦 人 科		26	1		1				28
小 児 科	2	58				2	1		63
眼 科		477					1		478
皮 膚 科	1	94	1			2	3		101
形 成 外 科		37					1	1	39
耳 鼻 咽 喉 科									0
泌 尿 器 科		238			4	68	7	1	318
合 計	268	5,049	16	0	386	328	494	11	6,552

4. 疾病大分類別・性別退院患者数

疾病大分類		患者数(人)			比率(%)	平均在院 日数(日)
		男	女	合計		
I	感染症および寄生虫症	106	110	216	3.3%	15.5
II	新生物	1,358	837	2,195	33.5%	14.7
III	血液および造血器並びに免疫障害	37	33	70	1.1%	26.3
IV	内分泌、栄養および代謝疾患	128	131	259	4.0%	13.8
V	精神および行動の障害	1	4	5	0.1%	3.4
VI	神経系の疾患	60	34	94	1.4%	5.7
VII	眼および付属器の疾患	241	231	472	7.2%	1.9
VIII	耳および乳様突起の疾患	11	17	28	0.4%	5.1
IX	循環器系の疾患	361	262	623	9.5%	15.3
X	呼吸器系の疾患	379	185	564	8.6%	19.5
X I	消化器系の疾患	415	284	699	10.7%	10.2
X II	皮膚および皮下組織の疾患	33	45	78	1.2%	14.1
X III	筋骨格系および結合組織の疾患	79	107	186	2.8%	24.1
X IV	尿路性器系の疾患	151	127	278	4.2%	11.7
X V	妊娠、分娩および産褥	0	0	0	0.0%	0.0
X VI	周産期に発生した病態	0	0	0	0.0%	0.0
X VII	先天奇形、変形および染色体異常	1	4	5	0.1%	3.2
X VIII	症状、徴候および異常所見	9	2	11	0.2%	6.7
X IX	損傷および中毒	197	268	465	7.1%	16.8
XX I	保健サービス	1	2	3	0.0%	5.0
XX II	特殊目的用コード (原因不明の新たな疾患の暫定分類)	183	118	301	4.6%	13.4
合 計		3,751	2,801	6,552	100.0%	13.9

5. 疾病大分類別・診療科別退院患者数

(人)

疾病大分類		科 名														合 計	
		糖内	血内	緩和	消化	循環	呼吸	呼・外	外科	整形	産婦	小児	眼科	皮膚	形成	耳鼻	泌尿
I	感染症および寄生虫症	1	21	1	69	20	44		3	4		13		32	3		5
II	新生物	22	325	168	884	1	298	87	206	6	19	1	2		8		168
III	血液および造血器並びに免疫障害		35	1	12	6	4	4	3	2		2					1
IV	内分泌、栄養および代謝疾患	198	6		30	14	3		1	1		6					1
V	精神および行動の障害				1	2			1			1					
VI	神経系の疾患	1	4		6	7	68			4		2		1	1		
VII	眼および付属器の疾患												467		5		
VIII	耳および乳様突起の疾患		4		15	8	1										
IX	循環器系の疾患	3	5		28	571	6		2	3				3	2		
X	呼吸器系の疾患	2	19		46	43	397	25	4	3		24		1			
X I	消化器系の疾患	1	4	4	472	5	3		206			2					2
X II	皮膚および皮下組織の疾患				4	2			2			4		57	8		1
X III	筋骨格系および結合組織の疾患	1	4		4	2	19	1		151		1		2	1		
X IV	泌尿性器系の疾患	5	9		37	56	12	1	6	1	9	2				140	
X V	妊娠、分娩および産褥																
X VI	周産期に発生した病態																
X VII	先天奇形、変形および染色体異常					1							2		2		
X VIII	症状、徴候および異常所見						10		1								
X IX	損傷および中毒	3	5		13	19	2	8	1	388		5	7	5	9		
XX I	保健サービス		3														
XX II	特殊目的用コード (原因不明の新たな疾患の暫定分類)	28	2			9	260			2							
合 計		265	446	174	1,621	766	1,127	126	436	564	28	63	478	101	39	0	318
																	6,552

6. 疾病大分類別・転帰別退院患者数

疾病大分類	転 帰	治 癒		軽 快		不 変		悪 化		死 亡		検 査		医 転		そ の 他		合 計
		件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	
I	感染症および寄生虫症	16	7.4%	158	73.1%	1	0.5%		0.0%	16	7.4%	10	4.6%	15	6.9%		0.0%	216
II	新生物	6	0.3%	1,701	77.5%	12	0.5%		0.0%	237	10.8%	198	9.0%	39	1.8%	2	0.1%	2,195
III	血液および造血器並びに免疫障害		0.0%	53	75.7%		0.0%		0.0%	12	17.1%	2	2.9%	3	4.3%		0.0%	70
IV	内分泌、栄養および代謝疾患	4	1.5%	224	86.5%		0.0%		0.0%		0.0%	15	5.8%	16	6.2%		0.0%	259
V	精神および行動の障害	2	40.0%	2	40.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%	1	20.0%		0.0%	5
VI	神経系の疾患	1	1.1%	35	37.2%		0.0%		0.0%		0.0%	53	56.4%	5	5.3%		0.0%	94
VII	眼および付属器の疾患		0.0%	471	99.8%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%	1	0.2%		0.0%	472
VIII	耳および乳様突起の疾患	5	17.9%	23	82.1%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%	28
IX	循環器系の疾患	2	0.3%	527	84.6%		0.0%		0.0%	26	4.2%	16	2.6%	51	8.2%	1	0.2%	623
X	呼吸器系の疾患	31	5.5%	397	70.4%		0.0%		0.0%	58	10.3%	7	1.2%	71	12.6%		0.0%	564
X I	消化器系の疾患	18	2.6%	611	87.4%		0.0%		0.0%	15	2.1%	21	3.0%	31	4.4%	3	0.4%	699
X II	皮膚および皮下組織の疾患	2	2.6%	70	89.7%	1	1.3%		0.0%		0.0%	1	1.3%	3	3.8%	1	1.3%	78
X III	筋骨格系および結合組織の疾患	2	1.1%	138	74.2%		0.0%		0.0%	3	1.6%		0.0%	43	23.1%		0.0%	186
X IV	泌尿器系の疾患	7	2.5%	246	88.5%	1	0.4%		0.0%	4	1.4%		0.0%	20	7.2%		0.0%	278
X V	妊娠、分娩および産褥		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%	0
X VI	周産期に発生した病態		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%	0
X VII	先天奇形、変形および染色体異常		0.0%	5	100.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%	5
X VIII	症状、徴候および異常所見		0.0%	8	72.7%		0.0%		0.0%		0.0%	3	27.3%		0.0%		0.0%	11
X IX	損傷および中毒	7	1.5%	305	65.6%	1	0.2%		0.0%	2	0.4%	2	0.4%	147	31.6%	1	0.2%	465
XX I	保健サービス		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%	3	100.0%	3
XX II	特殊目的用コード (原因不明の新たな疾患の暫定分類)	165	54.8%	75	24.9%		0.0%		0.0%	13	4.3%		0.0%	48	15.9%		0.0%	301
合 計		268	4.1%	5,049	77.1%	16	0.2%	0	0.0%	386	5.9%	328	5.0%	494	7.5%	11	0.2%	6,552

7. 科別死亡数および剖検数

科 名	死 亡 数 (人)	剖 検 数 (人)	剖 検 率 (%)
糖 尿 病・内 分 泌・ 生 活 習 慣 病 科	1		0.0
血 液・腫 瘍 内 科	41	4	9.8
緩 和 科	158		0.0
消 化 器 科	46	1	2.2
循 環 器 科	31		0.0
呼 吸 器 科	87		0.0
呼 吸 器 外 科	3		0.0
外 科	12		0.0
整 形 外 科	1		0.0
産 婦 人 科	3	1	33.3
小 児 科			0.0
眼 科			0.0
皮 膚 科			0.0
形 成 外 科			0.0
耳 鼻 咽 喉 科			0.0
泌 尿 器 科	5		0.0
救 急 外 来	8		0.0
合 計	396	6	1.5

* 救急外来患者を含む為、退院患者死亡数（転帰）とは異なる

VI 診療科・部門別活動実績

糖 尿 病 内 分 泌 ・ 代 謝 内 科

<スタッフ>

常 勤	金子至寿佳（部 長）
	本橋 和也（医 員）京都大学附属病院 糖尿病・内分泌・栄養内科で研修中
非常勤	徳本 信介（医 師）
	大杉 友顕（医 師）
	上羽 瑤子（医 師）
	南 朋子（医 師）

<令和 3 年度活動実績>

1. 糖尿・代謝疾患

1-1. 地域の糖尿病医療の基幹病院

血糖値管理のみならず糖尿病患者における心血管病変、脳血管病変、そしてがんのスクリーニングを糖尿病診療の基本とする。

2007 年より高槻市医師会主導糖尿病地域連携パスの運営委員および小委員会（糖尿病）の委員長として、全国に先駆けて構築し、当院における糖尿病患者の心血管病変、脳血管病変、そしてがんのスクリーニングも糖尿病診療の基本として地域連携パスの中に盛り込み浸透することに貢献した。高槻医師会糖尿病地域連携パスについて、日本医師会糖尿病対策会議（東京）、糖尿病総会シンポジウム、アメリカ糖尿病学会、国際内分泌学会、大阪府医師会で紹介、関係紙にも寄稿し他地域での連携パス構築の際の参考にしていただいた。2018 年からは毎年 11 月の世界糖尿病デイには、高槻市医師会主催で高槻市保健所健康づくり課とともに小委員会を中心に開催し糖尿病を発症予防の啓発イベントを開催している。

1-2. 一般診療

チーム医療を基本とし指導を治療の中心においている。

入院患者については、患者とその家族を交えたチームカンファレンスを行い 20 年以上が経過している。外来患者について、専任看護師・専任栄養士による糖尿病腎症透析予防指導、その成果を得ることができている。

1 型糖尿病ではカーボカウント、持続血糖モニタリングそしてインスリンポンプを使用し専門的治療を提供、2 型糖尿病、肝性糖尿病、膵性糖尿病、ステロイド性糖尿病や特殊な糖尿病（妊娠糖尿病、MODY、内分泌疾患に伴う 2 次性糖尿病ミトコンドリア異常症、Werner 症候群など）など専門医としてすべてのタイプの糖尿病を網羅しかかりつけ医と連携パスを通じて地域の糖尿病診療を先導する役割を担っている。遺伝子異常など特殊な糖尿病については京都大学と連携し遺伝子検査を行っている。全国講演の演者、依頼に基づき執筆を行い糖尿病の知識向上に貢献している。

1-3. 他科との連携

- ・ 大小血管症について眼科・循環器科・腎臓内科との連携以外に、糖尿病はがん罹患率も上昇させるため、糖尿病診療を目的に受診する患者さんからがんを積極的にスクリーニングし、安全に手術を終えるためにも術前の糖尿病に関わる大小血管症の評価、そして周術・化学療法の血糖管理に専門的に携わる。
- ・ 糖尿病患者では骨折率も上昇する。救急入院時からの術前合併症評価、血糖管理にも対応し整形外科と連携している。また予定手術については術前の糖尿病に関わる大小血管症の評価を担う。
- ・ 各地域において医師、薬剤師、看護師そして栄養士ほか医療関係者を対象に、糖尿病専門講演の依頼に応じて講演を行っている。
- ・ 世界的重要な治験にも多く参加し、新規糖尿病薬について全国的なオピニオンリーダーの演者として役割を果たしている。
- ・ 2017 年より日本糖尿病学会 第 4 次「対糖尿病 5 ヶ年計画」作成委員を務めた。

治療内容（令和 3 年度）

・ 糖尿病患者に対する外来栄養指導	95 件
・ フットケア外来	528 件
・ 透析予防指導	1 件
・ 糖尿病患者に対する自己注射外来導入	171 件（延べ導入件数 3985 件）
・ 教育入院実施件数	158 件（およそ 13 泊 14 日で施行）
・ インスリン等自己注射実施患者数	677 人
・ インスリンポンプ療法（CSII）使用者	5 人

2. 内分泌疾患

地域における内分泌代謝疾患の専門診療を担っている。甲状腺疾患および副腎疾患を中心に、電解質異常を契機に見つかる内分泌異常や稀なため見過ごされがちな内分泌疾患を見出し適切に診断し専門的治療を地域に提供、貢献している。

・ 副腎

地域で唯一副腎静脈サンプリングを 10 年前から行っている。手術が必要なクッシング症候群や原発性アルドステロン症は、当院泌尿器科に依頼、腹腔鏡下手術を行っていただいている。手術標本については専門的な診断が必要であるため東北大学と提携することで診断の質を維持し、副腎疾患については当地域では重要な役割を担っている。

・ 甲状腺疾患（バセドウ病・橋本病、甲状腺腫瘍など）・副甲状腺疾患

一般的な甲状腺疾患の以外に、甲状腺眼症のステロイドパルス治療＋球後放射線治療など専門的な治療を行っている。甲状腺腫瘍については耳鼻科と協力して FNA を行い地域の診療所の依頼に対し役割を果たしている。

見逃されやすい副甲状腺疾患については尿路結石や血清 Ca 血症異常を契機に診断し手術に送っている。

・ 脳下垂体疾患についての精査、加療を行っている。

症例内容（令和2年度）

- ・ 副腎腫瘍
- ・ 原発性アルドステロン症
- ・ クッシング症候群
- ・ 副腎静脈サンプリング 6件
- ・ 副甲状腺亢進症、副甲状腺腫瘍

3. 臨床研究・臨床試験

- ・ 世界的に重要な新規薬剤の治験を主に請け負い、世界共同治験に参加を続けている。日本の治験を先導し全国規模の教育講演の演者の招聘をうけている。
- ・ 海外における治験スタイルを当院でも推し進めることを目指している。すなわちレジデント時代から治験を経験し、臨床的立場から新薬の開発に携わることを教育する。若手医師も臨床研究を経験しグローバルな視点と責任、そして公的に発表していくという臨床研究の基本を育てることを目指している。

論文発表 英語論文3本（Peer-reviewed 雑誌）うち最も評価の高い世界五大医学雑誌の一つ **THE LANCET (2021,398 p143-155)** の共著者にも入る。また外国の医学専門雑誌から review の執筆依頼 **Expert opinion pharmacotherapy(2021 22(16): p2235-2249 DOI:10.1080/14656566.2021.1974401** もうける

教 育：

日本内科学会認定医、日本内科学会認定総合内科専門医・指導医

日本糖尿病学会認定専門医・指導医、近畿支部評議員

日本内分泌学会認定内分泌代謝専門医・指導医

日本老年病学会認定専門医・指導医・評議員

日本内科学会認定医制度教育施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本内分泌学会認定教育施設、日本老年医学会認定教育施設

研修医教育では、「今だけの医療を提供するのではなく、患者さんの今後進みゆく姿を想像して患者さんを取りまく生活すべてが幸せになるよう医療を施すことを目指す。また正直で誠実であること。」を指導する。

そのうえで、日常的に覚えることなく、考える力を身につけることを意識して教育を行っている。一般内科診療を土台に、専門性の教育を行うことを目指す。技術的な面では1、2年目研修医には学会発表を通じて症例をまとめることと発表の重要性を学んでいただいている。狭い視野で医療を施すのではなく、機会があれば国際学会で報告、情報収集を行い最新の診療を心がけている。

緩和ケア科

<スタッフ>

橋本 典夫（緩和ケア科部長）

金村 誠哲（緩和ケア科副部長）

スタッフに関しては平成 30 年 9 月より 2 名体制となっている。

<令和 3 年度活動実績>

日本ホスピス緩和ケア協会による「ホスピス緩和ケア病棟における質向上の取り組み認証制度」に認定されており継続的に施設評価されている。また日本緩和医療学会の認定研修施設にも引き続き認定され研修教育活動も継続している。

令和 2 年度に関しては病院全体としてコロナ感染症蔓延のため紹介患者数はかなり減少し、入院患者数は減少していた。またコロナ感染症専用病棟のためスタッフ減員となり令和 3 年 9 月より 20 床運用から 10 床運用に減少した。そのため入院延べ患者数は 4305 名と令和 2 年度の 5406 名から減少したが病床数削減を回転率稼働率向上により緩和している。

コロナ感染症蔓延のため本館は面会禁止の状態ではあるが、当院緩和ケア病棟は独立型であり全室個室の特徴を生かし、時間や人数制限はあるが面会可能としており患者さんご家族さんのケア向上に役立った。ただ面会希望のご家族への検温含めた対応やコロナ診療班としての参加、コロナ重症患者対応のための休日のオンコール対応などスタッフの業務量は増加した。

学会・研究会活動としては、地域の緩和ケアネットワークの勉強会として、「緩和ケアを語る会」の世話人として参加し、地域での在宅医との「顔の見える関係づくり」に努めた。また大阪府指定がん診療連携拠点病院として三島圏域がん研究会の幹事としての活動を行った。

<令和 4 年度活動目標>

できるだけ多くの患者に良質な緩和ケアを提供するため、

1. 緩和ケア病棟の病床稼働率を維持する
2. 待機患者、待機日数を短縮する
3. 地域の医師と連携を図り、バックアップの役割を担う
4. 学会・研究活動の充実
5. 緩和ケア研修会の開催

血液腫瘍内科

<スタッフ>

田嶋 政郎（名誉院長）：血液内科
安齋 尚之（部長）：血液内科
岡田 睦実（副部長）：血液内科
坂本宗一郎（副部長）：血液内科
恩田 佳幸（副部長）：血液内科
丹羽涼太郎（常勤）：血液内科

<令和3年活動実績>

病床数	48 床
入院症例数	175 例（新患 102 例）
悪性リンパ腫	58 例（新患 30 例）
急性白血病	42 例（新患 23 例）
多発性骨髄腫	23 例（新患 17 例）
骨髄異形成症候群	25 例（新患 7 例）
再生不良性貧血	12 例（新患 12 例）
特発性血小板減少性紫斑病	5 例（新患 5 例）
その他	10 件（新患 8 例）
造血幹細胞移植件数	22 件
自家移植	4 件
同種移植	18 件（臍帯血 16 件、血縁 2 件）

当科では、白血病・リンパ腫・骨髄腫などの造血器腫瘍の他、貧血・血小板減少症などの診療を行っており、血液内科医に加え、がん化学療法認定看護師をはじめとした看護師スタッフ、がん専門薬剤師、臨床工学技士、理学療法士、臨床心理士、HCTC 等がチームとなり安心して治療に専念できる環境を整えています。

造血器疾患の中には同種造血幹細胞移植以外に根治の方法が無いことも多く可能な限り移植治療を提供できるように考えています。当院の特色として優れた GVL 効果と安全性から臍帯血移植を主体に移植治療を施行しています。一般には移植不適応とされる 70 歳以上の高齢者にも全身状態が移植に耐えうると判断すれば移植を実施しています。高齢者の臍帯血移植に関しては全国的にも有数の症例数になります。他院で移植治療を断念された患者さんが遠方から紹介されるようになっています。

また積極的な治療の対象となりにくい患者さんには、個々の症例に基づいて、初期の段階から緩和的治療を含めてきめ細やかな対応を心掛けています。

循環器科

<スタッフ>

大中 玄彦（部長）：循環器内科（認定内科医、循環器専門医、心臓リハビリ指導士、老年病専門医）
岡本 文雄（医師）：救急部部長（認定内科医、循環器専門医、救急科専門医）
木澤 隼（副部長）：循環器内科（認定内科医、循環器専門医）
土居 裕幸（医師）：循環器内科（認定内科医）
平野 玄起（医師）：循環器内科（認定内科医）
森 京子（医師）：循環器内科（認定内科医）
神末 真由（医師）：循環器内科（認定内科医）
沼田ありさ（医師）：循環器内科（認定内科医）
大塚 宏治（非常勤医師）：循環器内科（内科専門医、循環器専門医）
片桐 直子（非常勤医師）：循環器内科（認定内科医）

循環器疾患全体を扱い、高血圧、脂質代謝異常症などの生活習慣病から急性心筋梗塞、急性心不全、致死性不整脈疾患、心筋炎などの急性疾患まで幅広い疾患を診療し、一般的な生理検査機器や造影検査はもちろんのこと非侵襲的に冠動脈疾患や心筋疾患の評価が可能な RI 検査、80 列 CT 検査、MRI 検査機器を揃えている。さらに心筋梗塞や急性心不全などの緊急を要する患者の治療に対してはコメディカルスタッフの協力のもと 24 時間・365 日体制で診療にあっている。また、当院は心臓リハビリテーション実施施設であり、年間 416 症例の心臓リハビリを介入し、病気の再増悪で再入院の予防に努めている。外科領域においても大阪医科大学心臓血管外科との合同カンファレンスを行い重症患者の治療方針につき検討し、患者さんにとっての最適な治療を提供している。

<令和 3 年度活動実績>

外来患者延数	12,848 人	入院患者延数	12,040 人
心臓カテーテル検査・処置総数			: 133 件
冠動脈インターベンション治療			: 141 件
ペースメーカー植込み術			: 31 件
末梢血管形成術（含む透析シャント PTA）			: 10 件
IABP 施行件数			: 1 件
PCPS			: 0 件
心臓リハビリテーション			: 416 件

消化器科・消化器内視鏡センター

<部 長>

神田 直樹 (消化器内科部長・消化器内視鏡センター長)

<スタッフ>

玉田 尚 (副院長)

吉岡 拓人 (副部長)

吉見 宏平 (救急部副部長兼任)

池田 宗弘

松村大志郎

中森 翔平

矢倉 伊織

奥野 岳

武林 理沙

<異 動>

令和3年4月 武林 理沙 (着任)

令和3年7月 奥野 岳 (着任)

令和3年9月 矢倉 伊織 (退任)

<令和3年度活動実績>

当院消化器科は日本消化器病学会・日本消化器内視鏡学会の認定指導施設で、3年度は下記の通りの検査・治療数を施行している。高度な検査・治療に対応するために開設した消化器内視鏡センターでは、指導医3人、専門医4人(指導医含む)、内視鏡技師資格をもつ看護師2人を有し、年間約5000件の内視鏡検査を行い、早期癌治療・胆道系処置・止血処置などの治療内視鏡も年間500件を越えている。

消化管の内視鏡治療では、早期胃癌のESD(内視鏡的粘膜下層剥離術)は3年度43例、これまでに812例を施行、大腸腫瘍に対するESDも、先進医療の時から施設認可を取得し、3年度34例、これまでに412例と、いずれも北摂屈指の施行数となっている。これに加え、患者様が苦痛なく検査・処置を受けて頂けるよう最新鋭の経鼻内視鏡 Olympus 290Nを導入し、大腸内視鏡では積極的に鎮静下内視鏡を行うことで「痛くない大腸内視鏡」が可能となり、さらに挿入が困難な患者様にはカプセル内視鏡検査も実施可能な体制を整えている。

胆膵系の内視鏡検査・処置では、超音波内視鏡ガイド下穿刺(EUS-FNA)システムを導入し、超音波内視鏡検査だけでなく、EUS-FNAによる細胞診が可能となっている。

また、数年来、緊急内視鏡が増加し、3年度には、内視鏡的止血術は68例、緊急施行の多い内視鏡的逆行性胆膵管造影(ERCP)も146例となっている。

さらに、外科と共同し胃粘膜下腫瘍の低侵襲治療であるLECS(Laparoscopy and Endoscopy Cooperative Surgery=腹腔鏡・内視鏡合同手術)も施行するなど、最先端の医療に取り組んでいる。

肝臓領域では、TACE(Transcatheter Arterial Chemo-Embolization= 肝動脈化学塞栓術)、RFA(radiofrequency ablation= ラジオ波焼灼術)、抗がん剤治療を症例に応じて適切に施行し、C型肝炎に対するインターフェロンを使わない内服治療も積極的に行っている。

消化器癌の化学療法は、日進月歩で、様々な薬剤、レジメンが開発されており、切除不能消化器癌の平均生存期間も飛躍的に延長している。当科では、消化器癌の化学療法も、外来化学療法室と協力し積極的かつ安全に施行している。

近年増加している消化器疾患として炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎・クローン病）があり、生物学製剤の使用が急増するなど治療法が著しく発展している分野だが、この領域についても専門医が安全かつ効果的に治療を行っている。

また、学会活動も、医師・医療従事者が研鑽するために必要だが、当科では、日本内科学会・日本消化器病学会・日本消化器内視鏡学会の総会や地方会シンポジウム、日本超音波医学会などで積極的に発表を行っている。

＜令和3年度患者数＞

新規入院患者数 1,645 人、入院患者延数 15,138 人、外来患者延数 15,034 人、

＜令和3年度検査・処置症例数＞

上部消化管内視鏡検査	2,879
下部消化管内視鏡検査	1035
胃の内視鏡的粘膜下層剥離術 (ESD)	43 (開始から 812)
大腸の内視鏡的粘膜下層剥離術 (ESD)	34 (開始から 412)
食道の内視鏡的粘膜下層剥離術 (ESD)	11 (開始から 105)
大腸ポリープ切除 (polypectomy/EMR)	522
内視鏡的逆行性膵胆管造影 (ERCP)/ 内視鏡的総胆管結石除去 / 内視鏡的胆管ドレナージ・ステント留置	146
超音波内視鏡	116 (EUS-FNA 30)
内視鏡的消化管止血術	68
小腸カプセル内視鏡	15
小腸ダブルバルーン内視鏡	14

＜令和4年度活動目標＞

新規入院患者数・検査・処置数・化学療法数の増加を図り、それぞれの領域について質の高い医療を目標とする。当院は ESD を積極的に行っており、特に実施施設基準の必要な大腸 ESD も施行可能基準を満たしており、ますます症例数の増加を図っていく。また、消化管では、最先端の Olympus Lucera Elite シリーズ内視鏡により、精緻な診断・治療を行い、胆道系処

置についても、超音波内視鏡ガイド下穿刺細胞診 (EUS-FNA) が施行可能となり、症例数の増加を図っていく。また、導入が決まった最新の経鼻内視鏡 290N により「楽に受けられる上部消化管内視鏡」をアピールし、健診など含め上部消化管内視鏡の症例数も増加させるよう努める。一方、最近導入したカプセル内視鏡・バルーン小腸内視鏡の症例数の充実も図っていく。さらに、近年ニーズが高く、下部消化管内視鏡検査のオープン検査を増やしていく予定である。

また、消化器癌の化学療法の分野でも、様々な薬剤、レジメンが開発されており、それらを積極的かつ安全に施行していく。肝臓の分野においても、26 年度には genotype 1 型に対し、C 型肝炎のインターフェロンを使わない治療が保険適応になったが、27 年度には genotype 2 型に対する薬剤も保険適応となり、これらも積極的に施行していく。肝臓癌治療においても、TACE だけでなく RFA 症例の増加も目標としており、また新規抗癌剤のレンバチニブの使用も開始するなど、放射線科や超音波検査室と連携して肝臓癌の早期発見に努めていく。

神 経 内 科

<スタッフ>

玉田 尚（副院長兼部長）

中村 正孝（非常勤医師）

小松 研一（非常勤医師）

殿村 修一（非常勤医師）

酒巻 春日（非常勤医師）

戸田真太郎（非常勤医師）

月田 和人（非常勤医師）

<臨 床>

脳梗塞症例については緊急の血栓溶解療法の適応でない症例について入院加療を行った。また地域連携パスの一環として、脳梗塞パスも行い地域医療にもたずさわり、地域医療に貢献している。

<研 修>

騎馬戦型高齢化社会に向けて、近い将来脳梗塞は神経内科専門医のみならず内科系一般医も診療にあたる必要が出てくるため研修の一環として若手医師に担当としていただくシステムをとっている。

呼 吸 器 外 科

<スタッフ>

菅 理晴（呼吸器外科部長）：呼吸器外科専門医、胸部外科学会指導医

気管支鏡指導医、外科専門医、がん治療暫定教育医、

日本医師会認定産業医、CT 肺癌検診認定医、

人間ドック認定医、遺伝学的検査アドバイザー

豊原 功侍（医師）：

<特 色>

呼吸器センターとして呼吸器内科と協力しながら診断から治療までを包括的にかつ迅速に行っています。手術症例ではクリニカルパスを導入し、医療安全の向上や業務の効率化を図っています。手術は肺癌症例を含め完全胸腔鏡下手術を基本としています。また手術時の縦隔鏡検査や胸腔洗浄細胞診により、正確な病期診断・適切な治療方針の決定に努めています。術前～術後にはリハビリ科に呼吸リハビリを行って頂き、呼吸機能の改善・術後合併症の予防に努めています。当院は呼吸器外科専門医制度の関連施設、大阪府癌拠点病院であり、肺癌の治療では手術はもとより術前導入化学放射線治療や術後補助化学療法、再発癌に対する集学的治療も積極的に行い、治療成績の向上に努めています。

<令和 3 年度活動実績>

令和 3 年度は COVID-19 感染拡大の影響で当科患者数も減少しました。手術は京大から大学院生に応援に来てもらい、全体の 90%以上を完全胸腔鏡下で行うことが出来ました。全手術件数は 76 件、全麻が 72 件で前年度から大幅に減少しました。手術の内訳は肺癌 38 件、縦隔腫瘍 6 件、気胸 9 件などでした。化学療法は 52 症例（入院化学療法：24 症例、外来化学療法：28 症例）施行しました。施行件数はやはり昨年度からは大きく減少しました。

<令和 4 年度の目標>

令和 3 年 6 月からは大阪医大胸部外科より新たに呼吸器外科医師が赴任いたしました。当科は少数精鋭ではありますが、地域医療機関との連携を強化し呼吸器内科と協力しながら地域の呼吸器（特に肺癌）診療のニーズに答えていきたいと思っております。手術は引き続き完全胸腔鏡下手術を積極的に行い、より低侵襲で安全な術式を追求します。病院の経営状況が厳しい中ではありますが、新しいデバイスの導入や更なる術式の改良に取り組みたいと思っております。呼吸器外科診療も急速に進歩していますので、EBM を基本としながらも最新の知見を速やかに導入し、患者さんに最適な医療を提供していきます。

呼 吸 器 科

<スタッフ>

北 英夫（呼吸器センター長）S62 卒

京都大学臨床教授。京都大学医学博士

日本内科学会認定内科専門医・指導医・近畿支部評議員

日本呼吸器学会専門医・指導医・代議員

日本アレルギー学会専門医・指導医

日本呼吸器内視鏡学会専門医・指導医

日本癌治療認定機構がん治療認定医・

日本呼吸ケアリハビリテーション学会評議員

日本結核病学会 代議員

中村 保清（副部長）

日本内科学会認定内科専門医 日本呼吸器学会専門医

日本アレルギー学会専門医 日本呼吸器内視鏡学会指導医 ICD

深田 寛子（副部長）

日本内科学会総合内科専門医・指導医 日本呼吸器学会専門医

日本癌治療認定機構がん治療認定医、ICD

野溝 岳（副部長 R3.7-）

京都大学医学博士 日本内科学会認定医 日本呼吸器学会専門医

村山 恒俊（医員）

日本呼吸器学会専門医 日本内科学会総合内科専門医

山本 晴香（後期研修医）

令和 3 年 4 月 滋賀医科大学付属病院から当院へ赴任

<非常勤医>

長谷川浩一 R3.7 から京都大学付属病院へ異動 当院は非常勤医となる。

京都大学医学博士日本内科学会総合内科専門医・指導医 日本呼吸器学会専門医

<令和 3 年活動実績>

令和 2 年 3 月に出現した新型コロナウイルス Pandemic により、呼吸器内科病棟はコロナ専用病棟となり、当院は軽症、中等症病床として、第 4 波時で最大 26 床の運用を行ってきたが、その多くを呼吸器内科が担当してきた。この間 2022.3 までに計 485 人の患者を受け入れてきた（2021.4-2022.3 308 人）。また、院内のクリニカルパスを作成し、治療の統一化マニュアル化を図ることにより内科を中心とした他科の Dr や夜間休日の日当直、挿管チーム等の協力を得て、通常の呼吸器診療との両立を継続することが可能であった。また、外来においてはコロナ罹患後症状いわゆる後遺症が問題となっており、呼吸器症状を中心に対応してきた。

一方、Pandemic 期においては COPD, 喘息などの気道疾患を中心に従来の呼吸器疾患患者

の減少が報告されており、ここ 2－3 年当院でもその影響がみられた。

外来は月曜から金曜までで、気管支鏡検査は火曜日、金曜日の午後 2 時から行っており、CT ガイド下生検も月曜日の午後 3 時から行っている。月に 1 回、火曜日に近隣の医師と合同で公開カンファレンスを実施している。

- ・呼吸器科における外来患者数（前年）

1 日当たり平均 55.1 人／日 (53.5) ×外来診察日：週 5 日日間

- ・呼吸器科入院病床数・患者数・平均在院日数（前年）

呼吸器科入院病床数（定数） 45 床

実際の入院患者数（平均） 35.7 人／日 (31.9) COVID を除く

平均在院日数 13.2 日 (13.2) COVID を除く

新入院 730 (785) COVID を除く

- ・気管支鏡検査数 190 件（187）

呼吸器外科とともに呼吸器センターとして外科と内科の垣根をなくして診療にあたり、常に呼吸器内科全般の最新の治療を行えるように研鑽を積んでいる。慢性呼吸不全における在宅酸素療法は 80 例程度、在宅人工呼吸療法 26 例（NPPV を含む）睡眠時無呼吸症候群の夜間睡眠ポリグラフ検査（PSG）年間 80 例、鼻 CPAP 年間 20 例程度導入しており、気管支喘息クリニカルパス入院例、慢性呼吸不全患者に対する包括的呼吸トレーニングプログラム入院等を行っているが、一般診療においては Pandemic の影響を受け、例年よりも減少を認めた。

肺癌診療については、大阪府がん診療拠点病院として他科や他職種と連携しながら治療効果と生活の質（QOL）の両立にも取り組んでいる。近年、PD-1 阻害薬、各種分子標的薬などの次々と新規薬剤が上市され、この分野の進歩は著しい。これらの薬剤を確実に安全に使用するため、副作用マネージメントを含めた院内クリニカルパスや薬剤師外来など他職種や他科とも連携して副作用対策にあたっている。また、今年度より保険診療となった遺伝子パネル検査についても、病理との緊密な連携により初診時の気管支鏡検査検体での施行が可能となっており precision medicine を実践している。また、標準治療終了時にも検体採取が可能であれば大阪国際がんセンター等のゲノム外来と連携し、パネル会議を経て、新たな治療に結び付いた症例も経験している。その他、気道閉塞を生じた手術不能の肺がんや食道がんに対して金属ステントの留置により QOL の改善を図っている。また、高槻市の肺がん検診の読影会への参加や多施設共同臨床研究にも積極的に参加をしている。

肺がん治療において早期からの緩和ケアが必須のものとなっている。がん診療に携わる医師のため緩和ケアの教育プログラムは全国で実施され、当科スタッフも全員修得済みである。診断時よりがん相談センター、院内緩和ケアチームと連携し、疼痛管理を中心とした支持療法のみならず、全人的苦痛に対応すべく取り組んでいる。また、患者さんのご希望に応じて、緩和ケア病棟の利用は言うまでもなく、社会ケースワーカーや退院調整看護師、地域医療連携室、

訪問看護ステーション等と、地域の診療所と連携した在宅管理も行っており、終末期への体制も整備されてきている。

その他の多彩な呼吸器内科疾患についても確立された Up to date な治療を心がけている。気管支喘息患者には吸入ステロイドを中心とした治療を行い、入院の必要な例にはクリニカルパスを用いた教育指導を行い、自己管理を目指している。外来では当院独自の外来喘息教育プログラムを作成し、看護師による吸入指導とピークフローメータを用いた自己管理の指導を行い、更に吸入指導については近隣の薬局とも連携して行っている。また、H24年度よりはアレルギー性気道炎症の指標としての呼気 NO 測定や特殊な肺機能検査であるモストグラフを用いて症状だけに頼らず、客観的指標による喘息コントロール状態の評価に努めている。また、従来の吸入薬でコントロール不良の重症喘息にて対しては積極的に omalizumab や抗 IL5 抗体薬や抗 IL4/13 抗体薬などの分子標的薬を使用している。気管支鏡による温熱療法もすでに全国で臨床導入されており、当院でも第一例は滋賀医科大学に依頼する形で導入例を経験し、今後当院で施行できるように行っていく。

外来初診で多い遷延性咳そうには診断のアルゴリズムを作成し、咳喘息の他、逆流性食道炎、百日咳などの早期発見に留意している。また、咳嗽、呼吸困難、胸痛などを呈するコロナ罹患後症状についても各科の協力を得ながら、積極的に対応している。

COPD を中心とした、慢性呼吸器疾患には肺機能検査や CT による早期発見と禁煙外来との連携による、禁煙指導、気管支拡張薬を中心とした治療を行っている。進展期にはリハビリテーション科、栄養科、薬剤部等とのチーム医療による、包括的リハビリテーションプログラム入院を行い、さらに、地域の診療所との連携による継続を図っている。また、H26年4月より慢性疾患専門看護師による HOT 患者を中心とした看護外来、ほっとひといき外来を開始し、慢性呼吸器疾患患者に対する、より包括的できめ細かな対応が可能になった。

また、ハイフローネーザルセラピー (HFNC) の慢性 II 型呼吸不全を呈する COPD に対する在宅長期使用の多施設共同 RCT (FLOCOP 試験) に当院も 2016 年より参加し、この結果をもとに令和 4 年 4 月より在宅ハイフローセラピーが保険収載された。

睡眠時無呼吸症候群に対しては、個室使用による PSG 検査、簡易睡眠モニターを実施し CPAP 治療、口腔内装具による治療を行い、耳鼻咽喉科、糖尿病、生活習慣病科、栄養科とも協力し、合併症、肥満に対する治療を行っている。また、循環器科と協力して心不全に伴う睡眠呼吸障害に対し、ASV (assisted-servo ventilation) による最新の呼吸管理を行っている。

そのほか、あらゆる呼吸器感染症について対応している。肺結核についてはモデル病床 (3 床) により、陰圧隔離をおこなっている (現在はコロナ対応のため閉鎖)。また、近年著増している非結核性抗酸菌症については従来の薬物治療のみならず、栄養や環境に留意した管理、適応のある症例については手術治療も併用している。また、昨年度保険収載された ALIS (吸入アミカシンリポゾーム製剤) についてもトレーニングパスを作成し 1 例のみであるが導入している。

また、間質性肺炎については HRCT や気管支鏡検査により、原因検索に努め、膠原病内科とも連携して診断治療にあたっている。肺線維症を中心とした慢性線維性肺臓炎については pirfenidone や nintedanib などの抗線維化薬を積極的に使用している。

急性呼吸不全、急性肺障害、慢性呼吸不全の急性増悪等に対しては、HCUにおいて集中的な呼吸管理を行っており、挿管人工呼吸管理においては肺保護を考慮した低換気量による人工呼吸管理やリクルートメント手技などを行っている。また、問題となっている VAP(人工呼吸関連肺炎) 対策として NPPV (non-invasive positive pressure ventilation) による呼吸管理のみならず、陰圧式の人工呼吸器を用いての管理などを試みている。また、最新の酸素療法である Nasal High Flow therapy もいち早く導入し、QOL に留意した酸素化の改善が可能となった。また、敗血症などにもなう急性肺障害や肺線維症などの間質性肺炎の急性増悪にたいしては、従来の薬物治療のみならず、血液濾過によるエンドトキシン吸着療法 (PMX-DHP) や ECMO を行い、救命率の向上を目指している。

市中肺炎、院内肺炎については診療ガイドラインを踏まえながらも地域の病院として個々の症例に応じた診療と当院での薬剤感受性を考慮した適切な抗菌剤の使用に努めている。

また、当科は京都大学の学生臨床実習の協力科であり、年間数名の学生実習とその他希望により他大学からの実習を数名受け入れている。

当科は研修医にとっては非常に実践的な環境であると考えられる。豊富な症例に対応していただき、基本的な診療技術と基本的治療を経験してもらい、多彩な呼吸器疾患に対応しなくてはならない呼吸器内科医として成長できる環境を提供できると考えている。また、日本呼吸器学会、日本アレルギー学会、日本内科学会、日本呼吸器内視鏡学会の認定施設として総会、地方会での症例報告、研究発表等を行っている。大阪府内、北摂地域を中心とした多くの研究会や講演会での世話人、座長、講演などを務めている。

<令和 4 年度活動目標>

新型コロナ感染パンデミックが予想外に続き、現在 第 7 派の真っ只中の状況であるが、後遺症を含めたコロナ関連への対応と、肺癌、喘息、非結核性抗酸菌症、間質性肺疾患、慢性呼吸不全など新たな診断治療に対してもしっかりと取り組んでいきたい。

小 児 科

<スタッフ>

片山 博視（部長）
江口 英希（副部長 兼集中治療担当副部長）
中村 道子（医師）
古川 福実（常勤医師）
玉井 浩（非常勤医師）

<異 動>

なし

<令和3年度活動実績>

子どもたちが健やかな身体と心を保つことの出来る診療をモットーに北摂三島地域の基幹病院として、地域の開業医および他病院と連携を保ちながら小児科領域全般の診療に当たっています。また三島地区広域小児救急医療機関として積極的に救急車の受け入れを行っており、毎週水曜日には二次救急輪番病院として24時間小児科医が待機しています。

外来は月曜日から金曜日まで小児科領域の発達、疾病全般を幅広く行っています。

また専門外来は以下の通りです。

心臓外来	毎週木曜日午後
ダウン症・神経外来	第4週の月曜日午後
小児アトピー性皮膚炎外来	第2, 4週の金曜日午後
アレルギー外来	毎週月曜日午後

乳幼児健診	毎週月曜日午後
予防接種	毎週火曜日、水曜日午後

また救急は原則、全例、積極的に受け入れています。

外来患者数 2,581 人（1日平均 10.7 人）

入院患者数 302 人（新入院：76 人、退院：63 人） 在院日数：3.4 日

◆救急

患者数 90 人（時間内：24 人、時間外：52 人、深夜：14 人）

外科

消化器外科

<スタッフ>

- 平松 昌子 (副院長) 大阪医科大学臨床教育教授・非常勤講師
日本外科学会専門医・指導医
日本消化器外科学会専門医・指導医
消化器がん外科治療認定医
日本臨床外科学会幹事・評議員
日本消化器内視鏡学会専門医
日本食道学会食道外科専門医・食道科認定医・評議員
日本がん治療認定医機構認定医・暫定教育医
日本腹部救急医学会評議員・暫定教育医他
- 小林 稔弘 (乳腺外科部長)
日本外科学会専門医
日本乳癌学会専門医
日本消化器病専門医
検診マンモグラフィ読影認定医
- 恒松 一郎 (消化器外科部長)
日本外科学会専門医
日本消化器外科学会専門医
日本がん治療認定医機構認定医
ICD 制度認定者
- サンフォード 舞子 (医 師)
- 川口佳奈子 (医 師)
- 園村 純 (医 師)
- 虫 明修 (医 師)

<令和3年度活動実績>

上部・下部消化管の悪性疾患に対してその大半を腹腔鏡下手術によって行い、胆石症や鼠径ヘルニア、虫垂炎などの良性疾患では単孔式腹腔鏡下手術を標準術式としています。食道癌に対しては、北摂地域では数少ない食道外科専門医による腹臥位による完全胸腔鏡・腹腔鏡下の食道切除再建術を行い、食道胃接合部の癌に対しても低侵襲かつ根治性の高い手術が可能となっています。cStage I の胃癌に対しては幽門側胃切除・噴門側胃切除・胃全摘を問わず、切除・郭清から再建までの完全腹腔鏡下手術を行い、高度進行胃癌に対しては積極的な拡大手術や術前補助療法を併用して、根治性の向上を目指しています。大腸癌に対して多くを腹腔鏡下手術で行うことで入院期間の短縮につながっています。ストマ外来では専門の医師と皮膚・排泄ケア認定看護師がケアに当たっています。肝癌に対しても積極的に肝切除も行っており、胆石症

では単孔式腹腔鏡手術によりほとんど傷のない治療が可能となっています。当院は単孔式手術や4K内視鏡のような最新の技術を取り入れることで患者さまに質の高い医療を提供しています。また、化学療法の分野においても、最新のエビデンスに基づいた治療を外来化学療法室と連携して提供しています。

また、当院は大阪府がん診療拠点病院であり、治療法の決定に際してはガイドラインに沿った標準的治療法を提示することはもちろんのこと、個々の患者さまの背景やニーズに配慮したオーダーメイドの治療も提供しています。できるだけ外来通院で化学療法が行えるように専門看護師や薬剤師を配置した外来化学療法室を完備しています。我々は、かかりつけ医と連携をとりながら、がん診療の検査・診断から、手術や化学療法、終末期医療まで、様々な専門的な職種がチームとなって、ひとりひとりの心に寄り添った治療を行っております。

(主な手術件数)

食道切除再建術	1件(うち鏡視下手術 1件)
胃切除	22件(うち鏡視下手術 13件)
胃全摘	3件(うち鏡視下手術 1件)
結腸切除	29件(うち鏡視下手術 25件)
直腸切除	17件(うち鏡視下手術 14件)
肝切除	2件(うち鏡視下手術 0件)
膵切除	7件(うち鏡視下手術 0件)
胆のう摘出術	64件(うち鏡視下手術 60件)
虫垂切除	22件(うち鏡視下手術 22件)
鼠径ヘルニア	48件(うち鏡視下手術 40件)

<令和4年度活動目標>

それぞれの患者さまのニーズや病態を理解しながら、これまで導入してきた新しい手技や最新の知見をもって質の高い外科治療を提供していきます。また、他科や他職種を含めた勉強会やカンファレンスを通してチーム全体のスキルアップを図っていきます。学会や研究会活動も積極的に行い、当院からも新たな情報発信を目指します。

乳腺外科

<スタッフ>

小林 稔弘（部長）：乳腺外科

川口佳奈子：乳腺外科

<令和3年度活動実績>

乳房に関する良性（腫瘍、乳腺炎、女性化乳房症など）から悪性（癌、肉腫）の各種疾患に対して診断、治療を行っている。

本年度はスタッフの移動があり川口佳奈子医師が着任した。乳腺専門医の資格を有しており、乳腺専門医2名体制となった。日常診療をより強化することができ、コロナ禍においても例年並みの乳腺手術件数をこなすとともに転移再発患者の受け入れもスムーズに行えた。

乳腺疾患に対応する検査手段はMMG、US、CT、MRIなどの画像診断は完備している。特にMMGは検診で問題になる高濃度乳腺にも有効なトモシンセシス付きの最新鋭の機材を用いて、通常画像に加え、デジタル断層像が撮影でき活用している。不明瞭な病変の発見はもちろん、不要な追加検査を減らすことにも役立てている。

さらに検診発見の多い微小石灰化にも、最新デジタルステレオガイド装置を使用した吸引式針生検で精密かつ時間短縮もなし得ている。

乳腺手術は53例を行い、乳癌症例の6割に温存手術を選択し、乳房切除術を選択する場合も形成外科との乳房再建術のオプションも提示している。

良性疾患は観察可能な症例に無用な手術は行わないようにする一方、血性乳汁分泌に対する乳管腺葉区域切除の様な特殊手術も手掛けている。

薬物治療も、化学療法、ホルモン療法、分子標的療法、免疫チェックポイント阻害剤などの本邦で適応のある薬剤は全て導入している。さらに多施設共同試験にも参加しての治験も行った。

当院は外来化学療法室を有し、化学療法専門看護師、専門薬剤師とのチームで患者を支えるよう努力している。薬剤師外来の仕事も拡充し、点滴治療のみならず、内服抗がん剤における指導、チェックを行い、医師へフィードバックしている。

温存手術後や再発時に欠かせない放射線治療も放射線治療専門医や専任放射線技師、看護師とも連携して行うことを可能としている。

病理医の協力で、術中迅速病理検査でリンパ節転移の有無、断端診断を素早く行える体制を整えるとともに、希少例の発見などもあり、そのような場合は高次医療機関にコンサルテーションを得たりして、治療に役立てるとともに学会発表、論文作成など当科の活動が外部に伝わるように努めている。

さらに緩和科医師、看護師、心理士とも連携し、癌告知の日からでも、がん相談、心理的サポートが受けられる体制を構築し、運用している。

術後フォローも乳癌の場合、補助療法、観察が長期に及ぶ事情から、地域との連携を重視し、かかりつけ医にお願いしての病診連携にも取り組んでいる。

<令和4年度活動目標>

地域がん拠点病院にふさわしい診断、治療体制を維持する。

最近のがん医療の進歩は革命的な変換点を迎えようとしている。特に最新のゲノム関連の知見からもたらされる診断、治療に及ぼす変化は注目に値する。おそらく治療体系はこれまでの臨床病理学的な手法を過去のものとするであろうと思われ、また治療法においても免疫、分子標的関係の進歩が目覚ましい。当院においても遺伝子、免疫関連に対応できる体制を各科横断的に整えていく。

臨床治療をより強化していくのみならず、学会活動や地域と連携した公開講座の主催なども行い、当院の活動を内外に告知するべく努力したい。

受診者に喜ばれ安心してもらえるような病院にし、かつ地域医療機関との相互協力体制をより推進し、他院の信頼を得られるように努力していく。

脳 神 経 外 科

<スタッフ>

平松 昌子（副院長兼脳神経外科部長）

青山 育弘（非常勤医師）

池田 直廉（非常勤医師）

<令和 3 年度活動実績>

週 3 回（月・水・金曜日）一般外来診療、救急患者受け入れ、入院患者のコンサルトなどを行った。

外来患者延べ数 1032 人 / 年

整 形 外 科

＜スタッフ＞ ＊：日本整形外科専門医 #：日本リウマチ学会専門医

徳山 文人＊（部 長）：脊椎外科、外傷および整形外科一般

日本整形外科学会認定脊椎脊髓病医

伊丹 康夫＊（副部長）：肩・肘関節外科、外傷および整形外科一般

清水 博之（医 師）：整形外科一般

中嶋 建元（医 師）：整形外科一般

岸本 郁男＊#（非常勤医師）：大阪医科大学非常勤講師、股・膝関節外科、関節リウマチ

神谷 一成（非常勤医師）

市場 厚志（非常勤医師）

＜異 動＞

清水 博之 令和3年4月着任、令和4年3月退任

中嶋 建元 令和3年4月着任、令和4年3月退任

神谷 一成 令和3年4月着任、令和4年3月退任

＜専門外来＞

脊椎外来、肩・肘関節外来、股・膝関節外来、リウマチ外来、エコー外来、

＜令和3年度活動実績＞

3年度入院患者延べ数 11,459人（1日平均 31.4人）

3年度外来患者延べ数 12,013人（1日平均 49.6人）

令和3年度の手術手技件数 計 635件

当科は三島地区の地域基幹病院としての役割の一翼を担っており、救急外傷などに対する急性期治療、つまりは骨折を中心とする外傷疾患や一般整形外科疾患を多く扱っており、救急搬送要請には24時間対応している。スタッフは各症例に応じて高いレベルで非常にきめ細やかな診療を行っている。

Subspecialtyとしては当科数十年の歴史と伝統を持つ股・膝関節疾患に対する治療を継続しており、また脊椎脊髓病疾患、肩・肘関節を中心とする上肢の変性疾患やスポーツ外傷に対する治療など、専門性に富んだ医療を幅広い領域で行っている。各分野において経験豊富なエキスパートが揃っており、地域基幹病院として開業医の先生方からも多くのご紹介をいただいている。

人工関節外科の手術において膝ではより高いQOLをめざした人工関節の導入、股関節では低侵襲人工股関節置換術（MIS-THA）を適応症例に施行し、筋肉や腱の切離が少ないこと、あるいは全く行わないことで患者の術後の疼痛コントロールや運動回復が早くなり、また術後リハビリ期間の短縮により早期の社会復帰や退院を可能にしている。

膝靱帯、半月板損傷などのスポーツ整形外科治療では、靱帯の解剖学的再建を行い、トッパス

リートの膝損傷のスポーツ復帰を可能にしている。

脊椎脊髄病疾患に対しては、頸・胸・腰椎の各疾患による主に神経圧迫病変による疼痛や運動機能障害などを改善させる治療を行っており良好な成績をあげている。腰椎椎間板ヘルニアに対しては小侵襲手術である内視鏡下椎間板ヘルニア摘出術（MED）を行っており、2cm 弱の小切開で数日～1週間程度の短期間で退院を可能にしており、腰部脊柱管狭窄症に対しても同様に内視鏡下椎弓切除術（MEL）を行っている。脊柱変形や不安定性の強い脊椎変性疾患に対する脊椎固定術も安定した成績を出しており、脊椎悪性腫瘍手術も手掛けている。しかしながら当科ではこれらの疾患に対しては保存治療を第一としており、MRI や造影検査、動態撮影などの検査にて評価を行い、その結果や症状により、また患者のニーズに応じて各種薬物治療、硬膜外ブロック、神経根ブロックなどを行っている。前述の様々な手術療法はこれらの治療が奏功しない場合に行うものであり、患者立脚型の治療を行うということで高い満足度を得ている。

肩関節、肘関節を中心とする上肢疾患については、アメリカ留学での研究で上肢の解剖やバイオメカニクスを熟知した伊丹副部長が担当をしている。こちらも投薬やブロック療法、リハビリ治療などでの保存治療を第一としているが、それらが奏功しない場合には、腱板断裂に対しては関節鏡視下腱板修復術を行い、断裂のシビアな症例に対しては筋膜移植による関節鏡視下上方関節包再建術やリバーstype人工関節置換術も行っている。スポーツ外傷などによる反復性肩関節脱臼に対しては関節鏡視下関節唇修復術を行い、肩関節拘縮に対しては関節鏡視下関節受動術を行っている。さらに肘関節疾患に対しても上腕骨外上顆炎に対する関節鏡視下滑膜切除術を、肘関節拘縮に対して関節鏡視下関節受動術も行っている。いずれも小侵襲手術による高度な技術により良好な手術治療成績を収めている。

関節リウマチに対しては、患者の症状に合わせ様々な治療を行っている。関節リウマチの治療は treat to target (T2T) の概念を取り入れ MTX をアンカードラッグとして biologics を導入し、他科と院内連携および病診連携をはかり、安全で確実な治療を目指している。

骨粗鬆症に対しては骨塩定量や採血検査を行い、その結果により各種薬物療法を行い骨折が生じないための予防治療を積極的に行っている。また度重なる脊椎圧迫骨折などをはじめとする重症骨粗鬆症に対しては強力な薬物治療である PTH 製剤やデノスマブの投与を行うなど、骨粗鬆症治療にも力を入れている。

三島地区は超高齢者の人口比率が高く、救急患者の多くを占める大腿骨近位部骨折の患者に対しては他科との密な院内連携を図り、術後はチーム医療によりクリニカルパスの導入を行っている。

当科は急性期病院として新患患者や救急患者、開業医の先生方からの紹介患者を積極的に受け入れている。諸先生方のご協力のもと地域連携を強化して手術対象になる患者紹介を増やし、また先生方への逆紹介にも力を注いでおり、地域に密着し、より地域の役に立つ病院であるための努力を行っている。

形 成 外 科

<スタッフ・専門分野>

櫛田 哲史（副部長）：日本形成外科学会領域指導医、日本形成外科専門医、臨床研修指導医、
日本創傷外科学会専門医、再建・マイクロサージャリー分野指導医
日本形成外科学会小児形成外科分野指導医

福井 充香（非常勤）：日本形成外科学会専門医

田辺 敦子（非常勤）：日本形成外科学会領域指導医、日本形成外科専門医、臨床研修指導医
日本形成外科学会皮膚腫瘍外科分野指導医、
日本形成外科学会小児形成外科分野指導医、
日本美容外科専門医、日本抗加齢医学会専門医、日本認定産業医、

<令和3年度活動実績>

令和3年度 形成外科新患数	287 名
令和3年度 手術件数	391 件（手術室使用件数 250 件）

<令和4年度活動目標>

当院形成外科は、日本形成外科学会認定施設であり、近隣施設から多数の患者様のご紹介を頂いています。

手術治療としては皮膚・皮下腫瘍摘出術、悪性腫瘍の切除とその後の再建をはじめとして、眼瞼下垂症、顔面外傷・顔面骨骨折、傷跡の修正等を中心に多く行っていますが、シミのレーザー治療などの自費診療も行っています。今年度も地域医療に重点を置いた質の高い形成外科診療を行うよう努めます。

皮膚科

<スタッフ>

古川 福実（院長兼部長）

奥野 愛香（副部長）

園村 真美（常勤嘱託医師 2021 年 1 月～）

<令和 3 年度活動実績>

令和 3 年度入院患者延べ数 1,142 人

令和 3 年度外来患者延べ数 9,198 人

- ・ アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、接触皮膚炎、尋常性乾癬、水疱性類天疱瘡、尋常性ざ瘡などの炎症性皮膚疾患、白癬などの感染性皮膚疾患、陥入爪などの皮膚付属器疾患、褥瘡、下腿潰瘍、化学療法による皮膚障害、薬疹、蜂窩織炎、带状疱疹、円形脱毛症などの診療を行っています。
- ・ 水曜日には古川院長による院長外来を行っております。SLE や強皮症などの膠原病、難治性アトピー性皮膚炎、難治性蕁麻疹の方などの診療をしています。プラケニルの標準化投与に努めております。
- ・ 美容皮膚科外来を開設し、肌画像カウンセリングシステム「re-Beau2」を使用し、治療前後や経過を比較しながら、治療を行っております。老人性色素斑、母斑などレーザー治療が必要な場合や光治療を行う場合は当院形成外科と連携し治療をしています。

肌画像診断システムre-Beau2（レビュー）

撮影・説明がタブレットで操作可能



高槻赤十字病院皮膚科外来

2021 年 4 月からは皮膚・形成外科センターとして体制を変更いたしました。皮膚科、美容皮膚科、形成外科で構成されており、フェイシャル フォトセラピー（自費）を開始して

おります。

https://www.takatsuki.jrc.or.jp/branch/dermatology_center.html

- ・乾癬に対して、生物学的製剤治療の認証施設となっているため、難治症例に対して、レミケード、ステラーラ、ヒュミラ、コセンティクス、トレムフィア、スキリージを使用しています。
- ・重症のアトピー性皮膚炎の適応のある方に、デュピクセント®注射薬を投与しております。
- ・皮膚腫瘍に関しましては、ダーモスコピー、組織検査を併用して、早期に診断し、治療に手術を要する場合は、当院形成外科と連携して手術しています。
- ・多汗症には、ボトックス注射やエクロックゲルを用いています。
- ・褥瘡に対しては、毎週月曜日午後に病棟の褥瘡回診と褥瘡外来を行っています。在宅かかりつけ医や施設からのご紹介が多く、皮膚・排泄ケア認定看護師と皮膚科医、形成外科医で症例それぞれに合った治療、予防ケアができるように努めています

泌 尿 器 科

<スタッフ>

部 長 六車 光英
医 師 高安 健太（令和 4 年 3 月 31 日退職）
非常勤 金谷 勲（令和 3 年 12 月まで）

<令和 3 年度活動実績>

令和 2 年 10 月から常勤医が 2 人に減り、令和 3 年度は患者数が前年度を下回らないようにすることを最大の目標としたが、入院延患者数は令和 2 年度 2271 人から令和 3 年度 2523 人に増え、外来延患者数も令和 2 年度 8373 人、令和 3 年度 8316 人と横ばいであった。

令和 3 年度の手術の内訳は下記の通りで、前年度減っていた TUL、TUEB、前立腺生検の件数が回復していた。また令和 3 年度から腎臓内科の内シャント造設術の助手を当科の医師が務める事にした。

副腎	腹腔鏡下副腎摘除術	2 件
腎・尿管	腹腔鏡下腎摘除術	3 件
	腹腔鏡下腎尿管全摘除術	4 件
	経尿道的尿路結石除去術（TUL）	54 件
	尿管鏡	2 件
	経皮的腎瘻造設	3 件
	経皮的腎嚢胞ドレナージ術	1 件
膀胱	膀胱全摘除術・回腸導管造設術	1 件
	膀胱部分切除術	2 件
	経尿道的膀胱腫瘍切除術（TURBT）	45 件
	膀胱ランダム生検	1 件
	経尿道的膀胱結石摘出術	12 件
	経尿道的膀胱内血腫除去術	3 件
	膀胱瘻造設術	3 件
	膀胱水圧拡張術	1 件
前立腺	腹腔鏡下前立腺全摘除術	7 件
	経尿道的前立腺核出術（TUEB）	13 件
	経尿道的前立腺切除術（TURP）	3 件
	前立腺生検	82 件
尿道	尿道異物摘出術	1 件
陰茎	包皮環状切除術	2 件
陰嚢	高位精巣摘除術	1 件
	陰嚢水腫根治術	3 件

	精巣捻転手術	2 件
その他	内シャント造設術	3 件

<令和 4 年度活動目標>

令和 4 年度は DPC 期間Ⅱ内に退院する患者の割合を 70%以上にすることを最大の目標とする。そのために前立腺生検パスを 3 日から 2 日に短縮する予定である。

産 婦 人 科

<スタッフ>

平松 昌子（副院長兼部長）

中村 路彦（副部長）

<異 動>

なし

<特 色>

婦人科の全般にわたり、総合的に診療を行っている。

子宮筋腫・卵巣腫瘍等の良性疾患から子宮癌・卵巣癌等の悪性疾患、更年期障害に渡るまで幅広く診療を行っている。手術において良性疾患の場合は術式を患者と相談しながら決定している。希望があれば腹腔鏡での手術も行っている。また子宮鏡検査は外来で行っており日帰りでの処置を可能にしている。

また終末期医療においては当院の緩和医療チームと共同での管理を施行し、一人一人の患者の要望に応じながらの診療を心がけている。

眼 科

<スタッフ>

藤田今日子（副部長）
滝 功一郎（医 師）
在田 稔章（医 師）
寺本 朋美（医 師）
植木 麻理（非常勤医師）
佐藤 孝樹（非常勤医師）
藤田 恭史（非常勤医師）

<異 動>

藤田今日子（副部長）：令和３年４月着任
寺本 朋美（医 師）：令和３年４月着任
滝 功一郎（医 師）：令和３年６月退任
在田 稔章（医 師）：令和３年７月退任

<特 色>

眼科疾患全般の治療に対応しており、白内障や網膜硝子体疾患、眼形成、涙道疾患に対する手術治療に力を入れている。白内障手術に関しては、日帰りから入院まで患者様のニーズに幅広く対応し、乱視矯正眼内レンズや保険適応のある多焦点眼内レンズを用いた白内障手術も行っている。硝子体手術については最新の手術機器を用いた小切開硝子体手術を行い、眼瞼下垂の手術や涙道内視鏡を用いた涙道閉塞に対する治療も積極的に行っている。網膜硝子体疾患では加齢黄斑変性や網膜静脈閉塞症、糖尿病黄斑浮腫に対する抗 VEGF 薬硝子体注射も行っている。

<専門外来>

黄斑外来、緑内障外来、ロービジョン外来

<令和３年度活動実績>

手術統計（手術室）681 件

<令和４年度の活動目標>

病診連携を上手く活用し、紹介患者数の増加と手術件数の増加を目標とする。

耳鼻咽喉科

<スタッフ>

古川 福実（病院長兼部長）

田浦 晶子（藍野大学教授）：めまい

<異 動>

なし

<特 色>

北摂地区の中核病院の一つとして、紹介患者を受け入れている。しかし、ベットタウンが近くにあるため、直接当院を受診する軽症の患者も多く、一次診療、二次診療を併せ持った性格をもっている。

<診療実績>

外来は月、水、金。月曜、金曜は京都大学の応援を得ている体制である。第一から第三水曜は田浦晶子藍野大学教授がめまい外来をしている。金曜午後には補聴器外来を設け、相談にのっている。他科入院中の院内紹介の患者も多い。血液内科より、悪性リンパ腫のリンパ節生検の依頼が多いことが特徴です。

<令和4年度の活動目標>

今年度は外来、入院とも減少しました。これを少しでも回復させることが目標です。

放射線科部 及び 核医学科部

<スタッフ>

◆医師

後藤 公男（部長）：画像診断
山室 正樹（部長）：核医学診断 + 画像診断
的場 直樹（副部長）：画像診断
今井 雅夫（非常勤）：画像診断
中村 清直（非常勤）：放射線治療
小野 幸果（非常勤）：放射線治療

◆診療放射線技師

松原 健夫（課長）
大嶋 浩嗣（MRI 係長）
中村 義隆（放射線係長）
関本 淑徳（CT 係長）
涌田 哲成（放射線治療係長）
西村 大樹（核医学係長）
林 恵理子・松山 佳央・渡邊 良彦・石寄 伸也
松下 あゆみ・在津 幸香里・柳田 泰祐・原 祥太郎
木戸口 堯史・村上 慎哉・中村 仁美

◆事務員

植松 恵美子

<施設認定、資格>

◆マンモグラフィ検診施設画像認定

◆検診マンモグラフィ撮影技術認定

林 恵理子 ・ 松下 あゆみ ・ 在津 幸香里
中村 仁美

◆第1種放射線取扱主任者

西村 大樹 ・ 木戸口 堯史

◆肺がん CT 検診認定技師

関本 淑徳

◆X線 CT 認定技師

関本 淑徳 ・ 松山 佳央

◆放射線管理士、放射線機器管理士、医療画像情報精度管理士、

放射線治療品質管理士、臨床実習指導教員

渡邊 良彦

◆放射線治療専門放射線技師

涌田 哲成 ・ 渡邊 良彦 ・ 石嵯 伸也

◆放射線治療品質管理士

涌田 哲成 ・ 石嵯 伸也

◆救急撮影認定技師

松山 佳央 ・ 原 祥太郎

<令和3年度活動実績>

◆研究発表、研修会開催実績

【院外】

※第29回日本赤十字社診療放射線技師会近畿ブロックWeb研修会

BSIを用いた骨シンチの定量評価について考える

中村 仁美

【院内】

※医療安全研修 被ばくの最適化・正当性・MRIの安全管理

後藤 公男 ・ 関本 淑徳 ・ 木戸口 堯文 ・ 松原 健夫

※電離照射線障害防止規則の改正について

松原 健夫

※核医学検査循環器領域DPC算定について

西村 大樹

◆研修会・講習会・学会等への参加

※17名/13会 全てWeb開催（診療放射線技師のみ）

◆その他活動

※地域連携推進活動（周辺医療施設訪問）

※職業被ばく管理強化

※タスクシフト推進

※核医学検査循環器領域DPC算定について開催

◆機器整備更新

※なし

◆放射線科部＋核医学科部 検査件数

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
一般撮影	42,011	35,820	37,994
造影検査	809	665	742
マンモ	1,266	1,046	1,032
CT	10,728	10,802	10,577
MRI	3,916	3,823	4,045
RI	832	840	753
血管造影	418	480	362
放射線治療	153	143	131
骨密度	464	430	495

◆放射線科部＋核医学科部 紹介検査件数

	平成 29 年	平成 30 年	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
CT	227	306	332	353	401
MRI	360	529	723	833	877
RI	133	170	163	219	123

<令和 4 年度活動目標、計画>

◆放射線科部＋核医学科部

- ※放射線業務従事者への教育訓練開催（RI 法）
- ※ MRI 安全管理講習開催
- ※医療被ばく正当性、最適化講習開催
- ※報告書管理体制強化
- ※職業被ばく管理強化（電離放射線障害防止規則）
 - 水晶体への職業被ばく防護強化
- ※放射線治療件数増加活動
- ※ MRI 装置整備更新による安全、快適な検査環境整備

リハビリテーション科

<スタッフ>

医師：玉田 尚 部長
馬止 裕 常勤
服部 智 非常勤
理学療法士：野村 省二（リハビリテーション課長）
新地 史章（第一理学療法係長）
倉繁 浩一（第二理学療法係長）
吉田 綾梨 育児時短（2020 年 10 月 23 日～）
菊池優理子 産休育休（2021 年 7 月 5 日～）
他 7 名（欠員 1 名）
作業療法士：八木 紀子（作業療法係長）
山崎 孝子
石塚 威
大下 綾華
言語聴覚士：椎葉 佳子
大路 かほる

<特 色>

当科は、1993 年 9 月にリハビリテーション（以後リハと略す）総合承認施設（理学療法Ⅰ・作業療法Ⅰ）を、2002 年 8 月に言語聴覚療法Ⅱの認可を受け、包括的なリハ活動を展開してきた。2016 年 4 月の診療報酬改定に対応して、全ての施設基準（運動器Ⅰ・脳血管疾患等Ⅰ・廃用症候群Ⅰ・呼吸器Ⅰ・心大血管疾患Ⅰ・がんのリハ）の認可を受けた。急性期病院としてのリハ機能を遂行するために、リハ対象疾患患者に対して早期に介入し、早期退院を図っている。さらに終末期における緩和ケア病棟で緩和医療にも力を注いでいる。

理学療法部門において、運動器リハでは人工関節置換術・関節損傷・脊椎外科・大腿骨頸部骨折（地域連携パス使用）等の整形外科疾患、脳血管疾患等リハの件数は少ないが脳血管疾患・パーキンソン病等の中枢神経系疾患、廃用症候群では外科術後の方や多種多様な運動器廃用の方を対象に早期の日常生活動作の自立と QOL の向上を目差したアプローチを進めている。

呼吸器リハでは、1972 年に着手した呼吸理学療法を発展させ、今日では呼吸器外科は勿論、一般外科患者に対し HCU から理学療法を行っている。慢性呼吸不全患者に対しても、包括的呼吸リハプロジェクトを組み患者の早期社会復帰への働きかけを行っている。

2014 年 7 月に施設基準を取得した心大血管疾患リハでは、心不全・狭心症・心筋梗塞等の入院患者を中心に多職種による包括的アプローチ実施している。可能な範囲で外来も開始している。

がんのリハビリについては、施設基準取得以前からリハ介入しており、がんの診療資格を所有しているスタッフが緩和ケアまで一貫した多職種での取り組みを図っている。

作業療法部門では、理学療法部門と同様に多様な患者様を対象に、入院中より家庭復帰、職場

復帰を想定したアプローチを行っている。手の外科手術後のハンドセラピーには積極的に取り組んでおり、装具も開発している。

言語聴覚療法部門では、NST 専門療法士として NST 委員会メンバーに加わり摂食嚥下障害(栄養障害含む)の治療やケアに効果を上げている。がん患者においても 2017 年 1 月より算定資格を得て緩和まで介入させている。それ以外に失語症・構音障害・言語発達遅延へのアプローチも実施可能である。

また、2017 年 11 月より認知症ケア専門士として認知症ケアサポートチームの活動に加わっている。

<診療実績>

理学療法患者延件数：40,223 件（前年度＋ 992）

	外 来	入 院
運動器	2,989	6,976
脳血管疾患	12	564
廃用症候群	1	5,456
呼吸器	0	6,346
心大血管	56	4,348
が ん		6,768
その他	108	6,599
小 計	3,166：前年度 -232	37,057：前年度 1,224

作業療法患者延件数：12,678 件（前年度＋ 1,024）

	外 来	入 院
運動器	1,554	1,158
脳血管疾患	16	519
廃用症候群	0	1,963
呼吸器	0	3,550
心大血管	3	322
が ん		1,484
その他	91	2,016
小 計	1,666：前年度 436	11,012：前年度 588

言語聴覚療法患者延件数：4,742 件（前年度－ 7）

	外 来	入 院
脳血管疾患	0	181
廃用症候群	0	1,105
呼吸器	0	1,827
が ん		281
集団コミュニケーション療法	0	0
その他	0	1,348
小 計	0：前年度 0	4,742：前年度 -7

<令和3年度の活動実績・成果>

コロナ禍での当院の指針が会議で定期的に検討され、新型コロナウイルス感染症対応の業務を優先して、非コロナ患者の病棟編成が固定化された。これを受けて、当科スタッフのワクチン接種も行われたため、担当者への割り振り機能を病棟担当制から通常の担当者均等体制へ戻し、コロナ患者増加時には理学療法士2名での対応で稼働効率を上げることができた。しかしながら、理学療法士の欠員補充がなされず時間外勤務が増加傾向になっており、患者増加の対応に限界がきている。学術面においては対面式講習会が再開されておらず、新規の資格更新は延期となる。下記に示す通り業務を遂行し目標をほぼ達成する。

- I. リハビリ対象患者数の増加：①病棟カンファレンス・回診においてDPCを念頭に置いた退院支援をはじめ入院患者稼働率の向上につながる。②リハ実施率（病棟別・診療科別）の検討及び対象患者の選別（作業療法士介入）③クリニカルパスへのリハ介入による患者数確保④コロナ禍の感染対策のため心リハ対象の外来患者は個別療法で行い患者数を維持する。
- II. リハビリ専門職1人あたりの算定件数増加：①業務効率の向上（ワクチン接種後の担当者数の均一化）②連休時対応の対象患者数確保③リハ専門職休暇時における代行患者数及び単位数確保④退院時リハビリテーション指導料の算定漏れ抑制⑤手の評価セミナー・SW-test講習会受講延期されるが、対象患者数が伸びておらず賄うことが可能であった。
- III. 時間外勤務時間の抑制：理学療法士1名の欠員が生じているが①コロナ対応で施行される病棟編成に対応する業務体制の確立②リハ管理システム及び電子カルテによるコストパフォーマンスの是正（リハビリ書類作成・事務員の専門性向上も含む）にて欠員前の令和元年度の状態に抑えた。
- IV. の最大限の削減：老朽化して破損した物に関してのみ補充。令和4年度の神経内科常勤医師の就任合わせて、脳血管疾患等リハビリに最低限必要な設備投資がなされた。
- V. 教育研修及び医療の質向上：①専門職の資格獲得援助は関連学会の延期で不可②感染対策を講じて、臨床実習生（PT2名）を受け入れた。しかし、理学療法士の生涯学習（卒後教育）として高槻市理学療法士会呼吸勉強会を開催延期となった。
③発表：第57回日本赤十字医学総会の中止に伴い院内発表会で発表。三島圏域リハビリテーション連絡会 症例検討会で発表。
- VI. その他：①作業療法室の設備機器整理（脳血管疾患等リハビリの設備）を来年度までに行う。②救護員の育成及び救護活動の参加推進のため、作業療法士1名がERU研修会参加した。③令和4年度診療報酬改定に伴いリハビリ算定項目の検討及び算定取得のための準備を行う。

<令和4年度の活動目標>

当科の最重要目標である『全てのリハビリ対象者を選出し、リハビリ専門職1人あたりの月平均延件数及び延単位数を増加させる。』を達成させるためには、適切な人員配置を施した上で、リハビリ専門職一人一人の就業時間内で最大限に患者の治療時間を確保していくことが必要である。

対象者数がコロナ禍前に戻ってきており、本年度も欠員補充のないままりハビリテーション

業務の質・量を共に落とさないために、以下の通り行動目標と実践内容を遂行する。

- I．リハビリ対象患者数の確保：①病棟カンファレンス・回診での DPC を考慮した退院支援・HCU 離床リハ対象患者の選出強化②リハ実施率（病棟別・診療科別）の検討及び対象患者の選別③院内広報：病院の活動を知る会・広報誌の利用④クリニカルパスへのリハ介入による患者数確保⑤心リハへの作業療法士介入増加。⑥新型コロナウイルス感染者への介入制限の緩和
 - II．リハビリ専門職 1 人あたりの算定件数増加：①業務効率の向上（担当患者数の均一化）②連休時対応の対象患者数確保③リハ専門職休暇時における代行患者数及び単位数確保④退院時リハビリテーション指導料の算定漏れ抑制（指導冊子作成）⑤手の評価セミナー・SW-test 講習会受講（精密知覚機能テスト算定資格 1 名追加）
 - III．時間外勤務時間の抑制：①理学療法士 1 名の欠員補充②コロナ対応で施行される病棟編成に対応する業務体制の確立②リハ管理システム及び電子カルテによるコストパフォーマンスの是正（リハビリ書類作成・事務員の専門性向上も含む）にてコロナ禍前（令和元年度）の状態に抑える。
 - IV．材料費の最大限の削減：医療消耗器具備品費などの節約（老朽した物から順次購入）。購入時は器具備品の購入リストにならって重要な物から選出する。
 - V．教育研修及び医療の質向上：①専門職の資格獲得援助（学会大会・研修会・心臓リハビリテーション指導士認定・摂食嚥下リハビリテーション認定士認定）②感染対策を講じて、卒前教育の実習施設として多校の臨床実習生 (PT2 名) を受け入れ予定。また、理学療法士の生涯学習（卒後教育）として高槻市理学療法士会呼吸勉強会を開催予定。③学会発表援助④勤務評定での自己研鑽援助
 - VI．その他：①令和 4 年度診療報酬改定の対応②令和 5 年度病院機能評価受審の準備（マニュアル改訂）③作業療法室の設備機器整理④救護員の育成及び救護活動の参加推進
- 以上、関連職種と共同して実務を行えるように進める。

麻 酔 科

<スタッフ>

常勤：宇田るみ子（部長）平成 31 年 4 月 1 日から

澤井 俊幸（麻酔科・手術部長）令和 2 年 1 月 1 日から

日下 仁美（常勤医）令和 3 年 4 月 1 日から

< 麻酔科の活動実績 >

「令和 2 年 8 月から毎週水曜日午後二時から三時までペインクリニック外来で帯状疱疹後神経痛や術後慢性痛などを主に（院内紹介患者のみ）受け付けております。」

帯状疱疹後神経痛や術後慢性痛などを主に（院内紹介患者のみ）受け付けております。」

< 令和 3 年度 >

【合計】

手術件数	987（うち手術室内 987、手術室外 0）
------	------------------------

【性別】

男性	女性	合計
484	503	987

旧分類【麻酔法】

A. 全身麻酔（吸入）	853
B. 全身麻酔（TIVA）	4
C. 全身麻酔（吸入）+ 硬・脊、伝麻	128
D. 全身麻酔（TIVA）+ 硬・脊、伝麻	1
E. 脊髄くも膜下硬膜外併用麻酔（CSEA）	0
F. 硬膜外麻酔	0
H. 伝達麻酔	0
X. その他	1
合計	987

【ASA PS】

予定 1	69	緊急 1E	20
2	634	2E	78
3	136	3E	48
4	1	4E	1
5	0	5E	0
6 （臓器摘出を受ける脳死患者が対象）	0	6E （臓器摘出を受ける脳死患者が対象）	0
小計	840	小計	147
合計	987		

【手術部位】

a . 脳神経・脳血管	0
b . 胸腔・縦隔	80
c . 心臓・血管	0
d . 胸腔＋腹部	1
e . 上腹部内蔵	125
f . 下腹部内蔵	213
g . 分娩	0
h . 頭頸部・咽喉部	28
k . 胸壁・腹壁・会陰	113
m . 脊椎	53
n . 股関節・四肢（含：末梢神経）	368
p . 検査	1
q . MAC	0
r . ECT	0
x . その他	5
合計	987

旧分類 【年齢構成】

	男性	女性	合計
A . ～ 1 ヶ月	0	0	0
B . ～ 12 ヶ月	0	0	0
C . ～ 5 歳	2	3	5
D . ～ 18 歳	24	7	31
E . ～ 65 歳	185	154	339
F . ～ 85 歳	235	267	502
G . 86 歳～	38	72	110
合計	484	503	987

【体位】

1 . 仰臥位	442
2 . 腹臥位	62
3 . 側臥位	200
4 . 切石位	240
5 . 坐位	7
6 . その他	36
合計	987

【偶発症例】

A . 危機的偶発症	1
B . 神経系偶発症（脳・脊髄）	0
C . その他の神経系偶発症	0
D . その他	0
合計	1

救 急 部

R3（2021）年度は、2019年度の終わり頃から蔓延し始めた COVID-19 禍によって、大きな影響を受けた一年でした。例年にない対応を迫られた業務が多ければ、例年できた事ができなかったという両面があり、前者としては多数の発熱者受診への対応が必要となり、元々狭い救急外来に空気清浄機や簡易テントなどを所狭しと配置、さらにスペースが足りずコンビニのイートインコーナーもお借りし続けています。コロナを見落とさないような注意も必要ですし、コロナを疑いすぎるあまり重篤な一般疾患を見落とさないようにも神経を遣う1年でした。数値的な実績は救急車搬入 2379 症例（うち入院率 59%）、ウォークイン含め 5611 症例の診療実績は、昨年（救急車 2235 症例、ウォークイン合わせ 5015 症例）と比べて若干増加しました。

COVID-19 のために、地道に継続してきた、域連携機関や救急隊への営業活動、各種勉強会や親睦会、外部での災害救護訓練などは例年ほど活発に実施できませんでした。それでも ICLS（二次救命救急処置講習会）や院内の災害訓練などは感染対策を施して開催致しました。今後もウィズ～ポストコロナ時代へ柔軟に対応しながら、当院の生き残り～再生を目指して尽力したいと考えております。

医 療 技 術 部

栄 養 課

<スタッフ>

◆管理栄養士：桑田 由起江（栄養課長・NST 専門療法士・病態栄養専門管理栄養士
がん病態栄養専門管理栄養士）

南 美保子（糖尿病療養指導士・健康運動指導士・
糖尿病透析予防指導専任管理栄養士）、

藤本 智子（栄養係長 糖尿病療養指導士）

西岡 美穂（糖尿病療養指導士・NST 専門療法士）・中村やすこ

◆調理師：藤原 崇義（調理第一係長）、小坂 重敏（調理第二係長）

堀 隆二、岡 務、草地 敦、平山 光一、櫻井 葉子、小川 辰夫、
下田 剛史、野方 晴美

◆主事：五百井 栄実

（退職）令和3年3月 管理栄養士 中村 やすこ

<令和3年活動実績>

給食管理においては、地産地消を心掛け安全で美味しい食事の提供を目標にしています。

入院患者様への食事の対応として、季節感を感じていただこうと行事食などを献立に取りい
れ、常食を提供している患者へは週7回選択メニューを実施しています。

また患者食の衛生面 利便性を考え、カットフルーツを一部導入しました。

災害備蓄食においては、衛生面を考え個食タイプ備蓄食を導入しました。

栄養指導においては外来化学療法患者に対して件数増加がありました。

<統 計>

<統計> 栄養指導件数 算定 984 件／年 給食数 194,806 食／年

NST 介入延べ患者数 956 名／年

心臓リハビリテーションカンファレンス参加件数 690 件／年

<令和4年度活動目標>

診療報酬改定を受け、早期栄養介入管理加算の算定を目指します。

給食管理業務の効率化を図り、外来化学療法室での栄養指導件数増加を目指します。

給食においては食材費の高騰がみられるため、献立を調整することにより材料価格増加幅の
圧縮を目指します。

調理師 栄養士ともに専門分野の知識、技能習得の強化を目指します。

臨床工学技術課

<スタッフ>

医 師

古川 福実（医療技術部長）

臨床工学技士

竹下 勇一（臨床工学技術課課長）

吉村 忠（臨床工学技術課主任）

福谷 伶芳

野々村美紅

森地 裕子

杉本 健太

西 祐樹

主 事

兼田 泰子

臨床工学技術課は血液浄化装置、人工呼吸器、人工心肺装置などの『生命維持管理装置』を医師の指示のもと操作として治療のサポートをするほか、院内にある医療機器が安全に正しく使用できるように保守点検を行うなどの業務を担っています。医学的知識はもちろん、医療技術の進歩に伴い、高度化する様々な医療機器の知識、技能を持ち、スムーズな治療や検査が行えるように対応しています。

<令和3年度活動実績>

1. 血液浄化療法領域

- 血液透析 … 63 症例、1,958 回
- 持続緩徐式血液透析濾過 … 22 症例、145 回
- 血漿交換療法 … 6 症例、45 回
- エンドトキシン吸着療法 … 2 症例、3 回
- GCAP、LCAP … 0 回
- 腹水濾過濃縮再静注法 … 7 症例、37 回

2. 血液疾患領域

- 末梢血幹細胞採取 … 5 症例、8 回
- 白血球除去療法 … 5 症例、7 回
- 顆粒球 / リンパ球採取 … 0 回
- 骨髄濃縮 … 0 回

3. 循環器領域

- CAG … 126 件
- PCI … 144 件

- IVUS … 134 件
- FFR … 15 件
- シェント PTA … 2 件
- 下肢 PTA … 6 件
- IVC フィルター … 1 件
- IABP … 3 件
- PCPS … 0 件
- Permanent Pacemaker Implanted … 30 件
- Permanent Pacemaker Exchange … 15 件
- Temporary Pacemaker … 4 件
- Pacemaker Implanted Pt(当院管理数) … 228 名
- Pacemaker clinic(月 2 回) … 延 145 回
- 遠隔モニタリング登録患者数 … 141 名

4. 腎生検施術補助

1 件

5. 医療機器管理領域

- 人工呼吸器、輸液・シリンジポンプ、AED、ポータブルエコー、フットポンプなどの医療機器管理台数 … 1262 台
- 医療機器修理業務 院内・院外修理 … 274 件に対応
- 医療機器、消耗品に関する研修会の開催 … 5 件
- 新規納品機器に関する研修会 … 5 件

6. 手術室業務

- 麻酔器の使用前点検
- 医療機器などのトラブル対応
- 除細動器・無影灯点検

7. 内視鏡関連業務

- カプセル内視鏡（小腸） … 15 件
- カプセル内視鏡（大腸） … 2 件

8. その他

- RFA … 13 件
- SAP データ処理 … 1 名

＜令和 4 年度活動目標＞

医療機器管理や、生命維持管理装置技術を習得し、患者の状態に合った治療が行えるよう努める。

医療安全への意識を強く持ち、安全・安心・安楽な治療が行えるよう努める。

薬 剤 部

＜スタッフ＞（役職・担当・資格は令和4年3月31日現在）

小島 一晃（薬剤部長）：麻薬管理者・治験薬管理者・医療安全推進室員・医薬品安全管理責任者・薬事委員会副委員長・治験審査委員会副委員長・化学療法委員会副委員長

- ・日本医療薬学会 医療薬学指導薬剤師
- ・日本医療薬学会 医療薬学専門薬剤師
- ・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師
- ・日本薬剤師研修センター 認定実務実習指導薬剤師
- ・日本医療薬学会 がん指導薬剤師

美和 孝之（薬剤副部長／調剤業務課長／医薬品情報係長）：放射性医薬品管理者・医薬品情報業務責任者・調剤業務責任者・薬事委員会事務局（幹事）

- ・日本医療薬学会 医療薬学専門薬剤師
- ・日本病院薬剤師会 日病薬病院薬学認定薬剤師
- ・日本病院薬剤師会 がん薬物療法認定薬剤師
- ・日本臨床栄養代謝学会 NST 専門療法士

仲 忠士（臨床業務課長）：病棟薬剤業務責任者・外来化学療法業務責任者・治験管理業務責任者・治験審査委員会事務局（幹事）

- ・日本薬剤師研修センター 認定実務実習指導薬剤師
- ・日本臨床栄養代謝学会 NST 専門療法士
- ・日本医療情報学会 医療情報技師

松本 弘誠（調剤業務課長補佐／調剤係長／製剤係長）：病棟薬剤業務（HCU 専任）・調剤業務・実務実習指導責任者・感染管理室員・ICT/AST 業務・AST 委員会副委員長 【4/1 昇任】

- ・日本病院薬剤師会 日病薬病院薬学認定薬剤師
- ・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師
- ・日本薬剤師研修センター 認定実務実習指導薬剤師
- ・日本病院薬剤師会 感染制御認定薬剤師
- ・日本化学療法学会 抗菌化学療法認定薬剤師

中西 輝（病棟薬剤業務係長）：実務実習指導担当・手術室業務責任者・ICT/AST 業務・NST 業務・病棟薬剤業務・調剤業務・薬事委員会事務局

- ・日本病院薬剤師会 日病薬病院薬学認定薬剤師
- ・日本化学療法学会 抗菌化学療法認定薬剤師
- ・日本臨床栄養代謝学会 NST 専門療法士

小西 史子（化学療法係長）：調剤業務・外来化学療法業務・手術室業務・救護薬管理担当・部門リスクマネージャー・薬事委員会事務局

- ・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師
- ・日本薬剤師研修センター 認定実務実習指導薬剤師

- ・日本臨床腫瘍薬学会 外来がん治療認定薬剤師
- ・日本糖尿病療養指導士認定機構 日本糖尿病療養指導士
- ・日本アンチドーピング機構 スポーツファーマシスト

濱武 清範（化学療法係主任）：病棟薬剤業務（6 病棟専従）・レジメン管理担当・薬事委員会事務局【4/1 昇任】

- ・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師
- ・日本臨床腫瘍薬学会 外来がん治療認定薬剤師

山村裕佳子（薬剤師）：注射業務

安達 美里（薬剤師）：調剤業務・手術室業務【時短勤務】

- ・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師

森川 智子（薬剤師）：病棟薬剤業務（緩和ケア病棟専任）・調剤業務【時短勤務】

- ・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師
- ・日本糖尿病療養指導士認定機構 日本糖尿病療養指導士

岩井真里絵（薬剤師）：病棟薬剤業務（9 病棟専従）・緩和サポートチーム業務

- ・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師

奥村 優介（薬剤師）：病棟薬剤業務・調剤業務・ICT/AST 業務

- ・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師
- ・日本化学療法学会 抗菌化学療法認定薬剤師

沼田那々緒（薬剤師）：注射業務・ICT/AST 業務

- ・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師
- ・日本化学療法学会 抗菌化学療法認定薬剤師

奥村 有香（薬剤師）：病棟薬剤業務・調剤業務・手術室業務

- ・日本循環器学会 心不全療養指導士
- ・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師

松田ちひろ（薬剤師）：【育休中】

- ・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師
- ・日本臨床腫瘍薬学会 外来がん治療認定薬剤師

通山 由香（薬剤師）：病棟薬剤業務（8 病棟専従）・NST 業務

- ・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師
- ・日本臨床栄養代謝学会 NST 専門療法士

福井 美礼（薬剤師）：外来化学療法業務・調剤業務

- ・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師

橋本 仁美（薬剤師）：【産休中】

- ・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師
- ・日本糖尿病療養指導士認定機構 日本糖尿病療養指導士

宮西 将之（薬剤師）：病棟薬剤業務（7 病棟専従）

- ・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師

野間 敏也（薬剤師）：外来化学療法業務・調剤業務

- ・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師

・日本臨床腫瘍薬学会 外来がん治療認定薬剤師

林 愛華（薬剤師）：調剤業務・手術室業務

兼行 佑奈（薬剤師）：病棟薬剤業務（5 病棟専従）

田中 典子（薬剤師）：調剤業務・手術室業務 【4/1 入職】

徳田 悦美（主 事）：治験管理業務・治験審査委員会事務局

松本 明子（主 事）：治験管理業務・治験審査委員会事務局

山地 祥恵（業務員）：調剤補助業務・発注業務

竹内 邦子（業務員）：調剤補助業務・発注業務

中元真紀子（業務員）：調剤補助業務・発注業務

<薬剤関連施設認定>

日本医療薬学会 医療薬学専門薬剤師研修施設

日本医療薬学会 がん専門薬剤師研修施設

日本医療薬学会 薬物療法専門薬剤師研修施設

薬学教育協議会 実習生実務実習受入施設

<令和 3 年度活動実績>

【調剤室】

ダウンサイジングによる人員減少に対応するため、調剤室人員配置・業務内容の細部を見直し、スタッフの業務範囲の拡大を実践してフレキシブルな人員配置が行えるよう注力した。注射主担当の交代を含め、調剤室の人員配置を大きく動かした。

【病 棟】

昨年度構築した病棟 follow 体制を継続し、薬剤管理指導料は昨年度比約 450 万円の増収に至った。

新規事業として、2 月より HCU の病棟薬剤業務を開始。病棟薬剤業務実施加算 2 の算定に加え、注射薬混注や投与ルート選択支援などを通して看護師業務支援にも貢献している。

【外 来】

前年に引き続き、連携充実加算の算定と外来化学療法室患者指導の全診療科対応を継続。治療計画書の交付や WEB 研修会を通して、がん化学療法における調剤薬局との連携も強化した。これらの業務拡大に伴い、前年度比約 130 万円の収益増加に至った。

【医薬品情報】

医薬品の供給不安定に東奔西走した 1 年間であった。治療への影響を最小限に抑えるべく医薬品確保に尽力した。COVID-19 の新薬も相次いで発売され、運用策定を感染管理室と連携して行った。

【薬品管理】

前年度に引き続き、医薬品情報室が中心となり後発品への切替に取り組み、数量ベースで後発品使用割合は90%を超えた。半面、医薬品の流通不安定の影響で先発品に戻さざるを得ないケースも多発し、後発医薬品使用体制加算1の算定要件である90%の維持を当面の目標としたい。

抗癌剤を中心に高額医薬品が矢継ぎ早に導入され、投与中止等による返却の影響に加えて流通不安定薬の過剰在庫と相まって、毎月の棚卸金額が増加傾向にある。

【治験管理】

5月より、COVID-19内服薬の多施設共同医師主導治験を受託した。各種手順書・文書類の作成やスクリーニング・同意説明も施設側で対応する必要があり、非常に難易度の高い治験に挑戦する形となったが、医師・薬剤師・看護師等の医療者と治験事務局・SMOの連携で、組み入れ数は全国1位と好成績を維持しながら現在進行中である。

【リスク管理】

薬剤師の介入による患者さんの不利益回避事例（プレアボイド）の質が向上した。抗癌剤やハイリスク薬の適正使用、検査値による処方提案といった事例が多く、院内リスクマネジメントに大きく貢献している。

【学生実習】

COVID-19の影響で、前年度は1期(3ヶ月)3人×2期(年間6人)の薬学実習生を受け入れ、全部員総動員で指導に当たった。特に第4期実習生自身がCOVID-19に罹患するというイベントが発生するも、前年度作成した自宅学習プログラムが迅速に適用でき実習。リモート実習プログラムの作成など、今後の課題は多い。

同じくCOVID-19の影響により、学校等の外部からの体験プログラム受託はなかったが、今後は復活傾向にあるため、引き続き病院薬剤師業務の魅力を学生らに啓蒙してゆきたい。

【統 計】 令和3年度実績／()は令和2年度実績

1. 処方箋

＜入院処方箋枚数＞

入院投薬：通常処方 34,668 枚 (33,706 枚)

退院処方 5,305 枚 (5,008 枚)

異常時処方 21,639 枚 (21,049 枚)

入院注射：通常処方 79,061 枚 (72,508 枚)

化学療法 2,856 枚 (2,757 枚)

T P N処方 11,802 枚 (11,372 枚)

異常時処方 78,960 枚 (89,256 枚)

＜外来処方箋枚数＞

外来投薬：院内処方 5,642 枚 (4,440 枚)

院外処方 70,359 枚 (64,392 枚)

院外発行率	92.0%	(93.5%)
一般名処方	50,004 枚	(47,757 枚)
外来注射：通常処方	10,318 枚	(9,944 枚)
化学療法	3,834 枚	(3,545 枚)

2. 注射薬無菌調製

<調製本数>

抗癌剤	： 7,281 本	(7,318 本)
TPN・移植・その他	： 5,576 本	(5,212 本)
合 計	： 12,530 本	(12,530 本)

3. 入院患者指導（薬剤管理指導料）

訪問件数	： 15,339 件・1278.3 件 / 月	(15,193 件・1,266.1 件 / 月)
本体請求件数	： 10,244 件・853.7 件 / 月	(9,312 件・776.0 件 / 月)
退院指導請求件数	： 2,698 件・224.8 件 / 月	(2,065 件・172.1 件 / 月)
患者指導率	： 90.4%	(88.7%)

4. 外来患者指導（がん患者指導管理料・連携充実加算）

訪問件数	： 1,833 件	(1,606 件)
がん患者指導管理料	： 656 件	(569 件)
連携充実加算	： 1,140 件	(382 件)

5. 持参薬鑑別

取扱件数	： 5,682 件	(5,723 件)
------	-----------	-----------

6. 疑義照会・プレアボイド報告

化学療法疑義照会	： 275 件・変更率 76.2%	(427 件・変更率 67.4%)
プレアボイド報告	： 調剤担当者 43 件	(68 件)
病棟担当者	49 件	(48 件)

7. 治験業務

<新規受託件数>

治 験	： 5 件	(6 件)
製造販売後調査	： 14 件	(8 件)
副作用報告	： 4 件	(1 件)

<請求額>

治 験	： 57,806,080 円	(47,879,874 円)
製造販売後調査	： 1,657,240 円	(2,183,740 円)
副作用報告	： 85,800 円	(28,080 円)

合 計 : 59,549,120 円 (50,091,694 円)

8. 薬品管理

<採用薬品数>

投薬・その他 : 609 品目・後発 35.5% (608 品目・後発 35.4%)
注射薬 : 436 品目・後発 32.3% (434 品目・後発 31.8%)
合 計 : 1,045 品目・後発 34.2% (1,042 品目・後発 33.9%)

9. 薬剤関連 DPC 係数

病棟薬剤業務 : 0.0079 (0.0079)
後発医薬品使用体制 : 0.0014 ※ (0.0014) ※最高値 (90%以上)

10. 薬学生実務実習

実務実習 (11 週間) : 6 名※ (6 名※)
外部体験学習 : 0 名※ (0 名※) ※ COVID-19 の影響あり

<令和 4 年度の主な活動目標>

- ・入院・外来における患者指導業務を中心とした収益向上
- ・コロナ禍における能動的な自己研鑽
- ・将来目指すべき目標 (専門分野・資格等) に向けた計画の実行

検 査 部

<スタッフ>

医 師

古川 福実（院長兼検査部長）

山中 雄介（検査副部長）

臨床検査技師

荒木孝一郎（技師長兼病理検査課長）

吉田 桂（臨床検査課長兼生理機能検査課長 超音波検査係長）

今井翔太郎（臨床検査課 検体検査係長）

中村 直実（臨床検査課 輸血管理係長）

扇田 裕允（臨床検査課 微生物検査係長）

佐藤 裕司（生理機能検査課 生理機能検査係長）

大西美穂子（病理検査課 細胞形態検査係長）

土井美都子 元原 浩子 坂野 絵美 奥洞 智太 亀山 雅貴 平岩 理雅

古川 理奈 町田 統麻 駒井 裕子 石谷 育代

視能訓練士

岡田 悠（生理機能検査課 主任）

天田 瞳 舘 友香子 玉木 真世 川茂 陽子

採血室看護師

宮地真奈美 木野 洋子 赤石美智子 今井美恵子

検査アシスタント、受付 洗淨

田辺 智美 富木 貴子 久保田孝子

<異動、昇任>

医師 山中 雄介 令和3年4月1日 検査副部長に就任

臨床検査技師 荒木孝一郎 令和3年4月1日 技師長に就任

臨床検査技師 吉田 桂 令和3年4月1日 臨床検査課長兼生理機能検査課長に就任

臨床検査技師 今井翔太郎 令和3年4月1日 臨床検査課 検体検査係長に就任

臨床検査技師 大西美穂子 令和3年4月1日 病理検査課 細胞形態検査係長に異動

<認定資格>

認定超音波検査士：佐藤 裕司 吉田 桂 元原 浩子 坂野 絵美

亀山 雅貴 駒井 裕子 荒木孝一郎

認定血液検査技師：大西美穂子
 認定骨髓検査技師：大西美穂子
 認定糖尿病療法指導士：土井美都子
 認定臨床微生物検査技師：扇田 裕允
 感染制御認定臨床微生物検査技師（ICMT）：扇田 裕允
 認定救急検査技師：今井翔太郎 奥洞 智太
 緊急臨床検査士：奥洞 智太
 認定心電図専門士：駒井 裕子

<令和3年度活動実績>

2021年4月1日～2022年3月31日	人（延べ）
生化学・免疫検査	66,680
末梢血算定	69,394
末梢血液像 目視	21,549
骨髓検査	252
尿一般	39,390

血液型	1,951
交差試験	1,910
不規則抗体	2,258
間接クームス	38
直接クームス	42

一般細菌検査	9,542
抗酸菌検査	1,494

心電図	11,066
心臓超音波	3,350
腹部、血管、表在超音波	5,473

SARS-CoV-2 PCR 検査数

令和3年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
院内検査数	727	724	831	799	1,023	948	756	700	699	1,589	1,620	1,197
行政検査数	2,868	1,976	727	1,059	3,376	2,401	652	54	38	882	365	53

令和3年度PCR件数

院内検査数：11,613件 行政検査：14,451件 合計：26,064件
 （令和2年度は12,397件）

- ・令和 3 年度 日臨技臨床検査精度管理調査
A+B 評価 250 個 99.2% C 評価 0 個 0% D 評価 2 個 0.8%
- ・令和 3 年度 日本医師会 臨床検査精度管理調査
評価 96.5 A 評価 104 個 B 評価 19 個 C 評価 1 個 D 評価 0 個
- ・臨床検査の標準作業書とマニュアルを更新。
- ・臨床検査適正化委員会を通じて検査セットを見直し、血液検査目視依頼数を昨年度比で 10%削減。
- ・ポジティブレポート（インシデント）を 135 件報告、（令和 2 年度は 58 件）
医療安全推進室と連携して、リスクマネジメントを強化。

<学会発表、講演>

今井翔太郎 第 21 回大阪病院学会 2021 年 11 月 24 日～ 12 月 14 日 オンデマンド配信
「インシデント是正における阻害因子の考察と有効な是正サイクルモデルについての検討」

<令和 4 年度活動目標>

- ・PCR 検査体制の充実と安定化。
- ・検査セット、項目を見直し、過剰な検査を削減。
- ・検査機器更新に伴う検査委託費、試薬代の削減計画。
- ・部内ローテーションを行い、個々が検査できる範囲を拡大、部署間のサポート体制を強化。
- ・各種 , 認定資格を各自の目標通りに取得。
- ・勉強会や学会発表への積極的参加 学会発表は年 5 題を目標。
- ・精度管理向上、日臨技、日本医師会の外部サーベイ参加、医師会サーベイは目標オール A 評価。
- ・各部署マニュアル、標準作業書の更新、整備。
- ・他部署へのサポート、連携強化。
- ・ポジティブレポート提出率の向上。
- ・検査部内勉強会開催 目標として年 6 回。
- ・年最低 10 日の年次有給休暇取得。

病 理 診 断 科 部

<スタッフ>

医 師

渡邊 千尋〔病理診断部長〕：病理専門医、細胞診専門医

山田 義博〔非常勤〕 白瀬 智之〔非常勤〕 奥野 知子〔非常勤〕

千葉 渉〔非常勤〕

臨床検査技師

荒木孝一郎〔病理検査課長〕：細胞検査士、国際細胞検査士、
超音波検査士（循環器、消化器）

廣田 智美〔組織形態検査係長〕：細胞検査士

山本 翔：細胞検査士

山田 桂実：細胞検査士

後呂 純平

<異 動>

無し

<令和 3 年度年度活動実績>

- ・統計：組織診件数 3,968 件 細胞診件数 2,374 件 剖検件数 6 件
- ・症例検討会（CPC）を 4 回行う
 - ① 白血病、臍帯血移植後 1 週目、播種性真菌症：8 月 25 日
 - ② 食道癌放射線 - 化学療法後 13 年、食道狭窄ステント留置部出血：10 月 27 日
 - ③ 長期生存が得られた進行期卵巣癌：2 月 16 日
 - ④ 移植後 EBV 関連ホジキンリンパ腫、胆管消失症候群：3 月 16 日
- ・月 3 回、細胞診症例検討会を行う
- ・日本臨床衛生検査技師会コントロールサーベイに参加
- ・日本臨床細胞学会施設認定制度コントロールサーベイに参加

<令和 4 年度活動目標>

- ・学会発表、研修会への参加
- ・病理標本の染色、質的向上
- ・ホルマリン、キシレン等の有機溶剤、劇物の管理
- ・病理標準作業書の作成、マニュアル整備
- ・細胞検査士認定資格取得技師の育成
- ・検査部業務のサポート（検体検査、生理検査、細菌検査、治験業務）

看護部

<スタッフ>

看護部長：岸 恵美

看護副部長：西 ひろみ・高橋 晶子・原田かおる（兼）

看護師長：有持 由江（5病棟）・門脇 寛子（6病棟）・南波 広美（7病棟）

高田 佳織（8病棟）・依藤 里香（9病棟）

秋山 由依（緩和ケア病棟）・福谷 裕美（手術室／中央材料室）

川崎 知子・原田 香織（外来）・松浦 昭子（HCU）

西浦 美香（看護部／患者支援センター）

阿部 哲子（看護部／研修課）

石黒 早苗（看護部／病床管理室）

奥田 唱子（看護部）

看護係長：鹿野 瑠美（HCU）・橋本 龍 辻 ちひろ（5病棟）・谷森 涼子 小笠原 舞（6病棟）・福場 久美子（7病棟）・武内 綾香 吉田 一真（8病棟）・森下 かおり（9病棟）・田中 智美（緩和ケア）・前田 敦子 松下めぐみ（外来）・伊藤 勝也 山内 洋平（OP室）

看護部職員：佐賀 昭子（感染室／感染管理認定看護師）

今戸美奈子（看護部／慢性疾患看護専門看護師）

西川亜紀子（看護部／がん看護専門看護師）

藤原 和子（看護部／緩和ケア認定看護師／緩和ケアサポートチーム専従）

北田 千世（看護部／皮膚・排泄ケア認定看護師／褥瘡管理者）

工藤ゆかり（看護部／退院調整看護師）

矢野原綾香（看護部／入退院支援看護師）

岩田 佳美（看護部／入退院支援看護師）

大西 桂子（看護部／主事）

<令和3年度看護部活動実績>

1. 学会参加

1) 日本看護系学会等参加人数：51名

2) 大阪府看護協会研修参加人数：32名

2. 認定看護管理者教育課程

1) ファーストレベル修了者：吉田 一真・亀岡さつき・仲 砂千代

2) セカンドレベル修了者：秋山 由依

3. 認定看護師教育研修

1) 認知症看護認定看護師教育課程：小笠原 舞

2) 特定行為研修：戸川 綾女

4. 看護学生臨地実習受け入れ

1) 大学

☐ 梅花女子大学看護保健学部看護学科

☐ 大阪医科大学看護学部看護学科

☐ 藍野大学

2) 専門学校

☐ 学校法人日本教育財団 大阪医専

☐ 高槻市医師会看護専門学校

令和3年度（2021年度）看護部・各看護単位の活動

【看護部の活動総括】

本部管理病院2年目。経営改善が最大の目標であった。固定費削減のため4月の入職者は新人6名を含む計8名であり以後退職者に合わせて採用をしてきた。しかし急性期一般入院料1の看護師を確保する事が難しく病床削減にいたった。コロナ対応については二次医療圏の中では2番目に陽性患者を受け入れた。またワクチン投与、発熱外来など地域のニーズに応じてきた。看護職員数の減少により看護部内のマネジメントだけでは看護師の職場環境の改善を図る事が難しく院内全体でタスクシフト、タスクシェアに向け多職種へ協力を求めチーム医療を推進するきっかけができた。

高齢者看護の強化について令和2年より取り組んできた。認知症対応力向上研修に複数名参加。教育の中核となり推し進めた。次の段階としては今年度取り組んだ病棟でコアになるスタッフを中心に各部署で強化していく。今年度からBSCによる目標管理の中で戦略マップを用いて実践していく事に取り組んだが看護管理についての学習が不足している様子がうかがえる。次年度は看護管理実践能力の強化が課題である。

I. 看護部基本方針

1. 専門職業人として自発的探究心を持ち自律した看護実践を行います。
2. 病院で働くすべての職種に関心を寄せ多職種の専門性を尊重します。
3. 継続した医療が提供できるように、地域と連携した看護を展開します。
4. 社会の変化に柔軟に対応し、組織の発展と健全な経営に参画します。
5. 日頃から災害に備え、救護活動が実践できる看護師を育成します。

II. 看護部目標についてのバランススコアカード（BSC）

財務の視点

1. コロナウイルス感染拡大の状況に合わせ9病棟の運用を変更。4月末から5月にかけては他の赤十字病院からの応援をもらい最大26床までの陽性受け入れ病床を確保した。又9月からは緩和ケア病棟を10床2人夜勤の体制に変更。看護師を集中投下した。看護師の退職により12月末で病床再々編成を行いながらコロナの対応と一般診療に対応できる看護体制をとった。
2. 救急車の受け入れ台数は2,382件/年であった。9病棟をコロナ病床に使用する事に加

- え 3 病棟を休棟したため一時的に予定入院の抑制や救急の断診察があった。パスも DPC II 期以内であるかという検証を行い修正した。また退院促進については病床管理室からの情報発信や退院促進カンファレンスの開催など多職種でベッド回転率の向上を目指した。
3. 5 月より夜間 100 対 1 看護補助体制加算を取得し増収に貢献できた。専門認定看護師の活用によりがん患者療養指導料や在宅療法指導料は昨年度より増収となった
 4. 離職率は昨年度より減少したもののまだ高い値である。離職理由の変化はないもののメンタルへする不調によるものが一定数存在し職場環境の整備が必要となっている。

顧客の視点

1. 地域連携室での看護師長の活動により整形外科病棟においては多職種カンファレンスが定着しつつあり目標の共有により入院期間の短縮につながった。パスに関してはアウトカムパスの評価と経過表活用について各部署で適正に運用されるよう委員会で共有し周知する事が出来た。
2. 感染対策については今年度アウトブレイクを起こすことなく経過。発熱外来や救急室での対応も手順に沿って対応する事が出来た。
3. 安全の推進については web 研修が定着してきており参加率も向上した。レベル 3b のインシデントは今年度 17 件（2020 年度 14 件）。それぞれのケースについては部署の看護師のみで振り返るのではなく多職種でのカンファレンスを開催する事によって多角的な対策につなげる事が出来た。
4. 年休取得については全看護職員 5 日 / 年以上取得する事ができた。また保育所でのコロナ感染拡大に対しては一時的に病児保育を利用するなど院内の保育所の活用が促進された。
5. 倫理カンファレンスは 3 件開催した。いずれも治療方針にかかわる内容であったが看護師の立場からの意見を述べディスカッションする事が出来た。

業務プロセスの視点

1. 病床ミーティングを活用した病床管理室の役割である空床ベッドの管理と病棟師長が行う病棟の病床管理という視点の違いによって時に困難を極める事があった。しかしそれぞれの役割を再認識し看護部が調整役を取る事によって全体最適な病床コントロールが可能となった。9 病棟を除く一般病棟の稼働率は 90%を超えた。
2. 院内救急委員会、患者支援センター運営委員会などでも断診内容の検討がなされスムーズな患者受け入れの流れが出来た。しかし一般病床が減少してからは対応が難しい場面もあり新入院患者数は後半伸び悩んだ。DPC III 期以降の退院は 30%を切る事が出来なかった。
3. 夜間の看護補助者の導入により看護師の負担感は軽減した。しかし夜補の業務量調査では業務拡大が進んでおらず今後も補助者の活用は課題である。
4. 9 月より看護師応援プロジェクトを立ち上げ多職種のタスクシフトに取り組んだ。事務のクラーク業務は定着とはならず一時的となった。しかし薬剤部の配薬カートセットや外来処置室での応援など院内の流れは出来つつある。
5. パス活用については 記録員会を中心に推進。記録時間の短縮につながった。業務改善

委員会では現在の業務にそぐわない手順が存在し委員を中心に見直し unnecessary なものを削減、修正等行った

学習と成長の視点

1. 認知症高齢者の出前出張研修を 9 部署で実施。成功事例のリフレクションを行った。自部署の看護を他者に承認してもらう事は有効であった。ACP については看護管理者が看護協会の研修に 4 名参加。今年度は実践にまでは至らなかった。高齢者看護師コアナースを育成するために時間内での研修会を開催した。自部署での活動計画を実施し、今後も得た知識を活用できる支援が必要となる。
2. 看護管理者の教育についてはグローバルヘルスの一環で SDGs の調べ学習やハラスメントについての学習、学習支援などの WEB 研修の受講などを行った。
3. ラダー推進では申請者 26 名学会参加は web で行われたものが多かったが復命書からは学びが多かったという報告があった。認定看護師は新たに 2 名（緩和ケア、看護管理者）が誕生。認知症看護認定看護師の教育課程修了 1 名（栄養水分、精神の特定研修受講修了）ファーストレベル 3 名、セカンドレベル 1 名受講修了。特に今年はファーストレベルを公募。2 名の応募者があった。

HCU：高橋 晶子

2021 年度は、超急性期医療・救急医療を担う看護師として期待される役割が発揮でき、看護にやりがいを持てることを目標に取り組んだ。

財務の視点では、HCU の稼働率も曜日によりばらつきがあり平均稼働率は 72.4%であった。次年度 HCU の運用としては、特に加算対象の患者の入室の推進と、退室基準の作成により効率的な病床の運用に努めていきたい。救急外来では救急車受け入れ件数は 2,416 件であった。ウォークインを合わせると 5,682 人の患者を受け入れ目標数値は達成できた。

顧客の視点では、レベルⅢ b 事例が 1 件（MDRPU）。発生要因やケアの方法等をカンファレンスし、対応策を検討し安全に対する意識の向上に繋げた。コロナ禍で、HCU でも疑似症重症患者を受け入れ、救急外来でも発熱患者をゾーニングしながら受け入れ、感染対策に努めた。

業務プロセスの視点では、アウトカム志向型パス適応患者については看護記録が短縮したと感じる看護師が 80%であった。引き続き、記録や業務のスリム化を図っていきたい。

学習と成長の視点では、循環器、呼吸器、敗血症、術後管理など部署内で計画的に勉強会を実施し、実践力の向上に努めた。また、HCU・救急外来・アンギオの一元化教育計画を立案し実施。異動者・退職者もいる中、新たに HCU・救急外来・アンギオ担当者の育成に努めた。院外研修では、看護職員実務者研修（循環器病総合コース）、中堅看護師研修、近畿ブロック係長研修受講するなど自己研鑽に努めた。キャリア開発ラダーの申請には至らなかったことや、看護カンファレンスの充実やリフレクションの取り組みが進まなかったため、次年度の課題とする。

5 病棟：有持 由江

2021 年 12 月に新型コロナウイルス対応と病床の効果的運用目的で 3 病棟と 5 病棟が統合し、病棟再編成の結果、循環器内科、泌尿器科、糖尿病内科の混合病棟となった。編成後は業務改善、学習会を行い病棟づくりに努めた。下記の内容は 12 月までの内容となる。

財務の視点としてコロナ禍が遷延する中、病床稼働数は 4－7 月 90% 超え、8－12 月 80% 台で平均 88.4% であった。病床回転数は 4－12 月平均 2.23 であった。入退院支援加算・介護支援等連携指導料は昨年比若干の減、在宅療養指導料は昨年比増であった。インシュリン関連の療養指導件数が多く療養指導件数も他病棟に比べ突出している。各種加算の漏れをなくすため、各リンクナース・病棟係が取り方指導・漏れの点検など啓蒙し実施することで件数が維持できた。4－6 月にかけて 3 病棟との合同病棟運用があり 9 病棟におけるコロナ病棟夜勤補充に伴う応援者を 7 名選出し対応した。

顧客の視点として前年度末に総室でのコロナ陽性患者が複数発生したが、それ以降、他の感染症について発生はない。疑似症・結核患者・播種性ヘルペス対応等、個室が多い病棟として対応することが多く、速やかな入院対応は看護助手の協力が大きい。挨拶カードは定期的に呼びかけをしないと使用しないスタッフもあり、継続しての呼びかけが必要である。4－12 月でインシデント報告 184 件。レベル 0 は 15 件、レベル 1 は 107 件、レベル 2 は 55 件、レベルⅢ a 33 件、レベルⅢ b は予測していない窒息に関連する死亡事故が発生した。退院時に関連する物品（退院時処方含む）忘れは散発しており退院時チェックリストの活用について検討した。リフレクション勉強会は実施出来ていない。多忙な中看護の振り返りの場を作りたい思いはスタッフもあり、「看護の小嘶」として気になったことや思いを気軽に話す場をチームカンファレンスの中に取り入れた。

業務プロセスの視点として昨年度の業務量調査をもとに申し送り短縮・リーダー板の活用と見直し、ペア制導入による業務配分とスタッフ育成に取り組んだ。アウトカムパスの活用による記録時間短縮は十分ではない。夜間看護補助者導入に伴う看護周辺業務の見直しを行い、夜勤フリー業務サポート（療養環境の整備・備品等の整備点検・清掃等）を随時見直し効果的に運用できた。また、助手も含め、病棟での入院案内関連、アメニティ配置場所、ケアの効率化（ケア板作成）、付加食の無駄の見直しと摂食量観察等々の改善・提案事項について実施出来た。4－6 月の 3 病棟と合同病棟運営時は昨年の課題を元に夜勤体制を整えた。

学習と成長の視点として改訂ラダー取得にむけて教育サポート会・エルダー会・2 年目強化係を設けた。看護師経験の浅いスタッフが多い病棟の実践レベルを向上することで安全な医療・看護の提供につながることを日々伝え、対象者のモチベーションを維持しながら改訂ラダー評価会を実施した。同僚評価者も改訂ラダー（電子カルテ入力）体験をすることで次年度のラダー取得に向けた素地を作ることが出来た。レベルⅠ 4 名、レベルⅡ 2 名、レベルⅢ 1 名の申請を行った。

コロナ禍が継続する中、WEB 学会・ZOOM 研修受講するスタッフも増えてきている。

6 病棟：門脇 寛子

新型コロナウイルス感染により 9 病棟が陽性患者受け入れとなり 2 年が経過した。

平均病床稼働率は 91.4%（昨年度 84.9%）、回転率は 2.1（2.5）、平均在院日数 14.7（11.8 日）であった。入院患者が多い診療科の病棟であり、他病棟の病床再編成もあったことや、コロナの感染拡大もなく、病棟や病床閉鎖することなく稼働率は上がっている。後期高齢者も増え、疾患により ADL が低下し在宅への退院が難しい状況の方が増えてきていることや、短期入院であるポリペクトミーの患者が他病棟に入院していることから在院日数が昨年度に比べ増えてきている。今後も DPC II 期での退院を早期からチーム医療で退院調整を目指していく必要がある。

在宅療養指導料 105 件（昨年 80 件）療養指導件数 10 件（HOT 導入 8 件、自己注射 2 件）アフターコロナの方等在宅酸素導入の方が多かったことも昨年に比べ件数アップしている。

転倒転落事例 80 件（昨年度 70 件）レベル I 44 件（35 件）レベル II 29 件（23 件）レベル III a6 件（7 件）、レベル III b1 件（4 件）であった。転倒件数は昨年度に比べ増えているが、レベル III 以上の件数が減ってきている。今年度から転倒予防カンファレンスを多職種で出来るように定着につとめた。特にリハビリ担当者との筋力の状況を考えて療養環境の調整につなげられるようになった。特に後期高齢者が多く家族との面会が禁止されている中、今後も多職種での療養生活の環境を整えていきたい。

赤十字キャリア開発ラダー認定レベル 1 は 1 名 レベル II は 1 名、レベル III は 1 名取得することができた。肝炎コーディネーター 2 名取得した。

7 病棟：南波 広美

血液内科、眼科混合病棟 49 床（クリーンルーム 12 床含む）平均在院日数 23.1 日、病棟稼働率 89.2%、無菌治療室 I・II 稼働率 86.8%（前年度より +0.8%）、無菌治療室 I・II 算定率 73.2%（前年度より +2.3%）移植件数 21 件（臍帯血移植 16 件、末梢幹細胞移植 1 件、自家移植 4 件）、骨髄バンクドナー受け入れ 2 件であった。移植治療、化学療法を受ける対象が高齢化と、造血機能回復に時間を要するためクリーンルーム算定越え、長期入院となっている。新たに移植後長期フォローアップ外来（LTFU）を担当する看護師が 1 名増え、移植後患者の予防接種スケジュール、日常生活上の多岐にわたる悩みに対して傾聴し支援している。7 病棟ビジョンを看護にやりがいを持ち、多職種の中心となり患者家族を支援する看護が提供できるとした。目標を①安全安楽な看護ケアを提供する、②患者の意思決定支援に参加する、③時間外業務が減少しワークライフバランスの調和がとれるとし取り組んだ。目標①の評価として、アクシデント 3b 事例が 3 件あった。薬剤の影響もあり自立している患者でも転倒する事例が増えているため、療養環境を含め、治療が及ぼす影響や患者行動を予測する思考と実践能力が必要とされた。病棟全体で振り返り、看護師の気づきから患者の変化に対応するための情報共有に取り組んだ。他職種と転倒前後カンファレンスを行いより安全な環境が提供できるよう取り組むことが課題となった。目標②の評価として、医師と看護師が情報を共有し合い、業務の調整を行い、以前に増して IC に同席をした。医師の説明をかみ砕き治療の選択に必要な情報が提供できるよう取り組んだ。今後は、移植前カンファレンスに患者が参加し治療に伴う副作

用予防に積極的に参加できるよう多職種で取り組みたい。目標③の評価として、前年度より超過勤務時間 10% 減少した。この背景には、互いに協力し合う意識と体制を試行錯誤し取り組んだ結果であると感じている。

8 病棟：高田 佳織

当該診療科の緊急入院は積極的に応需したが病床稼働率は、86.9%であり、目標の 90% 以上には至らなかった。DPC II 期内の退院を意識し他職種との退院促進カンファレンスでスムーズな退院調整やベッドコントロールを実施していたが、DPC III 期越えの退院率は 40% 以上となってしまった。12 月中旬以降、病床再々編成で消化器外科、乳腺外科も当該診療科となった。病棟の OP 件数が増加し多忙な業務のなかでも、パス活用や他職種との退院促進カンファレンスで、早期に退院のゴール設定を他職種で共有し、各職種が専門性を発揮してスムーズな退院調整の実践が必要である。次年度は看護部目標である、病床稼働率 93% 以上、DPC III 期越え退院率が 3 割に以内となるよう退院調整、病床管理をしていきたい。

医療安全に関しては、転倒などインシデントレベル 3b、3a の件数が、昨年度と横ばいであった。高齢の認知症患者や病棟の OP 件数増加により術後せん妄の患者も多かった。入院早期からカンファレンスを積極的に実施し、せん妄や転倒・転落防止に努め、インシデントレベル 3b、3a の件数を低減したい。感染対策については COVID-19 感染症の患者が病棟内で 2 名発生した。患者への感染対策の指導、協力依頼とともに引き続き職員の感染対策の徹底と職員自身の健康管理に努めて行きたい。

病床再々編成により当該診療科が変化したため、慣れない看護ケアを考慮し、看護師 2 名で補完し合い、安全にケアを提供するためのペア制を導入した。業務マニュアル、病棟のルール、作業スペースなどの課題は、その都度カンファレンスで討議し、働きやすい労働環境を目指している。

看護継続教育については、大阪府看護協会の看護管理者研修ファーストに 1 名修了し、認知症ケア能力向上研修は 1 名受講した。院内キャリア開発ラダーではレベルⅢ：2 名、レベルⅠ：4 名がラダー申請し認定された。高齢者看護日常生活援助研修は 2 名受講した。また、看護の質向上を目指し、看護実践をリフレクションする機会を作ること为目标に挙げたが、十分できなかった。次年度は、多忙な中でも、ケアカンファレンスを積極的に実施し、看護実践のリフレクションを行い、看護の言語化、意味付けを行い、看護のやりがいにつなげると共に看護の質向上を目指したい。

9 病棟：依藤 里香

<財務の視点>

COVID-19 の流行拡大により 2020 年 4 月より 9 病棟は、COVID-19 受け入れ病棟となり軽症中等症の患者を受け入れている。2021 年 4 月から 2022 年 3 月末までに 295 名の患者を受け入れ、重症化し人工呼吸器管理が必要な患者 19 名に気管挿管を行い重症病院に搬送を行った。COVID-19 感染状況により発熱外来の担当を行い地域に求められる病院の一員として業務を担うことができた。

<顧客の視点>

昨年度に引き続き、手指消毒の徹底を行うため手指消毒の5つのタイミングを直接観察し量より質を意識し取り組んだ。直接観察の結果、スタッフ全員が5つのタイミングで手指消毒を行っていたため定期的な声掛けを行い継続できるよう取り組む。高齢者看護については、カンファレンスを繰り返し行い個別性を考慮した対応を行う事ができていたためインシデントレベル3b事例は起こらなかった。また、COVID-19患者の対応は倫理的問題が多く看護師のモチベーション低下につながる事もあった。そのため、解決の糸口を探すためにも倫理カンファレンスを行ったことで以降の看護にも繋げることができた。

<業務の視点>

応援者や異動者が対応できるように気管内挿管時の手順や入院受け入れなどCOVID-19患者対応のマニュアル改訂を行った。そして、応援者や異動者も対応できるようリーダー、コロナ担当、疑似症担当の業務手順も改訂を行った。また、COVID-19感染状況により発熱外来を担当することがあるため、発熱外来に対応できるようにマニュアルを作成した。

<学習の視点>

重症化したCOVID-19患者が増加した場合に備え、気管内挿管のシミュレーションや人工呼吸器離脱後、NHF離脱後の看護について事例検討会を行い統一したケアが行えるよう取り組んだ。そして、高齢者が多いため高齢者看護についても力を入れ、研修を受けたスタッフが伝達講習を繰り返し行い看護の質向上に努めた。また、COVID-19感染状況により急性期病床の入院患者の受け入れがあるため、安全に看護技術が行えるようナースィングスキルを活用し学習した。

緩和ケア病棟：秋山 由衣

<財務の視点>

院内・院外の新規患者の入院は、積極的に受け入れをおこない、病床稼働は80%を維持することが出来た。退院促進は、退院調整カンファレンスを多職種間で行ったが、入院60日を超える患者の割合は、前年度と変わらなかった。在宅との連携は、看看連携事例を1症例他施設の訪問看護師と症例発表会を実施し、地域連携の強化に努めた。

<顧客の視点>

今年度、緩和ケア病棟の看護師人員配置、患者の受け入れ人数の体制が変更となった。看護師人員も減ったため、少ない人数でのチームワークを発揮するために、アサーティブに会話の出来る環境を作るように心がけた。インシデントⅡb事象（転倒し骨折、保存的加療となった事例）1件発生したが、その後の転倒カンファレンスを実施し、退院となるまで転倒することなく経過出来た。麻薬のインシデントについては、翌日にカンファレンスをおこない、要因を深堀りし、対策をチームで検討を行った。褥瘡リンクナースを中心として、マットレス変更時の周知徹底や、ハイリスク加算の取り漏れがないかを定期的にチェックし、漏れのないように対策していた。悪液質な患者が多いため、新たな褥瘡発生を0にすることは困難ではあったが、増悪しないように、スタッフ間でポジショニングの学習会をおこない、知識を深めた。また、今年度、自施設プログラムの評価をおこない、自施設の課題として、最新のガイドライ

ンの活用や、STAS-Jなどの指標の活用をおこない、質の改善への取り組みをおこなうことが次年度の課題としてあがった。

< 業務の視点 >

時間外業務に係る時間の分析をおこない、記録の時間が以前の業務量調査の時と比較して多いことが分かった。そのため、朝の申し送りを廃止し、多職種カンファレンスを充実するように変更した。また、カンファレンス後に、看護ケアの分担や采配をスタッフ自身で相談し、チームで動けるように調整をおこなった。また、9月～夜勤2人体制の導入に対して、夜勤の業務を整理し、点滴の実施時間を日勤帯で実施できるものは変更し、夜勤でおこなっていたフリー業務で日勤帯に変更できるものは変更した。その後、時間外労働時間は減少傾向となった。看護補助者からの提案も伺い、ケアの調整方法の工夫も一緒に参画しておこなえるように工夫した。多職種カンファレンスの時間にも出来る範囲で参加してもらい、患者の情報共有を一緒に実施するようにしている。ボランティア活動はCOVID19の影響もあり人数を縮小し感染予防に留意し実施したが季節毎のイベントは実施出来ず、今後の在り方を部署で話し合う機会を設ける必要がある。

< 学習の視点 >

今年度、緩和ケア認定看護師の資格を1名取得した。病棟勉強会では、エンゼルメイクの方法、認定看護師によるがん性疼痛の知識の共有、死の受容過程の共有などをおこない、その知識をもとに、実際の事例を活用して症例検討をおこなうこともできた。院内集合研修のがん性疼痛①②の視聴は、スタッフ全員が視聴参加することができ、自己研鑽に努めることが出来た。しかし、日々のケアカンファレンスや、もやもやしていることなどをタイムリーに話し合う時間を作れず、緩和ケア特有の倫理的問題などの直面した時の話し合いを行なう場を次年度もっと作れるように業務整理が必要である。

手術室中央材料室：福谷 裕美

< 財務の視点 >

- ・麻酔管理料Ⅰは麻酔科・医事課と連携し、98%取得。褥瘡ハイリスク加算は43件/月と前年度(38件)より増加している。
- ・医療材料等、使用状況を確認し、診療科・スタッフと協議し、定数変更を行った。(削除21件、変更30件)

< 顧客の視点 >

- ・研修開催には参加を促した。医療安全・感染管理研修には全員が2回以上参加することが出来た。
- ・術前カンファレンスは整形外科に加え、外科にも参加、呼吸器外科も開始し、手術準備、介助がスムーズに行えるよう診療科と協議出来た。今後は形成外科にも拡大していく。
- ・術前訪問は対象のリストアップを見直し、実施漏れがないようにしたが業務により約8割にとどまっている。次年度の課題として病棟との連携、術後訪問につなげる。

< 業務プロセスの視点 >

- ・医師の変更(退職等)で手順変更や使用する材料の変更があった場合は、担当者が中心と

なり変更出来ている。使用しなくなったもの、頻度が少なくなった材料に関しては定数見直しを行った。

- ・医療材料の供給不足、遅延などがあり材料確保に難渋した。
- ・医療機器・器材の管理等タスクシフトしたい業務があったが、洗い出し、準備が整わず次年度に持ち越しとなった。

< 学習と成長の視点 >

- ・部署内研修会を業務関連、看護関連、リフレクション研修を計画的に開催した。
- ・リフレクション研修はシリーズ化し、中堅スタッフ向けに開催した。
- ・クリニカルラダーはレベルⅠが1名、Ⅲが1名取得した。
- ・赤十字看護師研修受講1名、卒後2年目以外の全スタッフが登録及び登録可能となっている。

外来：原田 香織

外来では慢性疾患看護専門看護師、認知症看護認定看護師、がん化学療法看護認定看護師、がん放射線治療法看護認定看護師、皮膚・排泄ケア認定看護師、また、禁煙認定指導者、糖尿病療養指導士が勤務し、それぞれに専門性を発揮し活動している。

看護専門外来は、看護師主体の外来で、その療育で認定されている看護師が医師の指示のもとで、患者の自己管理能力の向上や、家族を含めた患者のQOLの支援に努めている。

看護専門外来での療養指導料の算定などは病院経営に貢献している。

外来における診療報酬算定件数

- ・禁煙外来：初回16件 2-4回42件 5回目14件
- ・糖尿病合併管理：178件
- ・在宅自己腹膜灌流指導管理：37件
- ・在宅療養指導：974件
- ・移植後患者指導管理：258件
- ・在宅自己注射指導管理（月27回以下）：1249件
- ・在宅自己注射指導管理（月28回以上）：2245件
- ・がん患者指導管理イ：121件
- ・がん患者指導管理ロ：345件
- ・がん患者指導管理ロ：647件

看護記録・監査委員会：西 ひろみ

2021年度看護記録・監査委員会では、委員会ビジョンに「患者のための看護記録」「看護記録の標準化と簡素化」を掲げ、事業計画のもと実施した。

「業務プロセスの視点」として①看護記録記載手順の整備、②看護記録監査のあり方検討を行った。看護記録記載手順は院内インターネット上で閲覧できるよう整備し、新人看護職員や中途採用者への看護記録に係る指導場面で効果的に活用されている。看護記録監査はその本来の目的に鑑み、個別の患者の健康問題を解決するために看護過程が展開されるよう現行の監査

方法について課題や改善案の検討を行い、翌年度に事業継続とした。

「学習と成長の視点」では、看護記録監査の改定に向けて看護記録における形式監査、質監査について学習会を行った。それぞれの目的と手法を委員で共有し、翌年度以降の看護記録監査の改定とその運用に資することを期待したい。

「顧客の視点」では、①転棟時サマリーの標準化、②転院時サマリーの改定について取り組んだ。転棟後の看護ケアを継続するために必要な情報をパターン化することで、ケアの継続と転棟時看護サマリーの作成に係る看護師負担の軽減を実現できた。転院時看護サマリーは他院または他施設から受領した看護サマリーやケアマネージャーが必要とする看護情報等を参考に、ケアの継続に必要な看護情報が提供できる退院時看護サマリーの枠組みを検討し、翌年度以降の運用開始に向けて事業継続とした。

「財務の視点」では、看護記録の効率化にむけて検温表を活用した看護記録を推進し、記録の重複回避による記録時間短縮にむけて委員が啓蒙活動を行った。

看護教育委員会：秋山 由衣

今年度も、認知症出前出張研修を9部署へ実施し、リフレクションを行った。リフレクションを行うことにより、他者に承認してもらい、モチベーションの向上に繋がったとの意見があった。

看護補助者研修では、チーム医療の必要性和看護補助者の役割を理解することに焦点を当て、「医療安全」「患者誤認」「療養環境」のよくある場面の動画を作成し動画にて研修をおこなった。受講スタイルを集合研修とWEB研修で選択出来るように工夫したことで、対象者の満足度も高い結果となった。質の高い看護を実践のために、看護補助者の出来ることを考えるいい機会となった。今年度はCOVID-19の影響もあり、年間通してWEB動画講義を中心とした研修構成を行った。前年度より、各研修受講者数は増え、受講者側のニーズとしては、いつでも動画を視聴でき、自分の自由な時間で学習できるといったメリットがあった。しかし、講師側の意見としては、WEB動画講義を視聴した後の、看護師の実践力がどのように現場で向上したのかが、分かりにくいといったデメリットも見られた。院内WEB体制が整うまでの間は、動画講義と集合教育を組み合わせた研修スタイルが必須となり、次年度の研修計画に反映させていく。また、今年度からの取り組みとして、高齢者看護の実践力向上を目的として、高齢者看護研修を年間通してシリーズ化して実施した。各部署から1名師長が推薦した人を対象に実施し、高齢者看護の基礎知識を学び、知識を活用してアセスメントをおこない、日常生活援助を実践し振り返る研修構成をおこなった。最終的には、自部署のスタッフを巻き込んで、ケア実践をおこない、高齢者看護の質の向上を目指したが、今後もコアメンバーとなって部署で力を発揮していくことを期待する。

看護教育委員会の中で、新人の進捗状況の共有をおこない、新人の変化に指導者がどのような関わりが必要なのかを話し合う場をもうけた。今年度の新人の傾向なども情報共有している。

教育委員会のメンバーに対して、教育に関する基本的な知識を、ナーシングスキルの動画を使って学習する機会を5～7月に実施し、委員自身の教育感を考える機会をもうけることが出来た。

看護研究委員会：高田 佳織

令和2年度までは外部講師の指導にて看護研究の実践に取り組んでいたが、令和3年度より、今戸慢性疾患看護専門看護師に講師を依頼し、指導いただいた。臨床看護研究研修を計5回実施した。17名9組の受講生が看護研究の計画書立案に取り組み、3月には発表会を開催した。できるだけ看護研究に関心を持ってもらうため、研修受講生以外の看護職にも参加してもらい、計40名が参加した。研究計画書の発表会であったが、講師からの助言や活発な意見交換もでき、盛況であった。研修受講生は令和4年度、計画書を完成させ看護研究の実践に取り組む予定である。

看護研究委員の研究に対する知識・技術向上に向けてナースिंगスキルの看護研究動画を各自で聴講し、委員会で見聞交換を実施した。部署でも看護職への動画聴講を啓蒙した。次年度も看護の質向上を目指し、看護研究が根付く風土を醸成させるために、看護研究の研修や看護研究の実践を支援していきたい。

臨地実習委員会

委員会ビジョンを、指導者としての充実感を持ち学生の看護モデルとなるとし、年間目標を限られた実習が効果的に行われるよう支援・準備するとした。コロナ禍での限られた実習でシャドイングを行い、清拭など看護技術を行う際は指導者、教員かつきそい患者への安全を確保し、看護師の役割を見せることができた。指導者としての学生理解を得るために実習説明会での話を共有し、学内実習もオンラインで行う学校もあるなど学生の背景を伝えることができた。臨地実習が十分に行えない背景に対し、看護師の役割、患者との接し方を動画で講義する機会があった。委員全員でどのように伝えることができるのか考え動画撮影した取り組みは、臨地実習自体が少なく学生に関わる機会が少ないのでわからないという指導者としての実感を得るものとなった。この先も、実習指導者として必要な力を学び合い後輩育成に繋げていきたいと感じている。

看護業務改善委員会：門脇 寛子

昨年度から看護業務手順の改訂に取り組んでいる。ナースिंगスキルや学会・院内委員会など看護師の安全のため現状に則したものであるのか検討しながら行った。特に、心電図モニター記録や人工呼吸器のチェックリストについては医療・看護の変化、患者のニーズの状況、効率性に基づき、他部門の協力もあり、最終師長会で検討し改訂を行えた。

また、新採用者や中途採用者にナースिंगスキルの電子カルテやインターネット活用を周知することができた。ナースिंगスキルの「事前に確認事項」も改訂を行う事ができた。

来年度は看護業務手順の改訂の完成と検査手順の改訂を行う予定である。

医療社会事業部

社会課

「わたしたちは、苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、いかなる状況下でも、人間のいのちと健康、尊厳を守ります」という日本赤十字社の Mission statement のもと日々業務をおこなっており、赤十字運動の担い手として、人道の実現のために利己心と闘い、無関心に陥ることなく、人の痛みや苦しみに目を向け、常に想像力をもって行動しています。

<令和3年度スタッフ>

渡部 悟（用度課長兼社会課長）
篠田 隆史（図書係長兼社会係長）
綱嶋 準（施設係長兼救護担当）
加賀瀬 博（社会課主事兼医事主事）

■令和3年度実績（令和4年3月31日現在）

令和3年度日本赤十字社大阪府支部救護員（救護班要員）

救護班要員 44 名 医師 5 名、看護師長 5 名、看護師 10 名、助産師 2 名、
こころのケア 5 名、薬剤師 5 名、主事 10 名、補助 2 名

	第1班	第2班	第3班	第4班	第5班
医 師	岡本 文雄	平野 玄起	吉見 宏平	阪上 正英	小林 稔弘
看 護 師 長	南波 広美	橋本 龍	有持 由江	福場久美子	依藤 里香
看 護 師	辻 ちひろ	仲砂 千代	関岡 薫	田中 智美	那須 まき
	里村 裕史	的場 加奈	勝部 絵里	金岡 裕美	永田 奈月
主 事	吉田 桂	松山 佳央	西村 大樹	今井翔太郎	阪本 達矢
	中尾 功一	松宮 源朗	河野 博文	松井 里佳	河田希実子
薬 剤 師	小西 史子	濱武 清範	宮西 将之	奥村 優介	松本 弘誠
補 助	濱田 健司・山崎 雅樹				
こころのケア要員	阿部 哲子・高田 佳織・川崎 知子・門脇 寛子・谷森 涼子				
助 産 師	原田 香織				

◆ 日赤災害医療コーディネーター

岡本 文雄、平野 玄起

日赤災害医療コーディネートスタッフ

濱田 健司、橋本 龍

◆ 国際活動 国際救援・開発協力要員の登録状況

原田 香織

◆ こころのケア指導者

阿部 哲子、高田 佳織、川崎 知子、門脇 寛子、谷森 涼子

◆ 赤十字救急法指導員

高田 佳織、石黒 早苗、仲砂 千代、前田 敦子、南波 広美、村上美穂子、平田 俊介、山崎 孝子、和田 香織、吉川 三保、松岡 郷子、田淵 美世、濱田 健司、亀岡さつき、谷森 涼子、友安 直美、有持 由江（新任研修未受講）

◆ 健康生活支援講習指導員（年報には載せない）

工藤ゆかり、仲砂 千代、濱田 恵、末廣 悦子、橋本 龍（新任研修未受講）

◆ 幼児安全法指導員（年報には載せない）

濱田 恵、亀岡さつき、濱田 健司

◆ 第2級陸上特殊無線技師

迫田 博史、篠田 隆史、佐橋 克哉、阪本 達矢、西村 大樹、山崎 孝子、吉田 桂、河野 博文、濱田 健司、綱嶋 準

◆ 災害救護用トラック運転手 22 名（年報にはのせない）

藪 敏雄、片岡 幹夫、濱田 健司、篠田 隆史、山崎 雅樹、中村 義隆、山崎 孝子、吉田 桂、萩原 大介、迫田 博史、河野 博文、佐橋 克哉、大川 健、松山 佳央、富田 直樹、綱嶋 準、松宮 源朗、中尾 功一、松浦 裕司、入江 琢士、岩見 知樹

●令和3年度災害等救護員派遣

月 日	災害名 / 派遣場所	派遣者	人数

●令和3年度災害対策訓練研修会等

【救護員研修会】

月 日	研修会名	参加者	人数
4月20日	令和3年度第3回日本赤十字社大阪府支部救護員指導者協議会	救急部長 岡本 文雄 薬剤部長 小島 一晃 看護副部長 高橋 晶子 社会課長 渡部 悟	6

8月11日 ～12日	令和3年度日本赤十字社大阪府支部救護員基礎研修 (オンデマンド配信)	薬剤師 奥村 優介	1
10月14日	大阪国際空港緊急計画連絡協議会第2回訓練担当者 会議	社会課長 渡部 悟 社会主事 加賀 瀬博	2
11月10日	令和3年度日本赤十字社大阪府支部こころのケア研 修会	看護師長 川崎 知子 看護師 森脇 佳美 看護師 鷲尾 愛 作業療法士 八木 紀子 薬剤師 濱武 清範 総務管理課 三明 葵 社会課 加賀瀬 博	7
12月9日	大阪国際空港航空機事故医療医救護活動部分訓練評価 会議	社会課長 渡部 悟	1
12月16日	第26回日本赤十字社第4ブロック合同災害救護訓練 にかかる第1回第4ブロック救護員指導者協議会	社会課長 渡部 悟 救急部長 岡本 文雄 (web参加)	1
2月16日	第26回日本赤十字社第4ブロック合同災害救護訓練 にかかる第2回第4ブロック救護員指導者協議会	救急部長 岡本 文雄 薬剤部長 小島 一晃 看護副部長 高橋 晶子 社会課長 濱田 健司	4

【災害救護訓練】

月 日	訓練名	派遣先	参加者	人数
6月20日	日本赤十字社第4ブロック合同災害救護訓練	奈良県田原元町	(COVID-19 感染対策 のため中止)	
11月25日	大阪国際空港航空機事故医療医救護活動部分 訓練	大阪国際空港内 大型防音壁内	救急部長 岡本 文雄 医師 平野 玄起 研修医 町田 尚央 看護係長 吉田 一真 看護師 永田 奈月 看護師 亀岡さつき 薬剤師 宮西 将之 検査技師 町田 統麻 施設係長 網嶋 準 主事 加賀 瀬博 社会課長 渡部 悟	11
12月16日	院内災害訓練	高槻赤十字病院	職員	多数
3月16日	令和3年度第1回三島医療圏大規模災害 時医療連携強化研修会 Web 研修)	高槻赤十字病院	施設係長 網嶋 準 主事 加賀 瀬博 医事係長 木野村 亨	3

赤十字救急法指導員（職員）研修会（大阪府支部にて開催）

8月29日～ 30日	令和元年度赤十字健康生活支援講習指導員養成講習 新任指導員研修会	看護師 橋本 龍	1
---------------	-------------------------------------	----------	---

●令和2年度赤十字救急法救急員基礎養成講習会（高槻赤十字病院開催）※☆は指導員リーダー

月 日	受講生	人数

赤十字救急法救急員指導員派遣（支部にて開催）※養成1→養成1日目、養成2→養成2日目

月 日	参加者

幼児安全法講習指導員派遣

月 日	参加者

健康生活支援講習 講師派遣

令和3年度ボランティア等受入れ・参加

月 日	項 目	人数
4月6日	新採用職員研修災害救護倉庫見学	-
5月19日	令和3年度春季環境美化推進デー（COVID-19感染対策のため中止）	
5月20日	移動採血車来院（中止）	-
5月26日	ANAグループ客室乗務員による「すずらんのお見舞い」（COVID-19感染対策のためすずらんのみ配送）	-
6月18日	移動採血車来院	28
9月10日	移動採血車来院	12
10月21日	移動採血車来院	29
10月25日	薬剤師実習生研修災害救護倉庫見学	3
11月21日	令和3年秋季環境美化推進デー	2
通 年	グリーンボランティア活動（水曜日・木曜日 10:00-12:00）	
		3

中学生実習職業体験受入

月 日	項目	人数
	COVID-19 感染対策のため中止	

その他（ ）内前年度

令和３年度 赤十字社員増強運動実績 377 人 260,009 円 (466 人 312,500 円)

令和３年度 NHK 海外たすけあい義援金実績 7,404 円 (5,082 円)

令和３年度 大雨災害義援金 6,121 円

活動義援金 266,615 円

(令和元年度市民公開講座)

月 日	テーマ	講師	参加者
	コロナのため、開催できず		

患者支援センター

玉田 尚 (副院長兼患者支援センター長)
原田 かおる (看護副部長兼患者支援副センター長)
西浦 美香 看護師長 (看護部付) R 3.2.1 から
工藤 ゆかり 看護師 (看護部付) 退院支援担当 R 3.2.1 から
矢野原 綾香 看護師 (看護部付) 退院支援担当 R 3.12.1 から

地域医療連携課

<スタッフ>

眞清水 裕子 (地域医療連携課長)
(地域医療連携係)
遠藤 美智子 (地域医療連携係長)
大迫 明子 (主事)
宮前 弥生 (嘱託主事)
陰地 弘美 (派遣職員) R4.1.24 から

(地域医療連携推進係)
山崎 雅樹 (地域医療連携推進係長)

(入退院支援係)
山本 裕恵 (入退院支援係長)
小石原好江 (主事)
宇田 聡 (主事)
河津 絵里 (パート主事) R3.4.30迄

(入退院支援看護師)
山本 裕恵 看護師 (兼任)
澄川 幸恵 看護師
岩田 佳美 看護師 (看護部付)
矢野原 綾香 看護師 (看護部付) R 3.11.31迄

<令和3年度活動実績>

- (地域医療連携係)
- ・地域連携課で取り扱った電話依頼件数は8,432件で、前年度7,138件に比し1,294件の増加となった。平成25年以来、月の平均は概ね500～600であったが、令和3年度は700件を上回る結果となった。
 - ・新規の紹介患者は5,613件で、前年度4,770件に比し843件の増加、逆紹介は4,528件で

前年度 3,477 件に比し、1,051 件の増加となった。

- ・新型コロナウイルス感染症の蔓延状況を鑑み、2020 年 8 月から開始した P C R オープン検査は、1,167 件で、昨年度 591 件に比し 576 件増加した。結果については、検査当日に依頼元医療機関及び患者に対し報告し、地域の感染症対策に貢献した。

(地域医療連携推進係)

- ・近隣病院・登録医への訪問は 194 件で、新型コロナウイルス感染症蔓延の影響で、前年度と比し 161 件減少した。なお、医療者同行訪問は 22 件で、前年度 3 件に対し 19 件増加した。
- ・未登録医への訪問を行った。
- ・令和 3 年 10 月 23 日、京都ホテルグランヴィア京都において、登録医との親睦を図る目的に加えて、創立 80 周年記念事業として「地域連携の会」を開催した。特別講演には、第 27 代京都大学総長、湊長博先生をお迎えし、『感染症、がん、老化；免疫学の立場から』の演題で講演いただいた。
- ・登録医向け Web 講演会を開始し、5 回開催した。

開催日	座長／演者	演題	参加人数
4 月 21 日	古川 福実／恒松 一郎	新型コロナウイルス感染症 ～重点医療機関としての取組～	22 名
8 月 7 日	今井 道生 (いまいハートクリニック院長) ／金子至寿佳	原発性アルドステロン症 ～術前から術後経過まで内科医の視点から～	26 名
11 月 18 日	鳥居芳太郎 (鳥居内科クリニック院長) ／野溝 岳	肺がんの診断と治療 ～ガイドラインと当院の取組～	19 名
1 月 19 日	谷川 淳 (内科・循環器内科たにがわクリニック院長) ／大中 玄彦	高血圧治療 Topics ～新しい降圧剤の使い方～	30 名
3 月 19 日	玉田 尚／古川 福実	時空を超えた痛み・痒みその対策 ～当院の過去・現在・未来～	50 名

(入退院支援係)

- ・入退院支援看護師の退院カンファレンス参加
- ・通常業務に加え、新型コロナウイルス感染蔓延対策の一環で、入院時スクリーニング PCR 検査の案内、入院制限に伴う面会者への説明及び面会証の交付を担当した。

(課全体の実施項目)

- ・入退院支援業務の体制強化
- ・営業強化
- ・大阪府がん診療連携拠点病院の現況報告

◆共同診療は、新型コロナウイルス感染症対策の影響により合計2回となった。(昨年度2回)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

令和3年度研修会等開催実績

- ・公開消化器カンファレンス 3回(10/23、11/10、12/8)
- ・公開呼吸器カンファレンス 2回(11/19、12/16)
- ・がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会 10/17

<令和3年度活動目標>

I、地域の人々に安全・安心な医療提供のために継続的に地域医療・院内の連携に努める

財務に関する事項	地域医療支援病院の継続	① 紹介率 65%以上・逆紹介率 40%以上 ② 地域支援病院に関する研修の実施
	登録医訪問の強化	① 紹介患者の増加 ② 当院の担当医師と共に訪問活動を強化
	がん診療拠点病院の獲得	① 承認事項の実施 ② がん患者・家族に沿って支援強化
	紹介率のアップ	① 未登録医への訪問 ② 近隣病院・登録医への年2回定期訪問
	がん連携パスの増加	① 大阪府がん診療連携パスの推進 ② がん疼痛緩和ケア地域連携パス運用に関する支援強化
顧客に関する事項	紹介患者の受入の迅速化	① 予約依頼から5分以内返答の徹底
	登録医の期待に応える	① 返書率 100% ② 逆紹介の推進
内部プロセスに関する事項	登録医からの紹介の断診 0%	① 当日緊急依頼の即応需化 ② オープン検査結果等の返書率 100% ③ 紹介状況の把握を行う(月次報告)
	地域医療連携業務の強化	① 開放病床利用率の増加

II、個々の専門性を活かした質の高い情報の提供と自己研鑽を行う

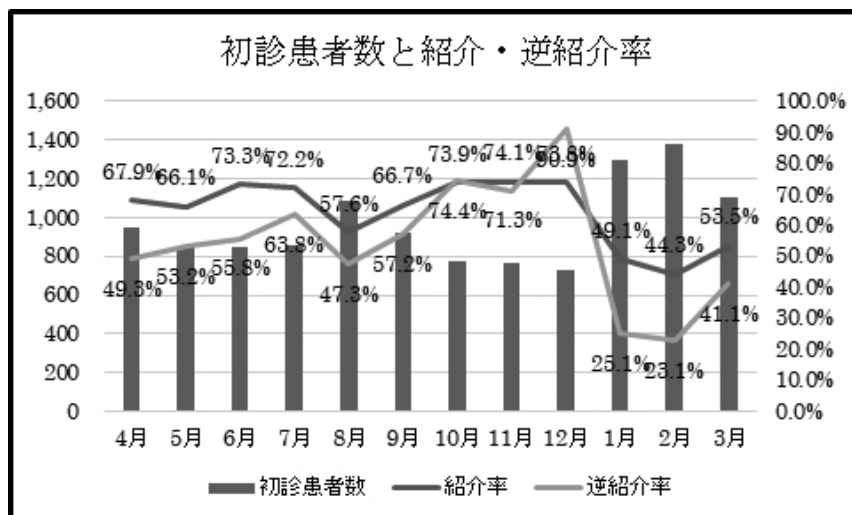
戦略に関する事項	個々の専門性を発揮し医療連携、患者支援の質の向上を図る	① 院内院外への研修に積極的参加 ② 患者支援サービスについて内容検討 ③ 課内の情報共有強化の実施
----------	-----------------------------	--

Ⅲ、令和３年度の紹介率と逆紹介率

年間 紹介率 61.9% 逆紹介率 49.9%

※令和２年度に対して、紹介患者は 848 人増加、逆紹介患者数 1,061 人増加したが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、初診患者数が増加したことにより、紹介率、逆紹介率が減少した。

初診患者数 11,559 人のうち、新型コロナウイルス感染症関連患者数は、3,635 人である。



地域医療連携課 医療福祉相談係

<スタッフ>

志水 陽子（医療福祉相談係長・社会福祉士）

信本 愛（医療社会事業司・社会福祉士）

大島由起子（医療社会事業司・社会福祉士）

中野 慶子（医療社会事業司・社会福祉士）

三好 里沙（医療社会事業司・社会福祉士）

<特 色>

医療福祉相談係では、ソーシャルワークを担当しており、厚生労働省の業務指針に基づき、①療養中の心理的・社会的問題の解決・調整援助、②退院援助、③社会復帰援助、④受診・受療援助、⑤経済的問題の解決・調整援助、⑥地域活動を行っている。

具体的に MSW が行っている業務を以下に示す。

- * 患者・家族と面接しアセスメント、ニーズの把握をする。
- * 転院・入所先の担当窓口と連絡・調整を行う。
- * 在宅支援関係職種や行政と連絡・調整を行う。
- * 多職種カンファレンスの開催調整（日時調整、司会進行、記録など）
- * 社会資源の紹介、情報提供を行う。
- * 社会資源活用にあたって、必要文書の作成依頼や処理、管理など

- ＊ 社会資源活用にあたって担当窓口と連絡・調整を行う。
- ＊ 院内各職種と連携（各種カンファレンスへの参加、患者・家族の通時的役割や院外関係者と院内関係者との仲介など）

また、当院は府指定のがん診療拠点病院に指定されており、がん相談支援センターでの業務も、医療ソーシャルワーカーが、がん看護専門看護師や緩和ケア認定看護師とともに、がん相談支援センター相談員を兼務することで継続した。

医療ソーシャルワーカーは5名配置されており、原則、病棟ごとにケースを担当した。2021年度も前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の感染状況に応じて病棟の編成も変則的になったが、入退院支援看護師や退院調整看護師とともに担当の病棟の退院支援計画カンファレンスに参加し、入退院支援加算1を算定した。その他、外来ケースにも対応している。しかし、残念ながら2022年3月に1名が体調不良によりソーシャルワーク業務から外れた形になっており、4名で業務を行っている。

また、地域との連携や自己研鑽のため、三島圏域リハビリテーション連絡会や、大阪医療ソーシャルワーカー協会、三島圏域ソーシャルワーカー連絡会、全国赤十字医療ソーシャルワーカー協議会等に所属し、研修活動などに参加しているが、これも前年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の感染予防の対策のため、集合による活動は実施できておらず、書面やオンラインにて参加を継続した。

<令和3年度の活動実績>

従来、「全国赤十字医療ソーシャルワーカー協議会」の日報・月報様式を使用し、活動実績を集計してきたが、令和3年度より新様式に変更となり、当係でも新様式を使用した。

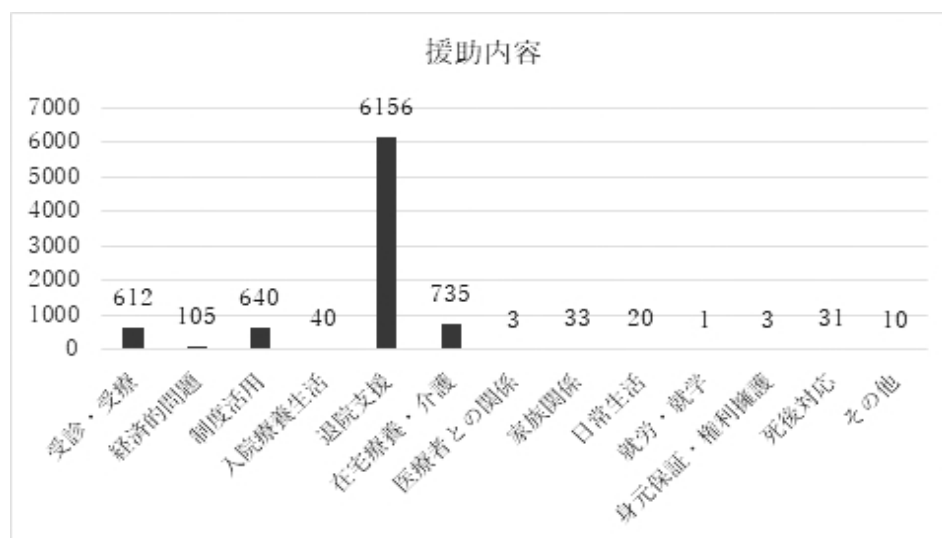
◇年度実人数・・・計2,116名

◇対応した問題件数（1問題1ケースとしてカウントしたため延べ相談件数となる）

計8,347件

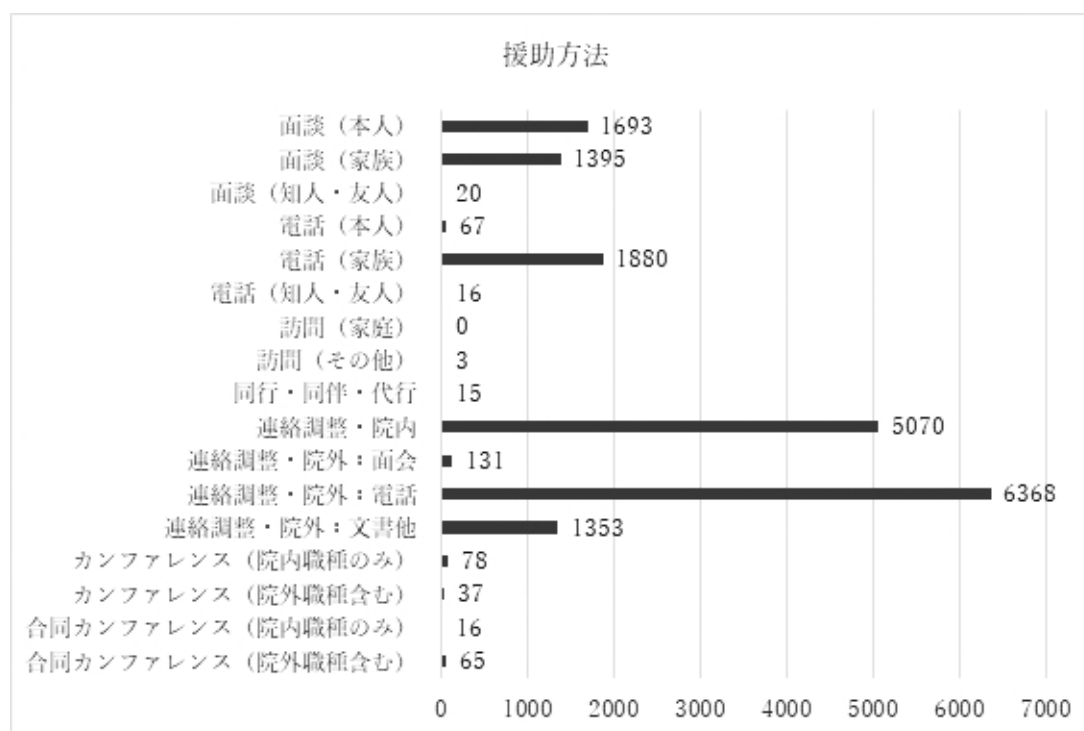
以下に、①援助内容、②援助方法、③社会的背景、④新ケースの紹介経路をグラフに示す。

① 援助内容（延件数として計上 単位：件 n = 8,389）



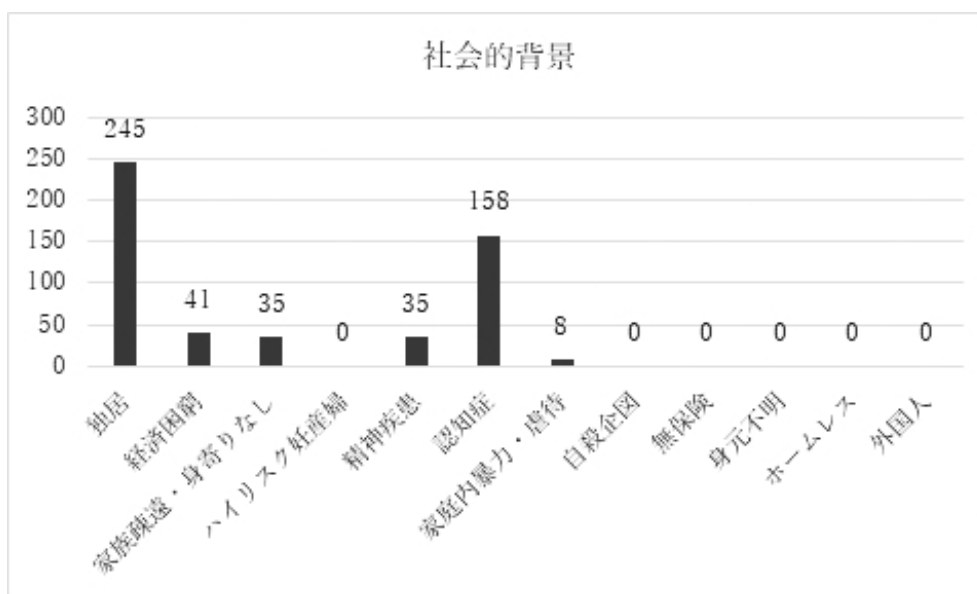
援助内容では、退院支援が全体の7割以上を占めている。このことは、医療ソーシャルワーカーの業務のうち退院支援にかかる業務の特徴や必然性を示している。また、在宅療養・介護、制度活用、受診・受療に関する項目もそれぞれ1割近くあり、外来や社会資源活用への支援も医療ソーシャルワーカーが担っている。退院支援は在院日数を短縮したり、ベッドの効率的な回転を促進するために、当院では最優先すべき項目であるが、医療ソーシャルワーカーが後方の受け入れ先の確保や地域の社会資源との連携に努めることはもちろんのこと、それに専念できるように、制度の説明や単なる事務作業については他部署と役割分担していくことが課題となっている。また、特徴的なものとして、死後対応が35件ある。この項目は今回の年報様式変更から追加されたものであるが、全国的に、独居や身寄りのない患者への対応が増えていることを示している。後見人や行政との連携も医療ソーシャルワーカーが担っている。今後、社会的背景と連動して死後対応の件数は増えていくと思われる。

② 援助方法（複数カウント 単位：件 n = 18,207 件）



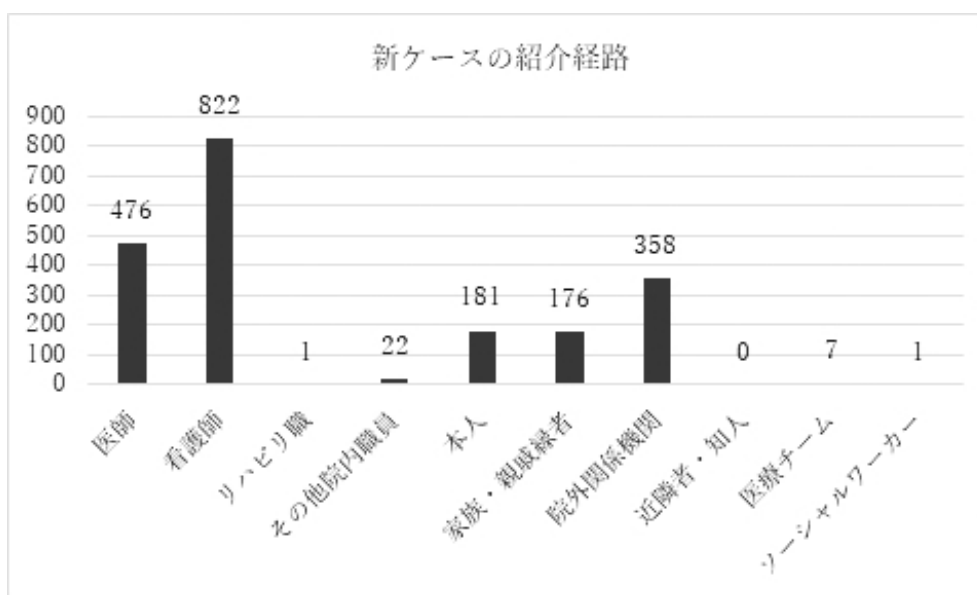
援助方法としては、電話・文書での院外との連絡調整が4割を占める。コロナ禍ということもあり、対面で関係機関と面会した件数は131件、退院前カンファレンスは65件という結果になっている。家族との相談も面会によるものより電話による方法の方が多くなっている。環境設定にも慣れてきたので、今後オンラインによる連携も積極的に取り入れていくことが課題となっている。昨年度はオンラインによる連携は2件程度であった。

③ 社会的背景（対象のみ計上 単位：件 n = 522 件）



「社会的背景」は今回の年報様式から新たに付け加えられた項目である。独居が全体の5割近くある。次いで、認知症が3割を占めている。独居と家族疎遠・身寄りなしが重なるケース、さらに認知症が加わっている場合もある。こうしたいわゆる困難ケースが今後も増えていくことは予想され、退院支援や死後対応など、より一層地域との連携や医療ソーシャルワーカーのスキルアップが課題となっている。

④ 新ケースの紹介経路（実件数 単位：件 n = 2,044 件）



新ケースの紹介経路としては、看護師からの紹介が4割、次いで医師からが2割強である。院外関係機関からの紹介も2割近くあり、医療ソーシャルワーカーがケアマネジャーや訪問看護師等、地域の社会資源との窓口となっていることを示している。院外関係機関からは、院内では把握できない患者の環境や問題点など入院生活に影響する情報提供や課題提供も多く、ス

ムーズに退院支援につなげられるよう連携していくことが課題となっている。

退院調整には院内外の関係者によるチームでのかかわりが不可欠であり、当院の中でも定着してきている。医療ソーシャルワーカーは地域連携の窓口という役割も果たしており、患者・家族と社会資源だけでなく、院内外の関係職種の連携そのものを橋渡ししているといえる。

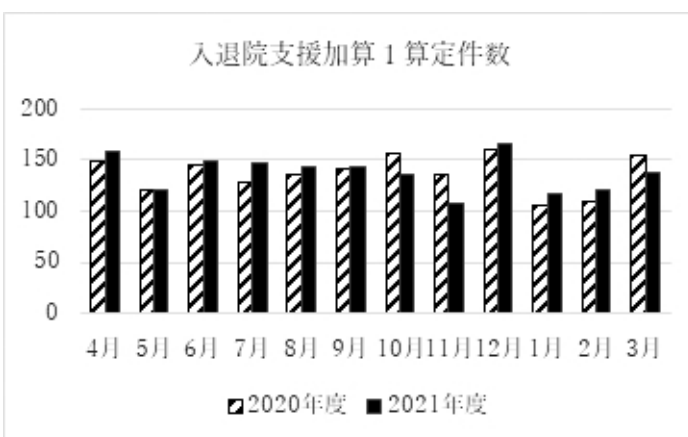
当院は2019年11月より、入退院支援加算1を適用しており、病棟の看護師・退院調整看護師・入退院支援看護師・医療ソーシャルワーカーが共同して週2回ずつ各担当病棟にて退院調整計画カンファレンスを行い、該当患者に退院支援計画書を作成した。

介護支援等連携指導料は、病院を訪問したケアマネジャー等に情報提供を行うことで算定できるが、これについてはコロナ禍における感染拡大防止対策のためケアマネジャーの事業所自体が医療機関への訪問を禁止していたり、在宅ワークに切り替えているなどで、昨年度とほぼ同数で伸びていない。これに関してもオンラインでの連携を推進していきたい。

入退院支援加算算定件数（2020年度・2021年度の比較 単位：件）

入退院支援加算1

	2020年度	2021年度
4月	149	158
5月	120	121
6月	145	149
7月	128	146
8月	136	143
9月	141	143
10月	156	135
11月	136	107
12月	159	166
1月	106	117
2月	109	121
3月	155	138
	1,640	1,644



総件数 2020年度：1,640件 2021年度：1,644件

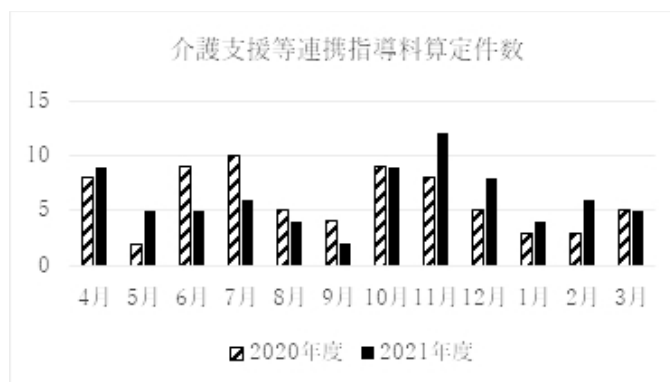
点数 2020年度：1,640件×600点＝984,000点

2021年度：1,644件×600点＝986,400点

介護支援等連携指導加算算定件数（2020 年度・2021 年度の比較 単位：件）

介護支援等連携指導料

	2020年度	2021年度
4 月	8	9
5 月	2	5
6 月	9	5
7 月	10	6
8 月	5	4
9 月	4	2
10 月	9	9
11 月	8	12
12 月	5	8
1 月	3	4
2 月	3	6
3 月	5	5
	71	75



総件数 2020 年度：71 件 2021 年度：75 件

点数 2020 年度：71 件× 400 点＝ 28,400 点

2021 年度：75 件× 400 点＝ 30,000 点

入退院支援加算 1 の施設基準として、当院が連携医療機関または介護サービス事業所等の職員と退院支援、地域連携職員が、20 か所以上の医療機関・介護事業所と年 3 回以上の頻度で面会し、転院・退院体制について情報の共有等を行う必要がある。この件については、

2021 年 4 月～ 2022 年 3 月においては 23 か所の連携機関と面会にて転院・退院体制について情報の共有を行った。

また、当院は平成 29 年度より認知症ケア加算 1 の施設基準を取得しており、医療ソーシャルワーカーも 2 名、専任として認知症ケアサポートチームに所属し、週 1 回のカンファレンスに参加した。その他、心臓リハビリテーションカンファレンスや外科カンファレンス、適正な退院促進カンファレンスにもチームの一員として参加した。

上記件数以外にがん相談支援センターの相談業務も兼務で行っているが、それについては「がん相談支援センター」の項目で活動報告を行う。

<令和 4 年度の活動目標>

1. 退院支援、地域連携の強化

① 適正な退院促進のため、院内外連携の強化と後方受け入れ先の確保に努める。

後方受け入れ先の機能や種類について、院内職員や患者・家族への可視化を行う。

- ② 近隣の関係施設や医療機関への訪問を随時行い、訪問が困難な場合は、オンラインでの連携も推進していく。
- ③ 地域関係機関の活動や会議に出席し、情報収集に努める。

2. 業務量の適正化

- ① 院内他部門との連携をよりいっそうはかり、役割分担を明確にしていく。
- ② 後進の育成も含め、医療ソーシャルワーカーの増員・新規雇用について上層部と相談していく。

【医療福祉相談係 志水陽子】

地域医療連携課 がん相談支援センター

<スタッフ>

西川 亜紀子（がん看護専門看護師）（※）
 藤原 和子（緩和ケア認定看護師）（※）
 志水 陽子（医療ソーシャルワーカー 社会福祉士）（※）
 信本 愛（医療ソーシャルワーカー 社会福祉士）（※）
 大島 由起子（医療ソーシャルワーカー 社会福祉士）
 中野 慶子（医療ソーシャルワーカー 社会福祉士）
 三好 里沙（医療ソーシャルワーカー 社会福祉士）
 小島 一晃（薬剤部長 日本医療薬学会がん指導薬剤師）
 （※）はがん相談支援センター相談員基礎研修（1）～（3）修了者

<特 色>

当院は大阪府指定のがん診療拠点病院に指定されている。がん相談支援センターの業務として、がんに関する一般的な情報提供、がん患者の療養上の相談、患者サロンの定期開催等の患者活動に対する支援などがある。当院では、がん相談の対象を院内外のがん患者・家族とし、いつでも気軽に相談できるように面談は予約なしで受けられる体制を整えている。相談内容に応じて、がん看護専門看護師・緩和ケア認定看護師および医療ソーシャルワーカーがそれぞれ兼務で対応し、必要時には院内外の職種とも連携している。当院は緩和ケア病棟を有するため、緩和ケアおよび緩和ケア病棟に関する相談が多く、緩和ケア病棟入院相談（緩和ケア病棟担当医が行う外来の予約を含む）については医療ソーシャルワーカーが担当している。また、三島医療圏のがん診療拠点病院で院外の患者・家族も対象としたがん患者サロンを開催しているのは当院のみであり、院外のがん患者・家族への支援の場にもなっているが、2021 年度も 2020 年度と同様、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策のため、対面でのサロンの開催を休止にせざるを得なかった。

< 2021 年度の活動実績 >

コロナ禍において、病棟業務や発熱外来への応援も行いながら室内の換気を行い、手指消毒、

マスク着用を徹底したうえで相談業務を行った。

1. 相談支援

1) がん相談支援センターでは、ホームページ等で以下のように案内し、相談支援を行った。

・対象

がん患者・家族（他院通院中の方も可、匿名可）

・相談にかかる費用

無料 セカンドオピニオンについては有料

・受付日時

毎週 月曜日～金曜日 9時～16時

※予約不要であるが予め電話等で予約していただければ確実に対応できるとご案内している。

・相談員

がん相談支援センター相談員基礎研修（1）～（3）を修了しているがん看護専門看護師、緩和ケア認定看護師・医療ソーシャルワーカー

2) 相談総件数（2021年4月～2022年3月）：計657件（月平均54件）

平成30年1月より厚生労働省科学研究「がん対策における進捗管理指標の策定と計測システムの確立に関する研究班」が作成した相談記入シートに合わせて相談内容や対応内容の入力項目を追加している。

[月別件数]

年月	2021年									2022年			計
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
相談件数	56	46	65	46	62	64	72	61	47	45	44	49	657

対応内容、相談内容は一つの相談で複数の内容があるが、以下に「主なものの一つ」と参考までに「複数件数」を表で示す。

対応内容	主なものの一つ	※参考）複数件数
傾聴・語りの促進・支援定期的対応	140	234
助言・提案	111	278
情報提供	76	226
自施設受信の説明	247	259
他施設受信の説明	5	9
自施設他部門への連携	24	88
他施設への連携	29	56
ピアサポート機能紹介	0	0
苦情・要望への対応	0	0
判断不明	0	0
その他	1	1
	633	1,151

対応内容で最も比重の大きいものは上位から順に「自施設受診の説明」が247件（39%）、「傾

聴・語りの促進・支援的な対応」が140件（22.1%）、「助言・提案」が137件（21.6%）であった。（母数：633件）自施設受診の説明は、当院緩和ケア病棟への入院相談がほとんどである。しかし、自施設受診の説明と同時に傾聴や助言、情報提供なども行っているため、複数カウントすると、傾聴や助言、情報提供、自施設受診の説明の件数は大きく変わらない。

相談内容	主なもの一つ	※参考）複数件数
がんの治療	40	113
がんの検査	3	5
症状・副作用・後遺症	44	120
セカンドオピニオン（一般）	0	1
セカンドオピニオン（受入）	0	0
セカンドオピニオン（他へ紹介）	0	0
治療実績	00	0
臨床試験・先進医療		0
受診方法・入院	7	13
転院	22	42
医療機関の紹介	3	8
がん予防・検診	0	1
在宅医療	31	95
ホスピス・緩和ケア	287	332
食事・服薬・入浴・運動・外出など	4	40
介護・看護・養育	78	168
社会生活（就労・仕事・就学・学業）	1	11
医療費・生活費・社会保障制度	14	52
補完代替療法	0	0
生きがい・価値観	2	8
不安・精神的苦痛	88	166
告知	7	23
医療者との関係・コミュニケーション	7	9
患者一家族間の関係・コミュニケーション	4	43
友人・知人・職場の人間関係・コミュニケーション	0	0
患者会・家族会（ピア情報）	0	0
グリーフケア	1	6
不明	0	0
その他	5	8
	648	1,264

相談内容で最も比重の大きいものは上位から順に「ホスピス・緩和ケア」が287件（44.3%）、「不安・精神的苦痛」が88件（13.6%）、「介護・看護・養育」が78件（12%）であった。（母数：648件）

緩和ケア病棟を持つ当院としては「ホスピス・緩和ケア」に関する相談が多く、例年の傾向である。2020年度に比べると「不安・精神的苦痛」に関する相談の比率が増えているのはコロナ禍の特徴ともいえる。

相談対象者のがんの部位は肺が165名（25%）で最も多く、以下、胃が70名（10.7%）、

大腸 63 名 (9.6%)、すい臓 60 名 (9.2%)、血液・リンパ 52 名 (7.9%)、乳房 49 名 (7.5%)、肝・胆 43 名 (6.5%)、腎・尿管・膀胱 28 名 (4.3%) と続く (母数：656 件)。

相談にかかった時間は 20 分が一番多く (304 件 46.2%)、次いで 30 分 (142 件 21.6%)、60 分 (62 件 9.4%) であった (母数：657 件)。平均時間は 33 分である。

相談者の受診状況は、自施設入院中が 236 名 (35.8%)、自施設通院中が 148 名 (22.4%)、他施設入院中が 139 名 (21%)、他施設通院中が 133 名 (20.1%) であった。(母数：660 件)

2020 年 1 月以降は新型コロナウイルス感染症の影響もあって相談に来られる患者家族も減少した。また、がん看護専門看護師や緩和ケア認定看護師が行うがん患者指導管理料イ・ロの算定件数は昨年度増加しており、その分はがん相談の件数には計上していないという事情もある。

2. がん患者サロン

新型コロナウイルス感染症感染予防対策のため、前年度に引き続き 2021 年度のがん患者サロンも休止とした。代替として、当院ホームページのがん相談支援センターのコーナーで、がん患者サロンでミニ講座として取り上げていたテーマについて「がん患者サロンだより」を掲載した。

※がん患者サロンだよりの掲載テーマ

- ・介護保険について
- ・緩和ケアについて
- ・高額療養費について
- ・障害年金について
- ・放射線治療について

3. 在宅緩和ケアサロン

毎年 3 回程度地域の在宅療養支援スタッフ間の情報交換の場を提供し、地域での緩和ケアを継続的に

発展させることを目的に、地域の在宅療養支援スタッフを対象とした「在宅緩和ケアサロン」を開催していたが、前年度に引き続き 2021 年度も新型コロナ感染症感染拡大により実施できなかった。

4. 患者図書コーナー

2010 年 9 月より 1 階フロアに開設している。開館時間は 9 時～15 時であり、管理は診療情報管理課が行った。がん相談支援センターからは、がんに関する研修会のチラシや患者会発行の機関誌が提供された際に配架を依頼した。こちらも 2019 年 2 月以降、新型コロナウイルス感染症感染予防対策のため閉鎖している。

5. 広報活動

- ・がん相談支援センターのリーフレットを関連部署に配架した。

6. 大阪府がん診療連携協議会相談支援センター部会、三島医療圏がん診療ネットワーク協議会
相談支援センター部会に参加した（オンライン）

< 2022 年度の活動目標 >

1. がん患者サロンの開催を検討する。
新型コロナウイルス感染症の感染拡大といった情勢に鑑み、ZOOM などオンラインによる
方法を検討する。
2. 相談対応の質の担保
がん相談支援センター相談員基礎研修（1）～（3）未修了者の受講を推奨していく。
3. がん拠点病院における相談支援センターの設置要件等に注視し、必要要件を整備していく。

【医療ソーシャルワーカー 志水陽子】

訪問看護ステーション

< スタッフ >

看護師：原田かおる（管理者）、鈴木かおる、今村 利恵、豊田 典子、吉野 咲絵、
亀井 由美、三宅 光代 森 彩子 中井 和子
理学療法士：行本 鉄平 事務：本間 幸美

人事異動 中井和子 部分出向 令和3年12月～令和4年6月

< 特 色 >

高槻赤十字病院は「大阪府がん診療拠点病院」「地域医療支援病院」であり、強いバックア
ップのもと緩和ケア病棟や緩和サポートチーム等と連携し、エンド・オブ・ライフ・ケアに取
り組んでいる。専門看護師、認定看護師等と協働しながら、療養支援に取り組んでいる。

各種指定：[医療保険] 24 時間対応体制加算、特別管理加算、ターミナルケア加算
機能強化型訪問看護管理療養費 3（R2 年 3 月）

[介護保険] 指定訪問看護事業（R2 年 4 月～R 8 年 3 月）
指定予防介護訪問看護事業（H30 年 4 月～R 6 年 3 月）
緊急時訪問看護加算、特別管理加算、ターミナルケア加算、
サービス提供体制加算

公費負担制度：原爆医療、労災（H7 年 9 月～ ）
生活保護医療（ R 2 年 4 月～R 8 年 3 月）
難病指定医療（H27 年 1 月～R 8 年 12 月）
指定小児慢性特定疾病医療（H27 年 1 月～R 8 年 12 月）
指定自立支援医療（H27 年 8 月～R 9 年 7 月 ）

< R2 年度の活動実績 >

1. 利用者数統計 () 内前年度

(1) 営業日数 242 日 (前年度 242 日)

(2) 利用者実数 1154 人 (938 人)

	医療	介護	合計
延べ訪問件数	1,635 (1,755)	4,545 (4,215)	6,180 (5,970)
リハビリ (再掲)	383 (401)	712 (705)	1,095 (1,106)

介護保険・予防給付内訳

介護保険	予防給付	介護給付	合計
30 分未満	499 (450)	942 (824)	1,441 (37%)
60 分未満	225 (308)	1,570 (1,453)	1,795 (47%)
90 分未満	27 (26)	572 (446)	599 (16%)
合計	751 (784)	3,084 (2,723)	3,835 (3,507) 100%

(3) 新利用者数・終了者数

	医療	介護	合計
新利用者数	33 (41)	39 (53)	72 (94)
終了者数	37 (45)	46 (31)	83 (76)

(4) 終了者内訳

	医療	介護	合計
軽 快	2 (5)	16 (15)	18 (20)
医療機関入院	6 (1)	5 (1)	11 (2)
施設等入所	1 (4)	8 (4)	9 (5)
死 亡	27 (39)	14 (9)	41 (48)
その他	1 (0)	3 (2)	4 (2)

※在宅での死亡者 14 名 (7 名)

2. 24 時間体制利用

利用患者数	106 (139)
利用延べ回数	173 (316)
訪問回数	78 (113)

3. 地域との連携

(1) 連携している医師の所属先

・地域の開業医 32 施設 ・他病院 15 施設 ・当院医師 48 名

(2) 連携している居宅介護支援事業所

・48 事業所

4. 事業計画

令和3年度 事業計画 評価

利用者数の安定化（増加）、新規獲得を継続する。病院併設の強味を活かした体制づくり、病院関係職種との連携強化、PR、地域関係職種との顔の見える関係づくりの元、地域に開かれた訪問看護ステーションを目指す。

○利用者数の安定化および増加にむけて体制を整備する

1) 効率的な訪問スケジュールの調整

- ・ミーティングは9:15までに終了し訪問開始できるように調整：リーダー
- ・訪問手段に応じたスケジュール調整：リーダー
- ・9～16時までに訪問を終了できるスケジュール管理の実行：各自
- *ミーティングは概ね9:15までに終了し訪問開始できていた。
- *訪問終了時間は個人差があるが時間内に終了するように努めていた。
- *新年度よりICTによるスケジュール管理を開始、スタッフ間でコミュニケーションをとり、チームで評価修正を繰り返しながら効率的な訪問スケジュール管理に努める

2) 業務の効率化

- ・時間外労働の削減、休憩時間の確保にむけてスタッフ間で検討する
- ・時間外業務発生時には管理者に報告し指示を受ける
- ・記録内容・方法の見直し：記録係
- ・スタッフ間のチームワークの促進：報告・連絡・相談
- *時間外労働時間の推移
- *記録委員会を中心に記録の効率化にむけて業務改善を行った。
- *QoCoRoの改訂に伴って紙カルテからモバイルへ記録内容に移行。改善内容を評価していく。
- *スタッフの交替に伴い、担当患者の看方の検討が必要。スタッフ間でコミュニケーションをとりながらチームで看護展開していくよう検討していく。

3) 新規利用者の獲得

- ・当院外来通院患者の新規依頼の促進
- ・在宅支援チーム員として居宅介護支援員との連絡・報告・相談の促進
- ・病院のリハビリテーション課との連携
- *亀井、木村看護師が要となり連携が促進されている。さらなる連携に務める。
- *ケアマネジャーのケアプランに沿った訪問時間を遵守するようスケジュール管理とした。
- *

4) 広報活動

- ・病院の入口に訪問看護ステーションの看板を設置（New）
- ・当院の患者支援センター実施のDPCⅢ期のスクリーニングにて新規依頼を獲得（New）

5) 事業継続教育（Business continuity planning, BCP）の整備：COVID-19

6) ハラスメント対応マニュアルの整備（準備）

○病院関係職種との連携強化

1) 外来看護との連携

- ・外来所属看護師と話し合い、連携体制を見直す
- ・スタッフが病院の各部門の動きを知る：研修企画（New）

2) 看護師長会で訪問看護の状況・ケース報告：管理者

3) 利用者の状況を訪問看護師が病棟スタッフへフィードバック：管理者・スタッフ

4) 病院看護師の訪問看護研修

- ・1日訪問看護師見学研修を看護係長対象に実施

○地域との連携強化

1) 居宅介護支援事業所・地域包括支援センターへの新規依頼 PR

- ・阿武野・郡家・清水・高槻北・茨木北部地域
- ・会議・研究会への積極的な参加：スタッフ

2) 地域の医師とのつながりを強化：病院併設の強みを出す

- ・入院の調整を看護管理者がする
- ・報告書には一言添える。ステーションの情報を伝える

○看護・理学療法の質の向上 アセスメント力の向上

- ・毎朝のミーティングでのディスカッションの促進

病態、アセスメント内容、看護計画等を各スタッフに伝えることができる。

担当外の利用者の看護についても関心を寄せ、その意味について意見交換できる

- ・ケースカンファレンス1回／月の開催
- ・研修・学会に積極的に参加し伝達する

<令和4年度 事業目標>

利用者数の安定化（増加）、新規獲得を継続する。病院併設の強味を活かした体制づくり、病院関係職種との連携強化、PR、地域関係職種との顔の見える関係づくりの元、地域に開かれた訪問看護ステーションを目指す。

○利用者数の安定化および増加にむけて体制を整備する

訪問目標件数 500件／月以上 4件／日

新規利用者目標値 平均 5人

1) 効率的な訪問スケジュールの調整

- ・ミーティングは9:00までに終了し訪問開始できるように調整：司会は担当制とする。
- ・訪問スケジュール調整は管理者が主に行う。

グーグルカレンダーを活用した管理体制のマニュアルを完成する。

- ・スタッフ間で情報や状況を意見交換しながら柔軟に調整できることを目指す。

2) チームケアにむけた体制の見直し

- ・看護の質の均てん化のためにチーム方式の見直しを行う。6月（業務改善係）
- ・記録方法の評価。見直しの継続（業務改善係）
- ・スタッフ間のチームワークの促進：報告・連絡・相談

- ・疑問に感じたことを話しあえる雰囲気づくり

3) 新規利用者の獲得

- ・当院外来通院患者の新規依頼の促進を図る：MSW、ケアマネジャーとの連携促進
- ・居宅介護支援員との連絡・報告・相談の促進
- ・病院のリハビリテーション課との連携の課題の分析・検討（リハビリ）
- ・広報活動の実施

4) 事業継続計画（BCP: 災害・感染）、ハラスメントマニュアルの完成・共有（管理者）

○病院関係職種との連携強化

1) 外来患者の在宅療養支援の促進

- ・外来所属看護師を中心に連携を促進する

2) 利用者のスムーズな受診・入院にむけた連携、調整

- ・病院の地域連携係や退院支援部門とのコミュニケーションの促進
- ・病院のシステムを理解する

3) 専門・認定看護師との連携・協働

- ・慢性疾患看護 CNS、がん看護 CNS、皮膚・排泄ケア CN、がん化学療法看護 CN、認知症看護 CN、感染管理 CN、慢性心不全看護 CN 等へ積極的に働きかけ、同行訪問も検討する。
- ・利用者の状況を訪問看護師が病棟スタッフへフィードバック：管理者・スタッフ

○地域との連携強化

1) 居宅介護支援事業所・地域包括支援センターへの新規依頼 PR

- ・阿武野・郡家・清水・高槻北・茨木北部地域
- ・会議・研究会への積極的な参加：スタッフ

2) 地域の医師とのつながりを強化：病院併設の強みを出す

- ・入院の調整を看護管理者がする
- ・報告書には一言添える。ステーションの情報を伝える

○看護・理学療法の質の向上 アセスメント力の向上

- ・朝のミーティングでのディスカッションの活用

病態、アセスメント内容、看護計画等を各スタッフに伝えることができる。

担当外の利用者の看護についても関心を寄せ、その意味について意見交換できる

- ・ケースカンファレンス 1 回 / 月の開催
- ・勉強会、ケースカンファレンス、事例検討会等の開催（教育担当）
- ・学習の機会の情報提供
- ・研修・学会に積極的に参加し伝達する
- ・三島ブロック事例検討会へ事例提供

5. 後進の育成、訪問看護普及のための実習生等の受け入れ

- ・大阪医科大学看護学部 在宅看護実習 2 週間 3 クール 6 名
- ・大阪府立大学大学院 老年看護学 CNS コース 1 名

- ・ 藍野大学セカンドレベル研修 1 名

6. 地域との連携、対外的な活動

- ・ 大阪府訪問看護ステーション協会 三島ブロック理事
- ・ 高槻市障がい福祉課 第 2 審査部会委員 会議 9 回参加
- ・ 大阪府看護協会府北支部 施設代表者会議参加

7. その他

- ・ 車両関連：日産デイズ 1 台 新規リース契約

以上

医 療 安 全 推 進 室

<スタッフ>

平松 昌子 （副院長兼医療安全推進室長）
後藤 公男 （放射線科部長兼医療安全推進副室長）
中田 祐二 （医療安全管理者）
西 ひろみ （看護副部長）
小島 一晃 （薬剤部長兼医薬品安全管理責任者）
竹下 勇一 （臨床工学技術課長兼医療機器安全管理責任者）
酒井 美幸 （事務副部長）
萩原 大介 （総務管理課長）
迫田 博史 （総務管理課総務係長兼医療安全係長）
三明 葵 （総務管理課主事）

<令和3年度活動実績>

【活動目標】

1. 患者誤認ゼロを目指す
2. 転倒転落による有害事象の防止 - 有害事象ゼロ件を目指す
3. チームステップスの継続。新入職者、未受講者全員にチームステップスを受講してもらう

【活動内容】

- ・ チーム STEPPS 研修 6 回開催
- ・ 医療安全研修会 8 項目開催（各研修会で動画上映会およびオンデマンド配信）
- ・ リスクマネジメント部会 11 回開催
- ・ ANZEN ニュース毎月発行
- ・ 安全メール配信 24 回
- ・ 安全ラウンド 全部署 43 部署実施
- ・ 毎月時計、PHS、医療機器などの時刻合わせ活動
- ・ CVC 報告制度および研修制度 - 導入、運用開始
- ・ 転倒防止ワーキンググループ活動 - 解散
- ・ 医療安全地域連携 I - I 連携 済生会茨木病院
 I - I 連携 愛仁会リハビリテーション病院
 I - II 連携 水無瀬病院
- 相互に訪問し評価を行った。
- ・ 三島医療圏医療安全ネットワーク会議への参加

【院内研修会】

実施日	研修会名	対象	参加人数
5 月	新採用職員研修	新入職者	14 名
7 ～ 12 月	チーム STEPPS	未受講者	41 名
6 月	医療ガスの安全な管理と危険な取扱い	全職員	315 名
8 月・3 月	認知症の基礎知識と対応	全職員	329 名
8 月・3 月	なぜ高齢者は転ぶのか？ 生理解剖学視点から考えよう	全職員	360 名
9 月・3 月	麻薬の取扱い 2021 ～事故対応に強くなろう～	医療職	296 名
10 月・3 月	安全な輸血について教えてもらいましょう	医療職	364 名
12 月・3 月	医療被曝について、MRI についての Q & A	医療職	190 名
11 月・12 月	安全な CVC 挿入に係る取り決め	医師	63 名
11 月・12 月	安全な CVC 挿入に係る取り決め～ハンズオン研修会～	医師	21 名
1 月・3 月	2020 年度インシデントアクシデント報告と マニュアル変更について	全職員	162 名
12 ～ 3 月	エラー防止の実践～前半 5S ～	全職員	157 名
12 ～ 3 月	エラー防止の実践～後半 KYT ～	全職員	157 名

2021 年度は、2 回参加者は全体の 13 項目の研修会を行い、延 2439 名、2 回参加率は前年度 92.1 から 95.1% に上昇した

【患者相談・意見への対応】

1. 相談対応（医療メディエーション）

・患者側からの相談 17 件 ・医療者側からの相談 14 件

2. 意見・苦情の総数件

接遇、職員の対応（説明不足、態度が悪い、不信間等）	3 件
施設、設備（病室、トイレ、備品、駐車場等）	13 件
環境（清掃、空調、臭気、騒音等）	0 件
診療体制（予約方法、待ち時間、逆紹介等）	14 件
受付体制（受付処理、会計処理、案内等）	5 件
その他（売店、循環バス等）	4 件
感謝、激励	1 件

【保安、その他】

1. 暴力行為 6 件（昨年度 3 件） 警察への通報 0 件（昨年度 0 件）

発生場所：病棟 5 件

2. 盗難被害 1 件 (昨年度 4 件) 警察への通報 0 件 (昨年度 2 件)

発生場所: 病棟 0 件

3. 紛失・破損・盗難被害 報告件数 0 件 (前年度 1 件) 警察届出事案 0 件 (前年度 0 件)

発生場所: 病棟 0 件

4. 迷惑行為等 報告件数 0 件 (前年度 2 件) 警察届出事案 0 件 (前年度 2 件)

発生場所: 病棟 0 件、外来 0 件

5. 虐待案件 0 件

発生場所: 外来 0 件

<令和 4 年度活動目標>

「2021 年度医療安全推進室 目標」では「患者誤認ゼロを目指す」、「転倒転落による有害事象の防止 - 有害事象ゼロ件を目指す」、「チームステップスの継続。新入職者、未受講者全員にチームステップスを受講してもらう」の 3 つの目標を設定した。

「2021 年度医療安全最終評価」では、患者誤認件数は 43 件と前年度 58 件と比較すると減少したように見えたが、処置・調剤・与薬など患者に直接医療行為を行う場面では減少しておらず、今後も注力していく必要があると考えられた。

転倒転落件数では前年度とほぼ同等であった。しかし、3 b 以上の重要案件に限ると、その内容は改善しているように考えられた。これは前々年度では転倒防止ワーキンググループを発足させ、転倒防止に努めてきたが、その効果が出始めているのではないかと考えられた。このため「転倒転落による有害事象の防止 - 有害事象ゼロ件を目指す」の目標を令和 4 年度も継続する必要があると考えられた。

「チームステップスの継続」では、今後は入職時の新人研修会の中に取り入れ、常時は開催しないこととした。

他方、2021 年度はインシデント・アクシデント報告件数のさらなる増加を認め、職員の安全への意識の向上が見受けられたが、まだすべての部署の報告が増加しているとは言い切れず、職員全体の安全への意識を向上させるには、全ての部署から報告を増加させる必要があると考えられた。

さらに、2021 年度は治療、処置時の医療器材、機器の取扱いに関する重要案件が目立った。

従って、本年度の目標としては、

- ① 患者、薬剤確認行為の常時実施 (患者・薬剤間違いゼロ)
- ② 医師やその他の全ての部署のインシデント・アクシデント報告件数の増加
- ③ 治療、処置時の医療器材の使用・管理方法の認識と使用後の確認行為の実施
- ④ 転倒転落防止対策の継続

上記の 4 つの目標を設定し、さらに①～③までを期間を限定してキャンペーンを実施する事とした

以上

教育研修推進室

<スタッフ>

玉田 尚（副院長兼教育研修推進室長）
松田 好正（事務部長）
大中 玄彦（循環器科部長）
小林 稔弘（乳腺外科部長）
神田 直樹（消化器科部長）
小島 一晃（薬剤部長）
高橋 晶子（看護部 看護副部長）
阿部 哲子（人事課 研修・厚生担当課長）
佐橋 克哉（人事課 人事係長兼研修・厚生係長）

<異 動>

令和4年2月
人事課 研修・厚生担当課長 阿部 哲子 退任

<令和3年度活動実績>

- （1）新規採用職員研修会 開催
- （2）事務系係長級研修会 開催（6月～12月）
- （3）研修管理委員会 開催（計3回 書面会議：8月11月、ハイブリッド会議：3月）
- （4）研修運営委員会 開催（計12回 毎月第二水曜日 17：00～）
- （5）ミニレクチャー・レジデント勉強会 開催（毎週水曜日 8：10～）
- （6）初期研修医採用活動 3名採用（定員3名 応募者17名）
- （7）内科系専攻医採用活動 2名採用（定員2名 応募者2名）
- （8）医学部生病院見学受入（延べ48名受入）

<令和4年度活動目標>

- （1）NPO 法人卒後臨床研修評価機構（通称JCEP）の臨床研修評価受審
- （2）新規採用職員研修会 開催
- （3）研修管理委員会 開催（3回を予定）
- （4）研修運営委員会 開催（12回を予定）
- （5）ミニレクチャー・レジデント勉強会 開催
- （6）初期研修医・内科系専攻医採用活動
- （7）ホームページリニューアル（研修医・専攻医部門）
- （8）医学部生病院見学受入（50名程度）

事 務 部

<スタッフ> 令和3年4月1日付

事務部長 松田 好正

事務副部長 酒井 美幸

課長職 8名

総務管理課長 萩原 大介

人事課長 濱田 健司

財務課長 片岡 幹夫

企画情報課長 杉山 乙矢

医事課長 浦手 悟

用度課長 渡部 悟

診療支援課長（職務代理） 上成 弥生

研修・厚生担当課長 阿部 哲子（兼看護師長）

病床管理担当課長 日高 利明

係長職 15名

<組織編成>

総務課を総務管理課に名称変更する。

用度施設課を用度課に名称変更する。

用度施設課施設係を総務管理課に移管する。

会計課を財務課に名称変更する。

<令和3年度活動状況>

1. 経営健全化に向けた取り組み

- 1) 高槻赤十字病院の方向性に係る検討作業部会を設置し病院の現状分析、方向性の検討を行った。
- 2) 本社医療事業推進本部との定例（月1回）のweb会議を行い、コロナ対応状況、経営状況の情報交換を行った。
- 3) 稼働病床数の再検討を行い、令和4年1月に3病棟を休棟し、335床→301床とした。
- 4) 予算作成にあたり前年度同様、各所属長に支出抑制の意識づけを行い、費用の予算内執行に務めた。

2. 事務部の組織編成を行い人材の適正配置、生産性の向上を図った。

- 1) 病院創立80周年事業の取り組み。地域連携の会を80周年事業として開催した。
- 2) 地域医療連携だより Vol.87を高槻赤十字病院80周年記念号として発刊

3. 新型コロナウイルス感染症対策

- 1) 高槻市保健所との連携により「帰国者・接触者外来」「地域外来検査センター」を設置し受入を開始した。
- 2) 大阪府からの病床確保要請により「重点医療機関」の指定を受け、「軽・中等症患者」を対象に入院患者 325 人、延 3,614 人を受け入れた。

<令和 4 年度 重点課題>

- 1) 病院収支黒字化の継続
- 2) 病床稼働率の向上
- 3) 地域医療連携体制の強化整備
- 4) 適切な病院運営に資するデータの作成・提示
- 5) 予算に基づいた支出管理の徹底、無駄な支出（投資）の抑制

VII 委員会活動

目 的

標準的な診断及び治療方法に基づいた適切なコーディング（適切な診断を含めた診断群分類の決定をいう。）を行う体制を確保すること、及び、診療情報及び診療記録に関する事項を検討・討議する。

委員会開催

第 1 回

開催日：令和 3 年 6 月 2 日

議 題：①副腎静脈サンプリング検査入院目的のコーディングについて

第 2 回

開催日：令和 3 年 10 月 28 日

議 題：①退院サマリ作成状況報告について

②機能評価係数Ⅱについて

③その他

第 3 回

開催日：令和 3 年 11 月 11 日

議 題：①「個別指導・適時調査に対する備えとして」 診療録のありかたについて

②機能評価係数Ⅱ 定義副傷病名と入院期間について

第 4 回

開催日：令和 4 年 2 月 15 日

議 題：①循環器科の DPC コーディングについて

②機能評価係数Ⅱについて DPC コーディング症例の現状共有

ICT 委員会

目 的

院内分離菌の把握、抗菌薬使用状況の把握など院内感染防止対策の啓蒙活動。

毎週水曜日、約 60 分間の ICT ラウンド（環境）を実施。

今年度目標 ① WHO 手指衛生のガイドライン 5 つのタイミングが周知・遵守できる
② 経路別感染予防策が遵守できる

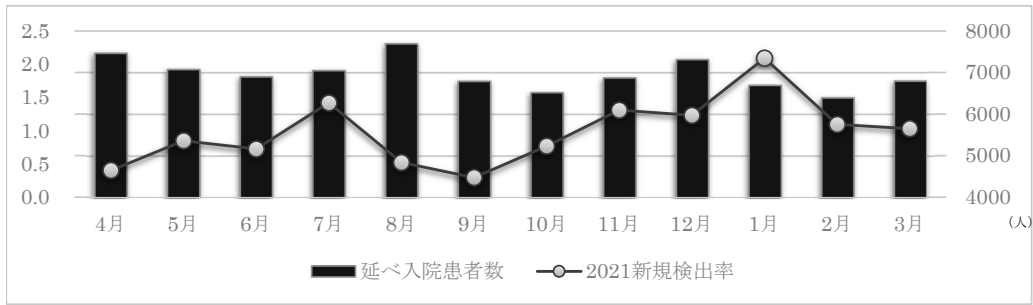
委員会開催

定例会議 毎月第 1 木曜日 16 時 00 分～（AST 委員会と合同開催）
議 題 MRSA 検出状況、耐性菌出現状況、環境調査、抗菌薬使用状況、その他

開催日	議 題
令和 3 年 4 月 8 日	・新型コロナワクチン接種後調査について ・个人防护具供給状況と備蓄状況について ・院内感染症情報について
6 月 3 日	・ICT ラウンドについて ・令和 3 年度院内感染防止対策研修会について
7 月 1 日	・新型コロナワクチン接種後副反応調査最終報告 ・医薬品開封後の使用期限一覧について ・高槻市民への新型コロナワクチン接種について ・ICT ラウンドについて
8 月 5 日	・COVID-19 情報共有 ・院内感染防止対策研修会について
9 月 2 日	・院内感染防止対策研修会について ・COVID-19 情報共有 ・ICT ラウンドについて
10 月 2 日	・院内感染防止対策研修会について ・感染防護具の在庫状況について
11 月 4 日	・院内感染防止対策研修会について
12 月 2 日	・感染性廃棄物の取り扱いについて ・院内感染防止対策研修会について ・職員の新型コロナワクチン 3 回目接種について
令和 4 年 1 月 6 日	・院内感染防止対策研修会について ・个人防护具の備蓄について
2 月	・メールにて抗菌薬使用状況、耐性菌検出状況の情報共有
3 月 3 日	・次年度の院内感染防止対策研修会への課題 ・次年度診療報酬改定に伴う活動について

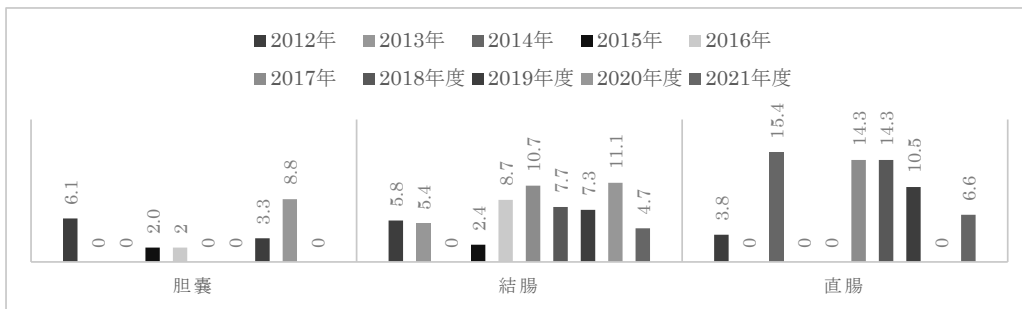
◆各種サーベイランスの結果

① MRSA 新規検出率（延べ入院患者数と新規検出率の推移）



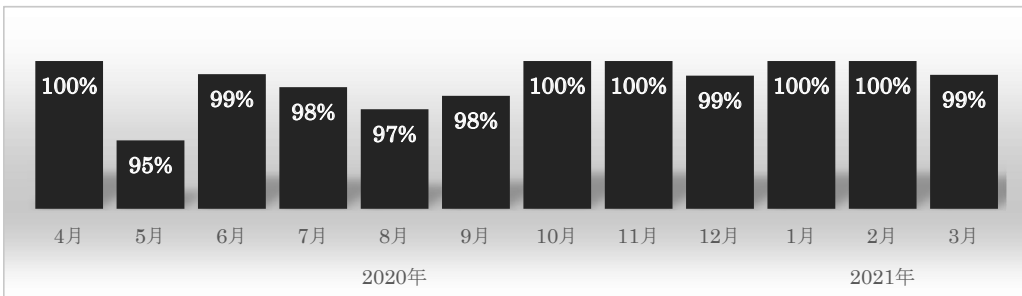
② SSI（手術部位感染）年次推移

外科（％）

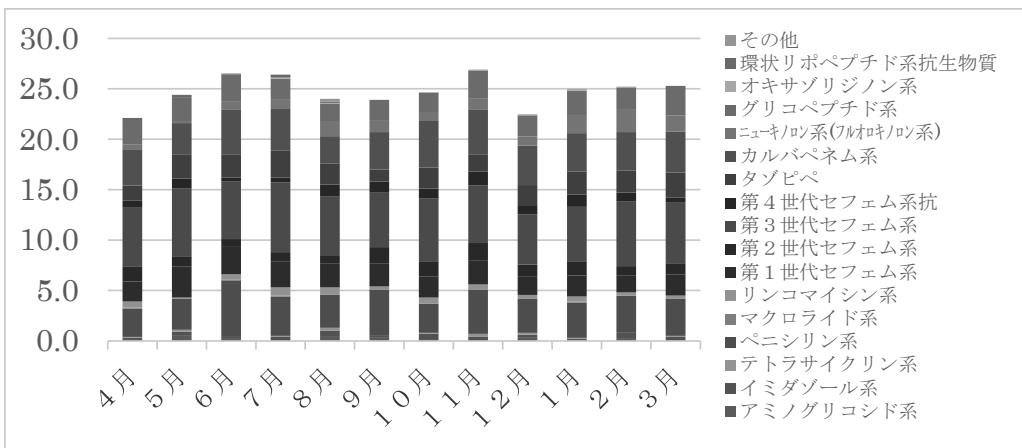


◆抗菌薬適正使用の推進結果

① 抗菌薬使用報告書提出率（％） 平均：98.7％



② 抗菌薬使用量月別 AUD（DDD／1000bed-days）



◆院内研修会

開催日	テーマ	対象	参加人数
4月 2日	新採用者研修会	新採用職員	
7月21日 オンデマンド研修	感染対策の基礎 標準予防策と経路別予防策	全職員	216名
9月 1日 オンデマンド研修	耐性菌と抗菌薬治療について	全職員	520名
11月24日 オンデマンド研修	結核について	全職員	493名

◆広報と啓蒙活動

ICT 院内ラウンド	週1回、全病棟と外来、その他の各部門 延べ 43回実施
COVID-19 対策	対策本部会議の実施、各種フローチャートの作成

NST 委員会

目 的

医療の質と向上のために、全ての治療の基盤である栄養管理を促進する。

委員会の開催

令和 3 年 12 月 23 日（木） 15：30 ～ 16：00

議題①令和 3 年度 NST 介入実績報告

② NST 専従→専任変更の件

③新規薬剤（エネフリード）採用申請について

勉強会開催

OTSUKA 口腔ケアウェビナー

「今、口腔ケアは、誰ができるか」

講演 1 「口腔ケアの意義とその重要性」

講演 2 「口腔ケアの方法とポイント - 口腔ケア用品の効果的な使い方」

院内研修参加者数：70 名

（Web ビデオ研修含む）

SPD・診療材料購入審査委員会

目 的

新規診療材料の採用の可否・SPD 活動（不動在庫削減・診療材料の購入コスト低減・業務の効率化）の推進による病院経営の合理化を目的とする。

委員会開催

第 1 回

開催日：令和 3 年 4 月 6 日（火）16 時 00 分～16 時 30 分

議 題：①新規材料について
②サンプル品使用について
③経腸栄養関連製品の新規格品への切替について
④エム・シー・ヘルスケアから

第 2 回

開催日：令和 3 年 5 月 11 日（火）16 時 00 分～16 時 30 分

議 題：①新規材料について
②サンプル品使用について
③エム・シー・ヘルスケアから

第 3 回

開催日：令和 3 年 6 月 1 日（火）16 時 00 分～16 時 30 分

議 題：①新規材料について
②サンプル品使用について
③エム・シー・ヘルスケアから

第 4 回

開催日：令和 3 年 7 月 6 日（火）16 時 00 分～16 時 30 分

議 題：①新規材料について
②サンプル品使用について
③エム・シー・ヘルスケアから

第 5 回

開催日：令和 3 年 8 月 3 日（火）16 時 00 分～16 時 30 分

議 題：①新規材料について
②サンプル品使用について
③用度課からの報告（感染対策材料について）
④エム・シー・ヘルスケアから

第 6 回

開催日：令和 3 年 9 月 7 日（火）16 時 00 分～16 時 30 分

議 題：①新規材料について
②サンプル品使用について
③エム・シー・ヘルスケアから

第7回

開催日：令和3年10月5日（火）16時00分～16時30分

議 題：①新規材料について
②サンプル品使用について
③エム・シー・ヘルスケアから

第8回

開催日：令和3年11月2日（火）16時30分～17時00分

議 題：①新規材料について
②サンプル品使用について
③エム・シー・ヘルスケアから

第9回

開催日：令和3年12月7日（火）16時00分～16時30分

議 題：①新規材料について
②サンプル品使用について
③エム・シー・ヘルスケアから

第10回

開催日：令和4年1月4日（火）16時00分～16時30分

議 題：①新規材料について
②サンプル使用について
③エム・シー・ヘルスケアから

第11回

開催日：令和4年2月1日（火）16時00分～16時30分

議 題：①新規材料について
②サンプル品使用について
③エム・シー・ヘルスケアから

第12回

開催日：令和4年3月1日（火）16時00分～16時30分

議 題：①新規材料について
②サンプル品使用について
③エム・シー・ヘルスケアから

目 的

「がん診療連携拠点病院の整備に関する指針」に則して、当院におけるがん診療関連機能の充実を図ることについて討議する

活動実績

2021 年度は計 11 回開催した。委員会開催日と議題は以下のとおりである。

第 1 回

開催日：2021 年 4 月 27 日（火）

議 題：1 委員会規程の見直し

2 委員会委員の変更確認

3 定期報告

・2020 年度「がん患者指導管理料イ・ロ」実施報告と評価

・2020 年度がん相談支援センター活動報告

4 令和 3 年度各部会・研修会の予定について

5 「新型コロナウイルス感染症の流行下におけるがん診療連携拠点病院等指定要件の留意事項について」周知方法について検討。

第 2 回

開催日：2021 年 5 月 25 日（火）

議 題：1 がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会の進捗状況について確認
10 月 17 日（日）開催予定。

2 三島医療圏がん診療ネットワーク関係部会（5/20 開催）報告

3 「PDCA サイクル手法による質の改善に向けた取り組み」の進捗状況確認
従来緩和ケアの「苦痛に対するスクリーニング」への取り組みを報告していたが、連携充実加算算定にともない、薬剤師や管理栄養士もより細やかに患者さんのケアに介入するようになってきており、今年度はそういった活動について PDCA サイクル手法を活用していく。

4 がん患者指導管理料算定について

算定数を確実に増やしていくためのシステム化について議論

5 がん診療に関するセミナーの案内

第 3 回

開催日：2021 年 6 月 29 日（火）

議 題：1 がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会の進捗状況について確認。
参加者をホームページ上で公募。院内医師にも人事課研修担当より声かけ

2 がん患者指導管理料算定について

四役からも強力に取り組むべく指示が下りてきており、医師はじめ病院全体への周知方法を検討。メール配信、研修医以外の医師には紙面で各々のレターボックスに配布等。

3 大阪府がん診療連携協議会相談支援センター部会（6/26）の報告

4 その他

- ・大阪府がん診療連携協議会各部会の予定
- ・令和3年度がん対策基金がん対策貢献事業募集開始について→該当事業なし
- ・各種セミナーの案内
- ・PDCA サイクル手法による質の改善に向けた取り組みについて

第4回

開催日：2021年7月27日（火）

議 題：1 「大阪府がん診療拠点病院現況報告書」の進捗状況について

7月1日付で大阪府より提出の要請あり。各部署が分担してデータ入力中。締め切りは8月31日。次回委員会で最終確認予定。

2 緩和ケア研修会の進捗状況について

参加者募集中、ファシリテーターも調整中。院内未受講者に積極的に受講を働きかけていく。

3 大阪府がん診療連携協議会関連各部会の報告

4 がん患者指導管理料イ・ロ 算定実績報告

5 その他

- ・会議予定（令和3年度第1回大阪府がん診療連携協議会 8/5）
- ・メディファックスの情報提供
- ・国際がんセンターの重粒子線治療案内冊子の保管・共有について

第5回

開催日：2021年8月24日（火）

議 題：1 「大阪府がん診療拠点病院現況報告書」について

現時点では今回とりまとめている報告書内容に問題はないが、最終的に委員に配信し確認して提出する。提出期限：8月31日。

2 緩和ケア研修会の進捗状況について

現時点ではまだ10名程度の申込み。人数が少なくても研修会として認定される旨を大阪府に確認済。引き続き受講応募を受け付ける。※8月31日締め切り

3 令和3年度第1回大阪府がん診療連携協議会（8/5）報告

4 その他

- ・会議・研修予定案内 三島医療圏教育研修部会、幹事会、がん研究会（9/2）
- ・放射線治療による緩和ケア ポスター掲示・リーフレット配架について
→PDCA サイクルの取り組みの一環

第6回

開催日：2021年9月28日（火）

議 題：1 緩和ケア研修会の進捗状況について

最終申し込み者17名（医師：15名 コ・メディカル：2名 院外：6名 院内：11名）院内スタッフは14名。

2 がん相談支援センターより

- ・令和3年度がん検診受診率50%達成に向けた集中キャンペーン月間への取り組み

- ・がん患者サロンの代替企画について

3 研修案内

第7回

開催日：2021年10月19日（火）

- 議 題：1 令和3年度大阪府がん拠点病院現況報告について
8月に提出した分は昨年度コロナ禍で大阪府が簡易形式にしていた分をもとの形式で報告要請してきたもの。今回提出分は今年度定期で提出するものであり10月22日が提出期限。
- 2 緩和ケア研修会開催報告
10月17日開催。申込者17名であったが当日急遽1名欠席された。
- 3 定期報告（上半期4月～9月）
・がん患者指導管理料 イ：64件、ロ：286件
・がん相談支援センター：276件
- 4 がん教育に係る外部講師リストの内容確認

第8回

開催日：2021年11月30日（火）

- 議 題：1 令和3年度大阪府がん拠点病院現況報告の修正
医療安全についての記載内容に相違あり修正して大阪府に提出済み。
- 2 がん相談支援センターの活動報告
・「令和3年度がん検診受診率50%達成に向けた集中キャンペーン月間」ポスター掲示について大阪府に報告済み。
・がん相談支援センターで相談時に使用している冊子発注
- 3 薬剤師の外来化学療法に対する算定報告
がん患者指導管理料イ・ロとともにメール等で周知を繰り返していく必要がある。
- 4 研修会・部会の予定など確認

第9回

開催日：2022年1月25日（火）

- 議 題：1 令和3年度 がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修修了者のためのフォローアップ研修会の実施について→周知
- 2 学術活動について
1月27日の三島医療圏がん診療ネットワーク協議会本会にてがん登録部会から2019-2022年症例の院内がん登録データを使用したコロナ禍におけるがん診療について発表予定。
- 3 三島医療圏合同市民公開セミナーについて（三島医療圏教育研修部会）
第1回が大阪医大、第2回が高槻病院主催。第3回は当院に主催担当を打診される可能性大。会場や内容は要検討。
- 4 各部会（大阪府がん診療連携協議会、三島医療圏がん診療ネットワーク協議会関連）の予定確認。

第 10 回

開催日：2022 年 2 月 22 日（火）

議 題：1 がん相談支援センターの活動報告

当院ホームページに「がん患者サロンだより」を掲載した。

2 令和 3 年度大阪府がん拠点病院連携協議会 各部会報告

3 令和 3 年度大阪府がん拠点病院連携協議会関連の今後の予定確認

4 その他

- ・令和 3 年度本人の意向を尊重した意思決定のための研修会（相談員研修会）
今年度は 16 施設 64 名の募集。当院は次年度応募予定。
- ・がん拠点病院関連で配信されてくる大量の情報・連絡事項の確認、チェック漏れ防止について協議。

第 11 回

開催日：2022 年 3 月 29 日（火）

議 題：1 令和 3 年度大阪府がん拠点病院連携協議会 各部会報告

・第 4 期がん対策推進基本計画指針の発出について

・希少がん部会の開設、放射線治療部会の活動休止が提案されたが継続となった。

・大阪府がん診療連携パスの推進

2 その他

・令和 4 年度にかかる国立がん研究センターが実施するがん診療に携わる医療従事者等に対する研修について確認。（指定要件との関係 がん登録実務者→中級認定者の配置 がん相談支援センター→基礎研修（1）（2）（3）修了者の配置）

・令和 4 年度三島合同市民公開講座の担当について確認

日時：令和 4 年 11 月 26 日（土）

会場：大阪医科薬科大学 学 I 講堂（100 名収容）

キャンサーボード委員会

目的

大阪府指定がん診療拠点病院として、患者に適切ながん診療を提供するためにがんセンターボードの体制を整備することを目的とする。

委員会開催

委員会 / 必要に応じて開催する

キャンサーボード開催 / 49 回

検討症例 /4 名～7 名 / 回程度の新規消化器がん治療開始患者、術後患者

内容 / 新規治療開始患者の治療方針の決定及び経過報告、術後患者の経過報告及び今後の治療方針の決定を行う

クリニカルパス委員会

目 的

クリニカルパスを活用し、医療の質の向上、患者満足度の向上、EBMに基づいた標準的医療の実施、資源の効果的使用を実現することを目的として、クリニカルパス委員会を設置する。

委員会開催

第 1 回

開催日：令和 3 年 5 月 25 日

- 議 題：①クリニカルパス 2020 年度（令和 2 年度）報告
 ②クリニカルパス委員会の 2021 年度（令和 3 年度）活動計画
 ③クリニカルパス新規申請について
 ④その他

第 2 回

開催日：令和 3 年 9 月 29 日

- 議 題：①クリニカルパス新規申請の承認報告について
 ②クリニカルパス新規申請について
 ③パスの ERAS 指示について
 ④その他

第 3 回

開催日：令和 3 年 11 月 25 日

- 議 題：①クリニカルパス新規申請について
 ②パスの評価時期と評価内容について
 ③パスの周知方法について
 ④その他

令和 3 年度クリニカルパス新規承認パス件であった。

No.	委員会開催（書面審議）月	令和 3 年度新規申請パス
1	令和 3 年 5 月	COVID-19 挿管パス
2	令和 3 年 8 月	蜂窩織炎
3	令和 3 年 8 月	带状疱疹
4	令和 3 年 9 月	胃 ESD
5	令和 3 年 9 月	肺葉切除
6	令和 3 年 9 月	肝生検
7	令和 3 年 9 月	食道拡張術
8	令和 3 年 9 月	RFA
9	令和 3 年 9 月	ペースメーカー埋込み術
10	令和 3 年 9 月	キイトルー入院導入【乳がん】
11	令和 3 年 12 月	内視鏡下椎間板摘出術（MED）
12	令和 4 年 1 月	【便潜血付き PCI】パス

業務改善委員会

目 的

高槻赤十字病院における医療従事者の負担軽減及び処遇の改善を図り、医療事業の円滑な運営及び推進に資すること

委員会開催

第 1 回

文書審議

- 議 題：1 「令和 3 年度 医療従事者にかかる負担軽減の取組計画及び経年評価」について令和 3 年度計画
- 2 その他

第 2 回

文書審議

- 議 題：1 「令和 3 年度 医療従事者にかかる負担軽減の取組計画及び経年評価」について令和 3 年度評価
- 2 「令和 4 年度 医療従事者にかかる負担軽減の取組計画及び経年評価」について令和 4 年度計画
- 3 その他

医療ガス安全管理委員会

目 的

高槻赤十字病院において使用する医療ガス（診察の用に供する酸素、各種麻酔ガス、吸引、医療用圧縮空気、窒素ガス等をいう。）設備の安全を図り、患者の安全を目的とする。

委員会開催

第 1 回

開催日：令和 3 年 5 月 17 日（月）15 時 30 分～16 時 00 分

議 題：①液体酸素設備不同沈下修繕工事について

- （1）実施日について
 - （2）工事中の対策について
 - （3）バックアップ体制について
 - （4）その他
- ②その他

第 2 回

開催日：令和 3 年 12 月 15 日（水）15 時 30 分～16 時 00 分

議 題：① CE タンク不同沈下測定結果について

- ②修理発生報告
 - ・HCU 医療ガスアウトレット漏れについて
- ③令和 4 年度 医療ガス設備保守点検委託業務入札にかかる仕様書について
- ④その他

医療安全管理委員会

目 的

安全かつ適切な医療ができる体制を確立すること。

委員会開催

第 1 回：令和 3 年 4 月 20 日（火）

議 題：1. 報告事項

①インシデント・アクシデントレポート（3 月）

2. 検討事項

・医師のための院内ルールについて

第 2 回：令和 3 年 5 月 18 日（火）

議 題：1. 報告事項

①インシデント・アクシデントレポート（4 月）

2. 検討事項

・CVC 挿入について

第 3 回：令和 3 年 6 月 15 日（火）

議 題：1. 報告事項

①インシデント・アクシデントレポート（5 月）

2. その他

・特になし

第 4 回：令和 3 年 7 月 20 日（火）

議 題：1. 報告事項

①インシデント・アクシデントレポート（6 月）

2. 検討事項

・医師法 21 条による異状死届出要否の変更について

3. その他

・履物調査の結果報告について

・日赤医療事故検討部会における検討結果について

第 5 回：令和 3 年 8 月 17 日（火）

議 題：1. 報告事項

①インシデント・アクシデントレポート（7 月）

2. 検討事項

・医師法 21 条による異状死届出要否の判断手順変更、医師法 21 条による異状死届出要否案件検討票の改定について

・CVC 認定制度について

3. その他

・特になし

第6回：令和3年9月21日（火）

議 題：1. 報告事項

①インシデント・アクシデントレポート（8月）

2. 検討事項

・CVC挿入についての院内取り決めについて

3. その他

・胸腔ドレナージの挿入および管理における安全研修会について

・メールでの対診依頼について

第7回：令和3年10月19日（火）

議 題：1. 報告事項

①インシデント・アクシデントレポート（9月）

2. 検討事項

・全身倦怠感で救急搬送された事案について

3. その他

・医療機関向け集合型研修メニューについて

第8回：令和3年11月16日（火）

議 題：1. 報告事項

①インシデント・アクシデントレポート（10月）

2. 検討事項

・医療安全研修会について

3. その他

・M&Mカンファレンス報告について

第9回：令和3年12月21日（火）

議 題：1. 報告事項

①インシデント・アクシデントレポート（11月）

2. 検討事項

・異状死届出、医療事故紛争マニュアル改訂について

・転倒防止WG活動報告について

・CVC研修会報告について

3. その他

・KYTの実施結果について

第10回：令和4年1月18日（火）

議 題：1. 報告事項

①インシデント・アクシデントレポート（12月）

2. 検討事項

・外来診察室のイスについて

・セーフティーマネージャー部会の報告について

3. その他

・損保会社が提供してくれるオンライン研修の案内について

第11回：令和4年2月15日（火）

議 題：1. 報告事項

①インシデント・アクシデントレポート（1月）

2. 検討事項

・電子カルテの予約システム変更について

3. その他

・特になし

第12回：令和4年3月15日（火）

議 題：1. 報告事項

①インシデント・アクシデントレポート（2月）

2. 検討事項

・ICDが植え込まれた患者のCT、MRI撮像について

・「CVC留置・交換記録」の実績及び分析報告について

3. その他

・電子カルテの予約システム変更について

・令和3年度医療安全研修会の受講状況について

院内感染防止対策委員会

目 的

院内感染の防止対策及び予防活動に関する事案を審議する。実働部隊としての ICT から各サーベイランスの報告を受け、院内感染防止対策の監視と啓発活動を行う。

委員会開催

定例会議 毎月第 4 木曜日 16 時 30 分～

議 題 MRSA 検出状況、耐性菌出現状況、抗菌薬使用状況について報告と審議

開催日	議 題
令和 3 年 4 月 22 日	①国内での重症熱性血小板減少症候群（SFTS）発見報告について ②院内感染防止対策マニュアル抗菌薬ガイドライン更新について ③新型コロナワクチン接種後調査について
5 月 27 日	① COVID-19 情報について ②パームスタンプ法での手術時手洗い評価について ③ RS ウイルスの流行状況について
6 月 24 日	① AST 活動報告（抗菌薬使用量の変化と課題について） ②新型コロナワクチンの集団接種について ③医薬品および医薬部外品開封後の使用期限一覧について ④ ICT ラウンドについて
7 月 29 日	①レジオネラ肺炎の発生について ②院内感染防止対策研修会について
8 月 26 日	①院内感染防止対策研修会について
9 月 30 日	①院内感染防止対策研修会について
10 月 28 日	①病棟環境培養調査結果について ②院内感染防止対策研修会について ③抗インフルエンザ薬の備蓄について
11 月 25 日	① 6 病棟環境培養調査について ②感染性廃棄物の取り扱い変更について
12 月 23 日	①感染性廃棄物の取り扱いについて ②院内感染防止対策研修会について
令和 4 年 1 月 27 日	①感染性廃棄物の取り扱いについて ②院内感染防止対策研修会について
2 月 24 日	①感染性廃棄物 BOX の供給停止に係る取り扱い変更について ②令和 4 年度診療報酬改定について
3 月 24 日	①令和 4 年度診療報酬改定について

化学療法委員会

目 的

安全で効果的ながん化学療法を行うことを目的として、外来のがん化学療法に関する審議・検討を行う。

委員会開催

第 1 回

開催日：令和 3 年 9 月 9 日

- 議 題：①外来化学療法室利用状況報告
②仮登録されたレジメンの報告
③新規や変更レジメンの承認と報告
④「過敏症対応マニュアル」修正案と承認
⑤その他

第 2 回

開催日：令和 4 年 3 月 10 日

- 議 題：①免疫チェックポイント阻害剤使用時の検査について (FT3、FT4)
②外来化学療法室利用状況報告
③仮登録されたレジメンの報告
④新規や変更レジメンの承認と報告
⑤その他

救急委員会

目 的

救急車搬送増加と、円滑な受入れ体制の強化、断診の防止対策の検討・討議を行う。

委員会開催

12 回／年開催

救急委員会実績

- 月々の救急搬送件数や内容など統計データの共有や分析
- 救急診療管理加算データの共有（特に「加算 1」算定への取り組み）
- 受入れ困難症例のデータ共有や分析

給食委員会

目 的

患者の栄養管理ならびに給食サービスの円滑な運営とその向上を図る

委員会開催

なし

研修運営委員会

目 的

「研修管理委員会」の下部委員会として、研修医師の研修内容及び関係分門並びに院外の協力施設との研修に関わる事項や運営について検討する。

委員会開催

開催日：令和3年4月14日（水）17：00～17：15

- 議 題：1. 新研修医の紹介
2. 研修進捗状況
3. EPOC2 について
4. 研修医の外来診療について
5. その他

開催日：令和3年5月12日（水）17：00～17：10

- 議 題：1. 研修進捗状況
2. 2年目症例サマリー作成登録件数（別紙参照）
3. その他

開催日：令和3年6月9日（水）17：00～17：15

- 議 題：1. 研修進捗状況
2. 2年目症例サマリー作成登録件数
3. 1年目進捗状況に関して（要約提出・研修態度など）
4. 2年目研修医面談結果に関して
5. その他

開催日：令和3年7月14日（水）17：05～17：15

- 議 題：1. 研修進捗状況
2. サマリー登録件数・症例提出状況
3. 1年目研修医の面談結果
4. その他

開催日：令和3年8月11日（水）17：04～17：12

- 議 題：1. 研修進捗状況
2. EPOC2 での要約提出状況
3. 令和4年度採用研修医 採用面接途中経過
4. その他

開催日：令和3年9月8日（水）17：02～17：12

- 議 題：1. 研修進捗状況
2. EPOC2 での要約提出状況
3. その他

開催日：令和3年10月13日（水）17：00～17：10

- 議 題：1. 研修状況
2. 1年目・2年目症例サマリー登録状況
3. 令和4年度 マッチング中間公表について
4. 第2回研修管理委員会（書面審議）について
5. その他

開催日：令和3年11月10日（水）17：00～17：10

- 議 題：1. 研修状況
2. 1年目・2年目症例サマリー登録状況
3. 令和4年度 マッチング中間公表について
4. 1年目研修医の面談結果の報告について
5. その他

開催日：令和3年12月8日（水）17：00～17：10

- 議 題：1. 研修進捗状況
2. 2年目研修医の修了認定に関して
3. 第3回研修管理委員会の日程について
4. その他

開催日：令和4年1月12日（水）17：00～17：10

- 議 題：1. 研修進捗状況
2. 2年目研修医の修了認定に関して
3. 第3回研修管理委員会の日程について
4. その他

開催日：令和4年2月9日（水）17：00～17：15

- 議 題：1. 研修進捗状況
2. 1年目サマリー提出に関して
3. 2年目サマリー提出に関して
4. その他

開催日：令和4年3月16日（水）17：00～17：20

- 議 題：1. 2年目研修医の修了判定について（報告）
2. 研修進捗状況
3. 令和4年度の研修スケジュールについて
4. 令和4年度 1年目研修医の4月の研修予定について
5. 卒後臨床研修評価機構（JCEP）の評価受審について
6. その他

研修管理委員会

目 的

臨床研修指定病院として、研修医師の研修内容及び関係部門並びに院外の関連施設との研修に関わる事項や運営について検討する。

書面会議

令和3年度 第1回研修管理委員会

開催日：令和3年8月

- 議 題：1. 2022年臨床研修プログラム（案）
2. 2020年度 補助金決定額
3. 2021年度研修医の進捗状況について
4. 2022年度研修医の募集日程
5. その他

令和3年度 第2回研修管理委員会

開催日：令和3年11月

- 議 題：1. 研修医の履修状況について
2. 研修医の進捗状況について
3. 令和4年度 研修医採用について
4. その他

委員会開催

令和3年度 第3回研修管理委員会

開催日：令和4年3月4日（金）15：00～15：25

- 議 題：1. 令和2年度採用研修医の臨床研修修了について
2. 令和4年度 臨床研修スケジュールについて
3. 令和3年度臨床研修費補助金の分配について
4. 令和4年度採用研修医紹介
5. その他

個人情報保護委員会

目 的

病院における個人情報保護の利用目的、運営及び管理に関すること、固有個人情報の開示等の決定判断に関すること、その他病院における個人情報保護に関することを審議する。

委員会開催

開催せず

広報委員会

目 的

病院の広報に関することを検討する。

主に院内広報誌、院外広報誌、ホームページの掲載内容について検討する。

委員会開催

第 1 回

開催日：令和 3 年 7 月 6 日

議 題：①地域医療連携だより vol.80 ～ vol.85 の発行報告

②院外広報誌・院内広報誌の次号内容について

・日赤の森 111 号案（令和 3 年 9 月発行予定）

・にっせきたかつき 263 号案（令和 3 年 8 月発行予定）

③病院 Web サイト SSL 証明書導入の報告

④病院 Web サイトトップページの一部変更について

⑤その他

・電子カルテ「イントラ」、トップニュースを刷新したことを報告

第 2 回

開催日：令和 3 年 11 月 12 日

議 題：①地域医療連携だより vol.86 ～ vol.87 の発行報告

②院外広報誌・院内広報誌の次号発行予定日について

・日赤の森 112 号案（令和 3 年 12 月発行予定）

・にっせきたかつき 264 号案（令和 3 年 12 月発行予定へ延期）

③院外広報誌・院内広報誌の次号内容について

④病院 Web サイトのリニューアルについて

購買委員会

目 的

各部署から提出された医療用機械備品・その他器械備品等（原則、購入予定価格が 160 万円以上の物品）の整備依頼調書に基づき、各部署のヒアリングを行い、購入の是非を検討する。

委員会開催

第 1 回

開催日：令和 3 年 9 月 8 日（水）16：00 ～ 16：30

議 題：①整形外科骨手術用器械システムの購入（機種選定）

②令和 3 年度新型コロナウイルス補助金による購入決定報告

①整形外科骨手術用器械システムの購入

連番	議題内容	申請部署	本委員会での結果 (選定メーカー・機種名)
1	整形外科骨手術用器械システム	整形外科	ジンマー製 システム 8 (1 年保証)

②令和 3 年度新型コロナウイルス補助金による購入決定報告

令和 3 年度分として申請し、結果補助金交付決定となった購入機器を報告。

※内容膨大である為別紙参照

第 2 回

開催日：令和 3 年 11 月 4 日（木）15：00 ～ 17：30

議 題：令和 3 年度・令和 4 年度購入備品の検討

連番	更新時期	議題内容	申請部署	本委員会での結果
1	—	Fusion システム	消化器内科	保留
2	—	タブレットエコー Viamo SV7	消化器内科	保留
3	今年度	maXium	消化器内科	承認
4	来年度	肺機能検査装置チェスタック 8900	呼吸器科	故障時更新
5	今年度	ティッシュテック VIP5 ジュニア (自動固定包理装置)	病理診断部	承認
6	来年度	免疫染色自動システム	病理診断部	故障時更新
7	来年度	オーディオメーター	検査部	故障時更新
8	再来年度	白内障手術器 CENTURION	眼科	再来年度購入を 予定
9	—	院外向け病院 Web サイト更新	総務管理課	四役会議で決定
10	来年度	電話交換機 (PBX) 設備更新	総務管理課	承認
11	—	病棟ナースコール設備更新	総務管理課	保留
12	来年度	内視鏡系統冷房熱源機器更新	総務管理課	承認
13	—	勤怠管理システム	人事課	保留

ME 関連

1		多人数用透析装置 DCS-200Si	臨床工学技術課	取り下げ
2		多人数用透析液供給装置 DAB-Si	臨床工学技術課	取り下げ
3	来年度	個人用透析装置 DBB - 200Si	臨床工学技術課	一台のみ承認
4	来年度	個人用 RO 装置 (WRO)	臨床工学技術課	故障時更新
5	来年度	電動昇降リフト式体重計	臨床工学技術課	承認
6		紫外線空気清浄装置 UV ストリーマ空気清浄機	臨床工学技術課	保留

ME 関連 故障時更新

1		カプセル内視鏡システム (ワークステーション部分)	臨床工学技術課	故障時更新
2		①医用テレメーター (2 台他) ②送信機 (10 台)	臨床工学技術課	故障時更新
3		麻酔器 Atlan	臨床工学技術課	故障時更新
4	来年度	除細動器「TEC-5631」	臨床工学技術課	故障時更新
5		デジタルスケールベッド	臨床工学技術課	故障時更新

治験審査委員会

目 的

新規治験の実施および進行中の治験の継続について、科学面・安全面・倫理面から適正に審議することが目的。

GCP（医薬品の臨床試験の実施に関する省令）に準拠した委員会であり、構成人員・審議書類・記録方法等が詳細に規定されている。

併せて、GPSP（医薬品の製造販売後の調査および試験の実施の基準に関する省令）に準拠した製造販売後調査・副作用報告に関する審議・報告等も必要に応じ実施している。

委員会開催

第1回

開催日：令和3年4月16日（ハイブリッド開催）

- 議 題：1. 迅速審査・報告
2. 委員会審議（治験の継続を審議）
 3. 安全性情報（治験の継続を審議）
 4. 製造販売後調査の実施の可否を審議
 5. その他（医師主導治験における治験標準業務手順書・医師主導治験における治験審査委員会標準業務手順書）

第2回

開催日：令和3年5月21日（ハイブリッド開催）

- 議 題：1. 新規治験の実施の可否を審議
2. 委員会審議（治験の継続を審議）
 3. 安全性情報（治験の継続を審議）

【新規承認試験】

◇ TM5614 第Ⅱ相試験（呼吸器内科／新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）肺炎）

第3回

開催日：令和3年6月18日（ハイブリッド開催）

- 議 題：1. 迅速審査・報告
2. 委員会審議（治験の継続を審議）
 3. 安全性情報（治験の継続を審議）
 4. 製造販売後調査の実施の可否を審議

第4回

開催日：令和2年7月16日（ハイブリッド開催）

議 題：第3回と同様

第5回

開催日：令和3年8月20日（ハイブリッド開催）

- 議 題：1. 新規治験の実施の可否を審議
2. 迅速審査・報告

3. 委員会審議（治験の継続を審議）
4. 安全性情報（治験の継続を審議）
5. 製造販売後調査の実施の可否を審議

【新規承認試験】

◇ EX6018-4758 第Ⅲ相試験（糖尿病・内分泌・代謝内科／動脈硬化性心血管疾患、慢性腎臓病、全身性炎症）

第6回

書類審議：令和3年9月17日（ハイブリッド開催）

- 議 題：1. 迅速審査・報告
2. 委員会審議（治験の継続を審議）
 3. 安全性情報（治験の継続を審議）

第7回

開催日：令和3年10月15日（ハイブリッド開催）

- 議 題：1. 新規治験の実施の可否を審議
2. 迅速審査・報告
 3. 委員会審議（治験の継続を審議）
 4. 安全性情報（治験の継続を審議）

【新規承認試験】

◇ NN9932-4738 第Ⅲ相試験（糖尿病・内分泌・代謝内科／過体重又は肥満）

◇ NN1535-4593 第Ⅲ相試験（糖尿病・内分泌・代謝内科／糖尿病）

第8回

開催日：令和3年11月19日（ハイブリッド開催）

- 議 題：1. 迅速審査・報告
2. 委員会審議（治験の継続を審議）
 3. 安全性情報（治験の継続を審議）
 4. 製造販売後調査の実施の可否を審議
 5. その他（「医薬品の臨床試験の実施の基準に関する省令」のガイダンスについて」の改正）

第9回

開催日：令和3年12月17日（現地開催）

議 題：第6回と同様

第10回

開催日：令和4年1月21日（ハイブリッド開催）

議 題：第7回と同様

【新規承認試験】

◇ LY3209590（BDCU）第Ⅲ相試験（糖尿病・内分泌・代謝内科／糖尿病）

第11回

開催日：令和4年2月18日（ハイブリッド開催）

議 題：第6回と同様

第12回

開催日：令和3年3月18日（ハイブリッド開催）

- 議 題：1. 迅速審査・報告
2. 委員会審議（治験の継続を審議）
3. 安全性情報（治験の継続を審議）
4. その他（製造販売後調査・副作用報告 実施状況についての報告）

治験・製造販売後調査等の終了報告

【治験】

LY3298176（GPGI）第Ⅲ相試験 糖尿病・内分泌・代謝内科
LY3298176（GPGP）第Ⅲ相試験 糖尿病・内分泌・代謝内科
LY3298176（GPGO）第Ⅲ相試験 糖尿病・内分泌・代謝内科
LCZ696 第Ⅳ相試験 循環器内科
MR19D6A 第Ⅰ相試験 乳腺外科
TAK-906-2002 第Ⅱ相試験 消化器内科

【製造販売後調査】

キイトルーダ点滴静注 消化器内科
スチバーガ錠 40mg 消化器外科
ゼルヤンツ錠 5mg 整形外科
プレバイミス錠 240mg及びプレバイミス点滴静注 240mg 血液内科
ウプトラビ錠 0.2mg・0.4mg 循環器内科
デファイテリオ静注 200mg 循環器内科
サビーン点滴静注用 500mg 乳腺外科
エンハーツ点滴静注用 100mg 消化器内科
エドルミズ錠 緩和ケア科

令和3年度の振り返り

令和3年10月より、治験審査委員会の幹事を引き継いだ。委員の方々や治験事務局員、治験コーディネーター、メディカルスタッフの協力を得て、大きな問題なく治験を進めることができた。

昨年度は新型コロナウイルスの影響で外部委員の現地参加は一度しか叶わなかったものの、安定したハイブリッド開催を実施できたと感じている。

今年度の経験を生かして、引き続きどのような状況下でも治験審査委員会を定期的に開催し、被験者が安全に治験に参加できるよう適切な審議を継続していきたい。

また新型コロナウイルス肺炎治療薬の開発に貢献すべく、医師主導治験に参加することとなった。治験審査委員会として初めて医師主導治験を行うにあたり、「医師主導治験における治験標準業務手順書」及び「医師主導治験における治験審査委員会標準業務手順書」を作成し、新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）肺炎治療薬の治験を実施し、現在も進行中である。医

薬品として上市されて効果を発揮し、以前のようなマスクなしの日常が送れることを待ち望んでいる。

以 上
幹事 仲 忠士

手術室運営委員会

目 的

高槻赤十字病院における手術室運営に関する諸問題の協議・調整を行い、安全かつ適切な手術が行える体制を確立する。

4月23日(金)	1. 統計報告 令和3年3月手術件数 2. コロナ陽性患者急増による当院における手術対応について 3. 5/6 予定手術の PCR 検査、麻酔科面談について 4. 各科手術枠について
5月28日(金)	1. 統計報告 令和3年4月手術件数 2. 液体酸素設置工事について 3. インシデント報告（手術室で使用する医療材料）
6月25日(金)	1. 統計報告 令和3年5月手術件数 2. COVID－19 ワクチン接種と手術時期について 3. 各診療科手術日の再検討 4. ERAS について
7月30日(金)	1. 統計報告 令和3年6月手術件数 2. 連休に伴う PCR 検査について 3. ERAS について
9月24日(金)	1. 統計報告 令和3年7、8月手術件数 2. 術中動画について
10月22日(金)	1. 統計報告 令和3年9月手術件数 2. 手術室履物一足制について 3. その他：電気設備点検、1 室前のホールの水漏れについて
11月26日(金)	1. 統計報告 令和3年10月手術件数 2. その他：手術室入室について、術前エコーについて、外来手術の PCR 検査について
12月24日(金)	1. 統計報告 令和3年11月手術件数 2. その他：予定手術予約、緊急手術発生時の PCR 検査について
1月28日(金)	1. 統計報告 令和3年12月手術件数 2. その他：手術時の PCR 検査について、医療器材契約更新について
2月18日(金)	1. 統計報告 令和4年1月手術件数 2. その他：医療材料について、
3月25日(金)	1. 統計報告 令和4年2月手術件数 2. インシデント報告（部位間違い） 3. マーキングチェックワーキンググループ発足

令和 3 年度 手術室手術件数・手術点数【月別・科別統計】

		内科	腎臓内科	消化器科	循環器科	呼吸器科	呼吸器外科	外科	脳神経外科	整形外科	産婦人科	眼科	皮膚科	形成外科	耳鼻咽喉科	泌尿器科	全科	差分
手術 件数	R 2.4				2			9	30	25	5	50		12		14	147	0
	R 3.4				2			8	26	56	4	38		19		16	169	22
	R 2.5	1						9	20	25	2	6		7		7	78	0
	R 3.5				2			4	20	44	3	38		14		14	144	66
	R 2.6			1				8	32	41	1	34		29		8	155	0
	R 3.6				3			35	35	47	2	46		11		9	166	11
	R 2.7		2					10	29	43	2	54		30		15	185	0
	R 3.7				2			7	38	35	1	66		17		15	181	-4
	R 2.8			1				2	33	34	3	58		33		13	180	0
	R 3.8				2			6	18	45	6	71		29		12	189	9
	R 2.9				1			8	29	38	48	42		39		13	171	0
	R 3.9							7	33	49	2	63		25		15	194	23
	R 2.10				1			1	43	52		74		27		18	216	0
手術 点数	R 3.10				1			2	41	45	3	51		33		20	196	-20
	R 2.11							4	29	43	2	63		20		12	174	0
	R 3.11				1			10	28	44	1	79		22		19	204	30
	R 2.12							9	26	51	1	21		35		14	157	0
	R 3.12	1						10	42	46		62		17		9	187	30
	R 3.1			1				5	27	21		15		13		11	94	0
	R 4.1		1					4	33	42	1	62		11		11	165	71
	R 3.2							10	33	37	2	40		32		12	168	0
	R 4.2							11	28	21		51		21		14	164	-4
	R 3.3				1			6	41	65	2	38		45		16	214	0
	R 4.3							8	43	49	2	54		22		18	195	-18
	R2年度	1	2	4	12	81	372	475	20	495	324	153		324		153	1,939	0
	R3年度		2		14	86	385	538	27	681	250	250		250		172	2,155	216
R 2.1				24,160	514,430	869,660	601,305	118,970	673,350	601,305	118,970	673,350		127,680		217,190	3,106,945	0
R 3.4				30,290	540,790	573,530	858,730	74,560	409,250	858,730	74,560	409,250		127,680		432,820	3,326,610	0
R 2.5	15,300			40,230	710		490,775	84,100	77,510				129,020		1,982,765	R 2.5	0	
R 3.5				42,370	334,950	861,950	875,490	48,620	431,140				56,360		2,819,300	R 3.5	0	
R 2.6				12,080			495,520	896,580	740,275	42,050	387,040		200,590		164,590	2,960,825	R 2.6	0
R 3.6							426,250	823,310	849,770	45,290	583,120		58,470		192,050	3,069,130	R 3.6	0
R 2.7							588,660	969,690	751,110	67,990	688,120		137,690		307,630	3,571,770	R 2.7	0
R 3.7				36,950			461,730	1,205,070	612,370	25,940	747,160		138,250		371,550	2,686,770	R 3.7	0
R 2.8				12,080			152,170	750,890	522,830	57,480	716,980		253,290		198,950	3,599,020	R 2.8	0
R 3.8				42,370			402,860	408,200	776,548	139,310	854,770		168,575		2,968,893	R 3.8	0	
R 2.9				30,290			632,640	904,750	766,695		485,680		281,040		315,830	3,439,025	R 2.9	0
R 3.9							349,850	766,720	902,110	51,880	798,520		191,710		3,267,930	R 3.9	0	
R 2.10				12,080			60,170	1,110,170	1,109,380		1,019,380		198,840		4,017,240	R 2.10	0	
R 3.10				6,660			17,000	1,246,475	977,870	40,080	665,570		218,150		3,556,345	R 3.10	0	
R 2.11				4,500			316,810	1,005,940	666,515	70,260	690,070		91,620		3,044,235	R 2.11	0	
R 3.11				30,290			477,830	974,900	863,750	25,940	997,710		250,250		3,937,040	R 3.11	0	
R 2.12							575,050	837,190	904,000	28,210	192,780		267,360		200,220	3,004,810	R 2.12	0
R 3.12							522,290	964,635	789,640		711,190		114,675		285,860	3,400,370	R 3.12	0
R 3.1							376,000	849,470	338,235		133,530		51,050		217,500	1,999,965	R 3.1	0
R 4.1							282,630	962,750	695,905	17,080	643,910		32,620		241,490	2,929,675	R 4.1	0
R 3.2				33,420			619,840	910,990	645,110	84,440	390,960		172,110		367,170	3,224,070	R 3.2	0
R 4.2				12,080			434,510	805,610	587,320	29,270	631,710		72,540		318,330	2,891,370	R 4.2	0
R 3.3				12,080			412,200	948,300	988,040	67,990	444,050		232,630		369,620	3,474,910	R 3.3	0
R 4.3							477,620	1,108,715	842,793	51,880	736,700		122,110		469,700	3,809,518	R 4.3	0
R2年度	15,300	60,580	88,400	183,060	5,284,280	10,657,160	8,524,500	621,490	5,899,750		2,015,350		3,163,460		36,513,330	R2年度	334,608	0
R3年度				285,750	4,755,280	10,980,405	9,632,296	549,850	8,210,750		1,550,970				3,567,530	R3年度	3,061,871	0
令和3年度-令和2年度		-15,300	-18,210	-88,400	102,680	-529,000	323,245	1,107,968	-71,640	2,311,000		467,360		-467,360		404,070		
前年度比率		0.0%	0.0%	0.0%	156.1%	90.0%	103.0%	113.0%	88.5%	138.2%	0.0%	77.0%	0.0%	#DIV/0!	112.8%		108.4%	

図書委員会

目 的

図書室の運用及びそれに関する事項について審議する。

委員会開催

第 1 回

開催日 令和 3 年 10 月 1 日（金）

議 題

- I 来年度予算案について
 - 1. 洋雑誌の選定について
 - 2. 和雑誌の選定について
 - 3. 文献検索等データベースについて
 - 4. 文献取り寄せについて
 - 5. 臨時購入について
- II データベース UP TO DATE 購入について

地域医療支援病院運営委員会

目 的

委員会は、地域における医療の確保・向上のために必要な支援に係る業務に関し、当該業務が適切に行われるために必要な事項を審議することを目的とする。

令和3年度 委員会開催

- 第1回 令和3年 6月16日 新型コロナウイルスにより開催中止（資料送付）
- 第2回 令和3年 9月15日 新型コロナウイルスにより開催中止（資料送付）
- 第3回 令和3年11月17日
- 第4回 令和4年 2月16日

内 容

- ・紹介患者実績、紹介率・逆紹介率、救急搬入件数、セミナーなど、地域医療支援病院承認要件の報告。その後、当院の現状・活動について、今後当院との連携強化に向けて各委員（院外委員）と意見交換を実施。

患者支援センター運営委員会

目 的

本院を利用する患者が円滑に診療を受けられるように支援するとともに、地域包括ケアシステム推進に向け病院と地域を繋ぐ役割を果たすため設置された「患者支援センター」の運営に関する問題点や課題を改善するとともに、より一層の地域との機能連携を推進することを目的とする。

開催日

- 第 1 回 令和 3 年 4 月 28 日
- 第 2 回 令和 3 年 5 月 26 日
- 第 3 回 令和 3 年 6 月 23 日
- 第 4 回 令和 3 年 7 月 28 日
- 第 5 回 令和 3 年 8 月 25 日
- 第 6 回 令和 3 年 9 月 22 日
- 第 7 回 令和 3 年 10 月 27 日
- 第 8 回 令和 3 年 11 月 24 日
- 第 9 回 令和 3 年 12 月 15 日
- 第 10 回 令和 4 年 1 月 19 日
- 第 11 回 令和 4 年 2 月 16 日
- 第 12 回 令和 4 年 3 月 16 日

内 容

月ごとの紹介率・逆紹介率、紹介不応需状況、営業活動、患者支援センターに関する患者相談ミーティングでの報告事項。高槻赤十字病院地域連携の会開催について など。

認知症ケアサポートチーム委員会

目 的

認知症ケアサポートチームは、病棟における認知症患者へのケアの実施状況を把握するとともに、専門スタッフが病棟職員、家族・家族等に助言等を行い、拘束患者の早期離脱をすすめ、認知症患者への理解を深めながら療養環境の改善を目的とします。

委員会開催

2 回／年開催（必要時に開催）

活動実績

- ・毎週火曜日にミーティング及び、各病棟のラウンドを行い状況の確認・対応方法の検討と対策を行った。
 - ・認知症患者の人数を把握し、各病棟の状況等の把握し、拘束患者の介入を行い拘束からの解放を行っている。
 - ・ミーティングなど認知症・せん妄の状況を把握し判定を行い、対応方法など検討を行った。
- 認知症ケア加算：8262 件（令和 3 年度）

AST 委員会

目 的

院内分離菌の把握、抗菌薬使用状況の把握など抗菌薬適正使用の推進。

毎週火曜日・木曜日、約 30 分間の抗菌薬ラウンド（カルテラウンド）を実施。

今年度目標 ①抗菌薬使用状況の把握

委員会開催

定例会議 毎月第 1 木曜日 16 時 00 分～（ICT 委員会と合同開催）

議題 MRSA 検出状況、耐性菌出現状況、環境調査、抗菌薬使用状況、その他

◆院内研修会

開催日	テーマ	対象	参加人数
4 月 2 日	新採用者研修会	新採用職員	
9 月 1 日 オンデマンド研修	耐性菌と抗菌薬治療について	全職員	520 名
11 月 24 日 オンデマンド研修	結核について	全職員	493 名

◆抗菌薬適正使用の推進に係る取り組み

抗菌薬ラウンド 週 1 回 抗菌薬長期使用患者、許可抗菌薬使用患者等のカルテラウンド

病床管理運営委員会

理 念

病床は経営における重要な資源である。原則、全病床は全科共通のものであることを認識し、医師及び看護師は常に効率的な入退院を心掛けなければならない。

目 的

病床を一元管理し、入院から退院まで円滑かつ効果的に運用することを目的とする。

日 時：令和3年4月15日（木）

- 1 病床の状況について
- 2 病床の効果的な運用について現状と対策
- 3 その他

日 時：令和3年5月20日（木）

- 1 一般病棟の稼働状況について
- 2 病棟別の稼働率及び回転数について
- 3 企画情報課から今年度の各科定床数について
- 4 その他

日 時：令和3年6月17日（木）

- 1 一般病床の稼働状況について
- 2 各科定床数に対する達成率について
- 3 電子カルテ更新時からの病棟別稼働率及び回転数について
- 4 一般病床高稼働率を維持するための提案について
- 5 その他

日 時：令和3年7月15日（木）

- 1 各科定床数に対する達成率について（4月から6月まで）
- 2 6月一般病床の稼働状況について
- 3 入院患者延数、新入院患者数、平均在院日数について（直近3ヶ月）
- 4 病床稼働率について
- 5 7月の速報（14日00:00時点）
- 6 その他

日 時：令和3年8月19日（木）

- 1 全体の稼働状況について
- 2 診療科別の病床稼働について
- 3 病棟別の病床稼働について
- 4 新入院患者数について
- 5 病床回転数と稼働率について（全体と病棟別）
- 6 現在の稼働状況について
- 7 疑似症部屋工事期間中の対応について
- 8 その他

日 時：令和3年9月16日（木）

- 1 全体と一般の病床稼働状況について
- 2 診療科別の病床稼働について
- 3 病棟別の病床稼働について
- 4 新入院患者数について
- 5 病床回転数と稼働率について（全体と病棟別）
- 6 その他

日 時：令和3年10月21日（木）

- 1 全体と一般の病床稼働状況について
- 2 診療科別の病床稼働について
- 3 病棟別の病床稼働について
- 4 新入院患者数について
- 5 病床回転数と稼働率について
- 6 その他

日 時：令和3年11月18日（木）

- 1 全体の入院一日平均稼働数と一日平均新入院数について
- 2 診療科入院一日平均稼働数と一日平均新入院数について（今月の速報含めて）
- 3 新入院患者数について（今月）
- 4 病棟別の病床稼働について
- 5 その他

日 時：令和3年12月9日（木）

- 1 全体の入院一日平均稼働数と一日平均新入院数について
- 2 一般病床稼働数推移について
- 3 全体病床との比較について
- 4 気温変化と入院患者延数について
- 5 病棟別の病床稼働について
- 6 来年1月の病床編成に向けて
- 7 その他

日 時：令和4年1月20日（木）

- 1 現状報告
- 2 今後の対策
- 3 その他

日 時：令和4年2月10日（木）

- 1 一般病床の稼働状況について
- 2 日々の予約入院数と当日入院数について
- 3 入院数と退院数について
- 4 退院促進について
- 5 その他

日 時：令和4年3月10日（木）

- 1 一般病床の稼働状況について
- 2 日々の予約入院数と当日入院数について
- 3 月別一日平均新入院患者数推移について
- 4 月別の入院数と退院数について
- 5 今月の診療科別入院割合について（全体で）
- 6 COVID-19 対応による実稼働病床の稼働率等について
- 7 退院促進のお願い
- 8 その他

保険委員会

目 的

診療報酬請求の査定状況報告、返戻状況・再審査請求状況の報告、医師への情報提供、医事課勉強会の報告等を行い、正確な診療報酬請求に繋げる。

委員会開催

開催日 令和3年9月30日

- 議 題 ①審査機関による審査結果集計
②診療科別等査定内訳入外別
③その他（オンライン資格について）

開催日 令和3年10月28日

- 議 題 ①審査機関による審査結果集計
②診療科別等査定内訳入外別
③その他

開催日 令和3年11月29日

- 議 題 ①審査機関による審査結果集計
②診療科別等査定内訳入外別
③その他

開催日 令和4年2月4日

- 議 題 ①審査機関による審査結果集計
②診療科別等査定内訳入外別
③その他

放射線安全委員会

目 的

放射線障害の発生を防止し、あわせて公共の安全を確保する目的として、当委員会では放射線被ばく等に関する必要な事項を企画、審議する。

委員会開催

開催日：令和 3 年 12 月 22 日

議題：

- ①「放射線治療における放射線業務従事者の教育訓練について」
- ②「漏洩線量測定の結果報告」

目 的

当院における防火防災の徹底を図り、火災その他の災害による人的及び物的被害を軽減すること、および日本赤十字社災害救護体制要綱、日本赤十字社大阪府支部災害救護体制要綱、高槻赤十字病院 BCP 災害対策ガイドライン及び高槻赤十字病院災害救護要綱の定めるところに基づき、災害時における災害救護体制に関する事項を審議することを目的とする。

委員会開催

第 1 回

開催日：令和 3 年 9 月 10 日（金）

議 題：①委員会規定の改定について

・院内組織変更に伴う一部変更

②昨年度 BCP 災害対策 WG 活動報告について

令和 2 年度訓練報告

・自衛消防訓練：令和 2 年 11 月 27 日 15 時～ 16 時

・本部災害防災図上訓練：令和 3 年 3 月 11 日 15 時～ 16 時

③今年度 BCP 災害対策 WG のメンバーについて

・事異動で構成員に偏りが出たため各課に WG メンバーが入るよう人選

④今年度の災害訓練の実施について

・高槻北消防と合同で大規模地震を想定した総合訓練を 11 月に実施。

⑤ WEB 給与明細システムに付随した安否確認ツールの採用について

・WEB 給与明細システム採用によりスマホから職員安否確認が容易にできる

⑥自衛消防業務講習の継続的な受講について

⑦災害・非常用備蓄食料について

・許可病床が 335 床へ変更となったことによる

消防訓練開催

第 1 回 新入職員対象消防訓練

開催日：令和 3 年 4 月 2 日（金）9 時～ 11 時 30 分

目 的：新入職員に対し消火・避難訓練を行い自衛消防意識の向上を図る

内 容：①消火器を使用しての消火訓練

②屋内消火栓を使用しての放水訓練

③担架・毛布を使用しての応急救護・避難訓練

第 2 回 全職員対象消防訓練（高槻北消防署予防係）

開催日：令和 3 年 12 月 16 日（木）15 時～ 16 時

目 的：①消防車両による本館東側 8 病棟（5 階）アプローチ及び消火・避難誘導の確認

② BCP 災害対策マニュアル及び各部署アクションカードの見直し

内 容：Ⅰ．通報連絡の実施

Ⅱ．安否確認ツールの実施

Ⅲ．出火時における初期消火の実施

Ⅳ．閉じ込め発生時における救出の実施

Ⅴ．出火階及び出火上階病棟における避難誘導の実施
(エアストレッチャー使用)

Ⅵ．消防車両による本館東側 8 病棟（5 階）アプローチ

Ⅶ．それぞれの部門特性を考慮したアクションカードの実施

薬事委員会

目 的

医薬品や検査試薬等の採用や削除について、医師の依頼に基づいて適正に審議することが目的。

不良在庫の見直しによる採用薬品数の削減も、薬剤部の提案により本委員会で検討される。

後発品への切り替えは、DPC 導入もあり病院経営の観点からも重要である。後発品の品質・供給体制等を考慮し、薬剤部より提案のうえ本委員会にて審議している。

委員会開催

< 第 1 回 >

開催日 令和 3 年 4 月 2 日

- 議 題
1. 仮採用依頼品目の審議
 2. 院外採用依頼品目の審議
 3. 採用中止候補品目の審議
 4. 仮採用品目の本採用審議
 5. 特定患者用薬品の使用状況報告
 6. 6 ヶ月院内に処方がない品目の採用中止報告
 7. 5 ヶ月院内に処方がない品目の報告
 8. 後発品切替についての審議

< 第 2 回 >

開催日 令和 3 年 5 月 7 日

- 議 題
1. 仮採用依頼品目の審議
 2. 院外採用依頼品目の審議
 3. 採用中止候補品目の審議
 4. 仮採用品目の本採用審議
 5. 特定患者用薬品の使用状況報告
 6. その他の承認依頼事項
 7. 6 ヶ月院内に処方がない品目の採用中止報告
 8. 5 ヶ月院内に処方がない品目の報告
 9. 後発品切替についての審議

< 第 3 回 >

開催日 令和 3 年 7 月 2 日

- 議 題 1. - 9. 第 2 回と同様

< 第 4 回 >

開催日 令和 3 年 8 月 6 日

- 議 題 1. - 9. 第 2 回と同様

< 第 5 回 >

開催日 令和 3 年 9 月 3 日

議 題 1. - 8. 第 1 回と同様

< 第 6 回 >

開催日 令和 3 年 10 月 1 日

議 題 1. - 8. 第 1 回と同様

< 第 7 回 >

開催日 令和 3 年 11 月 5 日

- 議 題
1. 仮採用依頼品目の審議
 2. 院外採用依頼品目の審議
 3. 採用中止候補品目の審議
 4. 仮採用品目の本採用審議
 5. 特定患者用薬品の使用状況報告
 6. その他の承認依頼事項
 7. 6 ヶ月院内に処方がない品目の採用中止報告
 8. 5 ヶ月院内に処方がない品目の報告
 9. 国内承認薬の適応外使用についての審議 [消化器内科]
 10. 国内承認薬の適応外使用についての審議 [麻酔科]
 11. 国内承認薬の適応外使用についての審議 [呼吸器内科]

< 第 8 回 >

開催日 令和 4 年 1 月 7 日

- 議 題
1. 仮採用依頼品目の審議
 2. 院外採用依頼品目の審議
 3. 採用中止候補品目の審議
 4. 仮採用品目の本採用審議
 5. 特定患者用薬品の使用状況報告
 6. その他の承認依頼事項
 7. 6 ヶ月院内に処方がない品目の採用中止報告
 8. 5 ヶ月院内に処方がない品目の報告

< 第 9 回 >

開催日 令和 4 年 3 月 4 日

- 議 題
1. - 9. 第 2 回と同様
 10. 国内承認薬の適応外使用についての審議 [呼吸器内科]

令和３年度の振り返り

令和３年度は、令和２年度に引き続き、新型コロナウイルスの診療に関連した医薬品の対応と、製薬会社の出荷制限・停止等に対する対応が中心であった。各診療科に供給状況を伝え、協力を得ながら、通常診療への影響は最小限に留めることができた。

後発品への切り替えは引き続き行い、使用量ベースで85%以上を維持することにより、後発品使用体制加算１の取得も維持できた。さらに、高額な抗がん剤２品目を後発品・バイオシミラーに切り替え、この２品目を医薬品購入額上位30品目から外すことができた。抗がん剤等の特許切れに伴い、後発品が続々と発売予定なので、適応症の兼ね合いもあるが、抗がん剤等高額医薬品を積極的に後発品へ切り替えると共に、後発品使用体制加算１の取得維持と、医薬品購入額の抑制に努めたい。

以 上

幹事 美和 孝之

輸血療法委員会

目 的

適正かつ安全な輸血療法の推進を目的とすること。

委員会開催

第 1 回

開催日：2021 年 4 月 7 日

議 題：① 2020 年度 輸血用血液製剤損失額報告

②アルブミン、FFP の使用について

③輸血副作用報告件数

④ TRALI および TACO の評価基準変更について

第 2 回

開催日：2021 年 5 月 12 日

議 題：①アルブミン、FFP の使用について

②輸血副作用報告件数

③輸血副作用（2020 年 2 月発生分）の調査報告

第 3 回

開催日：2021 年 6 月 2 日

議 題：①アルブミン、FFP の使用について

②輸血副作用報告件数

③輸血機器トラブル報告

第 4 回

開催日：2021 年 7 月 7 日

議 題：①アルブミン、FFP の使用について

②輸血副作用報告件数

③輸血機器ソフトバージョンアップ完了報告

第 5 回

開催日：2021 年 8 月 4 日

議 題：①アルブミン、FFP の使用について

②輸血副作用報告件数

③移植前輸血検査室提出届の導入について

第6回

開催日：2021年9月1日

- 議 題：①アルブミン、FFPの使用について
②輸血副作用報告件数
③輸血機器の機種更新について

第7回

開催日：2021年10月6日

- 議 題：①アルブミン、FFPの使用について
②輸血副作用報告件数
③異型輸血実施報告

第8回

開催日：2021年11月10日

- 議 題：①アルブミン、FFPの使用について
②輸血副作用報告件数
③医療安全研修会における輸血勉強会のお知らせ

第9回

開催日：2021年12月1日

- 議 題：①アルブミン、FFPの使用について
②輸血副作用報告件数
③輸血同意書取得のタイミングや更新時期について

第10回

開催日：2022年1月5日

- 議 題：①アルブミン、FFPの使用について
②輸血副作用報告件数
③輸血マニュアル改訂案

第11回

開催日：2022年2月2日

- 議 題：①アルブミン、FFPの使用について
②輸血副作用報告件数
③看護部側での輸血同意書の取得確認について

第 12 回

開催日：2022 年 3 月 2 日

議 題：①アルブミン、FFP の使用について

②輸血副作用報告件数

③輸血インシデント報告（初回 PC の交差適合試験の未実施）

④検査部からの製剤受け渡し方法の変更について

⑤血液センターからのお知らせ

「輸血用血液製剤への添付文書の同梱廃止について」

輸血勉強会の開催

第 1 回

テーマ：安全な輸血製剤の取り扱いと輸血療法について

開催日：2021 年 11 月 9 日（火）

倫理委員会

目 的

当院で行われるヒトを対象とした医学の研究及び臨床応用についての「医の倫理」に関する事項をヘルシンキ宣言（2013 年 WMA フォルタレザ総会修正）の趣旨に添い審議することを目的とする。

委員会開催

第 1 回

開催日：令和 3 年 9 月 1 日

- 議 題：①多発性骨髄腫患者に対する KRD 療法、KD 療法の有効性と安全性の評価
：関西骨髄腫フォーラムによる後方的研究（血液腫瘍内科）
- ②抗真菌薬経口投与・点滴静注不応の真菌性肝・脾腫瘍に対する、抗真菌薬の持続動注療法（血液腫瘍内科）
- ③真菌性腫瘍合併時の生検、外科的切除標本を用いた次世代シーケンサーによる起因性真菌特定（血液腫瘍内科）
- ④自律神経機能評価を用いた放射線療法関連倦怠感の解明（看護部）

第 2 回

開催日：令和 3 年 10 月 22 日

- 議 題：① CDK4/6 阻害薬投与中の再発乳癌患者における血清 KL-6 値と治療効果の関連性（乳腺外科）
- ② COVID-19 パンデミックが COPD 患者の増悪及び肺炎発症を与えた影響（呼吸器内科）
- ③ COVID-19 患者における呼吸困難に関する検討（呼吸器内科）
- ④診療録における「呼吸苦」と「呼吸困難」の使用に関する実態（看護部）
- ⑤当院における B 型肝炎ウイルスお再活性化の原因に関する retrospective な解析（消化器内科）
- ⑥当院における消化管閉塞に対する金属ステント留置後の症例の臨床経過に関する retrospective な解析（消化器内科）

書類審議

第 1 回

開催日：令和 3 年 6 月 1 日

- 議 題：①より簡単で低侵襲な単孔式腹腔鏡下腸瘻増設術の研究（大阪医科薬科大学外科）

第2回

開催日：令和3年11月19日

議 題：①慢性心不全患者のセルフケアを支える患者のサポート
～実践しているサポート内容及びサポート上の困難～ （看護部）

第3回

開催日：令和4年1月27日

議 題：①当院における心大血管リハビリテーション施設基準取得後の変化と今後の取組み
（リハビリテーション科）

臨床検査適正化委員会

目 的

臨床検査の適性なる運営を推進すること

第 230 回

2021 年 4 月 13 日開催

1. 3 月分 院内測定項目 実績件数
2. PIVKA II 院内化検討について

2020 年度 実績 98 件 / 月 保険点数 139 点

外注（現在）	400 円 / 件	年間 470,400 円
院内（ELISA）	600 円 / 件	年間 705,600 円

3. 穿刺液のオーダー方法変更に伴う検査項目の選定について

現在は腹水セットと胸水セットが存在する。穿刺液オーダーの専用化に伴い、セット以外の項目については穿刺液によるオーダー不可とし画面から除外する。

第 231 回

2021 年 5 月 18 日開催

1. 委員の変更について
2. 4 月分 院内測定項目 実績件数
3. 新規外部委託項目について

- ・白血球 Fish MECOM-RUNX1 FISH 法 t(3;21) 保険収載 3208 点 血液内科 岡田医師
- ・T 細胞性レセプターβ鎖Jβ1再構成 保険収載 2429 点 血液内科 恩田医師

4. パニック報告について（資料 B、C）

パニック報告基準および手順を資料 B、C のように定めている。現在報告の徹底を図っており、臨床医の先生方に電話連絡が増えることをご理解いただくため周知をしたい。

5. PIVKA II 院内化検討について

PIVKA II が搭載可能な免疫自動分析装置の購入を検討中

2020 年度 実績 98 件 / 月 保険点数 139 点

外注（現在）	400 円 / 件	年間 470,400 円
院内（ELISA）	600 円 / 件	年間 705,600 円

6. 穿刺液のオーダー方法変更に伴う検査項目の選定について

院内検査項目のオーダー作成が完了し今月中には使用を開始する。

外注検査項目について選定作業を進める

第 232 回

2021 年 6 月 8 日開催

1. 5 月分 院内測定項目 実績件数（資料 A）
2. 穿刺液のオーダー方法変更に伴う検査項目の選定について（資料 B）
院内項目の設定が完了した。
引き続き外注検査項目について選定作業を進める。
3. EDTA 偽凝集の患者採血について（資料 B）
血液算定検査に用いる EDTA 添加採血管で血小板が凝集し低値に検査される患者がいる。
体内の血小板数を正確に検査するためにはヘパリン添加採血管などを用いて検査する必要がある。
電子カルテへの報告方法を変更したい。
4. PIVKA II の院内化検討
使用随時試薬の性能検証作業と契約作業を進める。
外注検査数値との相関データを 50 件程度収集する。

第 233 回

2021 年 7 月 13 日開催

1. 6 月分 院内測定項目 実績件数（資料 A）
2. PIVKA II の院内化検討
新旧相関データの検証が終了した。
試薬の契約作業中にて 8 月には院内測定開始予定
3. 外注項目の変更について（資料 B）
 - ・抗 IgD
 - ・麻疹ウイルス（HI 法）委託中止
 - ・T3、FT3、T4、TG、抗 TG、抗 TPO 基準範囲変更
4. 穿刺液のオーダー方法変更に伴う検査項目の選定について（資料 C）
検査項目の選定が一旦終了した。
検査は見直しを検討していた項目で継続の要望は無かった。
追加要望のあった検査項目は「クレアチニン - ドレーン廃液」六車医師より
5. 次回の委員会候補日
8 月 10 日（火）

第 234 回

2021 年 8 月 10 日開催

1. 7 月分 院内測定項目 実績件数（資料 A）
2. 血小板 - ヘパリンオーダーの利用状況について
2 ヶ月間で 13 件 有意な乖離は 1 名

3. PIVKA IIの院内化

2020年度 実績 98件/月 保険点数 139点

外注（現在）	400円/件	年間 470,400円
院内（ELISA法）	600円/件	年間 705,600円
院内（CLIA法）	1250円/件	年間 1,470,000円

4. 新規外部委託項目

アミオダロン血中濃度 呼吸器 深田医師より

特定薬剤治療管理料（1～3ヶ月：470点、4ヶ月以降：235点）

不整脈の薬物血中濃度検査にて0～数例/年見込み

5. 穿刺液のオーダー方法変更の進捗について

- ・ドレーンは先行して変更完了
- ・外注項目のシステム連携作業中、終わり次第オーダー画面変更

6. 血液目視の検査抑制について

- ・全体として、前年比30%減を達成した。
- ・8/1より血液内科の患者の全例目視を中止した。

【目視基準】

- ・電子カルテにて目視オーダーがあった場合
- ・検査システムにて異常判定となった場合

7. 次回の委員会候補日

9月14日（火）

第235回

2021年9月14日開催

1. 8月分 院内測定項目 実績件数（資料A）

2. 新規外部委託項目

検査項目名	関連疾患	保険	要望者	開始日
特異的トリ IgG 抗体	鳥関連過敏性肺炎	新規 873点	北医師	10/1
ラコサミド血中濃度	抗てんかん薬 TDM	470点	小松医師	随時
ADAMTS13- 活性	TTP	400点	岡田医師	随時
ADAMTS13- インヒビター	TTP	1,000点	岡田医師	随時
BCL2 18q21 転座	悪性リンパ腫	2,631点 + 397点	岡田医師	随時

3. 穿刺液のオーダー方法変更の進捗について

胸水、腹水、ドレーン排液については移行完了

髄液検査について血液内科と協議予定（髄液 Alb、IgG、ASP 抗原、クリプトコッカス抗原）

4. 血液目視の検査抑制について
前年同月比で 3 割減を達成した。
目視実施 1815 件の内、電子カルテより依頼があったものは約 800 件
5. 免疫分析装置の導入について
新型コロナ補助金にて、新型コロナ抗原定量検査が可能な免疫装置を購入した。
鼻咽頭拭い液、所要時間 45 分程度
 - ・ 9/16 給水設備工事 17:00 ～ 18:00
 - ・ 9/19 電源増設工事 15:00 ～ 17:00
 - ・ 9/27 機器搬入作業 14:00 ～ 17:00
6. その他
7. 次回の委員会候補日
10 月 12 日（火）予定

第 236 回

2021 年 11 月 8 日開催

1. 10 月分 院内測定項目 実績件数（資料 A）
2. 新規外部委託項目

検査項目名	疾患	保険	要望者	開始日	委託先	契約料
View アレルギー 39	アレルギー	1,430 点	奥野医師	特例	SRL	調整中
FISH IGH -MAF t(14;16)	骨髄腫	2,631 点	丹羽医師	随時	SRL	調整中

3. 2021 年度 日本臨床衛生検査技師会 精度管理調査報告（資料 B、B'）
血液画像問題 D 評価 1 件についての是正報告
4. 新型コロナ・インフルエンザウイルス関連検査試薬について
4 種類の試薬の導入が決定した。

検査項目名	検査法	備考	所要時間	製造販売
SARS-CoV-2 抗原定量	CLEIA		40 分	フジレバイオ社
インフルエンザ AB 抗原半定量	CLEIA	AB 区別不可	40 分	フジレバイオ社
インフルエンザ A/B 定性	イムノクロマト		5 分	デンカ生研
SARS-CoV-2・インフルエンザ A/B 定性	イムノクロマト	3 種同時測定	10 分	デンカ生研

5. 便潜血の入院スクリーニング化について
 - ・ 1 検査 440 円
 - ・ オーダー方法、結果の報告方法、便採取の連携方法など
6. その他
7. 次回の委員会候補日
12 月 14 日（火）予定

第 237 回

2021 年 12 月 14 日開催

1. 11 月分 院内測定項目 実績件数（資料 A）
2. 新規外部委託項目について

検査項目名	疾患	保険	要望者	開始日	委託先	契約料
CD19 シングルカラー	多発血管炎性肉芽腫	保険外	野溝医師	治験費	SRL	調整中
Two-COLOR	骨髄腫	190 点	坂本医師	随時	SRL	調整中

3. 外部委託 中止項目について
免疫複合体（C1q）試薬製造停止にて 12/24 より一時休止 再開未定
4. 腹水検査のオーダー項目追加について
複数の医師よりオーダー要望があったため、腹水検査の画面に下記の項目を追加した
T-Bil- 穿刺液、D-Bil- 穿刺液
5. 年末年始の検査体制について（資料 B）
6. 新型コロナ抗原定量
7. その他
8. 次回の委員会候補日
1 月 11 日（火）予定

第 238 回

2021 年 1 月 11 日開催

1. 12 月分 院内測定項目 実績件数（資料 A）
2. 新規外部委託項目について

検査項目名	疾患	保険	要望者	開始日	委託先	契約料
ランゲルハンス氏島抗体	PD-L1 製剤起因性 DM	保険外	金子医師	治験費	SRL	調整中
ガングリオシド抗体	動眼神経麻痺鑑別の為	460 点	深田医師	随時	SRL	調整中
傍腫瘍性神経症関連抗体セット	動眼神経麻痺鑑別の為	保険外	深田医師	随時	SRL	調整中

3. 検体検査・細菌検査部門の検査機器更新について
4. JCCLS（日本臨床検査標準化協議会）共用基準範囲について
当施設の基準範囲は、メーカー推奨値を主に採用している。今後、標準化の観点から、関係機関より推奨されている現在全国共通の基準範囲への以降を検討したい。
当院でもカットオフ（HbA1c）や予防学的閾値（UA、脂質系）を採用している項目を除き、変更による影響は小さいと想定される。
5. その他
6. 次回の委員会候補日
2 月 8 日（火）予定

第 239 回

2021 年 2 月 8 日開催

1. 1 月分 院内測定項目 実績件数（資料 A）
2. 新規外部委託項目について

検査項目名	疾患	保険	要望者	開始日	委託先	契約料
レニン濃度	内分泌性疾患	108 点	金子医師	随時	SRL	調整中

3. 外注基準範囲変更

便中カルプロテクチンの基準範囲変更 資料 B 参照

4. 検体検査・細菌検査部門の検査機器更新について
5. FT3 の保険査定について（資料 C・C'）

昨年 10 月・11 月の 2 ヶ月で、FT3 の過剰検査として 61 件の査定を受けた。

TSH・FT4・FT3 を同時に依頼した場合、FT3 が過剰検査として保険査定を受ける傾向

6. その他
7. 次回の委員会候補日
3 月 8 日（火）予定

第 240 回

2021 年 3 月 8 日開催

1. 2 月分 院内測定項目 実績件数（資料 A）
2. 外注検査中止項目

ガストリン、遊離フェニトイン、特異的 IgE 絹

3. 外注基準範囲変更（資料 B）

検査法変更にてリパーゼ、抗カルジオリピン IgG、尿中ミオグロビン、ソマトメジン C、尿中コルチゾール

検査部 NEWS にてメール予定

4. 検査関連文書機能の新設について（資料 C）

検査結果欄から関連文書を閲覧可能とした。

便中カルプロテクチン、ソマトメジンを設定済み、順次設定を増やす予定

5. 日本医師会精度管理調査報告（資料 D）

2021 年 9 月に調査実施

成績 96.5 点 A 評価 104 個、B 評価 19 個、C 評価 1 個（Glu）

臨床上は許容できる誤差ではあるが、今後、機器の監視を強める。

6. 検体検査・細菌検査部門の検査機器更新について
7. その他
8. 次回の委員会候補日
4 月 12 日（火）予定

労働安全衛生委員会

日 時 令和3年4月19日（月）16：00～16：20

- 議 案
1. 時間外勤務 45 時間超 職種別人数について
 2. 6 月職員定期健康診断について
 3. 新型コロナウイルス感染症ワクチン接種（新入職者、再調査分）について
 4. その他
- (1)メンタルヘルスによる病欠者報告

日 時 令和3年5月17日（月）16：00～16：25

- 議 案
1. 時間外勤務 45 時間超 職種別人数について
 2. 夏の職員定期健康診断について
 3. その他
- (1)メンタルヘルスによる病欠者報告

日 時 令和3年6月21日（月）16：00～16：15

- 議 案
1. 時間外勤務 45 時間超 職種別人数について
 2. 夏の職員定期健康診断について
 3. その他
- (1)メンタルヘルスによる病欠者報告

日 時 令和3年7月14日（水）16：05～16：15

- 議 案
1. 時間外勤務 45 時間超 職種別人数について
 2. その他
- (1)メンタルヘルスによる病欠者報告

日 時 令和3年8月16日（月）16：00～16：15

- 議 案
1. 時間外勤務 45 時間超 職種別人数について
 2. その他
- (1)メンタルヘルスによる病欠者報告

日 時 令和3年9月28日（火）16：00～16：30

- 議 案
1. 時間外勤務 45 時間超 職種別人数について
 2. ストレスチェックについて
 3. その他
- (1)メンタルヘルスによる病欠者
- (2)健康診断検査項目変更について（化学物質取扱業務従事者対象）

日 時 令和3年10月18日（月）16：00～16：15

- 議 案
1. 時間外勤務 45 時間超 職種別人数について

2. ストレスチェックについて
3. インフルエンザワクチン接種について
4. その他
 - (1)メンタルヘルスによる病欠者
 - (2)新型コロナウイルス感染症3回目ワクチン接種について

日 時 令和3年11月15日(月) 16:00～16:20

- 議 案
1. 時間外勤務45時間超 職種別人数について
 2. ストレスチェックについて
 3. インフルエンザワクチン接種について
 4. その他
 - (1)メンタルヘルスによる病欠者
 - (2)放射線業務従事者の水晶体被ばく線量報告(松原課長より)

日 時 令和3年12月20日(月) 16:00～16:15

- 議 案
1. 時間外勤務45時間超 職種別人数について
 2. コロナワクチン接種について
 3. その他
 - (1)メンタルヘルスによる病欠者について
 - (2)ストレスチェックについて

日 時 令和4年1月17日(月) 16:00～16:12

- 議 案
1. 時間外勤務45時間超 職種別人数について
 2. コロナワクチン接種について
 3. 冬の健康診断について
 4. その他
 - (1)メンタルヘルスによる病欠者について

日 時 令和4年2月21日(月) 16:00～16:12

- 議 案
1. 時間外勤務45時間超 職種別人数について
 2. 冬の健康診断について
 3. その他
 - (1)メンタルヘルスによる病欠者について

日 時 令和4年3月22日(火) 16:00～16:15

- 議 案
1. 時間外勤務45時間超 職種別人数について
 2. その他
 - (1)メンタルヘルスによる病欠者について

褥瘡委員会

目 的

高槻赤十字病院において褥瘡対策を円滑に推進するため、院内褥瘡対策について討議検討し、その効果的な推進を図ることを目的とする。

委員会

褥瘡対策の実際としては毎週、褥瘡対策チームが回診を行い、ベッドサイドカンファレンスでケアの評価、及び処置を実施・指導している。褥瘡委員会の下部組織として、褥瘡リンクナース会を設置し、各病棟にリンクナースを配置して褥瘡対策に取り組んでいる。

院内発生褥瘡について DESIGN-R 2020 で深さ d2 以上の褥瘡発生件数は 26 件で、推定発生率は 0.8%、褥瘡有病率は 2.5%であった。深さ d2 以上の持ち込み褥瘡は 49 件あり、部位は仙骨部が 1 番多く、次いで大転子部、踵部が多かった。

MDRPU（医療関連機器圧迫創傷）に関しては 5 件で、オルソグラスの固定によるものが 2 件あった。COVID-19 関連の褥瘡はなかった。

褥瘡ハイリスク患者ケア加算は 981 件算定した。

患者サービス向上委員会

目 的

患者サービス向上委員会は医療や患者へのサービスの充実を図り、患者の満足度や職員のモラルを高めることを目的とします。

委員会開催

原則月 1 回、第 4 水曜日 15 時開始

○第 31 回患者サービス向上委員会（今年度 1 回目）

令和 3 年 5 月 26 日（水）

今年度の計画・委員会の運営について検討

令和 2 年度入院および職員満足度調査結果について考察

○第 32 回患者サービス向上委員会（2 回目）

令和 3 年 6 月 23 日（水）

令和 2 年度入院および職員満足度調査結果の考察・院外広報誌掲載内容について検討

○第 33 回患者サービス向上委員会（3 回目）

令和 3 年 7 月 28 日（水）

令和 2 年度入院満足度調査結果報告（案）について検討

各委員による検食後の状況報告

○第 34 回患者サービス向上委員会（4 回目）

令和 3 年 8 月 25 日（水）

令和 2 年度職員満足度調査結果における院内広報誌掲載内容・調査後対応の検討

今年度研修会の実施について検討

委員による検食後の評価について集計結果を報告

○第 35 回患者サービス向上委員会（5 回目）

令和 3 年 9 月 29 日（水）

令和 3 年度満足度調査実施について検討

ハラスメント研修会の実施について検討

患者満足度調査の結果および検食後の委員の評価をもとに栄養課長と意見交換実施

○第 36 回患者サービス向上委員会（6 回目）

令和 3 年 11 月 1 日（月）

令和 3 年度満足度調査の実施および役割分担について検討

○第 37 回患者サービス向上委員会（7 回目）

令和3年11月25日（木）

令和3年度患者満足度調査の結果（速報値）をもとに考察

今後の委員会活動予定について確認

○第38回患者サービス向上委員会（8回目）

令和4年1月26日（水）

令和3年度患者満足度調査フリーコメントの分類および考察

ハラスメント研修会実施内容について確認

○第39回患者サービス向上委員会（9回目）

令和4年2月24日（木）

ハラスメント研修会の実施内容および委員の役割分担について決定

実際に配膳された入院食の献立内容について意見交換

○第40回患者サービス向上委員会（10回目）

令和4年3月23日（水）

ハラスメント研修会結果（速報）の報告

今年度委員会の振り返り

その他の活動実績

○令和3年9月 令和2年度入院満足度調査報告を院外広報誌（日赤の森）に掲載

○入院満足度調査の実施

調査期間：令和3年11月9日（火）～令和3年11月15日（月）

調査対象者：令和3年11月9日時点の在院患者

○外来満足度調査の実施

調査期間：令和3年11月11日（木）～令和3年11月12日（金）

○令和4年2月15日 1階男子検尿室トイレ リニューアル

○ハラスメント研修会の実施

ビデオ上映：令和4年3月7日（月）～令和4年3月9日（水）

オンデマンド配信：令和4年3月7日（月）～令和4年3月14日（月）

血液浄化療法委員会

目 的

血液浄化療法室および病棟等で行われる血液浄化療法の運営と管理に必要な事項を審議する。

委員会開催

第 1 回

開催日：令和 4 年 3 月 17 日

議 題

- ①「血液浄化療法における収益について」報告
- ②「血液浄化療法室の今後の運用について」審議

臨床倫理委員会

目 的

臨床における倫理的な判断が困難な症例、病院としての見解が必要と判断されること、その他、臨床における倫理的判断が困難事例に関することを審議する。

委員会開催

第 1 回

開催日：令和 3 年 4 月 27 日

議 題：新型コロナウイルス感染症の治療を受ける方への説明書について

第 2 回（臨時開催）

開催日：令和 4 年 1 月 6 日

議 題：血液内科 気管切開必要だが、同意書が確認出来ない事例

医療放射線管理委員会

目 的

医療法施行規則 第一条の十一に則り、放射線の関わる検査の適性な運営を推進する

委員会開催

開催日：令和3年11月22日（月）

議 題：1. 医療放射線管理委員会振り返り

2. 放射線に関する委員会

3. 線量管理部会とMRI安全管理部会設立の承認

4. MRI安全管理に関する指針

5. 本年度研修の実施

研修会の実施

開催日：令和3年12月13, 16, 17日

2021年度 医療安全研修会&医療放射線管理委員会

『医療被曝について』

『MRIについてのQ & A』

病床再編成検討・検証委員会

目 的

当院の将来構想に基づき、短期・中期の病棟再編成を検討・検証する。

委員会開催

第1回

開催日：令和3年10月18日

議 題：①病床規模について
②病棟別・診療科再編について
③その他

VIII 誌上・講演発表

《誌 上》

患者支援センター

著 書

著 者	題 名	誌名・巻(号)：頁	発 行
原田 かおる	特集「COVID-19 パンデミックにおいて高齢者を守る老年看護の実践と今後の方向性」感染を予防し生活の質を維持するための訪問看護における老年看護の実践	老年看護学 第26巻第1号, 29-33.	2021年7月

泌尿器科

その他（症例報告）

著 者	題 名	誌名・巻(号)：頁	発 行
Kenta Takayasu Koei Muguruma Hidefumi Kinoshita	Durable complete response to combination nivolumab and ipilimumab in metastatic renal cell carcinoma	Trends in Immunotherapy Volume 6 Issue 1 pp 13-16	2022年1月

薬剤部

原 著

著 者	題 名	誌名・巻(号)：頁	発 行
Kiyonori Hamatake Kazuaki Kojima	Initiatives for immune-related adverse events by the outpatient pharmacist clinic	Trends in Immunotherapy, Vol6(1), 2022	2022年1月

小児科

原 著

著 者	題 名	誌名・巻(号)：頁	発 行
Hiroshi Katayama Noriyasu Ozaki, Kanta Kishi, Yutaka Odanaka, Atsuko Ashida, Akira Ashida	A Case of Sporadic, Juvenile-Onset Left Ventricular Noncompaction	Int J Pediatr Neonat Care 2021, 7: 177-182	2021年6月

その他（会員の声）

著 者	題 名	誌名・巻(号)：頁	発 行
片山 博視	心に残る子供たち	大阪小児科医会会報, 198, 74	2021年7月

原 著

著 者	題 名	誌名・巻(号)：頁	発 行
Kohji Azumagawa Hiroshi Katayama, Yasushi Shigeri, Kei Takahashi, Yoshio Ohta	An autopsy case of fulminant myocarditis accompanied with Kawasaki disease revealed by histological findings	Pediatr Int 2022 Jan;64(1):e15141. doi: 10.1111/ped.15141.	2022年1月

著 者	題 名	誌名・巻(号)：頁	発 行
Kanta Kishi Hiroshi Katayama, Shintaro Nemoto, Noriyasu Ozaki, Yutaka Odanaka, Atsuko Ashida, Hayato Konishi, Akira Ashida	Acquired and progressive coronary arterial fistulae in patients with single-ventricle physiology and treated with pulmonary vasodilators	Cardiol Young. 2021 Nov;31(11):1823-1828	2021 年 11 月

看護部

原 著

著 者	題 名	誌名・巻(号)：頁	発 行
今戸 美奈子 竹川 幸恵、本城 綾子、 伊藤 史、河田 照絵、 毛利 貴子、松本 麻里、 森 菊子、森本 美智子	慢性呼吸器疾患患者の息切れマネジメント支援に関する認定看護師教育プログラムの評価	日本呼吸ケア・リハビリテーション学会誌・29(3)・467－474.	2021 年 6 月

総 説

著 者	題 名	誌名・巻(号)：頁	発 行
今戸 美奈子	【病棟・外来・在宅医療チームのための在宅酸素療法まるごとガイド】 (4 章) HOT 患者のアドヒアランス支援がわかる アドヒアランス支援	みんなの呼吸器 Respica・2021 冬季増刊・110-115	2021 年 11 月
今戸 美奈子	【終末期とどう向き合う？ 非がん性呼吸器疾患の緩和ケア】 呼吸困難への看護 トータルペイン軽減のための呼吸管理の実践	みんなの呼吸器 Respica・20 巻 1 号・110-115	2022 年 2 月

呼吸器内科

原 著

著 者	題 名	誌名・巻(号)：頁	発 行
Hideo Kita	Combined immunotherapy and countermeasures for immune-related adverse events	Trends in Immunotherapy	2022 年
Takashi Nomizo, Haruka Yamamoto, Tsunetaka Murayama, Hiroko Fukata, Yasukiyo Nakamura, Mami Sonomura, Aika Okuno, Naoki Kanda, Chihiro Watanabe, Hideo Kita	Immune-related adverse events caused by combined immune checkpoint inhibitor therapy with nivolumab and ipilimumab for lung cancer	Trends in immunology, Vol 6, Issue 1	2022 年

著 者	題 名	誌名・巻(号)：頁	発 行
T Niwamoto, K Tanizawa, Y Taguchi, H Tomioka, K Tomii, H Kita"	Cutaneous T-cell-attracting chemokine as a novel biomarker for predicting prognosis of idiopathic pulmonary fibrosis: a prospective observational study.	Respiratory Research, 181(2021)	2021 年
Issei Oi, Isao Ito, Masataka Hirabayashi, Kazuo Endo, Masahito Emura, Toru Kojima, Hitokazu Tsukao, Keisuke Tomii, Hideo Kita, Naoya Tanabe, Toyohiro Hirai	Pneumonia Caused by Severe Acute Respiratory Syndrome Coronavirus 2 and Influenza Virus: A Multicenter Comparative Study	Open Forum Infectious Diseases, Volume 8, Issue 7	2021 年
Kazuma Nagata, Takeo orie, HideoKita, Keisuke Tomii"	Domiciliary high-flow nasal cannula oxygen therapy for stable hypercapnic COPD patients: a prospective, multicenter, open-label, randomized controlled trial	FLOCOP study investigators medRxiv	2021 年
Hironobu Sunadome, Hisako Matsumoto, Yuji Tohda, Takahiko Horiguchi, Hideo Kita, Toyohiro Hirai	Assessment of serum periostin level as a predictor of requirement for intensive treatment for type-2 inflammation in asthmatics in future: A follow-up study of the KiHAC cohort	Allergorogi International 70 2021 252-254	2021 年
H Yoshida, T Nomizo, H Ozasa, T Tsuji	PD-L1 polymorphisms predict survival outcomes in advanced non-small-cell lung cancer patients treated with PD-1 blockade	European Journal of CancerVol144 317-325	2021 年

乳 腺 外 科

原 著

著 者	題 名	誌名・巻(号)：頁	発 行
小林 稔弘 坂根 純奈、平松 昌子、 川口 佳奈子、恒松 一郎	急速増大例を含む乳腺偽血管腫様過形成の2例	日臨外会誌 83 (3), 473-478, 2022	2022 年 3 月

循 環 器 内 科

テキスト

著 者	題 名	誌名・巻(号)：頁	発 行
大中 玄彦	心不全診療におけるサクビトリルバルサルタンの位置づけ	大阪府保険医療雑誌 657 (5) 75-81 2021	2021 年 5 月

総説等

著 者	題 名	誌名・巻(号)：頁	発 行
大中 玄彦 藤岡 重和	高齢者心不全におけるフレイルの影響	保健医療学雑誌 12 (2)167-174 2021	2021 年 10 月

皮膚科

原 著

著 者	題 名	誌名・巻(号)：頁	月 日
Nosaka M Ishida Y, Kuninaka Y, Ishigami A, Taruya A, Shimada E, Hashizume Y, Yamamoto H, Kimura A, Furukawa F, Kondo T	Intrathrombotic appearances of AQP-1 and AQP-3 in relation to thrombus age in murine deep vein thrombosis model. Int J Legal Med.	2021; 135: 547-553	2021年
Samotij D Szczec J, Antiga E, Bonciani D, Caproni M, Chasset F, Dańczak-Pazdrowska A, Furukawa F, Hasegawa M, Hashizume H, Ikeda T, Islam A, Kim HJ, Lesiak A, Misery L, Mowla MR, Polańska A, Szepietowski J, Tsuruta D, Verdelli A, Werth V, Reich A	Clinical characteristics of itch in cutaneous lupus erythematosus: A prospective, multicenter, multinational, cross-sectional study. Lupus.	2021; 30: 1385-1393. doi: 0.1177/09612033211016098. PMID: 34000879	2021年
Nishiyama M Li HJ, Okafuji I, Fujisawa A, Ehara M, Kambe N, Furukawa F, Kanazawa N	Sustained surface ICAM-1 expression and transient PDGF-B production by phorbol myristate acetate-activated THP-1 cells harboring Blau syndrome-associated NOD2 mutations. Children	2021; 8: 335. doi: 10.3390/children8050335	2021年
Ishigami A Iwahashi Y, Ishida Y, Nosaka M, Kuninaka Y, Yamamoto H, Hashizume Y, Shimada E, Kimura A, Furukawa F, Kondo T	Fatal injury by high-pressure water jet unit – a case report, Int J Legal Med	2021; 84: 102270. doi: 10.1016/j.jflm.2021.102270.	2021年
Yano S Okuno A, Furukawa F	Severe type of erythema multiforme (EM major) due to administration of anti-PD-1 antibody drug. Trends Immunother	2021; 5. doi:10.24294/ti.v5.i1.1247	2021年
Furukawa F	Commentary: Effects of immune checkpoint inhibitors on cancer patients with pre-existing autoimmune disease. Trends Immunother	2021; 5. doi:10.24294/ti.v5.i1.1250	2021年

著 者	題 名	誌名・巻(号)：頁	月 日
Furukawa F	Hydroxychloroquine for the treatment of cutaneous lupus erythematosus Trends in Immunotherapy	2021;5.doi:10.24294/ti.v5.il.1269	2021年
Ishigami A, Hata S, Ishida Y, Nosaka M, Kuninaka Y, Yamamoto H, Shimada E, Hashizume Y, Takayasu T, Kimura A, Furukawa F, Kondo T	Complete decapitation by self-constructed guillotine in a burned body - complex suicide or postmortem burning? Int J Legal Med	2021;135:301-305.	2021年
Kuninaka Y, Ishida Y, Nosaka M, Ishigami A, Taruya A, Shimada E, Kimura A, Yamamoto H, Ozaki M, Furukawa F, Kondo T	Forensic significance of intracardiac heme oxygenase-1 expression in acute myocardial ischemia. Scientific Reports	2021;11:21828. doi:10.1038/s41598-021-01102-y.	2021年

単行本 分担執筆

著 者	題 名	誌名・巻(号)：頁	月 日
古川 福実	蕁麻疹、水疱症、乾癬、接触皮膚炎、光線過敏症、病氣とくすり 2020 基礎と実践	1203-1216、薬局増刊号、南山堂、2021	2021年
古川 福実	ペラグラ、B 疾患各論 10. 光線によって悪化する疾患 臨床光皮膚科学	177-178、南江堂、2021	2021年
古川 福実	SLE (systemic lupus erythematosus 全身性エリテマトーデス)、B 疾患各論 10. 光線によって悪化する疾患 臨床光皮膚科学	179-186、南江堂、2021	2021年
古川 福実	ヒドロキシクロロキン（プラケニル®） エビデンスに基づく皮膚科新薬の治療指針	273-280、中山書店、2021	2021年

総 説

氏 名	題 名	誌名・巻(号)：頁	月 日
古川 福実	2020年度日本内科学会生涯教育講演会Cセッション 日常診療でよく遭遇する皮膚疾患	日本内科学科雑誌 110:593-597、2021	2021年
古川 福実	誌上シンポジウム COVID-19 蔓延下のアレルギー疾患治療：その実際と問題点 皮膚科領域 頭からつま先まで	アレルギー 50: 19-21, 2021	2021年

和 文

著 者	題 名	誌名・巻(号)：頁	月 日
林 伸和 佐々木 優、黒川 一郎、 谷岡 美樹、古川 福実、 宮地 良樹、山本 有紀、 川島 眞	本邦での集簇性痤瘡、重症痤瘡患者の頻度および経口イソトレチノインに対する皮膚科医の意識調査	日本臨床皮膚科医会雑誌 38:629-634. 2021	2021年

著 者	題 名	誌名・巻(号)：頁	月 日
奥野 愛香 古川 福実	爪白癬に対するホスラブコナ ゾールL-リシンエタノール付加 物 (F-RVCZ) 内服中における 腎機能低下について	日本美容皮膚科学会雑誌 31:396-401、2021	2021年

研究報告書 雑報 挨拶

著 者	題 名	誌名・巻(号)：頁	月 日
古川 福実	正しく恐れるとは、何??	浜松医科大学皮膚科同門会 木公会業績集 木公 vol.15, MOKKO、11-12	2021年

血液内科

原 著

著 者	題 名	誌名・巻(号)：頁	月 日
Yoshiyuki Onda 1 Junya Kanda 2, Hitomi Kaneko 3, Yuji Shimura 4, Shin-Ichi Fuchida 5, Aya Nakaya 6, Tomoki Itou 6, Ryosuke Yamamura 7, Hirokazu Tanaka 8, Hirohiko Shibayama 9, Yutaka Shimazu 1, Hitoji Uchiyama 10, Satoshi Yoshihara 11, Yoko Adachi 12, Mitsuhiro Matsuda 13, Hitoshi Hanamoto 14, Nobuhiko Uoshima 15, Satoru Kosugi 16, Kensuke Ohta 17, Hideo Yagi 18, Yuzuru Kanakura 19, Itaru Matsumura 8, Masayuki Hino 20, Shosaku Nomura 6, Chihiro Shimazaki 5, Akifumi Takaori-Kondo 1, Junya Kuroda 4, Kansai Myeloma Forum	Real-world effectiveness and safety analysis of carfilzomib- lenalidomide-dexamethasone and carfilzomib- dexamethasone in relapsed/ refractory multiple myeloma: a multicenter retrospective analysis	doi: 0.1177/20406207221104584. eCollection 2022.	2022 Jun 24
Yoshiyuki Onda Junya Kanda, Soichiro Sakamoto, Mutsumi Okada, Naoyuki Anzai, Hiroshi Umadome, Masaro Tashima, Hironori Haga, Chihiro Watanabe, Nozomu Hanaoka, Tsuguto Fujimoto,	Detection of adenovirus hepatitis and acute liver failure in allogeneic hematopoietic stem cell transplant patients	Volume23, Issue2April 2021e13496"	19-Oct-20

著 者	題 名	誌名・巻(号)：頁	月 日
Yoshiyuki Onda 1 Junya Kanda 2, Nozomu Hanaoka 3, Mizuki Watanabe 1, Yasuyuki Arai 1, Masakatsu Hishizawa 1, Tadakazu Kondo 1, Kouhei Yamashita 1, Miki Nagao 4, Tsuguto Fujimoto 3, Akifumi Takaori-Kondo 1	Possible nosocomial transmission of virus- associated hemorrhagic cystitis after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation	DOI: 10.1007/s00277-021- 04414-1	2021 Jan 13

《講 演》

検査部

学会発表

一般演題

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
今井 翔太郎 中田 祐二、古川 福実	インシデント是正における阻害因子の考察と有効な是正サイクルモデルについての検討	大阪病院学会 オンデマンド配信	Web開催	2021年 11月24日～ 12月14日

放射線科

一般演題

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
中村 仁美 西村 大樹、山室 正樹	BSIを用いて骨シンチの定量性評価を考える	Web研修会	Web開催	2021年 10月23日

リハビリ

演題発表

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
濱田 敦	上方関節包再建術の一症例	第57回日本赤十字医学総会：中止に伴い院内発表会	大 阪	2021年 9月7日

その他（症例発表）

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
大下 綾華 不破 賢太郎、志水 陽子、 工藤 ゆかり	コロナ禍における退院支援	2021年度三島圏域リハビリテーション連絡会 症例検討会	大 阪	2022年 1月29日

患者支援センター

シンポジウム

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
原田 かおる	COVID-19流行下における高齢者ケア-Withコロナ時代の新たな気づき-在宅における高齢者の感染予防および生活の質を下げないケア	第26回 日本老年看護学会学術集会	Web開催 (愛知)	2021年 6月12日

一般演題

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
原田 かおる 長畑 多代	COVID-19感染拡大状況下で訪問看護ステーション管理者が感じている高齢者看護における問題	第26回 日本在宅ケア学会学術集会	Web開催 (広島)	2021年 8月28日

MSW

シンポジウム

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
工藤 ゆかり 不破 賢太郎、大下 綾華、 角野 睦美、志水 陽子、 坂本 貴政	コロナ禍における退院支援～ 面会制限下で行った退院支援 を振り返って～	三島圏域地域リハビリテー ション連絡会 症例検討会	Web開催	2022年 1月29日

緩和ケア

一般演題

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
鮫島 希代子	「がん遺伝子パネル検査の提 供体制と求められる機能」	第24回 三島圏域がん研究 会	Web開催	2021年 9月2日
西島 薫	突出痛：原因別の対処法を考 える	第5回月1 緩和ケア勉強会 Web	Web開催	2021年 7月28日
後明 郁男	鎮静について	第11回月1 緩和ケア勉強会 Web	Web開催	2022年 1月20日
住谷 昌彦	地域でがん性疼痛を支えるた めのプライマリ緩和ケア	第25回 三島圏域がん研究会	Web開催	2022年 1月27日
金村 誠哲	当院における難治性がん疼痛 マネジメントの一例	第25回三島圏域がん研究会	Web開催	2022年 1月27日
橋本 典夫	これからの医療連携 緩和ケ アの横の繋がり的发展を目指 して	第12回月1 緩和ケア勉強会	Web開催	2022年 2月24日

薬剤部

一般演題

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
奥村 優介 中西 輝、松本 弘誠、 仲 忠士、美和 孝之、 小島 一晃、北 英夫	メトホルミン服用中の COVID-19患者に対して介 入した1症例	2022年2月14日	Web開催	2022年 2月14日
中西 輝 奥村 優介、宮西 将之、 足立 那々緒、佐賀 昭子、 平松 昌子、恒松 一郎、 北 英夫、小島 一晃	COVID-19患者におけるカ シリビマブ/イムデビマブ(ロ ナプリープTM)の実態調査	2022年2月14日	Web開催	2022年 2月14日
中西 輝 奥村 優介、徳田 悦美、 松本 明子、仲 忠士、 美和 孝之	やればできる医師主導治験	2022年2月14日	Web開催	2022年 2月14日
小西 史子 野間 敏也、橋本 仁美、 福井 美礼、仲 忠士、 美和 孝之、小島 一晃、 北 英夫	当院における免疫複合療法 (nivolumab+Ipilimumab) の使用実態調査	2022年3月21日	Web開催	2022年 3月21日

講演

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
濱武 清範	肺がんレジメン#1	2021年6月9日	Web開催	2021年 6月9日
濱武 清範	irAEに関する薬剤師の取り組み	2021年7月28日	Web開催	2021年 7月28日
小島 一晃	病院薬剤師の魅力徹底解説講座	2021年8月15日	Web開催	2021年 8月15日
濱武 清範	肺がんレジメン#2	2021年12月15日	Web開催	2021年 12月15日
小西 史子	看護的観点及び薬剤師の立場からの慢性腎臓病患者さんへの療養支援について	2022年1月20日	Web開催	2022年 1月20日
小島 一晃	医療現場におけるタスクシフトの一端を担う『薬剤師外来』	2022年2月26日	Web開催	2022年 2月26日

形成外科

一般演題

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
櫛田 哲史 田辺 敦子	SNaP®陰圧閉鎖療法を使用し外来通院のみで植皮の生着を得た前腕挫滅創の一例	第13回日本創傷外科学会総会・学術集会	北九州国際会議場	2021年 7月15日～ 16日

小児科

一般演題

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
片山 博視 根本 慎太郎、宇津野 秀夫、 岸 勘太、佃 和真、 小西 隼人、尾崎 智康、 小田中 豊、蘆田 温子	超音波speckle tracking法を用いた波動解析法による肺動脈閉塞度の非侵襲的評価の検討	第57回日本小児循環器学会	奈良	2021年 7月9日～ 11日

看護部

一般演題

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
西川 亜紀子 小林 さゆり、疇地 和代	終末期がん患者への援助に行き詰まる看護師への援助	第8回日本CNS看護学会	Web開催	2021年 6月26日
小林 さゆり 中森 由香、西川 亜紀子、 小林 みゆき、疇地 和代	死を前にした終末期肺がん患者の体験—世界と他者と自己の現れ—	第8回日本CNS看護学会	Web開催	2021年 6月26日
上山 ゆりか 永田 佳子、長久 栄子、 疇地 和代、小林 さゆり、 古山 めぐみ、西川 亜紀子、 上村 友紀、小泉 はるか、 平田 貴和子、吉田 恵理子	本邦におけるスピリチュアルペインとそのケアに関する研究の動向と課題	第36回日本がん看護学会学術集会	横浜	2022年 2月20日

シンポジウム

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
今戸 美奈子	「呼吸困難」か「呼吸苦」か、どう使うのか？～多職種 の視点より～ 看護の視点から呼吸困難・呼 吸苦を考える	第31回日本呼吸ケア・リハビリ テーション学会学術集会	高 松	2021年 11月12日
今戸 美奈子	スペシャリストの技と多職種 連携 その人らしい生活の「これまで」 と「これから」をつなぐ コラボレーション	第31回日本呼吸ケア・リハ ビリテーション学会学術集会	高 松	2021年 11月12日

呼吸器内科

一般演題

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
村山 恒俊 鳳山 絢乃、野溝 岳、 長谷川 浩一、中村 保清、 北 英夫、今戸 美奈子	当院におけるフルチカゾンフ ランカルボン酸エステル／ビ ランテロール／ウメクリジニ ウムの臨床的有用性に関する 検討	第61回 日本呼吸器学会総 会	東 京	2021年 4月23～ 25日
森本 千絵 松本 久子、小熊 毅、 佐藤 晋t、田辺 直也、 佐藤 篤靖、古郷 摩利子、 野村 奈都子、田嶋 範之、 砂留 広伸、平井 豊博、 富井 啓介、田尻 智子、 西村 尚志、北 英夫、 月野 光博、上田 哲也	COPD・ACO・喘息例にお ける喀痰細菌叢の検討	第61回 日本呼吸器学会総 会	東 京	2021年 4月23～ 25日
白田 全弘 伊藤 功朗、石田 直、 遠藤 和夫、江村 正仁、 小嶋 徹、富井 啓介、 大塚 浩二郎、赤井 雅也、 杉田 孝和、福井 基成、 長谷川 吉則、高橋 憲一、 安井 浩明、藤田 浩平、 北 英夫、加持 雄介、 土谷 美知子、富岡 洋海、 山田 孝、寺田 悟、 中治 仁志、波尾 信叔、 西岡 憲亮、平井 豊博	呼吸不全を伴う新型コロナウ イルス肺炎とレジオネラ肺炎 の臨床像の比較	第61回 日本呼吸器学会総 会	東 京	2021年 4月23日～ 25日
伊藤 功朗、 白田 全弘、石田 直、 遠藤 和夫、江村 正仁、 小嶋 徹、富井 啓介、 大塚 浩二郎、赤井 雅也、 杉田 孝和、福井 基成、 長谷川 吉則、高橋 憲一、 安井 浩明、藤田 浩平、 北 英夫、加持 雄介、 土谷 美知子、富岡 洋海、 山田 孝、寺田 悟、 中治 仁志、波尾 信叔、 西岡 憲亮、平井 豊博	新型コロナウイルス肺炎とイン フルエンザウイルス肺炎の 予後因子について の検討 Mortality risk factors for novel coronavirus 2019 pneumonia and influenza pneumonia	第61回 日本呼吸器学会総 会	東 京	2021年 4月23～ 25日

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
山本 晴香	非小細胞癌患者における チロシンキナーゼ阻害剤 (EGFR-TKI) 内服下で ALPフレア減少についての 検討	第61回日本呼吸器学会学術 講演会	東京国際 フォーラム	2021年 4月24～ 25日
山本 晴香	血液培養・腹水培養から植物 病原菌 Dickeya Dadantii が検出された一例	第95回 日本感染症学会総会	Web開催	2021年 5月7日
白田 全弘 伊藤 功朗、石田 直、 遠藤 和夫、江村 正仁、 小嶋 徹、富井 啓介、 大塚 浩二郎、赤井 雅也、 杉田 孝和、福井 基成、 長谷川 吉則、高橋 憲一、 安井 浩明、藤田 浩平、 北 英夫、加持 雄介、 土谷 美知子、富岡 洋海、 山田 孝、寺田 悟、 中治 仁志、波尾 信叔、 西岡 憲亮、平井 豊博	呼吸不全を伴う新型コロナウ イルス肺炎とレジオネラ肺炎 の臨床像の比較 ROC解析 を用いて	第95回 日本感染症学会総 会	神 奈 川	2021年5月 7日～9日
伊藤 功朗 石田 直、遠藤 和夫、 江村 正仁、小嶋 徹、 富井 啓介、大塚 浩二郎、 赤井 雅也、杉田 孝和、 福井 基成、長谷川 吉則、 高橋 憲一、安井 浩明、 藤田 浩平、北 英夫、 加持 雄介、土谷 美知子、 富岡 洋海、山田 孝、 白田 全弘、寺田 悟、 中治 仁志、波尾 信叔、 西岡 憲亮、平井 豊博	新型コロナウイルス肺炎とイン フルエンザウイルス肺炎 の予後因子について の検討 ROC解析を用いて	第95回 日本感染症学会総 会	神 奈 川	2021年5月 7日～9日
白田 全弘 伊藤 功朗、石田 直、 遠藤 和夫、江村 正仁、 小嶋 徹、富井 啓介、 大塚 浩二郎、赤井 雅也、 杉田 孝和、福井 基成、 長谷川 吉則、高橋 憲一、 安井 浩明、藤田 浩平、 北 英夫、加持 雄介、 土谷 美知子、富岡 洋海、 山田 孝、寺田 悟、 中治 仁志、波尾 信叔、 西岡 憲亮、平井 豊博	呼吸不全を伴わない新型コロ ナウイルス肺炎とレジオネラ 肺炎の臨床像の比較	第95回 日本感染症学会総 会	神 奈 川	2021年 5月7日～ 9日
山本 悠生 鳳山 絢乃、村山 恒峻、 野溝 岳、長谷川 浩一、 深田 寛子、中村 保清、 北 英夫	気胸を合併したCOVID-19 の3例	第127回結核・日結核性抗酸 菌症学会 第97回日本呼吸 器学会近畿地方会	Web開催	2021年 7月10日
深田 寛子、村山 恒峻、 野溝 岳、長谷川 浩一、 中村 保清、北 英夫	デュピルマブ投与中に発症し た好酸球性肺炎の1例	第127回結核・日結核性抗酸 菌症学会 第97回日本呼吸 器学会近畿地方会	Web開催	2021年 7月10日

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
野溝 岳 村山 恒峻、山本 晴香、 深田 寛子、中村 保清、 北 英夫	Ex19 deletion変異とL858R 変異に対して、アファチニブ とオシメルチニブの治療効果 についての後ろ向き検討	第62回日本肺癌学会	横 浜	2021年 11月27日
村山 恒峻、 山本 晴香、野溝 岳、 深田 寛子、中村 保清、 北 英夫	多発肺内リンパ節腫大で発症 しVATSで診断に至ったサル コイドーシスの1例	第128回結核・日結核性抗酸 菌症学会 第98回日本呼吸 器学会近畿地方会	Web開催	2021年 12月
山本 晴香 野溝 岳、村山 恒峻、 深田 寛子、中村 保清、 北 英夫	Ipi+Nivoが奏功した悪性胸 膜中皮腫の1例	第115回 日本肺癌学会関西 支部学術集会	Web開催	2022年 3月5日
山本 晴香	食道狭窄を伴う悪性中皮腫に 対しニボルマブ、イピリムマ ブでの治療において部分奏功 を認めた1例	第115回 日本肺癌学会関西 支部学術集会	Web開催	2022年 3月5日
森 英亜、 野溝 岳、豊原 功侍、 山本 晴香、村山 恒峻、 深田 寛子、中村 保清、 北 英夫	MPO-ANCAが要請でリツ キシマブが走行した多発血管 炎性肉芽腫症の1例	日本内科学会近畿支部会 第235回地方会プログラム	Web開催	2022年 3月12日
山本 晴香	Successful treatment of disseminated nontuberculous infection with Mycobacterium genavense mimicking malignancy in a patient with anti-interferongamma autoantibodies 臨床推論	APSR2021	Web開催	2022年 11月20日

シンポジウム

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
北 英夫	「治療の変遷」	第30回日本呼吸ケアリハビ リテーション学会 総会	京 都	2021年 3月

特別講演

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
北 英夫	在宅酸素療法を必要とする安 定期COPD患者における長 期高流量鼻カニューラ酸素療法 多施設前向きランダム化比較 試験（FLOCOP研究）	第31回日本呼吸ケアリハビ リテーション学会 総会	高 松 Web開催	2021年 1月

一般演題

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
Haruka Y. MD, Takashi N. MD,Ph D, Koichi H.MD, Ph D., Tsunetaka Murayama MD, Hiroko Fukata MD, Yasukiyo Nakamura MD, Hideo Kita MD, Ph.D	Successful treatment of disseminated nontuberculous infection with Mycobacterium genavense mimicking malignancy in a patient with anti-Interferon- gamma (IFN- γ) autoantibodies	Asian Pacific Society of Respirology 2021	K y o t o	2021年 11月20～ 21日

研究会 講演会 講演および座長等

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
北 英夫	Respiratory Specialist summit TKP		大 阪	2021年 4月7日
北 英夫	『気管支喘息の現状と近未来～喘息死ゼロを目指して～』	ノバルティスファーマ ENERZAIR summit		2021年 4月8日
北 英夫	『コロナ禍での喘息診療とアレルギーへの期待』	GSK 喘息セミナー	宝 塚	2021年 4月21日
村山 恒俊	『COPDに対するトリプル製剤～100症例から見えてきたこと～』	ビレーズトリCOPD Up to Date		2021年 5月19日
北 英夫 武内 徹	『膠原病に伴う間質性肺炎の診断と治療-抗繊維化薬への期待-』	オフエプILD Web Seminar		2021年 5月21日
北 英夫	「ゾレアのResponder Non Responder」	IgE Summit 2021		2021年 6月9日
北 英夫 井上 貴子 野溝 岳	当院における非小細胞肺癌複合免疫療法の使用経験	高槻複合免疫療法rAE対策講演会	Web開催	2021年 7月28日
北 英夫 田中 昭彦	「喘息の治療トピックス」	北摂 Asthma meeting	大 阪	2021年 8月21日
北 英夫	メボリズムの可能性を再考する～バイオ製剤 100例の使用経験から～	GSK severe asthma semina	大 阪	2021年 10月6日
野溝 岳	「テーマ：NSCLC治療について」	第2回Next Generation NSCLC Conference		2021年 10月15日
北 英夫 宮下 修行、小林 良樹 池田 昌人、浅井 尚志	「呼吸器感染症からみた喘息へのアプローチ」	気管支喘息における実臨床での治療選択	Web開催	2021年 10月21日
野溝 岳	当院における肺がん診療	病診連携報告会	京 都	2021年 10月23日
北 英夫	「100例のバイオ導入経験から紐解く重症喘息におけるバイオ導入のタイミングとコツ」	Asthma Biologic Conference	Web開催	2021年 11月4日
松井 聖 北 英夫	「免疫内科医からみたアレルギー疾患（重症喘息を含む）の生物学的製剤の治療戦略」	Asthma Biologic Conference	Web開催	2021年 11月4日
北 英夫 野溝 岳	気管支鏡を考える	Lung Cancer Meeting in MISHIMA	Web開催	2021年 11月18日
北 英夫	～生命予後の改善を見据えて～	Scientific Expert Meeting on COPD Total Management		2021年 12月16日
北 英夫	「最近の肺炎診療について」	杏林社内講演会	大 阪	2021年 12月22日

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
北 英夫	『喘息診療のレベルアップへの取り組み』	Innovative Diagnosis and treatment of Leaders Circle	Web開催	2022年 1月12日
北 英夫 茂呂 和世	『2 型自然リンパ球による上下気道アレルギー発症機序』	Severe Asthma Seminar ZOOM	Web開催	2022年 3月3日
北 英夫		Nucala Severe Asthma Multi-Network Conference	大 阪	2022年 3月20日
北 英夫	『喘息治療のパラダイムシフト』 ～臨床経験から見えてきたテリルジーのポジショニング～	北摂ASTHMA Meeting	大 阪	2022年 3月26日
野溝 岳	京都大学関連施設における若手呼吸器科医による情報共有の会	Next Generation NSCLC Conference.2021	大 阪	2021年 4月16日
野溝 岳	実臨床におけるオシメルチニブの後治療において	Az Lung Cancer Seminar 2021	Web開催	2021年 6月17日
野溝 岳	肺扁平上皮がんの新しい治療戦略について～ポートラザをどのように組み込むか～	高槻ポートラザWEBカンファレンス	Web開催	2021年 7月29日
野溝 岳	肺癌治療の臨床課題を解決する	Next Generation NSCLC Conference	Web開催	2021年 10月15日
野溝 岳	気管支鏡を考える	Lung cancer seminar in MISHIMA.	Web開催	2021年 11月18日

乳腺外科

一般演題

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
小林 稔弘 坂根 純奈、平松 昌子	好中球・リンパ球比とCDK4/6阻害剤治療効果との関連性	第29回日本乳癌学会学術総会	横 浜	2021年 7月1日
小林 稔弘 坂根 純奈、平松 昌子	乳癌脳転移症例における予後規定因子に関する検討	第29回日本乳癌学会学術総会	横 浜	2021年 7月1日

消化器内科

一般演題

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
神田 直樹	全身麻酔下の食道 ESD (Endoscopic Submucosal Dissection) の有用性と安全性の検討	第106回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会	大 阪	2021年 7月10日
池田 宗弘	高齢者早期胃癌の内視鏡的根治度 C2症例の予後の検討	第106回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会	大 阪	2021年 7月10日
矢倉 伊織	回腸末端憩室炎に続発した上腸間膜静脈血栓症	第106回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会	大 阪	2021年 7月10日

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
奥野 岳	急性虫垂炎による虫垂盲腸癰を大腸内視鏡にて確認できた1例	第106回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会	大 阪	2021年 7月10日
池田 宗弘	超拡大内視鏡検査を施行したラズベリー様腺窩上皮型胃癌の一例	第107回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会	Web開催	2021年 12月11日
武林 里沙	自然脱落した胃Gastrointestinal stromal tumor(GIST)を内視鏡下に確認し回収した1例	第107回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会	Web開催	2021年 12月11日
吉岡 拓人	超拡大内視鏡検査を施行したラズベリー様腺窩上皮型胃癌の一例	第107回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会	Web開催	2021年 12月11日
吉岡 拓人	自然脱落した胃Gastrointestinal stromal tumor(GIST)を内視鏡下に確認し回収した1例	第107回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会	Web開催	2021年 12月11日
中森 翔平 神田 直樹	粘膜下腫瘍様の形態を呈したHelicobacter pylori陰性未分化型胃癌の1例	第107回日本消化器内視鏡学会	神 戸	2021年 12月11日

シンポジウム

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
吉岡 拓人 中森 翔平、松村 大志郎、 池田 宗弘、神田 直樹	当院の総胆管結石の診療におけるEUSの役割	第106回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会	大 阪	2021年 7月10日
吉岡 拓人 池田 宗弘、玉田 尚、 神田 直樹	当院におけるB型肝炎ウイルス再活性化の背景因子の検討	第116回日本消化器病学会近畿支部例会	大 阪	2022年 2月5日

眼科

学術展示

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
在田 稔章 大須賀 翔、石郷 岡岳、 水野 博史、佐藤 孝樹、 喜田 照代	不完全型網膜中心動脈閉塞症に生じた血管新生緑内障の1例	第60回日本網膜硝子体学会総会	東 京	2021年 12月3日～ 5日

循環器内科

一般演題

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
大中 玄彦	心不全診療におけるサクビトリルバルサルタンの位置づけ	大阪府保険医協会	大 阪 市	2021年 4月15日

皮膚科

一般演題

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
矢野 翔也 奥野 愛香、古川 福実	多形紅斑の2例	第23回北摂皮膚科医会	大 阪	2021年 4月10日

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
奥野 愛香	ホスホラブコナゾールの使用経験	爪白癬診療セミナー in Mishima	大 阪	2021年 5月27日
古川 福実 橋爪 佑示子、立花 隆夫、 近藤 稔和	和歌山医大法医解剖例の自宅例における重度分類による褥瘡の実態	第114回近畿皮膚科集談会	京 都	2021年 7月11日
古川 福実 奥野 愛香、西ひろみ、 岸 恵美	2020年夏 新型コロナ感染症診療に従事する医療関係者への日やけ止めクリーム配布から見えてきたもの	第39回日本美容皮膚科学会	大 阪	2021年 7月31日
奥野愛香 園村真美、古川福実	美容皮膚科受診患者の施術やスキンケアに対する、肌画像診断システムre-Beau2の解析結果とその意義	第39回日本美容皮膚科学会	大 阪	2021年7月 31日
神人 正寿 西願 三起子、上中 智香子、 山本 有紀、古川 福実	皮膚疾患患者に対するメディカルメイクアップの有用性	第117回日本皮膚科学会総会 学術大会	前 橋	2021年 8月7日
園村 真美 奥野 愛香、古川 福実	急速かつ広範囲に出現した顔面の囊腫性痤瘡の1例	第487回 大阪地方会	大 阪	2021年 10月2日
今井 翔太郎 中田 祐二、荒木 孝一郎、 古川 福実	インシデント是正における阻害要因の考察と有効な正サイクルモデルについての検討	第21回大阪病院学会	Web開催	2021年 11月7日
橋爪 佑示子 石上 安希子、石田 裕子、 野坂 みずほ、山本 寛記、 國中 由美、島田 栄美、 川口 真理子、木村 章彦、 古川 福実、近藤 稔和	褥瘡を伴う法医解剖例の実態	第68回日本法医学会学術近畿地方集会	京 都	2021年 11月13日
橋爪 佑示子、 古川 福実、近藤 稔和	和歌山医大法医解剖例における褥瘡の実態	第32回日本老年医学会近畿地方会	京 都	2021年 11月20日
園村 真美 奥野 愛香、古川 福実	免疫チェックポイント阻害剤を含む化学療法終了2か月後にTENが出現した一例	第489回 大阪地方会	大 阪	2022年 2月5日
村上 能庸、 吾妻 正章、馬場 きみ江、 谷口 雅彦、古川 福実	柑橘ジャバラ果皮成分によるサイトカイン刺激皮膚角化細胞の炎症反応の抑制	日本薬学会第142回年会	名 古 屋	2022年 3月25～ 28日

その他の講演

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
古川 福実	抗ヒスタミン薬について	第23回北摂皮膚科医会	大 阪	2021年 4月10日
古川 福実	皮膚科医としての遺言	淀川デルマonline懇話会	大 阪	2021年 5月8日
奥野 愛香	高槻赤十字病院におけるアトピー性皮膚炎診療	Lilly Web Conference	Web開催	2021年 10月7日
奥野 愛香	当科におけるオルミエントの導入について	アトピー性皮膚炎を考える会	大 阪	2021年 10月14日

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
古川 福実	「ハンセン病をテーマとした和歌山県立医科大学の人権教育」	第16回和歌山県皮膚科医会医学奨励賞受賞記念講演	和 歌 山	2021年 10月16日
古川 福実	日常遭遇する皮膚疾患の治療を三位一体論（皮膚バリア障害、免疫アレルギー障害、かゆみ）から考える	泉佐野泉南医師会学術講演会	大 阪	2021年 11月13日
奥野 愛香	難治性ニキビに使える漢方薬について	KAMPOWEBセミナーin 阿武野	大 阪	2021年 12月2日

血液内科

座 長

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
丹羽 諒太郎	再発性および難治性B細胞性急性リンパ球性白血病に対するブリナツモマブの使用経験	第83回日本血液学会学術集会	Web開催	2021年 9月23日 ～25日

一般演題

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
安齋 尚之	急性白血病患者に対するWT1 ペプチドパルス樹状細胞ワクチン療法 他	第42回日本アフェレシス学会学術大会	Web開催	2021年 10月16日 ～17日

糖尿内科

演題発表

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
金子 至寿佳	Clinical diabetes and therapeutics 5	2021 The 11th ICDM & The 13th AASD Scientific Meeting	大 阪	

一般参加

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
金子 至寿佳		第94回日本内分泌学会学術総会	Web開催	
金子 至寿佳		第53回日本動脈硬化学会総会・学術集会	京 都	

座 長

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
金子 至寿佳		第233回日本内科学会近畿地方会	Web開催	
金子 至寿佳	【インスリン治療】悪性リンパ腫合併の血糖コントロールが困難であった2型糖尿病患者の一例 他	第58回日本糖尿病学会近畿地方会、第57回日本糖尿病協会近畿地方会"	京 都	

消化器外科

座 長

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
平松 昌子	【食道】 リンパ節転移陽性胸部食道癌 に対する至適術前治療 他	第76回日本消化器外科学会 総会	京 都	2021年 7月7日 ～8日
平松 昌子	【症例 術後合併症】 食道癌術後の乳び胸を胸管塞 栓術で治癒せしめた1例 他	第75回日本食道学会学術集 会	Web開催	2021年 9月23日
平松 昌子	【COVID-19禍での安全な 手術を考える】 大阪の一外科医がCOVID-19 対策チームリーダーを務めた 経験から一般診療との両立 を目指してー	第83回日本臨床外科学会総 会	大 阪	2021年 11月18日 ～20日

その他

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
平松 昌子		JHPSS北島政樹先生メモリアル シンポジウム	Web開催	2021年 5月22日
平松 昌子		第353回ICD講習会	Web開催	2021年 9月20日
平松 昌子		第367回ICD講習会（第70 回日本感染症学会東日本地 方会学術集会、第69回日本 化学療法学会東日本支部総 会）	Web開催	2021年 10月27日
平松 昌子		令和3年度 日本外科学会 総務委員会	Web開催	2022年 1月6日
平松 昌子		令和3年度 第6回日本外科 学会理事会	Web開催	2022年 1月24日
平松 昌子		令和4年度第1回邦文誌編集 委員会ワーキンググループ （日本外科学会）	Web開催	2022年 2月8日
平松 昌子		令和4年度第1回邦文誌編集 委員会	Web開催	2022年 3月8日

令和3年度 病院年報

発行日 令和5年3月

発行者 **高槻赤十字病院**

院長 玉田 尚

〒569-1096

高槻市阿武野一丁目1番1号

☎ (072) 696-0571

編集者 企画情報課

印刷所 株式会社 一心社